富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第42集

竹ノ内Ⅱ遺跡
柳田遺跡
下山新東遺跡
下山新遺跡

発掘調査報告

― 北陸新幹線建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅰ―

2009年

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

竹ノ内Ⅱ遺跡
柳田遺跡
下山新東遺跡
下山新遺跡

発掘調査報告

— 北陸新幹線建設に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅰ—

2009年

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

上：竹ノ内Ⅱ遺跡遠景（南から）
下：下山新遺跡Ｂ地区遠景（南から）

柳田遺跡出土石製品

序

北陸新幹線は，日本海沿いに上越市，富山市，金沢市，福井市等の主要都市を経由し，東京と大阪を結ぶ路線として建設が進められています。その建設に先立ち，当事務所では，計画路線内の多数の遺跡を平成13年度から発掘調査してまいりました。

本書は，平成13年度から17年度にかけて調査を実施した竹ノ内Ⅱ遺跡，柳田遺跡，下山新東遺跡，下山新遺跡の成果をまとめたものです。

この四遺跡は，新潟県境に接する山裾から黒部川扇状地の段丘近くまで，下新川郡朝日町を横断するように点在します。発掘調査の結果，縄文時代中期から近世に至るさまざまな時代の生活の姿が明らかになりました。山裾の竹ノ内Ⅱ遺跡では，平安時代から室町時代にかけての井戸や多数の掘立柱建物がみつかり，一時火災に遭っていることもわかりました。また，段丘面の上にある下山新遺跡では，縄文時代中期の集落縁辺部で焚き火の跡が確認されました。

こうした発掘調査の成果が，文字の記録には現れることのない人々の生活をひもとく一助となり，地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり，ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長　岸本雅敏

例　言

1　本書は富山県下新川郡朝日町長野地内に所在する竹ノ内Ⅱ遺跡，同殿町地内に所在する柳田遺跡，同下山新地内に所在する下山新東遺跡・下山新遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの委託を受けて，財団法人富山県文化振興財団が行った。

3　本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記の通りである。

調査期間	竹ノ内Ⅱ遺跡	平成13（2001）年5月28日～9月25日
		平成17（2005）年5月20日～9月30日
	柳田遺跡	平成13（2001）年8月20日～11月16日
		平成14（2002）年7月18日～12月25日
	下山新東遺跡	平成14（2002）年5月22日～7月25日
	下山新遺跡	平成13（2001）年8月23日～11月29日
		平成14（2002）年5月20日～7月22日
整理期間		平成19（2007）年4月1日～平成21（2009）年3月31日

4　本書の編集・執筆は，金三津道子・朝田亜紀子が担当し，執筆分担は文末に記した。

5　整理作業中に下記の方々の指導・助言等を受けた。

縄文土器……酒井　重洋氏（富山県埋蔵文化財センター）
須恵器……池野　正男氏（富山県埋蔵文化財センター）
輸入陶磁器……山本　信夫氏（山本考古研究所）
砥石……垣内光次郎氏（石川県埋蔵文化財センター）
越中瀬戸……宮田　進一氏（富山県埋蔵文化財センター）

6　遺物の実測は，株式会社アルカ・日本海航測株式会社に委託した。

7　遺物の写真撮影は，いろは写房（代表稲野彰子）・写房楠華堂（代表内田真紀子）に委託した。

8　自然科学的な分析は下記の諸機関に委託し，その成果について報文を得た。

樹種同定・種実同定・炭化米DNA分析・花粉分析・植物珪酸体分析・石材鑑定・
黒曜石産地推定……㈱古環境研究所
漆塗膜分析……漆器文化財科学研究所
放射性炭素年代測定……㈱加速器分析研究所

9　発掘調査から本書の作成に至るまで，下記の方々から多大な御教示・ご協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略，五十音順）

久保智康，島　瑞穂，須原　拓，藤澤良祐
朝日町教育委員会，富山県教育委員会，富山県埋蔵文化財センター

凡　例

1　本文・挿図で扱った遺構・遺物は，一覧に掲載している。

2　本書で示す方位は全て真北である。

3　挿図の縮尺は下記を基本とし，各図の下に縮尺率を示す。

遺構　建物：1/100，溝：1/40，井戸・土坑：1/40・1/80

遺物　土器・陶磁器：1/3 ～ 1/4，木製品：1/3，石製品：2/3 ～ 1/3，金属製品：1/3

4　遺構の略号は以下のとおりである。

SA：柵，SB：建物，SD：自然流路・溝，SE：井戸，SK：土坑・被熱痕，SP：柱穴，

SR：谷，SX：倒木痕

5　遺構番号は，調査時に地区ごとに付した番号にある一定の数値を加算して遺構番号とした。番号は，遺構の種類にかかわらず連番とするが，建物・柵列には新たに番号を付した。各地区の遺構番号に加算した数値は次のとおりである。

竹ノ内Ⅱ遺跡　A1・A2 地区：加算せず，B1 地区：+1,000，C1 地区：+2,000，C2 地区：+2,200

柳田遺跡　　B 地区：加算せず，A 地区：+9,000

下山新東遺跡　A 地区：加算せず，B 地区：+100

下山新遺跡　　A 地区：加算せず，B 地区：+200

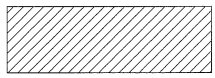
6　遺物は遺跡ごとに遺物番号を付す。本文・挿図・一覧表・写真図版の遺物番号は全て一致する。

7　遺跡の略号は，竹ノ内Ⅱ遺跡「17TU Ⅱ－地区名」，柳田遺跡「17YD －地区名」，下山新東遺跡「17NH －地区名」，下山新遺跡「17NS －地区名」とし，遺物の注記には略号を用いた。

8　遺物のスス付着部分及び，遺構の地山は以下のとおりに示す。これ以外については図中に凡例を示した。

スス・コゲ・炭化物

地山



9　土層・遺構埋土の色については，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。

10　遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は以下の文献を参考にした。

掘立柱建物：奈良国立文化財研究所 1976『平城宮発掘調査報告Ⅶ』

11　遺物のうち，珠洲，輸入陶磁器，古瀬戸，瀬戸美濃，中世土師器の分類と編年に関する用語は以下の文献を参考にした。

珠洲：吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

輸入陶磁器：山本信夫 2000『太宰府市の文化財第 49 集　大宰府条坊跡 XV －陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会

森田勉 1982「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究 No.2』日本貿易陶磁研究会

古瀬戸・瀬戸美濃：藤澤良祐他 2005「施釉陶器生産技術の伝播」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相－生産技術の展開と編年』中央大学文学部日本史学研究会

中世土師器：越前慎子 1996「梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

12 遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。

①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は，備考欄に新＞古のように記号で示す。

②規模・法量の（　　）内は現存長を表す。

③重量はｇ単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。

④胎土色調・釉色調は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』・財団法人日本規格協会「標準色票　光沢版」を使用し，釉調の和名は小学館『色の手帖』より似たものを使用した。なお，陶磁器のうち複数の色がみられる場合は最も多く使用されている色を記し，その他は特記事項に記す。但し透明釉の場合は記入しない。

⑤出土地点の層位は調査時のものとし，基本層序の項で統一したものの旧称を用いた。

目　次

第Ⅰ章　調査経緯 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1　　2　調査方法と経過 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境 …… 10

1　地理的環境 …… 10　　2　歴史的環境 …… 10

第Ⅲ章　竹ノ内Ⅱ遺跡 …… 16

1　基本層序 …… 16　　2　遺構・遺物 …… 18

3　まとめ …… 101

第Ⅳ章　柳田遺跡 …… 117

1　既往の調査 …… 117　　2　基本層序 …… 121

3　遺構・遺物 …… 121　　4　まとめ …… 195

第Ⅴ章　下山新東遺跡 …… 208

1　既往の調査 …… 208　　2　基本層序 …… 208

3　遺構・遺物 …… 210　　4　まとめ …… 224

第Ⅵ章　下山新遺跡 …… 231

1　既往の調査 …… 231　　2　基本層序 …… 231

3　遺構・遺物 …… 236　　4　まとめ …… 260

第Ⅶ章　自然科学分析 …… 268

1　富山県竹ノ内Ⅱ遺跡における自然科学分析 …… 269

2　竹ノ内Ⅱ遺跡出土漆器の科学分析 …… 290

3　竹ノ内Ⅱ遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定） …… 296

4　富山県下山新遺跡，下山新東遺跡および柳田遺跡出土黒曜石の産地推定分析 …… 299

5　富山県竹ノ内Ⅱ遺跡外における石材鑑定 …… 307

6　下山新遺跡における自然科学分析 …… 329

報告書抄録

巻首図版目次

巻首図版１　竹ノ内Ⅱ遺跡遠景　下山新遺跡Ｂ地区遠景
巻首図版２　柳田遺跡出土石製品

挿図目次

第１図　調査位置図
第２図　北陸新幹線関連埋蔵文化財包蔵地位置図
第３図　竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡調査区区割図
第４図　下山新東遺跡・下山新遺跡調査区区割図
第５図　地形図
第６図　周辺の遺跡
第７図　竹ノ内Ⅱ遺跡　基本層序模式図
第８図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層面遺構全体図
第９図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図
SB1　SB2
第10図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図
SB3　SB4
第11図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図
第12図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図
SD1136　SD1143　SD1159　SD1160
SD1169　SD1170　SD1182　SD1183
SD1190～1192　SD1215　SD1220　SD1222
SD1263　SD1265　SD1266　SD1270
SD1292　SD1319　SD1323　SD1329
SD1330　SD1348　SD1351　SD1352
SD1359　SD1360　SD1362　SD1365
SD1367　SD1371　SD1373　SX1324
第13図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図
SK1102　SK1113～1117　SK1119　SK1120
SK1132　SK1152　SK1153　SK1156
SK1161　SK1165　SK1178　SK1185
SK1200～1204
第14図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図
SK1146　SK1147　SK1149　SK1197
SK1199　SK1213　SK1214　SK1216
SK1234　SK1246　SK1260　SK1262
SK1267　SK1274～1276
第15図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図
SD1263　SK1296　SK1297　SK1300～1302
SK1304～1308　SK1310　SK1311
SK1313～1318　SK1333　SK1339　SK1342
SK1347　SK1354
第16図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺物実測図（土器）
SD1292　SK1119　SK1120　SK1302　包含層
第17図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構全体図
第18図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図
SD1001　SD1002　SD1021　SD1022
SD1081
第19図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図
SD1023　SD1081　SK1030　SX1024
第20図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図
SK1003～1007　SK1010～1016　SK1018
SK1019
第21図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図
SK1020　SK1026　SK1028　SX1008
第22図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図
SK1029　SK1036　SK1038　SK1053
SK1054　SK1056　SK1060　SK1061
SK1063　SK1068　SK1070　SK1073
SK1077　SK1079　SK1080
第23図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺物実測図（土器）
SD1001　SD1002
第24図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺物実測図（土器）
SD1022　SD1023　SD1081　SK1030
SX1024
第25図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺物実測図（土器）
SK1003　SK1008　SK1020　SK1026　SK1028
SK1030　SK1036　SK1054　SK1080　包含層
第26図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺物実測図（土器）
包含層
第27図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図　SB5
第28図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図　SB6
第29図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図　SB6
第30図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図　SB7
第31図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図
SD2124　SD2144　SD2150
第32図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB8　SB11　SA3
第33図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB9　SB10　SA1　SA2
第34図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB12　SB13　SA4　SA5
第35図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB14　SB15
第36図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図　SB16
第37図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB17　SB19
第38図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図　SB18
第39図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB18　SA6
第40図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図　SB20
第41図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB21　SB22
第42図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB23～25　SE600
第43図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB26　SB27
第44図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SD20　SD41　SD42　SD108　SD109
SD197　SD261
第45図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SD2005　SD2038～2042　SK2019
第46図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SD2201～2203
第47図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SK55　SK57　SK146　SK177　SK200
SK206　SK214　SK480
第48図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SK249　SK250　SK260　SK274　SK280
SK374　SK388　SK557
第49図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SK528　SK567　SK591　SP515　SP639
SP932
第50図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層・近世遺構実測図
SK575　SK578　SK584　SK585　SK2043

SK2178　SK2184　SK2213　SK2216
第 51 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図（土器・陶磁器・木製品）
SE600　SK280　SP88　SP164　SP244
SP297　SP363　SP421　SP476
第 52 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層・近世遺物実測図（土器・陶磁器）
SD42　SD100　SD400　SD2202　SK133
SK200　SK206　SK249　SK274　SK277
SK280　SK351　SK377　SK381　SK420
SK480　SK557　SK581
第 53 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層・上層遺物実測図（土器・陶磁器・木製品）
SK439　SK591　SK759　SK765　SK883
SK2043　SK2184　SK2216
第 54 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図（土器・陶磁器）　包含層
第 55 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図（土器・陶磁器）　包含層
第 56 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図（土器・陶磁器）　包含層
第 57 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層・近世遺物実測図（土器・陶磁器）　包含層
第 58 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図（石製品）　包含層
第 59 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層・近世遺物実測図（金属製品）　SD400　SD401　SK112　包含層
第 60 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　近世～近代遺構実測図　SD100
第 61 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　近世～近代遺構実測図　SD400　SD401
第 62 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　掘立柱建物変遷図 1
第 63 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　掘立柱建物変遷図 2
第 64 図　柳田遺跡　遺跡範囲・調査位置図
第 65 図　柳田遺跡　既往の調査 1
第 66 図　柳田遺跡　既往の調査 2
第 67 図　柳田遺跡　基本層序模式図
第 68 図　柳田遺跡　縄文時代遺構実測図
SD9225　SK208　SK544　SK1246　SK2281
SK7941　SK9016
第 69 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（土器）
SD1150　SD3609　SK208　SK544　SK1246
SK4575　SX4923
第 70 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（土器・土製品）　包含層
第 71 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 72 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 73 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 74 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 75 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 76 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 77 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 78 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 79 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 80 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 81 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 82 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 83 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 84 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 85 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 86 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 87 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 88 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 89 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 90 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）　包含層
第 91 図　柳田遺跡　縄文時代・中世遺物実測図（石製品）　包含層
第 92 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB1　SB2
第 93 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB3　SA1　SA2
第 94 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB4　SB9　SB10
第 95 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB5　SB6
第 96 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB7　SB8
第 97 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB7　SB8
第 98 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB11
第 99 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB12
第 100 図　柳田遺跡　中世遺構実測図　SB13　SB14
第 101 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SD222　SD400　SD401　SD616　SD1851
SD1864
第 102 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SD927　SD1053　SD1150　SD1181　SD1193
SD1300　SD1381
第 103 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SD3609　SD5453　SD5532
第 104 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SD9004　SD9031　SD9040
第 105 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SK120　SK177　SK189　SK190
第 106 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SK202　SK350　SK360　SK371　SK406
SK425　SK504　SK505
第 107 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SK928 ～ 930　SK992　SK1173　SK3030
第 108 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SD5532　SK3000　SK4422　SK4460
SK4461　SK5475
第 109 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SD5532　SK5603　SK6085　SK6086
SK6271　SK6810　SK7199　SK7920
第 110 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SK9020　SK9054　SK9055　SK9063 ～ 9065
SK9072　SK9073　SK9083　SK9089
SK9105　SK9110　SK9114　SK9216
SK9127　SK9132　SK9143　SK9144
SK9146　SK9154　SK9174　SK9176
SK9177　SK9180
第 111 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SK9206　SK9214　SX9226　SK9240
SK9242　SK9274　SK9287 ～ 9290　SK9303
第 112 図　柳田遺跡　中世遺物実測図（土器・陶磁器）
SD222　SD1150　SP9209　SP9231　SP9253
第 113 図　柳田遺跡　中世遺物実測図（土器・陶磁器）
SD3609　SD9004　SK120　SK177　SK1800
SK4013　SK5475　SK5603　SK9209
第 114 図　柳田遺跡　中世遺物実測図（土器・陶磁器）　包含層
第 115 図　柳田遺跡　中世遺物実測図（土器・陶磁器）　包含層
第 116 図　柳田遺跡　中世遺物実測図（土器・陶磁器）　包含層
第 117 図　柳田遺跡　近世遺構実測図　SD1382　SD9311
第 118 図　柳田遺跡　近世遺構実測図　SR9310
第 119 図　柳田遺跡　近世遺構実測図
SD9129　SK1800　SK9130
第 120 図　柳田遺跡　近世遺物実測図（土器・陶磁器）
SR9310　包含層

第 121 図　柳田遺跡　近世遺物実測図（土器・陶磁器）
包含層
第 122 図　柳田遺跡　近世遺物実測図（金属製品）
包含層
第 123 図　下山新東遺跡　遺跡範囲・調査位置図
第 124 図　下山新東遺跡　基本層序模式図
第 125 図　下山新東遺跡　遺構全体図　A 地区
第 126 図　下山新東遺跡　遺構全体図　B 地区
第 127 図　下山新東遺跡　縄文時代遺構実測図
SK7　SK9　SK10　SK12　SK14　SR123
第 128 図　下山新東遺跡　縄文時代遺構実測図
SK20　SK101　SK102　SK107　SK115
SK116　SK125　SK131
第 129 図　下山新東遺跡　縄文時代遺物実測図（土器）
SK9　SK17　SK19　SK26　SR123
第 130 図　下山新東遺跡　縄文時代遺物実測図
（土器・土製品）　SR123　包含層
第 131 図　下山新東遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
SD1　SK4　SR123
第 132 図　下山新東遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
SR123　包含層
第 133 図　下山新東遺跡　縄文時代・近世遺物実測図
（石製品・金属製品）　包含層
第 134 図　下山新東遺跡　古代・近世～近代遺物実測図
（土器・陶磁器）　SD1　SD2　包含層
第 135 図　下山新遺跡　遺跡範囲・調査位置図
第 136 図　下山新遺跡　既往の調査 1
第 137 図　下山新遺跡　既往の調査 2
第 138 図　下山新遺跡　基本層序模式図
第 139 図　下山新遺跡　遺構全体図　A 地区
第 140 図　下山新遺跡　遺構全体図　A 地区
第 141 図　下山新遺跡　遺構全体図　B 地区
第 142 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図
SR123　SR169
第 143 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図
SK19　SK50　SK52
第 144 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図
SK66　SK140
第 145 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図
SK109　SK164　SK173　SK174　SK181
SK191　SK193
第 146 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図
SK201　SK203　SK287　SK327　SK329
SK362　SK376　SK377　SK386　SK391
SK411
第 147 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（土器）
包含層
第 148 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図
（土器・土製品）　SX141　SX360　包含層
第 149 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
包含層
第 150 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
包含層
第 151 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
包含層
第 152 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
包含層
第 153 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
SX3　SX54　包含層
第 154 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
包含層
第 155 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
包含層
第 156 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図（石製品）
包含層
第 157 図　下山新遺跡　縄文時代・近世遺物実測図
（石製品・金属製品）　包含層
第 158 図　下山新遺跡　近世遺物実測図
（土器・陶磁器・土製品）
SD122　SD170　包含層

写真図版目次

図版 1　航空写真
図版 2　航空写真
図版 3　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代下層）　B1 地区全景
図版 4　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代下層）掘立柱建物・土坑・畠
SB1 ～ 3　SK1119　SK1120　畠跡
図版 5　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層）　B1 地区全景
図版 6　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層）　溝・土坑
B1 地区中央　SD1001　SD1002　SD1023
SK1026　SK1077
図版 7　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世下層・上層）
C1 地区全景　C2 地区全景
図版 8　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世下層・上層）掘立柱建物・溝・土坑
SB5 ～ 7　SD2005　SD2019　SD2038 ～ 2042
SK2043　SK2178　SK2213
図版 9　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世上層）掘立柱建物・柵列・溝
A1・A2 地区全景　A1 地区全景　SB8 ～ 11
SB26　SB27　SA1 ～ 3　SD100　SD400
図版 10　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世上層）掘立柱建物・柵列・土坑
A1 地区全景　SB12　SB13　SB16 ～ 19
SB26　SA4　SA5　SK591
図版 11　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世上層）柱穴・井戸・土坑
SE600　SK177　SK250　SP141　SP169
図版 12　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代下層）　土器
SK1120　SK1302　包含層
図版 13　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代下層）　土器
SD1292　包含層
図版 14　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層）　土器
SD1001　SD1002　SK1003　SK1020
SD1022　SK1026　SK1080　SX1024
図版 15　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層）　土器
SD1002　SD1081　包含層
図版 16　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層）　土器
SD1001　SD1002　SD1023　SK1028
SK1030　SX1024
図版 17　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層・中世）
土器・陶磁器・土製品
SD1001　SK1054　SP164
図版 18　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層）　土器
SD1023
図版 19　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層）　土器
SD1001　SD1002　SD1022　SK1020　SK1030
包含層
図版 20　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　土器・陶磁器
SD100　SE600　SK280　SK591　包含層
図版 21　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　土器・陶磁器
SD400　SK420　包含層
図版 22　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　土器
SK133　SK274　SK277　SK280　SK351

SP363　SK377　SK381　SK480　SK591
SK765　SK2216　SP88　SP476
図版 23　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　土器　　包含層
図版 24　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　陶磁器
SK200　SK206　SK249　SK557　SK591
SK883　SP244　包含層
図版 25　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　陶磁器
SD42　SD400　SE600　SK280　SK439
SK581　SK591　SK759　SK2043　SP297
SP421
図版 26　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　陶磁器　包含層
図版 27　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　陶磁器　包含層
図版 28　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世・近世）　陶磁器　包含層
図版 29　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世）　木製品　SE600
図版 30　竹ノ内Ⅱ遺跡（中世・近世）　木製品・金属製品
SD400　SD401　SK112　SK468　SK591
SP37　SP141　SP221　SP335　包含層
図版 31　竹ノ内Ⅱ遺跡（古代上層・中世）　石製品
SD1001　SK388　SK591　　包含層
図版 32　柳田遺跡（縄文時代）溝・土坑
SD9225　SK208　SK544　SK1246　SK9016
図版 33　柳田遺跡（中世）　B 地区全景
図版 34　柳田遺跡（中世）　A 地区全景
図版 35　柳田遺跡（中世）掘立柱建物・柵列・溝
SB1 ～ 10　SA1　SA2　SD400　SD401
SD1053　SD1150　SD1300
図版 36　柳田遺跡（中世）掘立柱建物・柱穴
SB11 ～ 13　SP9104　SP9137　SP9161
SP9231
図版 37　柳田遺跡（中世）柵列・溝・土坑
SA1　SA2　SD1053　SD1150　SD3609
SK120　SK177　SK189　SK190
図版 38　柳田遺跡（中世）土坑
SK202　SK350　SK360　SK371　SK425
図版 39　柳田遺跡（中世）土坑
SK928 ～ 930　SK992　SK1173　SK3000
SK4460　SK4461
図版 40　柳田遺跡（中世）土坑
SK5475　SK5603　SK6085　SK6086　SK7199
SK7920
図版 41　柳田遺跡（中世）溝・土坑
SD9004　SD9031　SK9065　SK9206　SK9240
SK9289
図版 42　柳田遺跡（縄文時代）　土器
SD1150　SD3609　SK208　SK544　SK1246
SK4575　包含層
図版 43　柳田遺跡（縄文時代）　土器・土製品
SX4923　包含層
図版 44　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 45　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 46　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 47　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 48　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 49　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 50　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 51　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 52　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 53　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 54　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 55　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 56　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 57　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 58　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 59　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 60　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 61　柳田遺跡（縄文時代）　石製品　包含層
図版 62　柳田遺跡（中世・近世）　土器・陶磁器
包含層
図版 63　柳田遺跡（中世・近世）　土器・陶磁器
SP9231　包含層
図版 64　柳田遺跡（中世）　土器
SD9004　SK177　SK5603　SP9209　SP9253
包含層
図版 65　柳田遺跡（中世）　陶磁器
SD3609　SD9004　SK120　包含層
図版 66　柳田遺跡（中世）　陶磁器　包含層
図版 67　柳田遺跡（中世）　陶磁器
SD222　SD1150　SD3609　SK4013
図版 68　柳田遺跡（中世）　陶磁器　包含層
図版 69　柳田遺跡（中世）　陶磁器・土製品　包含層
図版 70　柳田遺跡（近世）　陶磁器　SR9310　包含層
図版 71　柳田遺跡（近世）　陶磁器　包含層
図版 72　柳田遺跡（近世）　陶磁器　SR9310　包含層
図版 73　柳田遺跡（中世・近世）　金属製品
SK177　包含層
図版 74　下山新東遺跡（縄文時代）　土坑
A 地区全景　SK10　SK17　SK20
図版 75　下山新東遺跡（縄文時代）　土坑
B 地区全景　SK101　SK103 ～ 129
図版 76　下山新東遺跡（縄文時代）　土器
SK9　SK17　SK19　SK26　SR123
図版 77　下山新東遺跡（縄文時代）　土器・土製品
包含層
図版 78　下山新東遺跡（縄文時代）土器・土製品・石製品
SD1　SK17　SR123　包含層
図版 79　下山新東遺跡（縄文時代）　石製品
SK4　SR123　包含層
図版 80　下山新東遺跡（縄文時代）　石製品
SR123　包含層
図版 81　下山新東遺跡（古代・近世～近代）土器・陶磁器
SD1　SD2　包含層
図版 82　下山新東遺跡（近世～近代）陶磁器・金属製品・
石製品　SD2　包含層
図版 83　下山新遺跡（縄文時代）　A 地区全景　B 地
区全景
図版 84　下山新遺跡（縄文時代）土坑・谷
SK50　SK52　SK66　SR123　SR169
図版 85　下山新遺跡（縄文時代）土坑
A 地区全景　SK140　SK181　SK193
図版 86　下山新遺跡（縄文時代）土坑
B 地区全景　SK329　SK386
図版 87　下山新遺跡（縄文時代）土器　包含層
図版 88　下山新遺跡（縄文時代）土器・土製品　包含層
図版 89　下山新遺跡（縄文時代）土器・石製品　包含層
図版 90　下山新遺跡（縄文時代）石製品　包含層
図版 91　下山新遺跡（縄文時代）石製品　包含層
図版 92　下山新遺跡（縄文時代）石製品　包含層
図版 93　下山新遺跡（縄文時代）石製品
SX3　SX54　包含層
図版 94　下山新遺跡（縄文時代）石製品　包含層
図版 95　下山新遺跡（縄文時代）石製品　包含層
図版 96　下山新遺跡（縄文時代）石製品　包含層
図版 97　下山新遺跡（縄文時代・近世～近代）
陶磁器・石製品・金属製品　　包含層
図版 98　下山新遺跡（近世～近代）陶磁器
SD122　SD170　包含層

表目次

第 1 表　北陸新幹線関連埋蔵文化財包蔵地調査一覧 ……3
第 2 表　調査一覧 ……7
第 3 表　周辺遺跡一覧 ……15
第 4 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　基本層序 ……16
第 5 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層　建物一覧 ……105
第 6 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層　柱穴一覧 ……105
第 7 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層　溝一覧 ……105
第 8 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層　土坑一覧 ……106
第 9 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層　溝一覧 ……107
第 10 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層　土坑一覧 ……107
第 11 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　建物一覧 ……108
第 12 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　柱穴一覧（1）～（4） ……109 ～ 111
第 13 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　井戸一覧 ……111
第 14 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　溝一覧 ……111
第 15 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　土坑一覧（1）・（2） ……112・113
第 16 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　近世～近代　溝一覧 ……113
第 17 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　近世～近代　土坑一覧 ……113
第 18 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（1）～（3） ……114 ～ 116
第 19 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　木製品一覧 ……116
第 20 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　石製品一覧 ……116
第 21 表　竹ノ内Ⅱ遺跡　金属製品一覧 ……116
第 22 表　柳田遺跡　調査一覧 ……118
第 23 表　柳田遺跡　縄文時代　溝一覧 ……196
第 24 表　柳田遺跡　縄文時代　土坑一覧 ……196
第 25 表　柳田遺跡　中世　建物一覧 ……196
第 26 表　柳田遺跡　中世　柱穴一覧（1）～（3） ……196 ～ 198
第 27 表　柳田遺跡　中世　溝一覧 ……198
第 28 表　柳田遺跡　中世　土坑一覧 ……199
第 29 表　柳田遺跡　近世～近代　溝一覧 ……200
第 30 表　柳田遺跡　近世～近代　土坑一覧 ……200
第 31 表　柳田遺跡　縄文土器・土製品一覧 ……200
第 32 表　柳田遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（1）・（2） ……201・202
第 33 表　柳田遺跡　石製品一覧（1）～（4） ……203 ～ 206
第 34 表　柳田遺跡　金属製品一覧 ……207
第 35 表　下山新東遺跡　縄文時代　谷一覧 ……226
第 36 表　下山新東遺跡　縄文時代　土坑一覧 ……226
第 37 表　下山新東遺跡　近世～近代　溝一覧 ……226
第 38 表　下山新東遺跡　縄文土器・土製品一覧（1）・（2） ……227・228
第 39 表　下山新東遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧 ……229
第 40 表　下山新東遺跡　石製品一覧 ……230
第 41 表　下山新東遺跡　金属製品一覧 ……230
第 42 表　下山新遺跡　縄文時代　谷一覧 ……262
第 43 表　下山新遺跡　縄文時代　土坑・被熱痕一覧 ……262
第 44 表　下山新遺跡　縄文時代　倒木痕一覧 ……262
第 45 表　下山新遺跡　近世～近代　溝一覧 ……262
第 46 表　下山新遺跡　縄文土器・土製品一覧（1）・（2） ……263・264
第 47 表　下山新遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧 ……265
第 48 表　下山新遺跡　石製品一覧（1）・（2） ……266・267
第 49 表　下山新遺跡　金属製品一覧 ……267
第 50 表　自然科学分析一覧 ……268

第Ⅰ章　調査経緯

1　調査に至る経緯

（1）　調査の契機

北陸新幹線は，日本海沿いに上越市，富山市，金沢市，福井市等の主要都市を経由して，東京と大阪を結ぶ路線である。昭和48（1973）年に整備計画が決定し，全国新幹線鉄道整備法のもと建設工事が進められている。平成13（2001）年には上越・富山間が，平成17（2005）年には富山・金沢間及び福井駅部の建設工事がそれぞれ着工しており，平成26（2014）年度までの完成が予定されている。

北陸新幹線の富山県内における駅・ルートの概要は昭和60（1985）年に日本鉄道建設公団（現独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構，以下鉄道・運輸機構）から富山県教育委員会（以下，県教委）に示され，路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて，日本鉄道建設公団北陸新幹線第二建設局（現鉄道・運輸機構）・県教委・富山県埋蔵文化財センター（以下，県センター）により協議が行われた。その結果，埋蔵文化財の分布状況を把握するため，路線敷の用地買収完了地域で早急に分布調査を実施することとなった。

（2）　分布調査

昭和60（1985）年，県教委と県センターは路線敷全長63.9㎞のうち約38㎞について分布調査を行い，周知の包蔵地を含め県東部で16箇所，県西部で11箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。また平成7（1995）年，県センターは未調査となっていた黒部市浦川端～舌山間約3㎞について分布調査を行い，周知の包蔵地3箇所を確認した。平成14（2002）年，県センターと当該市教育委員会は新黒部～富山間の未調査部分について分布調査を行い，新たな埋蔵文化財包蔵地4箇所を発見し，周知の包蔵地3箇所を再確認した。

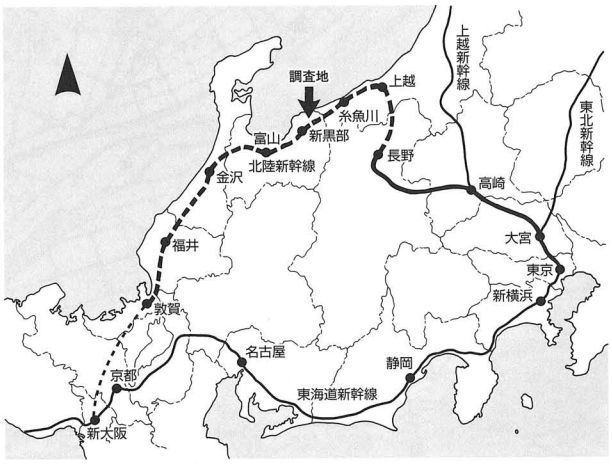
新幹線整備計画の決定以降，順次地元への用地交渉等が進められており，用地内遺跡の包蔵地確認調査の要望が鉄道・運輸機構から県教委に出された。両者の協議の結果，包蔵地確認調査を財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所（以下，財団）に依頼することとなった。

（3）　包蔵地確認調査

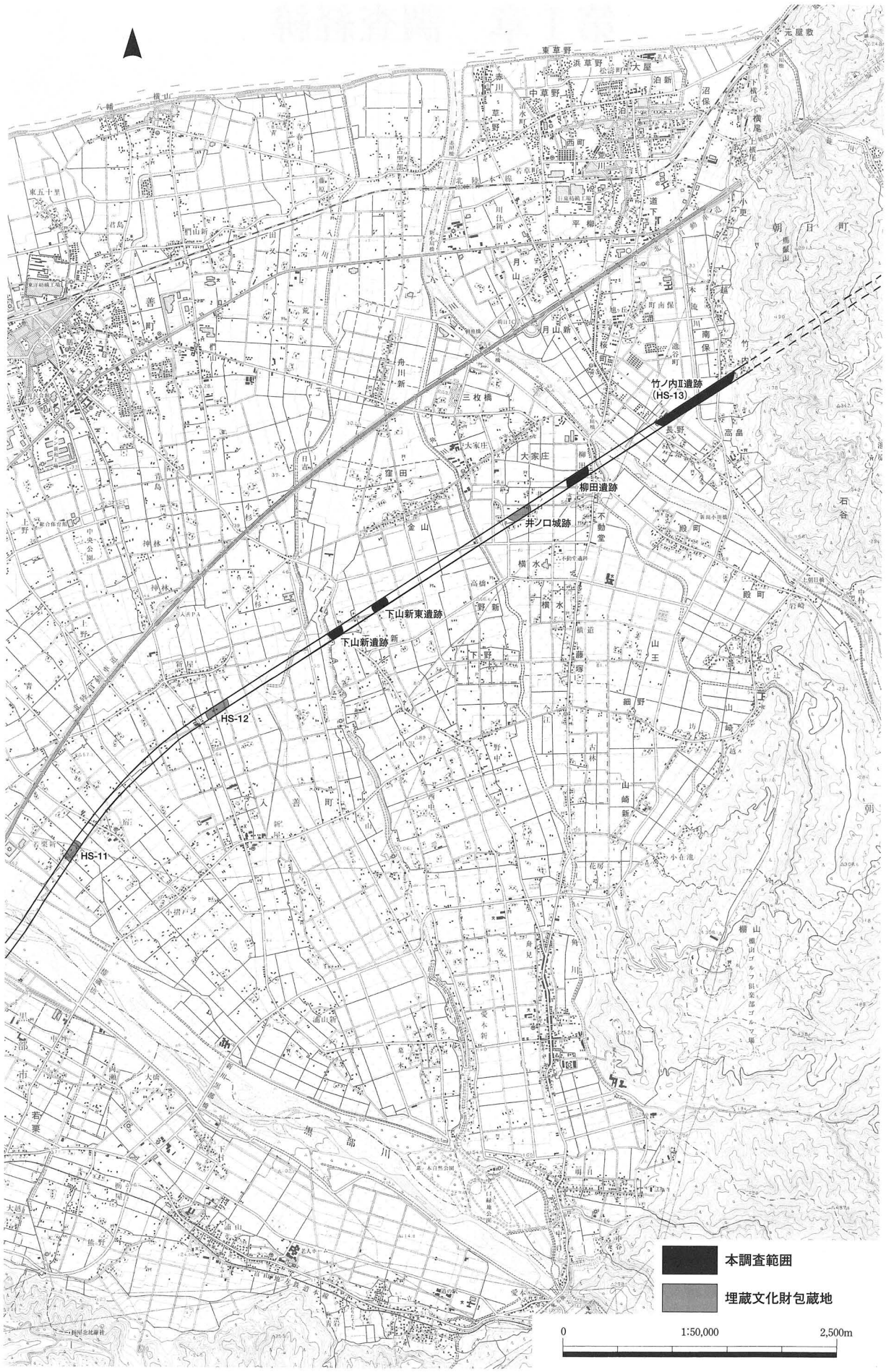
平成8（1996）年，鉄道・運輸機構，県教委の委託を受けて，財団は小矢部市下川原遺跡において包蔵地確認調査を実施した。この結果，古墳時代と古代の遺構・遺物を確認している。

平成11（1999）年には，入善町ＨＳ－11・ＨＳ－12，朝日町ＨＳ－13において確認調査を実施した。この結果，ＨＳ－13で古代から中世の遺構と遺物を確認し，竹ノ内Ⅱ遺跡と命名した。

平成12（2000）年には，朝日町竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡において確認調査を実施し，井ノ口城跡を除く各遺跡で遺構と遺物を確認した。



第１図　調査位置図



第２図　北陸新幹線関連埋蔵文化財包蔵地位置図（1：50,000）

（４）本調査

包蔵地確認調査の結果を受けて，日本鉄道建設公団（現鉄道・運輸機構）から範囲が確定している包蔵地について本調査の要望が出された。協議の結果，平成13（2001）年度から財団が北陸新幹線関連の本調査を受託することとなった。

平成13（2001）年度には，朝日町竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新遺跡で本調査を実施した。

平成14（2002）年度には，朝日町柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡で本調査を実施した。

平成17（2005）年度には，朝日町竹ノ内Ⅱ遺跡で本調査を実施した。

年度	調査対象地	所在地	調査種類	調査主体	調査面積(㎡)	調査期間	調査結果	文献
昭和60	小杉町～小矢部市		分布	県教委・県センター	1,440,000	3/25～3/29	県東部16箇所、県西部11箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認（周知の包蔵地を含む）	
	朝日町～富山市				2,360,000	4/5～4/20		
平成７	黒部市浦川端～舌山		分布	県センター	56,000	3/27	周知の包蔵地3箇所を確認	
平成８	下川原遺跡	小矢部市後谷	包蔵地確認	財団	773（対象12,000）	10/21～10/24	古墳時代･古代の集落を確認	1
平成11	HS-11	入善町小摺戸	包蔵地確認	財団	423（対象4,680）	11/17～11/22	遺跡なし	2
	HS-12	入善町新屋			753（対象3,420）	11/24～11/29	遺跡なし	
	HS-13	朝日町南保			544（対象5,000）	11/10～11/12	古代～中世の集落を確認，竹ノ内Ⅱ遺跡を設定	
平成12	竹ノ内Ⅱ遺跡	朝日町長野	包蔵地確認	財団	1,047（対象11,520）	4/17～4/20	古代～中世の集落を確認	3
	柳田遺跡	朝日町字殿町			754（対象11,340）	10/16～10/25	縄文･中世の集落を確認	
	井ノ口城跡	朝日町大家庄			865（対象12,960）	10/19～10/25	遺跡なし	
	下山新東	朝日町下山新			2,664（対象22,680）	10/16～10/27	縄文の集落を確認	
	下山新	朝日町下山新			496（対象3,420）	10/25～10/27	縄文の集落を確認	
平成13	新黒部～富山		分布	県センター・魚津市教委・滑川市教委	99,230	3/28～3/29	周知の包蔵地3箇所を確認し,新たに4箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認	
	若栗中村遺跡	黒部市若栗，中村	包蔵地確認	財団	279（対象2,400）	11/19～11/21	中世の集落を確認	4
平成14	井ノ口城跡	朝日町井ノ口	包蔵地確認	財団	435（対象1,977）	4/17、9/25	遺跡なし	5
	若栗中村遺跡	黒部市若栗，中村			2,215（対象28,961）	5/9～5/23，11/25～11/27	中世の集落を確認	
	舌山遺跡	黒部市若栗字舌山			401（対象4,590）	11/28～11/29	縄文･中世の集落を確認	

第１表　北陸新幹線関連埋蔵文化財包蔵地調査一覧

北陸新幹線関連埋蔵文化財包蔵地　文献

1　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 1997『埋蔵文化財調査概要』－平成８年度－

2　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2000『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告　ＨＳ－11・ＨＳ－12・ＨＳ－13』

3　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2001『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（２）竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）・柳田遺跡・井ノ口城跡・下山新東遺跡・下山新遺跡』

4　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2002『埋蔵文化財調査概要』－平成 13 年度－

5　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2003『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（３）井ノ口城跡・若栗中村遺跡・舌山遺跡』

2　調査方法と経過

（1）調査方法

最初に，発掘調査の基準として国家座標（平面直角座標第７系）を基にグリッドを設定した。基点は遺跡ごとに設定し，竹ノ内Ⅱ遺跡ではX 103150 Y 35850，柳田遺跡ではX 102480 Y 34800，下山新東遺跡ではX 101300 Y 33000，下山新遺跡ではX 101100 Y 32650をＸ０Ｙ０とした。なお，日本測地系を基に基点を定めたので，国土地理院のWeb版TKY2JGDの変換プログラムにより世界測地系に変換した。南北方向をＸ軸，東西方向をＹ軸として２ｍ方眼のグリッドを設け，各グリッド名は北東角のＸ軸とＹ軸の座標とした。発掘範囲は，竹ノ内Ⅱ遺跡でＸ 13～Ｘ 160・Ｙ 14～Ｙ 229，柳田遺跡でＸ 11～Ｘ 101・Ｙ３～Ｙ 132，下山新東遺跡でＸ 38～Ｘ 113・Ｙ７～Ｙ 124，下山新遺跡でＸ 31～Ｘ 97・Ｙ 10～Ｙ 120である。調査期間が複数年度にわたるため，道路や水路，現況水田の畦畔等により調査区を分けた。竹ノ内Ⅱ遺跡は西からＡ１・Ａ２・Ｂ１・Ｃ１・Ｃ２の５地区に分けた。柳田遺跡の調査区は，町道柳田・小川中学校線を境に西をＡ，東をＢとした。下山新遺跡の調査区は県道舟見・入善線を境に東をＡ，西をＢとした。下山新東遺跡は単年度調査であるが調査区が離れているため，西をＡ，東をＢとした。

遺跡名	日本測地系	世界測地系
竹ノ内Ⅱ遺跡	X 103150　Y 35850	X 103496.464　Y 35579.504
柳田遺跡	X 102480　Y 34800	X 102826.460　Y 34529.566
下山新東遺跡	X 101300　Y 33000	X 101646.440　Y 32729.719
下山新遺跡	X 101100　Y 32650	X 101446.439　Y 32379.756

調査は，表土・耕作土・無遺物層の除去，遺物包含層の発掘，遺構確認面の精査・遺構の検出，遺構の発掘，遺構の記録，写真撮影，空中写真測量，測量補足作業の順で行った。

表土・耕作土・無遺物層の除去は，人力掘削による調査の事前準備として，調査員立ち会いのもと，包蔵地確認調査の結果を踏まえ，基本層序を確認しながら，工事請負業者が重機により行った。また場所によっては，近代以降の攪乱や無遺物層の除去も行った。

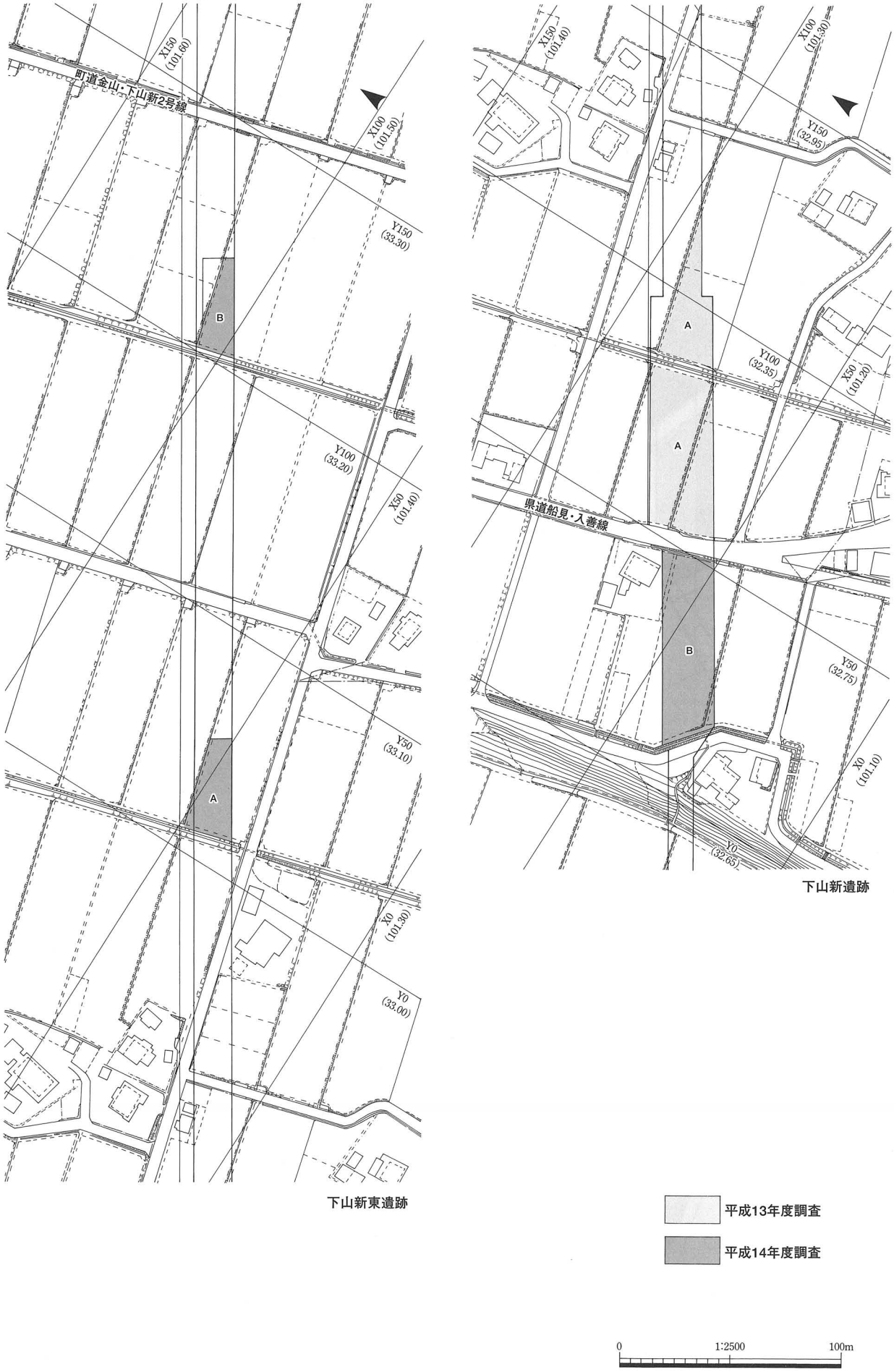
遺物包含層の発掘はスコップ等を用い，人力で掘削した。排土搬出にはベルトコンベヤーを使用し，路線敷内の調査区隣接地に集積し，ダンプによる調査区外への搬出は工事請負業者が行った。

遺構確認面の精査・遺構の検出は，遺構確認面に達するとジョレンやねじり鎌で精査し，検出した遺構は石灰によるマーキングを行い，平板を用いて遺構概略図を作成した。検出した遺構には遺構番号を付すが，各地区ごとに遺構の種類に関わらず通し番号とした。

遺構の発掘は小さい土坑は長軸に沿って半截，大きい土坑は十字またはそれ以上に，溝は適宜に間隔をあけてセクションベルトを残し，移植ごて等で発掘した。

遺構の記録は，断面図を20分の１の縮尺で実測し，遺構によっては10分の１の遺物出土状況図や平面図を作成した。各遺構の断面は35㎜カメラで，遺物出土状況や個別遺構の完掘写真・ブロック写真はブローニー判（６×７）カメラもあわせて撮影した。調査区の全景写真は35㎜カメラ・ブローニー判カメラ・４×５インチ判カメラで２方向以上から撮影している。使用したフィルムは，35㎜はカラーと白黒，ブローニー判・４×５インチ判はカラースライドと白黒を使用した。遺構の平面図作成には空中写真測量を利用し，撮影にはヘリコプター（実機）またはラジコンヘリコプターを使用した。

第３図　竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡調査区区割図



第４図　下山新東遺跡・下山新遺跡調査区区割図

（２）調査経過

平成13年度の調査は，竹ノ内Ⅱ遺跡，柳田遺跡，下山新遺跡を対象に行った。竹ノ内Ⅱ遺跡の調査期間は5月28日～9月25日である。Ｂ１地区で古代の集落を，Ａ１地区で中世の集落を確認した。柳田遺跡の調査期間は8月20日～11月16日で，中世の集落を確認した。下山新遺跡の調査期間は8月23日～11月29日で，縄文時代の穴や被熱痕を確認した。

平成14年度の調査は，柳田遺跡，下山新東遺跡，下山新遺跡を対象に行った。下山新東遺跡の調査期間は5月22日～7月25日で，縄文時代の谷や穴を確認した。下山新遺跡の調査期間は5月20日～7月22日で，縄文時代の穴や被熱痕を確認した。柳田遺跡の調査期間は7月18日～12月25日で，中世の集落を確認した。

平成17年度の調査は，竹ノ内Ⅱ遺跡を対象に行い，Ｃ１地区で中世の集落を確認した。調査期間は5月20日～9月30日である。

遺跡	地区	面	期間	延べ日数	面積	担当者	検出遺構	出土遺物
竹ノ内Ⅱ	A1	中世	H13.5.28～9.25	66日間	2,289㎡	内田亜紀子	掘立柱建物,井戸,土坑,溝,自然流路	須恵器,土師器,中世土師器,珠洲,中国製青磁,中国製白磁,古瀬戸,瀬戸美濃,瓦質土器,越前,信楽,越中瀬戸,唐津,伊万里,製塩土器,砥石,羽口,鉄滓,釘,銭,漆器椀
	A2	中世	H13.8.20～9.6	12日間	367㎡	金三津道子	なし	中世土師器,珠洲,中国製青磁,伊万里,唐津,越中瀬戸
	B1	古代上層	H13.6.4～7.19	28日間	1,191㎡	金三津道子	土坑,溝,自然流路	須恵器,土師器,黒色土器,灰釉陶器,製塩土器,土錘,砥石,銭
		古代下層	H13.7.23～8.13	15日間	1,091㎡		掘立柱建物,土坑,溝	須恵器,土師器
	C1	中世	H17.5.20～9.30	68日間	5,573㎡	森　隆 藤本信幸	掘立柱建物,土坑,溝	須恵器,土師器,黒色土器,中世土師器,珠洲,中国製青磁,中国製白磁,越中瀬戸,下駄
	C2	中世						
柳田	A	縄文中世	H13.8.20～11.16	44日間	2,235㎡	金三津道子	掘立柱建物,土坑,溝,自然流路	縄文土器,中世土師器,珠洲,中国製青磁,中国製白磁,瓦質土器,越中瀬戸,伊万里,唐津,打製石斧,磨製石斧,石刀,石棒,石剣,銭
	B	縄文中世	H14.7.18～12.25	101日間	3,731㎡	内田亜紀子 須原　拓 町田賢一 長瀬　出 植木久美子	掘立柱建物,土坑,溝	縄文土器,円盤状土製品,有孔球状土製品,古瀬戸,中国製青磁,中国製白磁,中国製青白磁,珠洲,越中瀬戸,陶錘,銭,石鏃,石匙,玦状耳飾,玉製品,石棒,石刀,石錘,凹石,打製石斧,スクレイパー,磨製石斧,石冠,三脚形石器,砥石,敲石
下山新東	A	縄文	H14.5.22～6.27	21日間	752㎡	内田亜紀子	土坑	縄文土器,打製石斧,磨製石斧,石棒,石鏃,越中瀬戸,伊万里
	B	縄文	H14.5.24～7.25	22日間	670㎡	内田亜紀子	谷,土坑	縄文土器,土偶,円盤状土製品,打製石斧,磨製石斧,垂飾品,石棒,石刀,石錘,土師器,陶錘,和鏡,釘,銭
下山新	A	縄文	H13.8.23～11.29	46日間	3,165㎡	内田亜紀子	谷,土坑,被熱痕	縄文土器,打製石斧,磨製石斧,ヘラ状石器,削器,鋸歯縁石器,敲石,石匙,瓦質土器,越中瀬戸,唐津,伊万里,煙管
	B	縄文	H14.5.20～7.22	38日間	1,854㎡	須原　拓	土坑,被熱痕	縄文土器,円盤状土製品,打製石斧,磨製石斧,石鏃,石錘,削器,石棒,中世土師器,越中瀬戸,伊万里

第２表　調査一覧

（3）調査体制

平成13（2001）年度

総　　括	桃野真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
総　　務	竹中慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	江本裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	酒井重洋	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
調 査 員	金三津道子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	内田亜紀子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成14（2002）年度

総　　括	桃野真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
総　　務	竹中慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	廣田英貴	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	酒井重洋	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
調 査 員	内田亜紀子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	須原　拓	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成17（2005）年度

総　　括	桃野真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	関　　清	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	盛田世津子	埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長
総　　務	竹中慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	岩田扶紀	埋蔵文化財調査事務所主任
調査総括	宮田進一	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
調 査 員	森　　隆	埋蔵文化財調査事務所主任
	藤本信幸	埋蔵文化財調査事務所埋蔵文化財技師

（4）普及活動

発掘調査の結果を広く一般に公開するために，調査行程を検討しながら対象地区を選定して現地説明会を実施した。平成13年9月9日に竹ノ内Ⅱ遺跡において実施した。A1地区で検出した中世の集落を会場に，約90名の見学者が訪れた。まず現場事務所前で概略図を用いて全体説明を行い，続いて現地で個別遺構について説明を行った。掘立柱建物や井戸などの主要遺構の付近には調査員を配置し，見学者への説明や質問等に対応した。また，遺物展示会場では出土遺物及び遺構の写真パネルなどの展示を行った。

（5）整理経過

出土遺物は調査年度内に可能な限り洗浄・注記・分類を行った。遺物の洗浄・バインダー処理は現場において現場整理作業員が行った。土器・陶磁器の注記・接合・復元・色塗り，石製品の注記は，室内整理作業員が行った。石製品・金属製品はメモ写真を撮影し，それぞれ整理台帳を作成した。

調査概要については，『埋蔵文化財年報』(13)・(14)，『埋蔵文化財調査概要』－平成13年度・平成14年度－，『平成17年度埋蔵文化財年報』として発刊している。

報告書刊行に向けての本格的な室内整理作業は，平成19年4月から平成20年10月まで約2年間行った。平成19年4月から6月にかけて，下山新東遺跡と下山新遺跡の土器・陶磁器の接合及び実測，7月から9月にかけて挿図及び図版作成，10月から12月にかけて写真撮影，写真図版作成，原稿執筆を行った。平成20年1月から3月にかけて竹ノ内Ⅱ遺跡と柳田遺跡の土器・陶磁器の接合及び実測，4月から6月にかけて挿図及び図版作成，原稿執筆，7月から11月にかけて写真撮影，写真図版作成，原稿執筆，編集，11月から平成21年3月にかけて印刷，校正を行った。

遺物の実測は，土器・陶磁器を調査員及び室内整理作業員が行った。金属製品・石製品の実測は業者に委託した。遺物実測図は，種類別の遺物カードに直接書き込むか貼り込んで整理した。遺構実測図・写真は各台帳を作成して整理し，遺構カードとともにパーソナルコンピューターを使用してデータ入力を行った。データ入力は人材派遣会社に委託し，整理作業員が補足した。遺構・遺物のデータは観察表として掲載している。

遺物の写真撮影は業者委託し，4×5インチ判の白黒とカラースライドフィルムを使用した。写真図版には，密着焼付または引き延ばしたものを使用した。遺構写真・遺物写真のうち重要なものはプロフォトCD化して保存した。

自然科学分析は，業者に委託し，結果報告を掲載した。

(6) 整理体制

平成19(2007)年度

総　　括	岸本雅敏	埋蔵文化財調査事務所所長
	山本正敏	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	加藤豊次郎	埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長
総　　務	浅地正代	埋蔵文化財調査事務所総務課チーフ
	岩田扶紀	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	河西健二	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担　　当	朝田亜紀子	埋蔵文化財調査事務所主任

平成20(2008)年度

総　　括	岸本雅敏	埋蔵文化財調査事務所所長
	山本正敏	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	加藤豊次郎	埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長
総　　務	浅地正代	埋蔵文化財調査事務所総務課チーフ
	岩田扶紀	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	河西健二	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担　　当	金三津道子	埋蔵文化財調査事務所主任

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

朝日町は富山県の東北端に位置し，東は境川で新潟県に接する。町域の東側は大部分が山地で，黒部市（旧宇奈月町）愛本から朝日町元屋敷の海岸にかけて標高250～500ｍの丘陵が連なり，朝日岳や白馬岳山頂に至ると3,000ｍ近い標高を測る。この北アルプスに源を発した黒部川が北西側に流れ出して町域の西側に舟見野扇状地を形成しており，右岸の丘陵裾や段丘には多くの遺跡が立地する。

竹ノ内Ⅱ遺跡は県境より続く山地裾から西側の台地上にかけて広がる。柳田遺跡は小川・舟川が形成した複合扇状地上に位置する。下山新遺跡・下山新東遺跡は黒部川右岸の舟見野扇状地に位置する。

『朝日町誌　自然編』[注1]によると，舟見野扇状地は旧愛本橋付近を扇頂として黒部川が形成した旧扇状地で，これが隆起して段丘化された地域であり，愛本新から舟見を経て大家庄に及ぶ地域を指すとされる。また，舟見野扇状地は最終氷河期（ヴュルム氷期）前の洪積世後期の扇状地堆積面であり，その後氷河期となり海面が低下した時期とその後の海面の上昇期にかけて，黒部川により西側が浸食されて段丘崖となったとされる。現在地形は改変されているが，これらの地形は随所に残されている。下山新遺跡の西側は10ｍ前後の段丘崖であり，北西側は崖が東へ大きく回り込む地形となっている。遺跡の所在する一帯には階段状に整備された水田が広がり，隆起扇状台地の地形を見ることができる。また，舟見野扇状地は地下水の豊かなことで知られており，不動堂・金山にかけての湧水や，その流路も見ることが出来るため，縄文時代における不動堂遺跡等の居住地と湧水との関係も示唆されている。

2　歴史的環境

朝日町では旧石器時代から近代の遺跡が確認されている。黒部川扇状地右岸を中心として，時代毎に遺跡を概観していく。

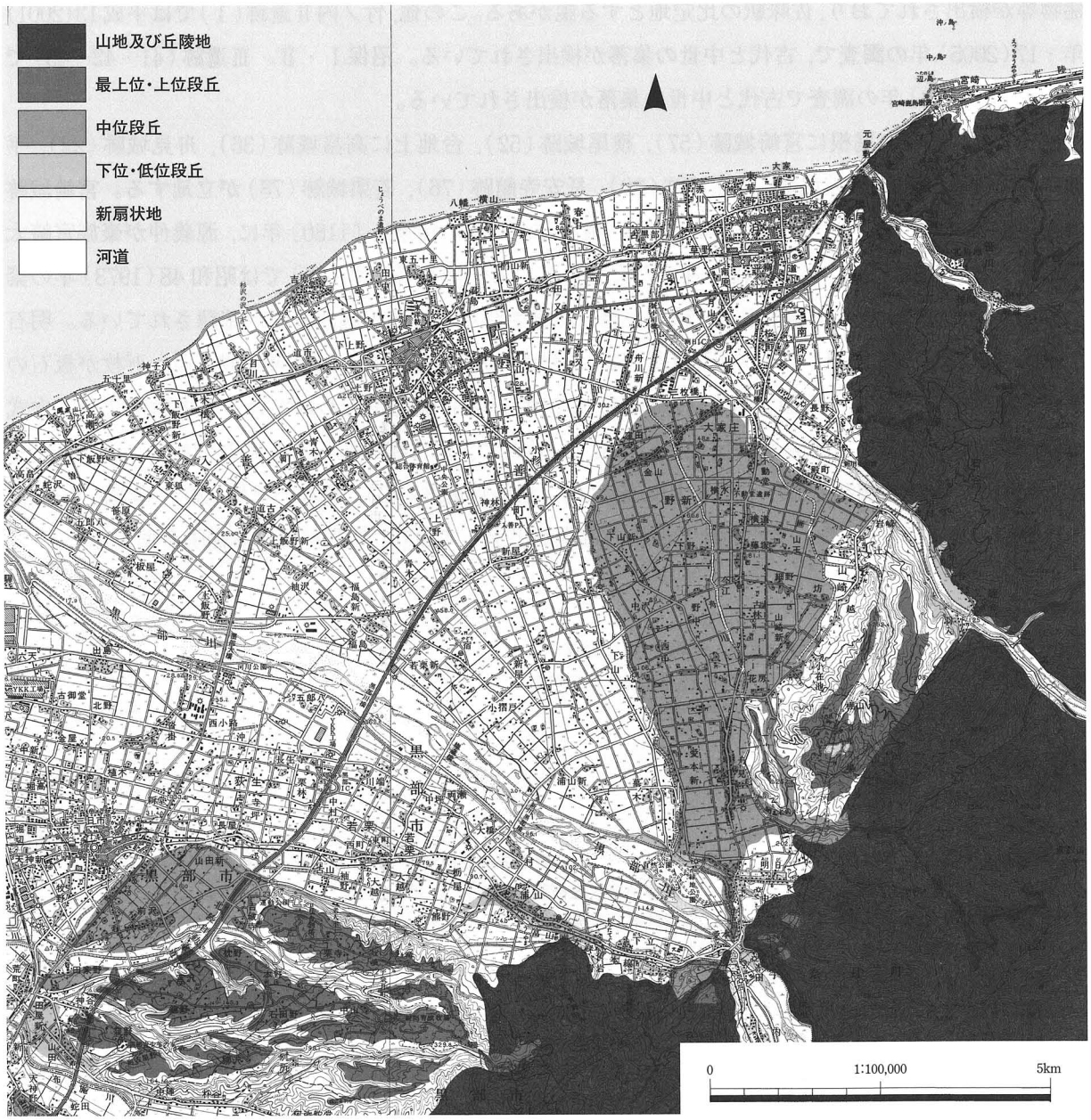
旧石器時代では台地上に北野台遺跡（53），法福寺前遺跡（20）が立地する。法福寺前遺跡では平成10（1998）年に包蔵地確認調査が行われており，旧石器時代の石器が出土している。

縄文時代早期には，北野台遺跡（53），柳田遺跡（２），梅木大平Ｃ遺跡（25），境Ａ遺跡（66），馬場山Ｄ・Ｆ遺跡（64・65）がある。いずれも散布地で土器や石器が出土している。前期では明石Ａ・Ｂ遺跡（59・60），道満遺跡（68），中ノ沢遺跡（69），水坪Ａ遺跡（70），柳田遺跡（２），境Ａ遺跡（66），馬場山Ｄ・Ｆ遺跡（64・65）があり，遺跡の分布は小規模な台地の縁や山地，平地に広がる。柳田遺跡では昭和49（1974）年の調査で前期の竪穴住居が検出されており，早期の柳葉形有舌尖頭器や前期の玦状耳飾，後晩期の御物石器等が出土している。中期には丘陵や山麓の小丘に遺跡が立地する。不動堂遺跡（30），愛本新遺跡（12），坪野遺跡（11），下山新遺跡（４），境Ａ遺跡（66），浦山寺蔵遺跡（14）等がある。不動堂遺跡では昭和48（1973）年～54（1979）年に発掘調査が行われ，中期の竪穴住居約20棟が検出された。中でも２号住居跡は長径約17ｍを測る楕円形の大型住居として特筆される。昭和49（1974）年に国指定史跡となり，現在史跡公園として整備されている。愛本新遺跡では昭和45（1970）年の調査で集石・配石遺構が検出され，動物意匠をもつ深鉢が出土している。下山新遺跡では昭和47（1972）年～51（1976）

年に発掘調査が行われており，中期から後期の竪穴住居や土坑群が検出され，土偶や釣手土器が出土している。境Ａ遺跡では昭和58（1980）年～60（1985）年に発掘調査が行われ，中期から後期の竪穴住居約35棟や穴，川跡などが検出された。多くの土器や石器が出土し，平成11（1999）年に出土品2,432点が国重要文化財に指定されている。浦山寺蔵遺跡では昭和51（1976）年の調査で中期の竪穴住居19棟が検出され，多数の土器や石器が出土している。後・晩期には海岸に近い低地にも遺跡が立地する。明石Ｅ遺跡（61），三浦遺跡（44），柳田遺跡（２）等がある。

弥生時代の遺跡は浜山Ｂ遺跡（63）がある。平成６（1994）年に包蔵地確認調査が行われており，後期の土坑や溝などが検出されている。

古墳時代の遺跡は浜山遺跡（62），明石Ｅ遺跡（61），大屋東Ⅱ遺跡（49）がある。浜山遺跡では昭和42（1967）年・43（1968）年の調査で中期の竪穴住居２棟や工作用ピットが検出され，翡翠や滑石の勾玉・管玉・臼玉等の製品・未成品の他，砥石・敲石・紡錘車などが出土しており，玉製作の工房跡と考えられている。



第５図　地形図　（1：100,000）

古代に入ると新川郡に東大寺領の丈部庄（はせつかべ）と大藪庄（おおやぶ），西大寺領の佐味庄（さみ）が設けられる。これらの庄園の比定地には諸説あるが，丈部庄にはじょうべのま遺跡（73）を当てる説が有力である。じょうべのま遺跡は昭和45（1970）年以降継続して発掘調査が行われており，平安時代の掘立柱建物群や柵列・溝など庄家跡と考えられる遺構や木簡等が確認されている。付近は古代北陸道の通過地であり，交通の要衝である。また佐味庄は，『西大寺資材流記帳』によると，８世紀中頃に佐味郷内に設けられた墾田地系庄園で，朝日町から黒部川扇状地全部を含む広大なものであったと考えられている[注2]。佐味庄の庄所としては大屋地区や泊地区を比定する説等がある。東大寺領庄園は奈良時代から平安時代初期にかけて，越中には10ヶ所を数えたとされるが，平安時代中期（10世紀末）には荒廃し，代わりに入善庄が12世紀初頭に東大寺に施入される[注3]。また大家庄は応和元（961）年以前に藤原氏に寄進された庄園で，永祚２年（990）年に藤原氏から延暦寺妙香院に寄進されている。また『延喜式』兵部省式によると越中には古代北陸道の宿駅として８駅が設けられているが，このうち佐味駅については朝日町泊地区もしくは境地区と想定されている。道下遺跡（40）は昭和58（1983）年に発掘調査が行われ，平安時代の片面庇付建物等が検出されており，佐味駅の比定地とする説がある。この他，竹ノ内Ⅱ遺跡（１）では平成13（2001）年・17（2005）年の調査で，古代と中世の集落が検出されている。沼保Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡（41・42・43）では平成11（1999）年の調査で古代と中世の集落が検出されている。

中世では，丘陵の尾根に宮崎城跡（57），横尾城跡（52），台地上に高畠城跡（36），舟見城跡（22），平地に館ノ城跡（35），古館城跡，南保城跡（39），長安寺館跡（76），若栗城跡（78）が立地する。宮崎城跡は平安時代末の築城とされ，現在曲輪，石垣，堀などが残る。治承４（1180）年に，源義仲が豪族宮崎太郎とともに後白河天皇の孫北陸宮を迎えたとされている。臼ヶ谷古墓（56）では昭和48（1973）年の緊急調査で，２基の土坑墓が調査され，珠洲大甕に埋葬された人骨と中国銭６枚が確認されている。明石Ａ遺跡では大正12（1923）年に，開元通寶（621年初鋳）から宣徳通寶（1434年初鋳）約１万枚が板石の下から発見されている。柳田古墓（33）は昭和50（1975）年に調査が行われている。古墳時代の竪穴式石室に酷似する河原石を積んだ石室を中心に配し，外周に方形に溝を巡らせたものである。

近世では，宮崎焼窯跡（55），舟見焼棚山窯（26），沼保Ⅲ遺跡（43），横水一里塚（29），藤塚（28），梅木大平Ｃ遺跡（25）がある。また各地で近世の遺物が出土しており，集落が広がる様子が伺える。

（朝田亜紀子）

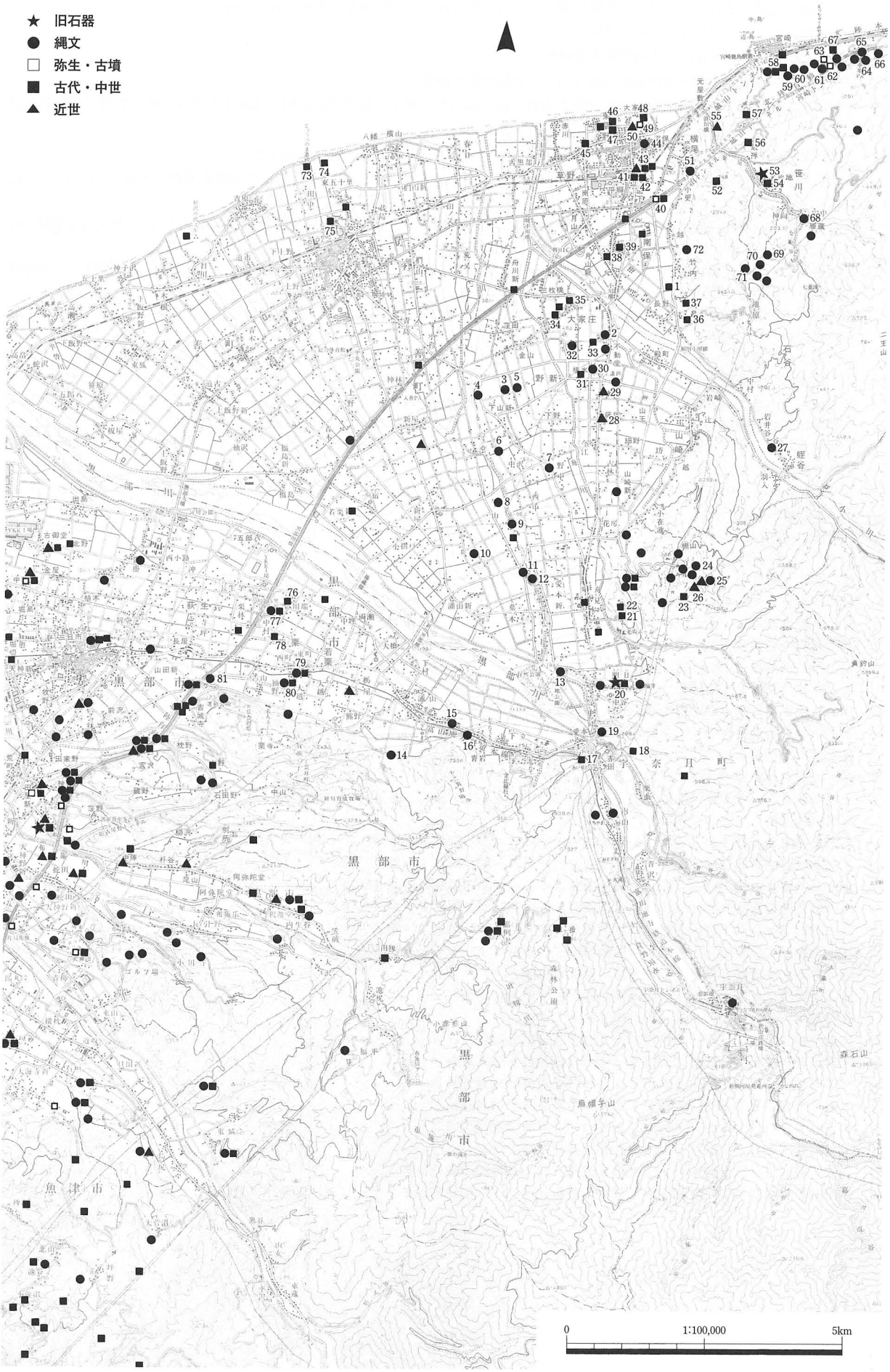
注

注１　深井三郎1984「Ⅱ　地形」『朝日町誌　自然編』朝日町編
注２　橋本芳雄1984「朝日町の古代」『朝日町誌　歴史編』朝日町編
注３　富山県1976『富山県史　通史編Ⅰ』原始・古代

引用・参考文献

１．朝日町1984『朝日町誌　自然編』
２．朝日町1984『朝日町誌　歴史編』
３．朝日町教育委員会1978『富山県朝日町大家庄地区内埋蔵文化財予備調査概要　下山新東遺跡　高橋遺跡』
４．朝日町教育委員会1979『富山県朝日町不動堂遺跡第２次発掘調査概報』
５．朝日町教育委員会1980『富山県朝日町不動堂遺跡第３次発掘調査概報』
６．朝日町教育委員会1987『朝日町の遺跡－縄文時代～近世の遺跡－』
７．朝日町教育委員会1999『富山県朝日町宮崎・境遺跡　境堂田遺跡発掘調査報告書』
８．朝日町教育委員会1999『富山県朝日町沼保Ⅰ　遺跡沼保Ⅱ遺跡　沼保Ⅲ遺跡　沼保Ⅳ遺跡　発掘調査報告書』
９．朝日町教育委員会2000『富山県朝日町宮崎・境遺跡発掘調査報告書』
10．朝日町教育委員会2000『富山県朝日町馬場山Ｈ遺跡発掘調査報告書』
11．朝日町教育委員会2003『富山県朝日町柳田遺跡発掘調査報告書』
12．朝日町教育委員会2005『富山県朝日町竹ノ内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』

13. 朝日町教育委員会 2006『富山県朝日町柳田遺跡　下山新東遺跡　下山新遺跡　発掘調査報告書』
14. 朝日町教育センター 2001『朝日町の歴史』
15. 宇奈月町教育委員会 1971『愛本新遺跡調査概要』
16. 宇奈月町教育委員会 2001『風野遺跡－縄文時代石器製作跡の調査－』
17. 黒部市教育委員会 2006『若栗中村遺跡発掘調査報告書－ふるさと農道　農免農道新川中部地区の施行に伴う埋蔵文化財発掘調査－』
18. 小島俊彰・中村奇霙 1976「朝日町馬場山Ｄ遺跡採集の遺物」『大境』第６号　富山考古学会
19. 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2000『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告　ＨＳ－11　ＨＳ－12　ＨＳ－13』
20. 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2001『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（２）　竹ノ内Ⅱ遺跡（長野地区）　柳田遺跡　井ノ口城跡　下山新東遺跡　下山新遺跡』
21. 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2002「北陸新幹線関連遺跡発掘調査　竹ノ内Ⅱ遺跡　柳田遺跡　下山新遺跡　若栗中村遺跡」『埋蔵文化財調査概要－平成 13 年度－』
22. 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2003『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（３）　井ノ口城跡　若栗中村遺跡　舌山遺跡』
23. 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2003「北陸新幹線関連遺跡発掘調査　柳田遺跡　下山新東遺跡　下山新遺跡」『埋蔵文化財調査概要－平成 14 年度－』
24. 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2004『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（４）　ＨＳ－10 埋蔵文化財包蔵地（宮沢釈迦遺跡）　ＨＳ－15 埋蔵文化財包蔵地　ＨＳ－16 埋蔵文化財包蔵地（吉城寺南遺跡）　舌山遺跡』
25. 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2006「北陸新幹線関連遺跡発掘調査　竹ノ内Ⅱ遺跡」『平成 17 年度埋蔵文化財年報』
26. 竹内俊一 1980『宮崎自然博物館研究調査報告　越中宮崎城下出土銭考　付富山県内出土銭資料』朝日町宮崎自然博物館・朝日町郷土の遺跡を語る会
27. 竹内俊一 1998『両越国境　朝日町の山城－今　よみがえる歴史の里－』朝日町中央公民館
28. 富山県 1972『富山県史』考古編
29. 富山県教育委員会・朝日町教育委員会 1969『勾玉の故郷はまやま』
30. 富山県教育委員会 1972『入善町じょうべのま遺跡発掘調査概報』
31. 富山県教育委員会・入善町教育委員会 1973『入善町じょうべのま遺跡発掘調査概報（２）』
32. 富山県教育委員会 1973『富山県朝日町下山新遺跡第１次発掘調査概報』
33. 富山県教育委員会 1974『富山県朝日町下山新遺跡第２次発掘調査概報』
34. 富山県教育委員会 1974『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　井波町高瀬遺跡　入善町じょうべのま遺跡　発掘調査報告書』
35. 富山県教育委員会 1974『富山県朝日町不動堂遺跡第１次発掘調査概報』
36. 富山県教育委員会 1975『富山県朝日町柳田遺跡・柳田古墓緊急発掘調査概報』
37. 富山県教育委員会 1977『富山県宇奈月町浦山寺蔵遺跡緊急発掘調査概要』
38. 富山県教育委員会 1984『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編－道下遺跡』
39. 富山県教育委員会 1985『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編２－境Ａ遺跡　馬場山Ｄ遺跡　馬場山Ｅ遺跡　馬場山Ｆ遺跡　馬場山Ｇ遺跡　馬場山Ｈ遺跡』
40. 富山県教育委員会 1987『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編３－馬場山Ｄ遺跡　馬場山Ｇ遺跡　馬場山Ｈ遺跡』
41. 富山県教育委員会 1989『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編４－境Ａ遺跡』
42. 富山県教育委員会 1990『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編５－境Ａ遺跡石器編』
43. 富山県教育委員会 1991『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編６－境Ａ遺跡土器編』
44. 富山県教育委員会 1992『北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編７－境Ａ遺跡総括編』
45. 富山県埋蔵文化財センター・朝日町教育委員会 1993『富山県朝日町棚山ゴルフクラブ内遺跡発掘調査報告　梅木大平遺跡Ａ地区　梅木大平遺跡Ｂ地区　棚山窯跡　宮ノ東遺跡』
46. 富山県埋蔵文化財センター 2006『富山県中世城館遺跡総合調査報告書』
47. 入善町教育委員会 1971『じょうべのま』
48. 入善町教育委員会 1975『入善町じょうべのま遺跡発掘調査概要（３）』
49. 入善町教育委員会 1981『入善町じょうべのま遺跡予備調査概要（４）』
50. 入善町教育委員会 1982『入善町じょうべのま遺跡発掘調査概報（５）』
51. 入善町教育委員会 1983『入善町じょうべのま遺跡予備調査概要（６）』
52. 入善町教育委員会 1983『入善町じょうべのま遺跡発掘調査概要（７）』
53. 入善町教育委員会 1985『じょうべのま遺跡発掘調査概報（８）』
54. 入善町教育委員会 1985『じょうべのま遺跡－Ｃ・Ｋ地区の調査－』
55. 入善町教育委員会 2002『富山県入善町入善浄化センター用地内じょうべのま東遺跡発掘調査報告』



第６図　周辺の遺跡　（1：100,000）

番号	遺跡名	所在地	時代	種類	備考	文献
1	竹ノ内Ⅱ	朝日町竹ノ内,長野	古代,中世,近世	集落		12,19,20,21,25
2	柳田	朝日町大家庄字柳田	縄文(早～晩),古代,中世,近世	集落(縄文前,中世),墓(中世),散布地		2,11,13,20,21,23,36
3	下山新東	朝日町下山新	縄文(前,中,晩),近世	散布地		3,13,20,23
4	下山新	朝日町下山新字馬坂	縄文(中,後),中世,近世	集落(縄文中),散布地(縄文後,中世,近世)		2,6,13,20,21,23,32,33
5	高橋	朝日町窪田字高橋	縄文(中,後),中世,近世	散布地		3
6	中沢	入善町中沢	縄文	散布地		
7	野中	入善町野中446外5筆	縄文	散布地		
8	下山峠	入善町下山	縄文	散布地		
9	西中	入善町西中	縄文	散布地		
10	新屋島	入善町新屋字島	縄文	散布地		
11	坪野	入善町下山字坪上	縄文	散布地	町指定史跡(S.40)	
12	愛本新	黒部市愛本新	縄文(中,後,晩),古代	集落(縄文後),散布地	県指定史跡(S.45)	15
13	風野	黒部市愛本字風野	縄文(中,後,晩)	散布地		16
14	浦山寺蔵	黒部市浦山字山越割	縄文(中,後)	集落(縄文中),散布地		37
15	黒部中学校庭	黒部市浦山	縄文	散布地		
16	下立	黒部市下立字沖	縄文	散布地		
17	内山砦跡	黒部市下立,赤田	中世	城館		46
18	明日山城跡	黒部市松ヶ平	中世	城館		46
19	中ノ口	黒部市中ノ口上大平地区	縄文	散布地		
20	法福寺前	黒部市明日	旧石器,縄文,古代,中世	集落(中世),散布地		
21	舟見狐平	入善町舟見字狐平	縄文中,平安,中世	集落,城館(中世),散布地		
22	舟見城跡	入善町舟見字狐平	中世	城館		46
23	宮ノ東	朝日町棚山字宮ノ東	縄文,平安	集落(平安),散布地		45
24	梅木大平A	朝日町棚山字大平,動堂島	縄文(中,後),不明	集落(縄文中),散布地(縄文後),炭窯(不明)		45
25	梅木大平C	朝日町棚山字三ノ澤,清水場	縄文(早),近世	散布地(縄文早),墓(近世)		45
26	舟見焼棚山窯	朝日町棚山字瀬戸島,宗五郎島	近世	生産(窯)		45
27	岩井谷洞穴	朝日町南保字岩井谷	縄文	散布地		
28	藤塚	朝日町藤塚字大野	近世	塚		
29	横水一里塚	朝日町横水123	近世	塚(一里塚)	町指定史跡(S.42)	
30	不動堂	朝日町不動堂字三宝	縄文(中),平安,中世	集落(縄文),散布地	国指定史跡(S.49)	2,4,5,6,35
31	不動堂西	朝日町横水,不動堂	縄文(中),中世,近世	集落(中世),散布地		
32	井ノ口城跡	朝日町大家庄字井ノ口	縄文,古代,中世	散布地	旧井口城跡	20,22
33	柳田古墓	朝日町柳田	中世	墓	旧柳田古墳状石組	36
34	天香寺	朝日町三枚橋	中世,近世	社寺(中世),散布地		
35	館ノ城跡	朝日町三枚字館	中世,近世	城館(中世),散布地		46
36	高畠城跡	朝日町南保字大館,大苗代	中世	城館	旧南保城跡	46
37	清水	朝日町清水	中世	社寺	旧南保遺跡	
38	脇の城跡	朝日町桜町	中世	城館	旧古館城跡	
39	南保城跡	朝日町桜町南保	中世	城館	旧古館城跡	
40	道下	朝日町南保669他	古墳,平安,中世,近世	集落(古墳,平安),散布地		38
41	沼保Ⅰ	朝日町沼保848外	古代,中世,近世	散布地		8
42	沼保Ⅱ	朝日町526-1外	古代,中世,近世	集落(中世),散布地		8
43	沼保Ⅲ	朝日町552-1外	古代,中世,近世,近代	塚(近代),散布地		8
44	三浦	朝日町泊字中三坪	縄文(後,晩)	散布地		
45	東草野Ⅰ	朝日町東草野字西又,字下尻	中世,近世	集落(中世),散布地		
46	大屋A	朝日町大家字出端	古代,中世	散布地	旧大屋遺跡	
47	大屋B	朝日町大家新	古代,中世	散布地		
48	大屋東Ⅰ	朝日町泊字地廣,杉崎,釿	中世	散布地		
49	大屋東Ⅱ	朝日町大屋字油田,泊字釿	古墳,中世	散布地		
50	大屋東Ⅲ	朝日町大屋字油田,泊字亀子,荒川字石田	中世,近世	散布地		
51	横尾	朝日町横尾字榛の勝	縄文	散布地		
52	横尾城跡	朝日町横尾	中世	城館		27,46
53	北野台	朝日町笹川字北野	旧石器,縄文(早,前,中)	散布地	旧北野遺跡	
54	最禅坊跡	朝日町笹川字最禅	中世	社寺		
55	宮崎焼窯跡	朝日町元屋敷字亀田	近世	生産(窯)		
56	臼ヶ谷古墓	朝日町笹川字臼ヶ谷252	中世(鎌倉)	墓		
57	宮崎城跡	朝日町宮崎字城山,元屋敷城山	平安,中世,近世	城館	県指定史跡(S.40)	6,27,46
58	宮崎池田	朝日町宮崎	古代,中世	散布地		
59	明石A	朝日町宮崎字明石	縄文(前,中),中世	玉作(縄文前),散布地(縄文中),埋納銭(中世)	旧宮崎遺跡	2,26
60	明石B	朝日町宮崎字明石	縄文(前,中,後,晩),中世	散布地		
61	明石E	朝日町宮崎字明石	縄文(中,後,晩),古墳	散布地		
62	浜山	朝日町宮崎字浜山	縄文(中,後),古墳中	玉作(古墳中),散布地	県指定史跡(S.47)	2,6,29
63	浜山B	朝日町境字馬場29-2	弥生後,古代	集落(弥生後),散布地		
64	馬場山D	朝日町境字馬場	縄文(早～晩), 古墳(前), 平安	集落(縄文中),製塩(平安),墳墓(平安),散布地	旧宮崎遺跡	2,18,39,40
65	馬場山F	朝日町字馬場山	縄文(早,前,中),古墳,中世,近世	集落(縄文中),散布地		39
66	境A	朝日町境	縄文(早～晩), 弥生, 古墳, 古代, 中世,近世	集落(縄文中,後,晩),製塩(古代),散布地	遺物国指定重要文化財(H.11)	6,39,41,42,43,44
67	宮崎,境	朝日町宮崎,境字馬場	縄文,平安,中世,近世	集落(古代,中世,近世),製塩(古代),散布地(縄文)	旧宮崎遺跡	7,9
68	道満	朝日町笹川字道満	縄文(前,中)	散布地	旧笹川遺跡	
69	中ノ沢	朝日町笹川字中ノ沢	縄文(前,中)	散布地	旧三峰遺跡	2
70	水坪A	朝日町笹川字中ノ沢	縄文(前,中)	散布地	旧三峰遺跡	2
71	烏が平	朝日町笹川字菖蒲谷	縄文(前,中)	散布地	旧三峰遺跡	2
72	越	朝日町越	縄文(中)	散布地		
73	じょうべのま	入善町田中,入膳	古墳,平安,中世,近世	荘園(平安),集落(中世),散布地	国指定史跡(S.54)	30,31,34,47,48,49,50,51,52,53,54
74	じょうべのま東	入善町東五十里	平安,中世,近世	集落(中世),散布地		55
75	西蓮寺	入善町田中字竹ノ腰6621	古代,中世	集落(古代),散布地		55
76	長安寺館跡	黒部市若栗字川端	中世	城館	市指定史跡(S.63)	46
77	若栗中村	黒部市若栗中村	縄文,中世,近世	散布地		17,21,22
78	若栗城跡	黒部市若栗字中村	中世,近世	城館(中世),散布地	市指定史跡(S.30)	46
79	若栗	黒部市若栗字西町,字東町	縄文(中),中世	散布地		
80	袖野	黒部市若栗字袖野	縄文(中),中世	散布地		
81	舌山	黒部市若栗字舌山	縄文,中世	集落(縄文,中世)		22,24

第３表　周辺遺跡一覧

第Ⅲ章　竹ノ内Ⅱ遺跡

1　基本層序

基本層序は，土層中に包含する遺物の年代を基に設定している。全調査区を通して，Ⅰ層：表土，Ⅱ層：ほ場整備の盛土，Ⅲ層：中世遺物包含層，Ⅳ層：古代遺物包含層，Ⅴ・Ⅵ層：無遺物層とした。Ⅲ層とⅣ層は各々a・bの上下の層に分離され，それぞれの下面に遺構検出面がある。

調査地は丘陵西裾に位置するため，南東から北西へ向かって緩傾斜し，現況で約4mの比高差を持つ地形となっている。また，木流川の旧河道が随所にみられ，旧地形は起伏に富んでいたことが伺える。そのため，各地区によって基本層序に対応する土層の土色や土質は若干異なっている。

中世遺物包含層であるⅢ層は炭化物の混ざる粘土質シルトである。B1地区を除く全調査区にみられるが，A1地区西部，C1地区南東部など各所に堆積を欠く範囲がある。A1・A2・C2地区は単層，C1地区はⅢa・Ⅲbの2層に分離でき，遺構検出はそれぞれの下面で行った。色調は，A1・A2地区では黄灰色・暗灰黄色・オリーブ褐色，C1・C2地区ではやや赤味が強くなり，Ⅲa層は灰黄褐色・黒褐色・暗褐色など，Ⅲb層はにぶい黄褐色・灰褐色を呈する。A1地区の中央部から東部にかけての範囲では多くの炭化物や灰を含んでおり，この一帯は火災による堆積層とみることもできる。

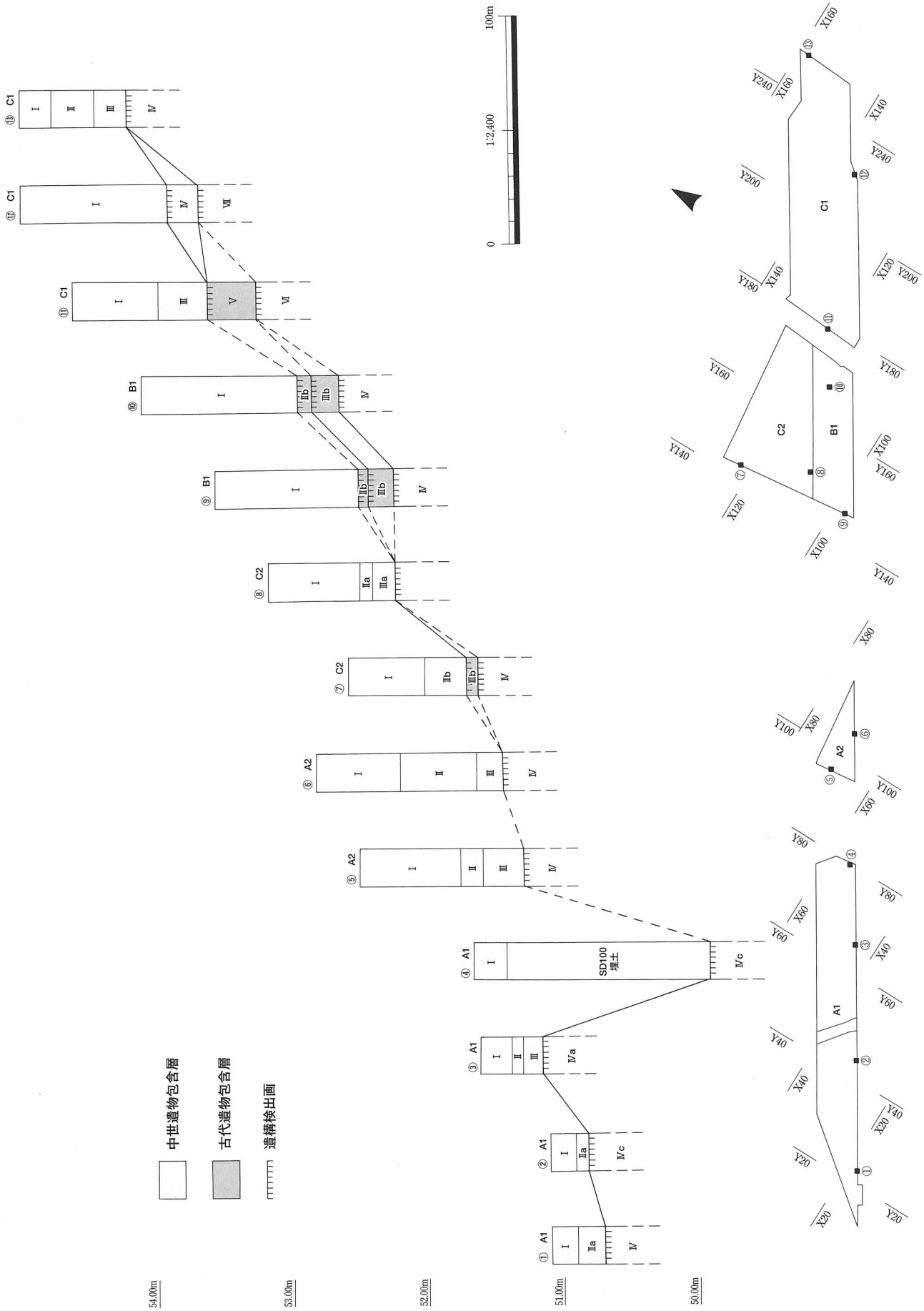
古代遺物包含層であるⅣ層は，B1地区，C1地区西部，C2地区に堆積がみられた。B1地区ではⅣa層：暗灰黄色砂質シルト及び粘質土，Ⅳb層：黒褐色シルトに分離でき，各下面で古代遺構の検出を行っている。C1・C2地区では土色が赤味を帯び，暗褐色・灰黄褐色粘土質シルトとなる。C1・C2地区ではⅤ層まで掘り下げて確認しているが，古代の遺構は検出されなかった。

Ⅴ層以下は無遺物層である。Ⅴ層は粘土・粘土質シルト・砂質シルトなどで，自然流路に絡んで深掘りをした範囲でⅣ層の砂利・礫混じりの砂層を確認している。　（朝田亜紀子）

		A1 旧称	A1		A2 旧称	A2	B1 旧称	B1	C1 旧称	C1		C2 旧称	C2	
Ⅰ層	盛土・現耕作土	Ⅰ	2.5Y3/2黒褐色砂質シルト		Ⅰ	2.5Y5/2～4/2 暗灰黄色シルト（炭混，礫混） 2.5Y4/3～3/3 オリーブ褐色・暗オリーブ褐色シルト（礫混） 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト（炭混）	Ⅰ	撹乱	Ⅰ	撹乱		Ⅰ	撹乱	
Ⅱ層	ほ場整備の盛土	Ⅱ	西半 10YR5/1 褐灰色粘土 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト	東半 7.5YR5/4 にぶい褐色粘土質シルト	Ⅱ	2.5Y3/1黒褐色シルト（炭混）	Ⅱ	撹乱	Ⅱ	西半 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土	東半 10YR4/2 灰黄褐色粘質土	Ⅱa Ⅱb	10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（礫混） 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土	
Ⅲ層	中世遺物包含層	Ⅲ	2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト（炭混）		Ⅲ	2.5Y4/2～4/3 暗灰黄色・オリーブ褐色粘土質シルト（炭混）	無	無	Ⅲ	10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 7.5YR4/4 褐色粘土質シルト（炭混）	5Y5/3 灰オリーブ色粘土質シルト	Ⅲa	10YR3/2 黒褐色粘土質シルト（鉄・炭混）	
		無	無		無	無	無	無	Ⅳ	10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト	5YR5/2 灰褐色粘土質シルト （10YR5/4にぶい黄褐色粘質土混）	無	無	中世上層面 13～14C
Ⅳ層	古代遺物包含層	無	無		無	無	Ⅱb	2.5Y5/2～4/2 暗灰黄色砂質シルト・粘質土	Va	7.5YR3/3 暗褐色粘土質シルト	無	Ⅲb	10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト	中世下層面 12C中頃～13C
							Ⅲb	10YR3/2 黒褐色シルト（鉄・炭混）	Vb	10YR3/3 暗褐色粘土質シルト（炭混）				古代上層面 9C後～10C中頃
Ⅴ層	無遺物層	Ⅳ	10YR3/4 暗褐色砂質シルト・粗砂	2.5Y4/2暗灰黄色粘土 5Y6/1灰色粘土	Ⅳ	2.5Y6/4にぶい黄色粘土質シルト	Ⅳ	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト 2.5Y6/2 灰黄色シルト	Ⅵ	10YR3/1 黒褐色粘土質シルト 5Y4/1 灰色粘土質シルト	2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト 5Y4/1 灰色粘土質シルト	地山	2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト	古代下層面 9C代
Ⅵ層	無遺物層		10YR4/3 にぶい黄褐色砂			7.5GY5/1緑灰色砂（礫混） 7.5GY4/1暗緑灰色砂質シルト（炭混） 10GY6/1緑灰色砂質シルト	Ⅴ	5Y5/1 灰色砂質シルト（礫混）						

遺構検出面

第4表　竹ノ内Ⅱ遺跡　基本層序



第７図　竹ノ内Ⅱ遺跡　基本層序模式図

2　遺構・遺物

(1) 古代下層

古代の遺構はB1地区でのみ検出された。遺構検出面はⅣb層上面とⅤ層上面の2面で，前者を古代上層，後者を古代下層とした。古代下層では掘立柱建物4棟，溝，土坑があり，出土遺物から9世紀代の集落跡とみられる。なお，埋土に柱痕跡が認められる，あるいは埋土や深さ等から柱穴の可能性が高いが，掘立柱建物や柵列に並ばないものは，土坑として記述した。

A　掘立柱建物

1号掘立柱建物（SB 1，第9図，図版4）

B1地区中央北よりに位置する。柱並びが不揃いで若干歪むが，桁行2間×梁行1間の東西棟側柱建物と想定した。桁行3.5m，梁行2.7m，面積9.45㎡，主軸はN－88°－Wである。SB 3と重複しており，SB 3に伴うと考えるSK1216を柱穴SP1211が切ることから，SB 1がSB 3より新しいと考える。柱穴の平面形は円形で，直径または長径0.16m～0.25m，深さ0.12m～0.17mを測る。出土遺物はSP1209から土師器甕の胴部破片が出土している。

2号掘立柱建物（SB 2，第9図，図版4）

B1地区西側に位置する。桁行2間×梁行1間の東西棟側柱建物で，主軸はN－73°－Wである。桁行2.4m，梁行2.3m，面積5.52㎡を測る。柱穴の平面形は円形で，直径または長径0.20m～0.47m，深さ0.15m～0.27mを測る。SP1281・SP1282では柱痕跡が認められた。西側の柱列上に位置するSK1276は柱穴の可能性が高いが，東側梁行が1間であることから，SB 2には含めていない。出土遺物はSP1284から赤彩された土師器椀の破片が出土している。

3号掘立柱建物（SB 3，第10図，図版4）

B1地区中央北よりに位置し，SB 1と重複する。確認できていない柱穴があり確実ではないが，SP1218からSP1239の柱列とSK1216を囲む範囲にSB 3を想定した。桁行1間×梁行2間の南北棟側柱建物で，主軸はN－5°－Eである。桁行2.9m，梁行2.5m，面積7.25㎡を測る。柱穴の平面形は円形・楕円形で，直径または長径0.28m～0.45m，深さ0.11m～0.35mである。出土遺物はSP1229から土師器甕の口縁部破片が出土している。

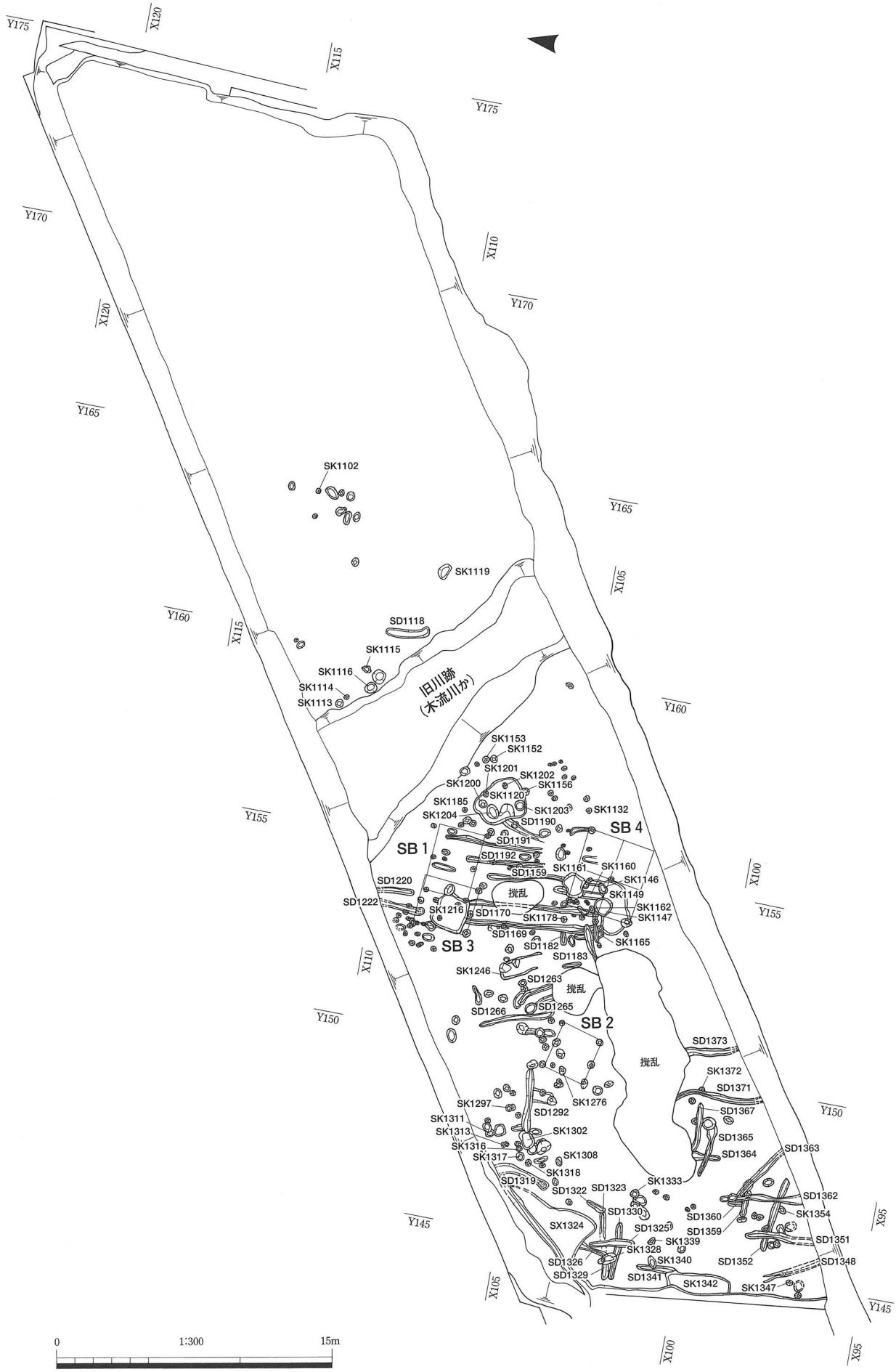
4号掘立柱建物（SB 4，第10図）

B1地区中央南よりに位置する。上層遺構に削られ確認できなかった柱穴があると考えられるが，2間×2間の東西棟総柱建物と想定した。桁行4.1m，梁行3.5m，面積14.35㎡，主軸N－85°－Wを測る。SB 3とSB 4は同一軸となることから，同時期の建物の可能性がある。柱穴の平面形はほとんどが円形で，直径または長径0.25m～0.45m，深さ0.17m～0.48mである。SP1145では柱痕跡が認められた。出土遺物はSP1145から土師器甕の胴部破片が出土している。

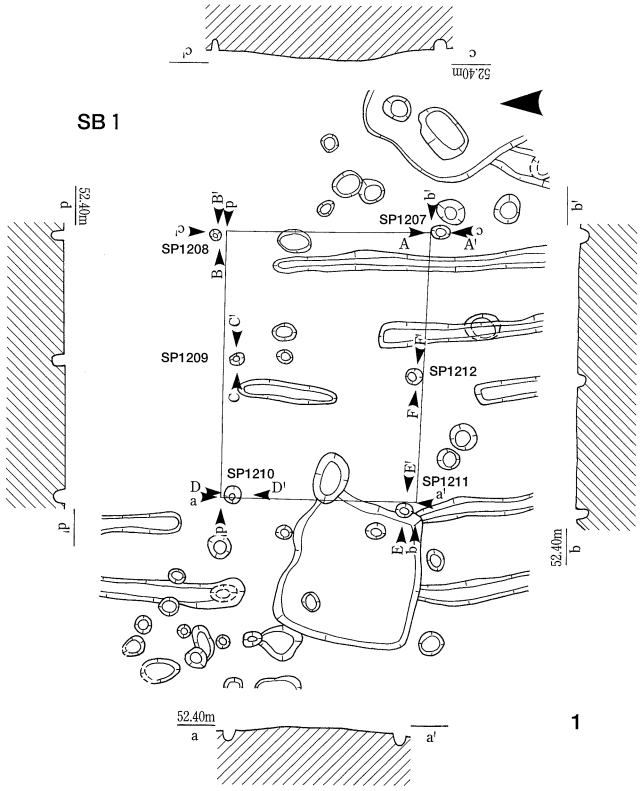
B　溝

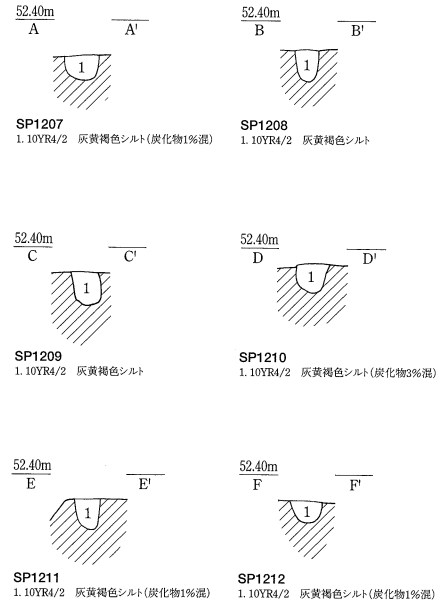
1143号溝（SD1143，第12図，図版4）

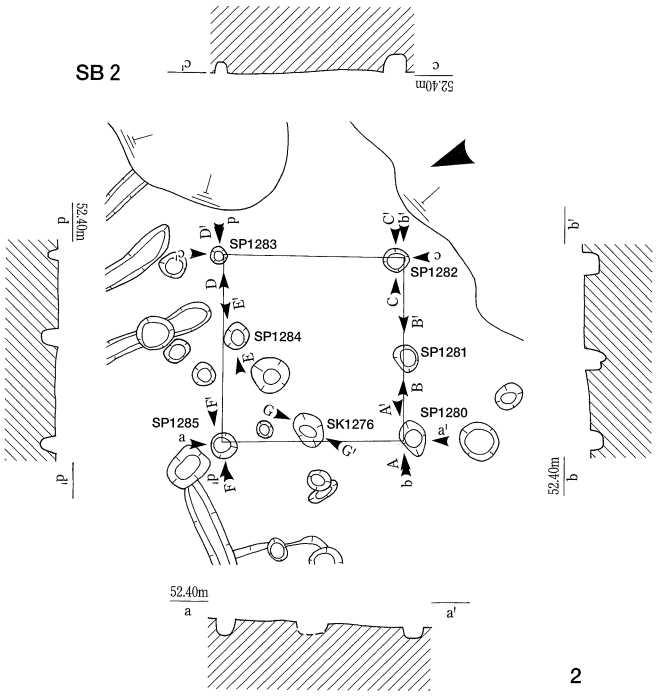
B1地区中央南よりに位置する南北溝で，南側は上層遺構により削平されている。幅0.30m，深さ0.10mを測り，埋土は炭化物混じりの灰黄褐色シルトである。SD1191と一続きの溝である可能性があり，SD1159・SD1160・SD1169・SD1170・SD1190・SD1192と並行しており，畠の耕作に伴う鋤溝と考える。出土遺物はない。

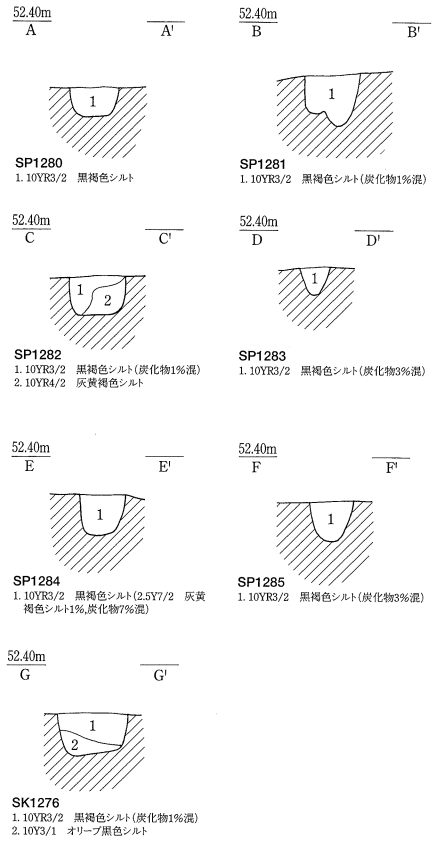


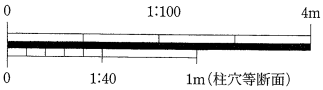
第８図　竹ノ内Ⅱ遺跡　遺構全体図（1：300）
B1 地区　古代下層面





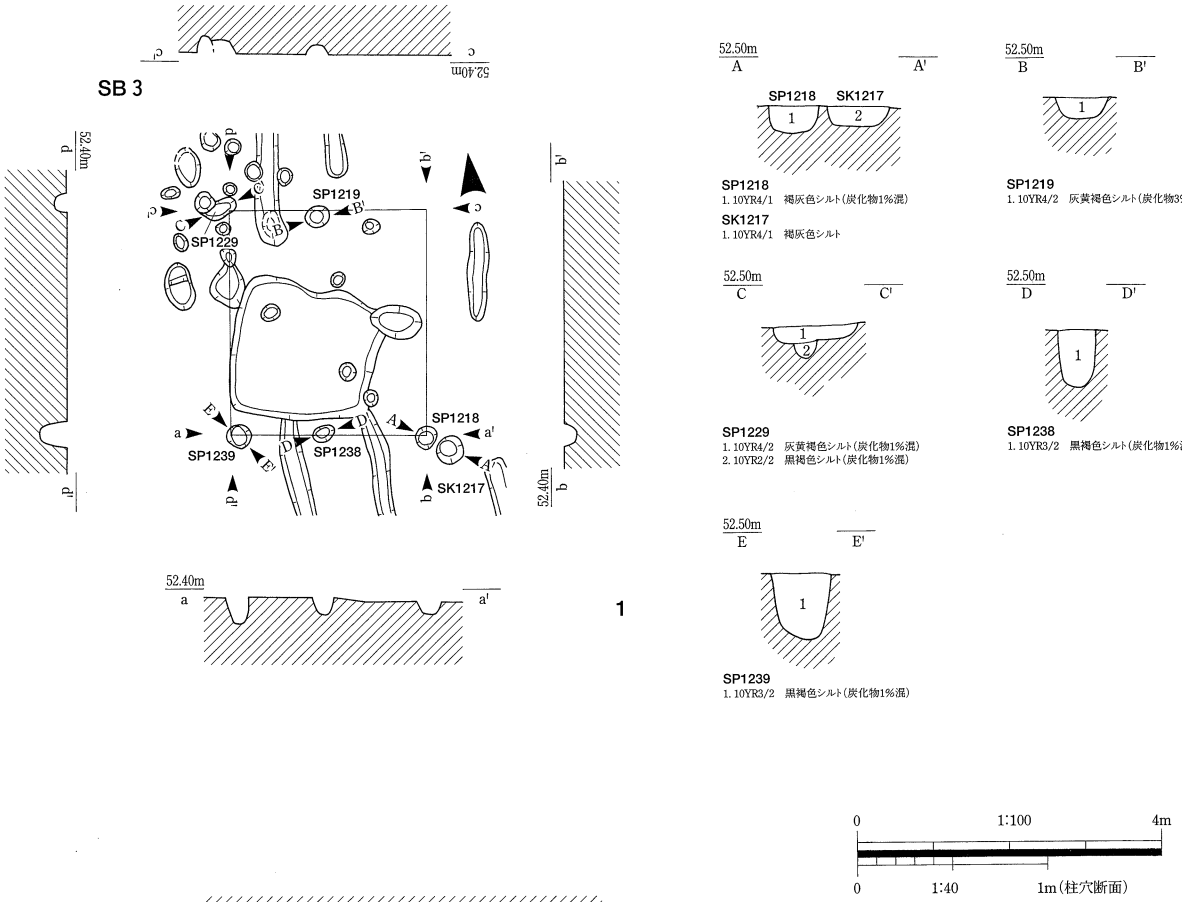


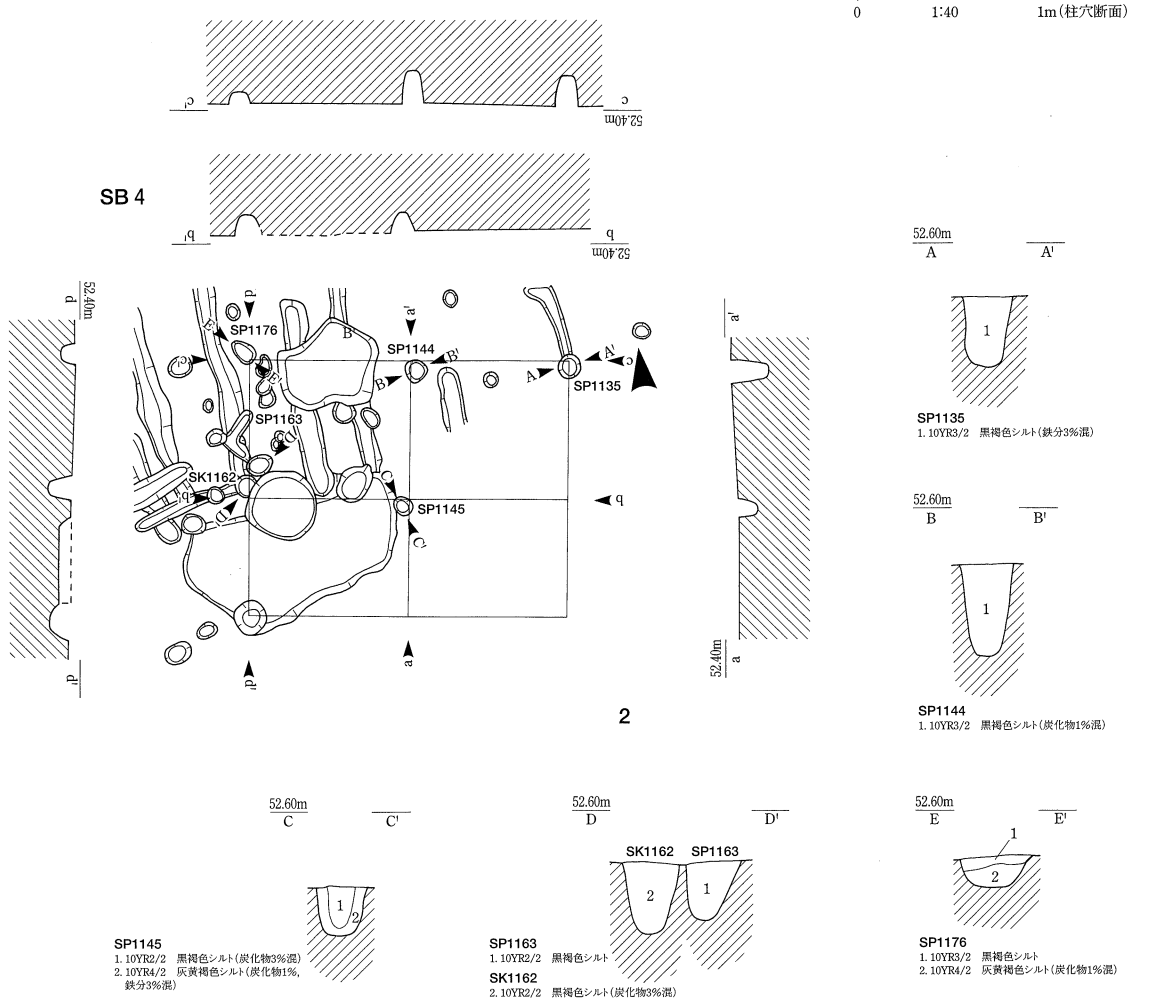




第９図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図

1. SB 1　2. SB 2・SK1276





第10図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図

1. SB 3・SK1217　2. SB 4・SK1162

1169 号溝（SD1169，第 12 図）

B1 地区中央に位置する南北溝。幅 0.30m，深さ 0.13m を測る。SD1222 と一続きの溝の可能性がある。SB 3 に伴うと考えられる SK1216 に切られており，SB 3 より古いとみられる。SD1159 と同様に畠の耕作に伴う鋤溝と考える。出土遺物はない。

1170 号溝（SD1170，第 12 図）

B1 地区中央に位置する南北溝。幅 0.25m，深さ 0.12m を測る。SD1220 と一続きの溝の可能性がある。SB 3 に伴うと考えられる SK1216，SB 4 の柱穴 SP1163 に切られており，SB 3・SB 4 より古い。SD1159 と同様に畠の耕作に伴う鋤溝と考える。出土遺物は土師器椀・甕片がある。

1263 号溝（SD1263，第 12 図）

B1 地区中央西よりに位置する南北溝で，北端はゆるくカーブする。南側は削平される。幅 0.20m，深さ 0.14m を測る。SK1262 に切られるが，SK1301 を切る。SD1265・SD1266・SD1270 と約 0.50m 間隔で並走し，畠の耕作に伴う鋤溝の可能性がある。出土遺物は土師器椀の破片がある。

1292 号溝（SD1292，第 12・16 図，図版 13）

B1 地区中央西よりに位置する東西溝。東端を SK1286 に，西端を SK1302 に切られる。幅 0.36m，深さ 0.11m である。出土遺物は土師器椀（1）がある。1 は底部回転糸切り未調整で，口縁端部をつまみ細くしあげる。9 世紀代のものか。

1348 号溝（SD1348，第 12 図）

B1 地区西端に位置する南北溝で，調査区外南側にかかる。幅 0.25m，深さ 0.13m を測り，埋土は炭化物混じりの黒褐色シルトである。SD1351・SD1362・SD1364・SD1371・SD1373 と約 2.0m 間隔で並行する溝で，畠の耕作に伴う鋤溝の可能性がある。出土遺物はない。

C　土坑

1102 号土坑（SK1102，第 13 図）

B1 地区東側に位置する。直径 0.25m，深さ 0.27m を測る円形土坑。埋土は炭化物混じりの灰黄褐色シルトの単層である。周辺の遺構に比べて深く，柱痕跡を有する土坑の埋土と酷似することから，柱穴の可能性が考えられる。出土遺物はない。

1119 号土坑（SK1119，第 13・16 図，図版 4・13）

B1 地区東側南よりに位置する不整形土坑で，長さ 0.71m，幅 0.50m，深さ 0.30m を測る。焼土混じりの炭化物が埋土上位に層状に堆積し，埋土下位にも炭化物が混じる。出土遺物は須恵器杯（4）がある。4 は口縁が直線的に開く深身の杯で，9 世紀後半頃のものか。

1120 号土坑（SK1120，第 13・16 図，図版 4・12）

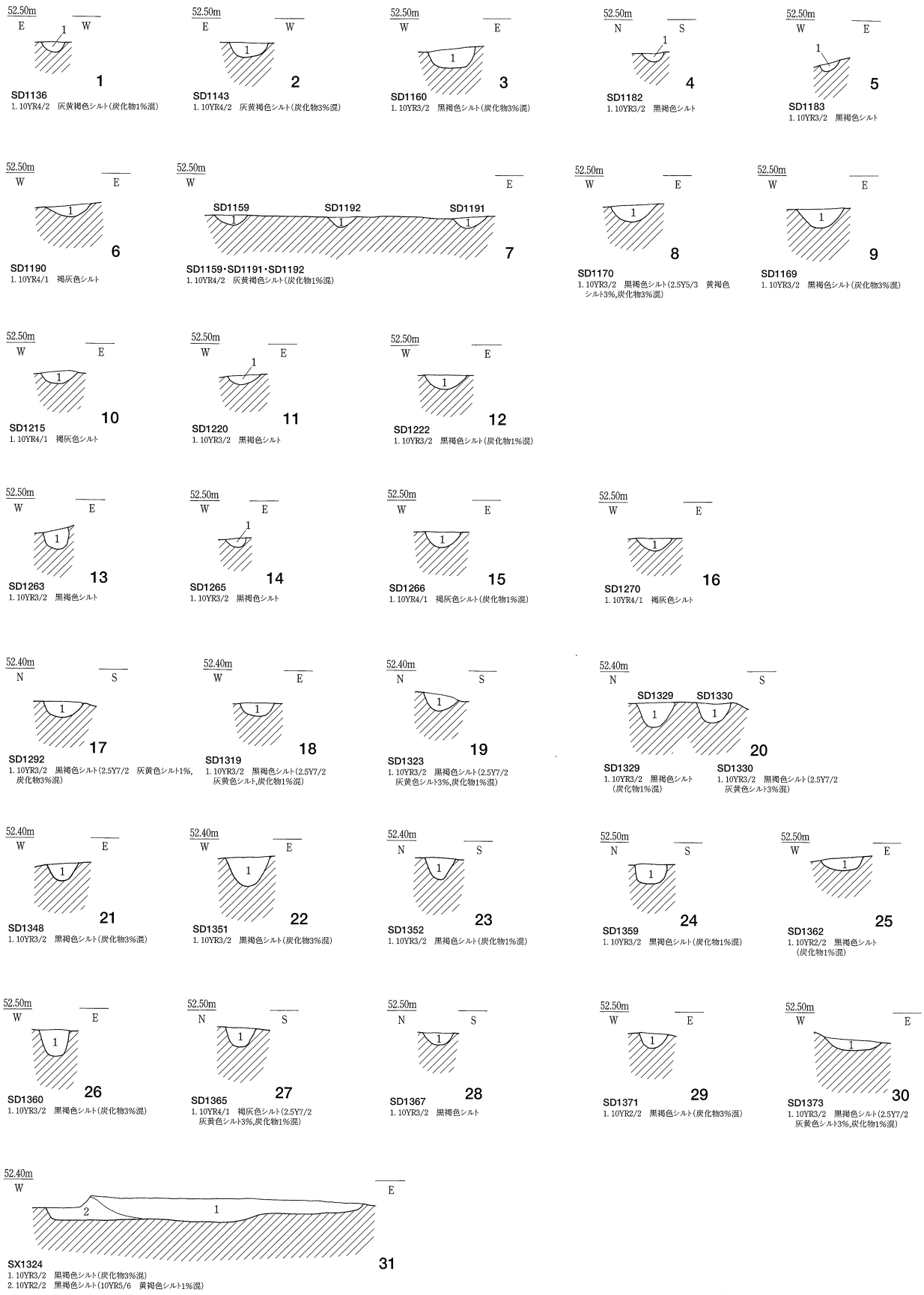
B1 地区中央に位置する。長さ 2.59m，幅 2.03m，深さ 0.12m を測る隅丸方形に近い不整形土坑である。底面はほぼ平坦で中央西側が一段深くなる。底面で SK1200 ～ SK1204 を検出しており，SK1120 のほうが新しい。出土遺物は土師器椀（5・6）がある。6 は椀底部で，摩滅が激しく鮮明ではないが，内面にミガキと赤彩の痕跡がみられる。

1147 号土坑（SK1147，第 14 図）

B1 地区中央南より，SK1146 の西側に隣接する。長径 0.95m，短径 0.92m，深さ 0.16m の円形を呈する土坑である。SK1149・SB 4 の柱穴 SP1163・SD1160 を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト単層である。出土遺物は胴部下半タタキの土師器甕の破片がある。

第 11 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　遺構全体図

B1 地区西半　古代下層面



第12図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図

1. SD1136　2. SD1143　3. SD1160　4. SD1182　5. SD1183　6. SD1190　7. SD1159・SD1191・SD1192　8. SD1170　9. SD1169　10. SD1215　11. SD1220　12. SD1222　13. SD1263　14. SD1265　15. SD1266　16. SD1270　17. SD1292　18. SD1319　19. SD1323　20. SD1329・SD1330　21. SD1348　22. SD1351　23. SD1352　24. SD1359　25. SD1362　26. SD1360　27. SD1365　28. SD1367　29. SD1371　30. SD1373　31. SX1324

1149 号土坑（SK1149，第 14 図）

B1 地区中央南より，SB 4 の南西角付近に位置する。長さ 2.51m，幅 1.53m，深さ 0.10m を測る不整形土坑で，SK1146 ～ SK1148・SD1160，SB4 の柱穴 SP1145・SP1381 に切られる。埋土は炭化物混じりのオリーブ黒色シルトで，一部に直径 2 cm代の砂礫が堆積するが底面はほぼ平坦である。SB 4 の範囲内にあり，SB 4 に伴う竪穴状土坑の可能性もあるが，性格は不明。出土遺物は土師器甕の胴部破片がある。

1152 号土坑（SK1152，第 13 図）

B1 地区中央部，SK1120 の東側付近に位置する。直径 0.30m，深さ 0.18m を測る円形土坑。埋土上位に炭化物が層状に堆積し，埋土下位にも炭化物が混じる。出土遺物はない。

1156 号土坑（SK1156，第 13 図）

B1 地区中央部に位置し，SK1120 の南側に接する。直径 0.33m，深さ 0.19m を測る円形土坑で，SK1120 を切る。埋土上位に焼土混じりの黒褐色シルトが層状に堆積する。出土遺物は土師器があるが，小片で詳細は不明である。

1178 号土坑（SK1178，第 13 図）

B1 地区中央部，SB 4 の北西角付近に位置する。長径 0.31m，短径 0.26m，深さ 0.36m を測る楕円形土坑である。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，灰黄褐色シルトで柱痕跡が認められる。SB 4 の柱列には並ばず，別棟の建物の存在が想定される。出土遺物はない。

1199 号土坑（SK1199，第 14 図）

B1 地区中央部，SB1 の東側に位置する。長径 0.45m，短径 0.30m，深さ 0.34m を測る楕円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，灰黄褐色シルトで，柱痕跡と考えられる。SB 1 の東側柱列に位置するが，別棟の建物であろう。出土遺物はない。

1216 号土坑（SK1216，第 14 図）

B1 地区中央北より，SB 3 の範囲内に位置する。長さ 1.94m，幅 1.70m，深さ 0.19m を測る東西方向にやや長い方形の土坑である。底面は平坦で，硬くしまった箇所があり，SB 3 に伴う竪穴状土坑の可能性がある。畠の耕作に伴う鋤溝と考える SD1169・SD1170 を切り，SB 1 の柱穴 SP1211 に切られる。出土遺物はない。

1246 号土坑（SK1246，第 14 図）

B1 地区中央部に位置する不整形土坑で，南側は削平されている。長さ 2.25m 以上，幅 0.87m，深さ 0.12m を測る。底面は平坦で，埋土は炭化物混じりの灰黄褐色シルトで，直径 2cm 代の砂礫を含む。出土遺物は土師器の椀と甕がある。

1267 号土坑（SK1267，第 14 図 ）

B1 地区中央部，SB 2 の北側付近に位置する。長径 0.60m，短径 0.52m，深さ 0.25m の楕円形土坑で，SD1270 を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，褐灰色シルトで，柱痕跡が認められる。SB 2 の SP1281・SP1284 の柱列の延長上に並ぶが，関係は不明である。出土遺物はない。

1275 号土坑（SK1275，第 14 図 ）

B1 地区中央部，SB 2 の範囲内に位置する。直径 0.48m，深さ 0.30m を測る円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，褐灰色シルトで，基調となる黒褐色シルトは柱痕跡と考えられる。SB 2 の柱列には並ばず，別棟の建物が想定される。出土遺物はない。

1276 号土坑（SK1276，第 14 図）

B1 地区中央部，SB 2 の西側柱列に位置する。長径 0.44m，短径 0.37m，深さ 0.23m を測る楕円形土坑である。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，オリーブ黒色シルトである。SB 2 の西側梁行を二分する位置にあり，柱穴と仮定すると柱間が 1.1m と 1.4m となり，桁行の柱間平均 1.2m とほぼ一致する。このことから，SB 2 の柱穴の可能性が高いと考える。出土遺物はない。

1302 号土坑（SK1302，第 15・16 図，図版 12）

B1 地区西側北よりに位置する。長さ 1.04m，幅 0.64m，深さ 0.22m を測る土坑で，平面は長方形を呈する。SD1292・SK1303 を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルトで，下位に灰黄色シルト粒が混じる。出土遺物は土師器椀（2・3）がある。2 は口縁端部に煤が付着する。いずれも 9 世紀後半前後のものとみられる。

1317 号土坑（SK1317，第 15 図）

B1 地区西側北より，SX1324 の東側周辺に位置する。長径 0.40m，短径 0.33m，深さ 0.25m を測る楕円形土坑。埋土は褐灰色シルトで，土坑の掘形を覆うように層状に炭化物がみられた。南側に隣接する SK1318 も同様に炭化物の堆積がみられるが，性格は不明である。出土遺物はない。

1318 号土坑（SK1318，第 15 図）

B1 地区西側北より，SX1324 の東側周辺に位置する。直径 0.23m，深さ 0.31m の円形土坑である。埋土は炭化物混じりの褐灰色シルトで，遺構検出時には土坑の掘形を覆う炭化物層が確認されたが，炭化物層が薄く，遺構の掘削・清掃の作業過程で消失した。出土遺物はない。

D　包含層出土遺物

古代の遺構は検出されなかったが，C1・C2 地区では古代遺物包含層（Ⅳ層）が確認され，土師器，須恵器などの遺物が出土している。ここでは，B1 地区の包含層出土遺物と併せて記述する。

土師器（第 16 図，図版 12・13）

7 ～ 10 は椀。7 は底部から内湾気味に立ち上がる器形で，口縁部は薄く仕上げられる。8・10 は不鮮明ではあるが内外面ともに赤彩が施される。8 の器壁は薄く，丁寧に仕上げられている。甕・鍋の胴部破片は小量あるが，いずれも小片で図化できない。

須恵器（第 16 図，図版 12・13）

杯（11 ～ 16）・杯蓋（17 ～ 19）・甕（20・21・25 ～ 27）・瓶・壺（22 ～ 24）があり，食膳具を主体とする。杯は 11 のように浅身で体部が外方に開くものと，深身の杯 B があり，口径は 12 ㎝前後である。12 は底部ヘラキリ後ナデ調整，11 はヘラキリ未調整である。11 の内面には墨痕が認められる。26・27 は甕の口縁部破片で，外面は格子目タタキ，内面は同心円文当て具である。22 は短頸壺で，外面に自然釉がかかる。須恵器の時期は概ね 9 世紀代のもので，9 世紀後半を下限とすると考える。

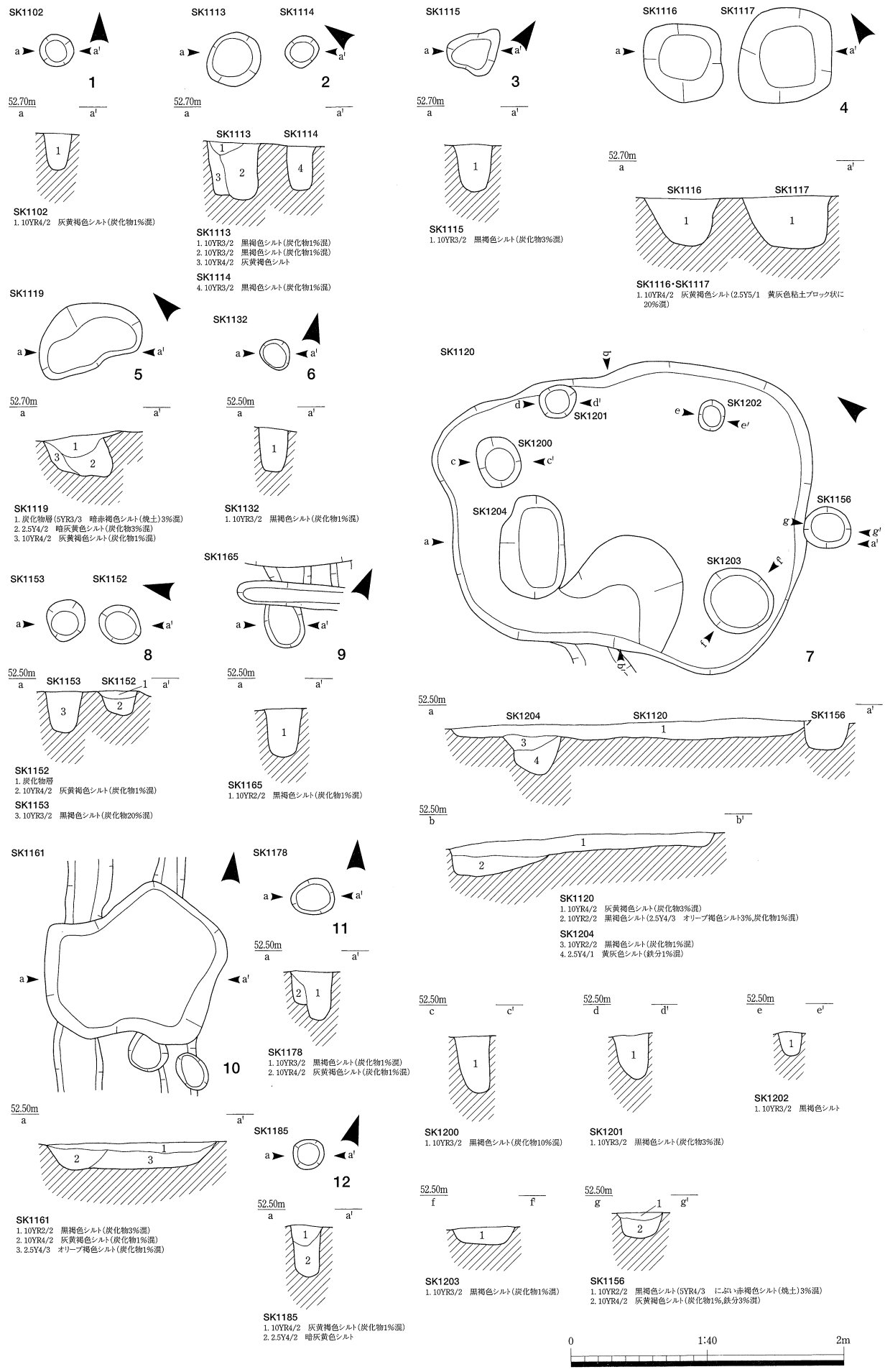
（2）古代上層

古代上層は溝，土坑，自然流路があり，出土遺物から 9 世紀末～ 10 世紀中頃の時期の遺構と考える。下層と上層の間に大きな時期差はなく，河川の氾濫などにより一気に埋まったものと推測される。

A　溝

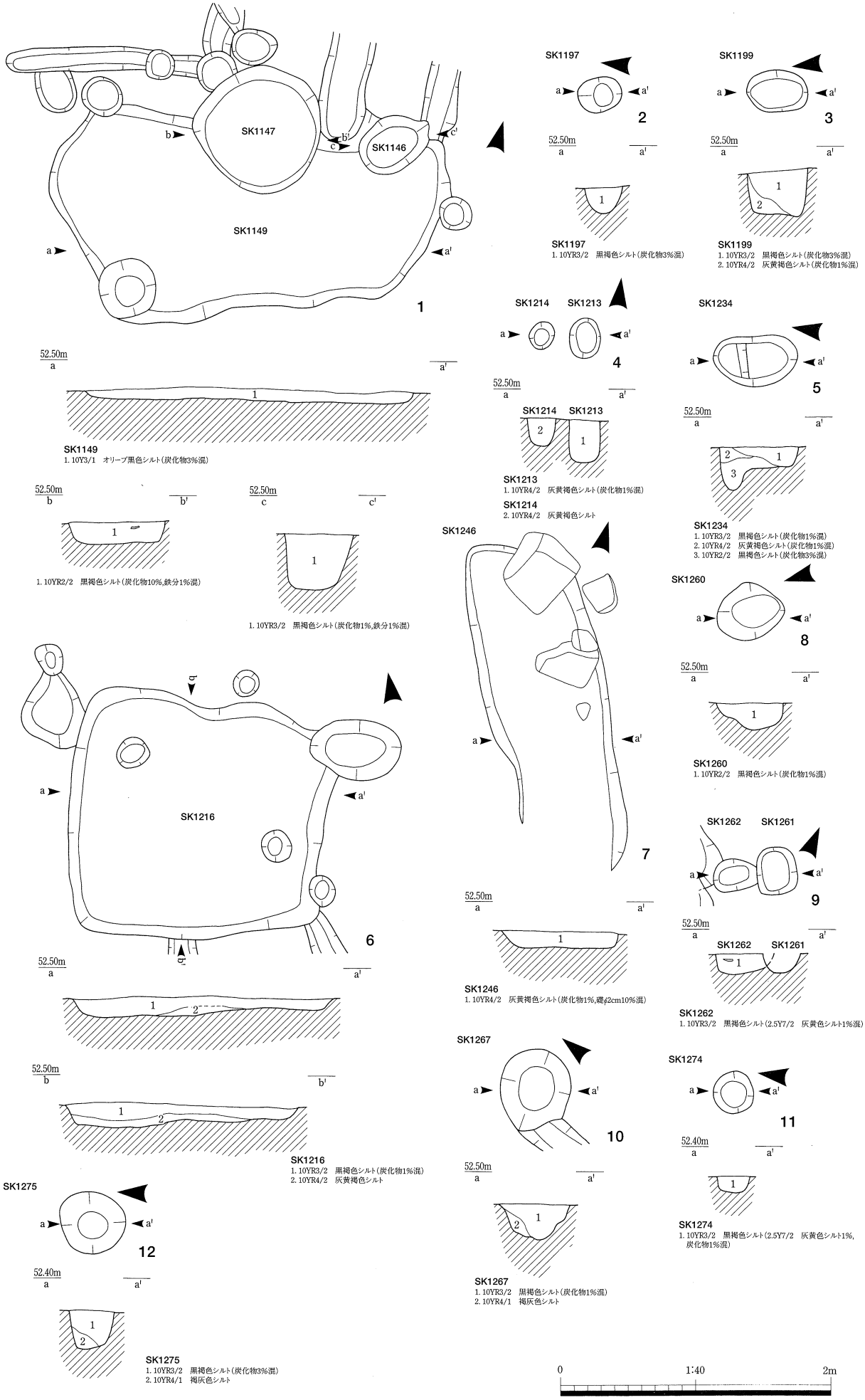
1001 号溝（SD1001，第 18・23・58 図，図版 6・14・16・17・19）

B1 地区西半に位置する。自然流路の一部と考えられ，調査区外にかかる。最大幅 3.3m，深さ 0.42m で，攪乱を受けている。遺物の主体となるのは 10 世紀前半代のもので，10 世紀半ばまで降るものが下



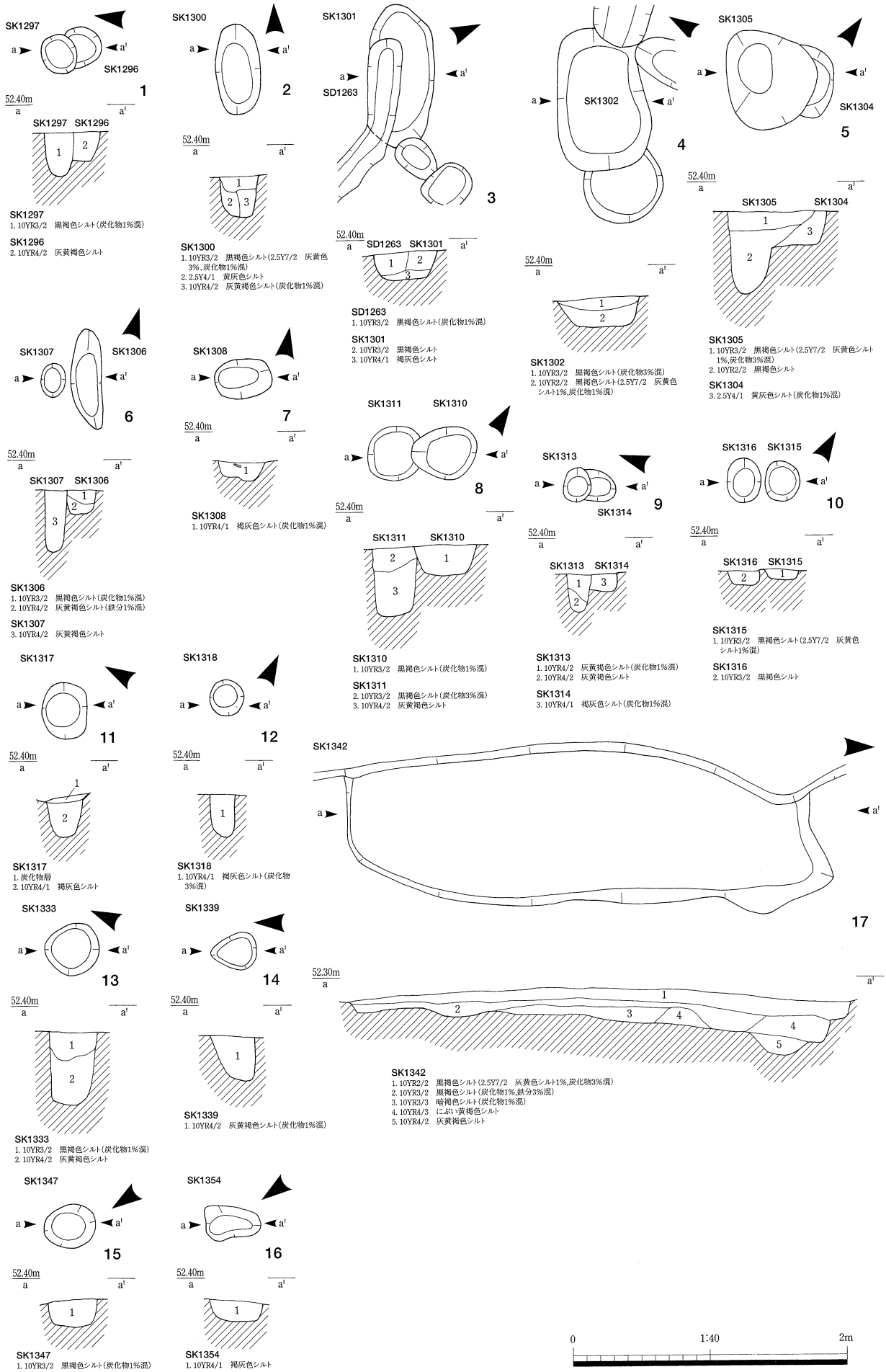
第13図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図

1. SK1102　2. SK1113・SK1114　3. SK1115　4. SK1116・SK1117　5. SK1119　6. SK1132　7. SK1120・SK1156・SK1200～SK1204　8. SK1152・SK1153　9. SK1165　10. SK1161　11. SK1178　12. SK1185



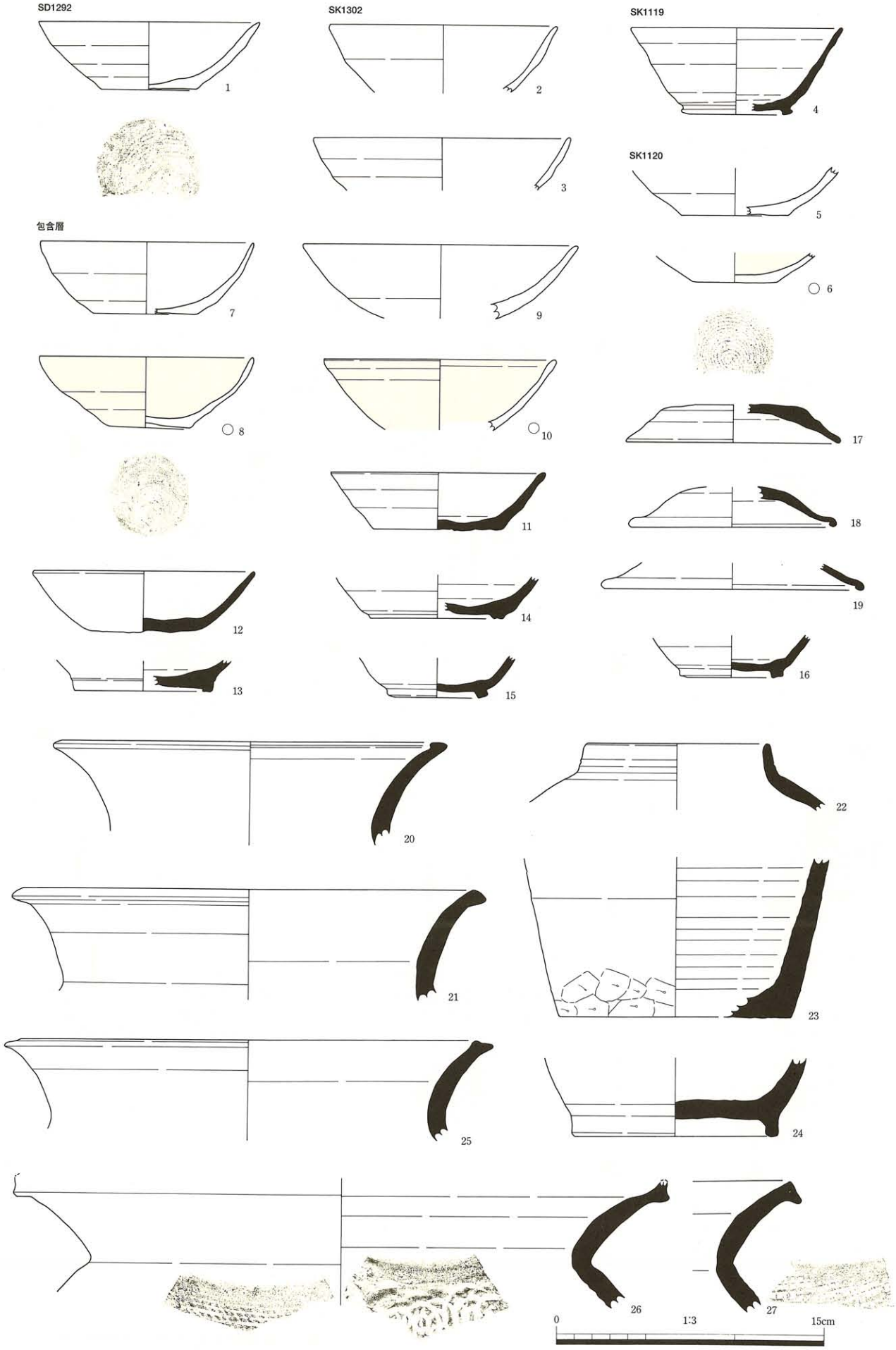
第14図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図

1. SK1146・SK1147・SK1149　2. SK1197　3. SK1199　4. SK1213・SK1214　5. SK1234　6. SK1216
7. SK1246　8. SK1260　9. SK1262　10. SK1267　11. SK1274　12. SK1275　13. SK1276



第15図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺構実測図

1. SK1296・SK1297　2. SK1300　3. SK1301・SD1263　4. SK1302　5. SK1304・SK1305　6. SK1306・SK1307　7. SK1308　8. SK1310・SK1311　9. SK1313・SK1314　10. SK1315・SK1316　11. SK1317　12. SK1318　13. SK1333　14. SK1339　15. SK1347　16. SK1354　17. SK1342



第16図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層遺物実測図　(1/3)
SD1292(1)　SK1302(2・3)　SK1119(4)　SK1120(5・6)　包含層

限になると考える。このことから，SD1001は10世紀代に流れがあり，氾濫等により比較的短期間で埋没したものと考えられる。出土遺物は土師器椀（28～31・33・34），黒色土器椀（32），土師器甕（38～44），須恵器杯（35），須恵器瓶（41），灰釉陶器（37），緑釉陶器（36），製塩土器，砥石（272）がある。28・31は内湾気味に立ち上がる体部の椀で，底部は回転糸切りである。32～34は有台椀の底部で，やや高めの高台がつく。33・34は糸切り後に高台を貼り付けており，10世紀半ばのものか。32は黒色土器である。35は底部回転糸切り後，高台を貼り付けたもの。37は灰釉陶器で，三日月高台の破片である。38・39は口縁端部が引き上げられ，短く外傾する端部が付加されており，10世紀代のもの。41は瓶で，内面にハケメが施される。42～44は小型甕の底部で，外面は手持ちヘラケズリである。272は中砥。乳白色に近い色合いの流紋岩で，礫素材を砥石として使用する。砥面は湾曲せず，比較的扁平な刃物が想定される。産地不明。

1002号溝（SD1002，第18・23図，図版6・14・15・19）

B1地区西半に位置する。自然流路の一部と考えられ，調査区外にかかる。東側は南側調査区外にむけてゆるやかにカーブしており，SD1021・SD1022と合流するとみられる。南側へゆるくカーブする付近を旧河川により分断される。最大幅6.1m，深さ0.50mを測る。SD1002の時期は，遺物の主体となる時期から9世紀末頃～10世紀と推定する。出土遺物は土師器，黒色土器，須恵器，製塩土器，土錘がある。土師器は椀（45）・甕（47・48・50）・鍋（49）がある。45は外方に開く器形で，口縁端部をつまむ。46は黒色土器の椀底部である。47は小型甕。49は口縁端部を内側に折り返し，丸く成形したもので，10世紀代のもの。

1021号溝（SD1021，第18図）

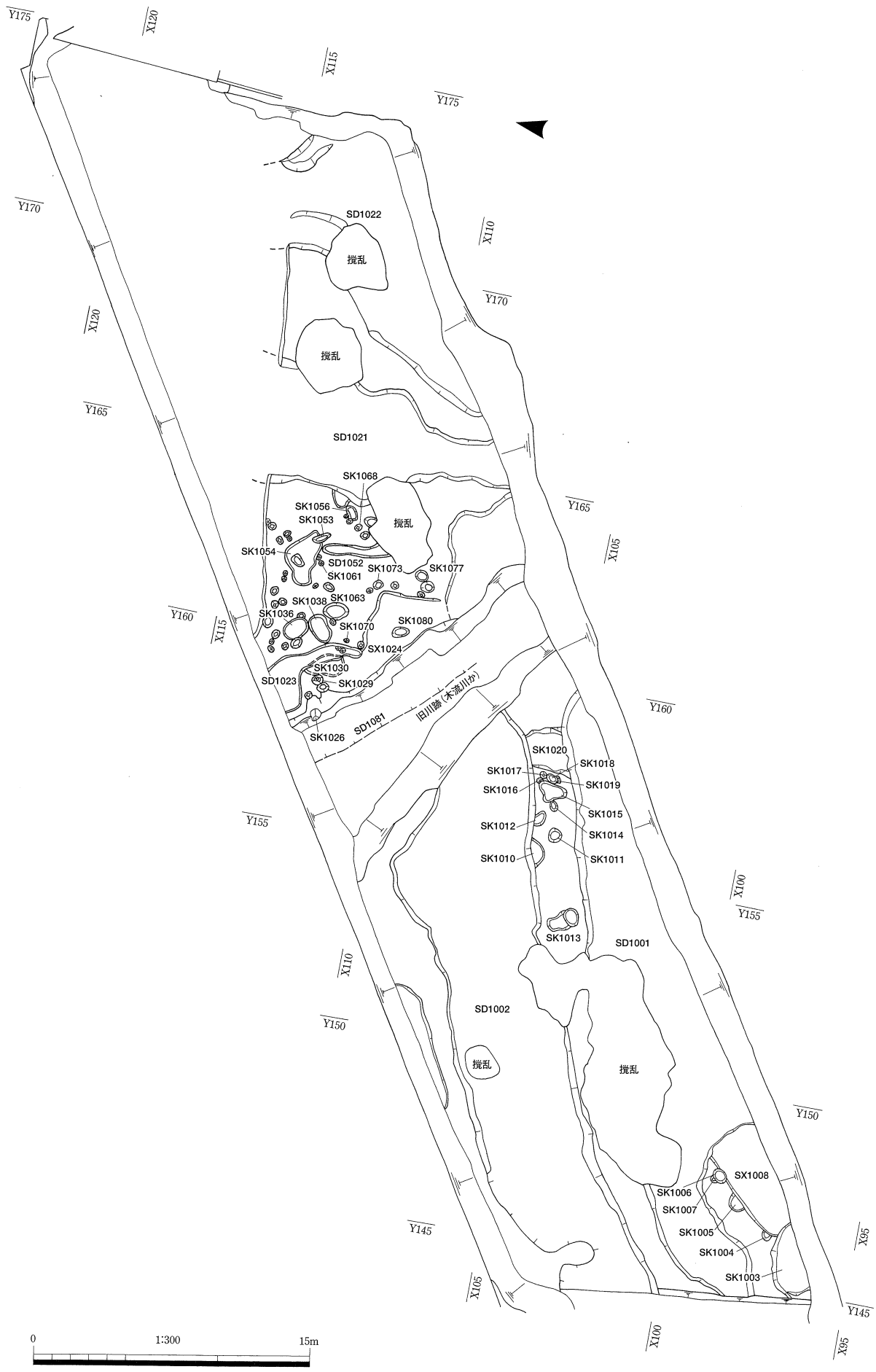
B1地区東半に位置する。自然流路の一部と考えられ，調査区外にかかる。北側は後世の攪乱を受けて削平されている。最大幅6.80m，深さ0.32mを測る。出土遺物は土師器椀・甕，須恵器杯・甕，製塩土器があるが，いずれも破片で復元はできない。遺物の時期および，SD1002と合流するとみられることから，遺構の時期は9世紀末頃～10世紀と推定したい。

1022号溝（SD1022，第18・24図，図版14・19）

B1地区東南角付近を蛇行する溝で，調査区外にかかる。SD1002・SD1021と合流するとみられ，自然流路の一部と考える。最大幅6.60m，深さ0.50mを測る。北側は後世の攪乱を受け削平される。埋土は褐色砂礫，暗褐色砂礫で，一気に埋没した状態を示す。SD1002と合流するとみられ，出土遺物の時期からも遺構の時期は9世紀末頃～10世紀と推定する。出土遺物は埋土下位に含まれ，土師器，製塩土器がある。51は土師器椀で，内外面ともに赤彩が施される。52は口縁部がほぼ直立する器形で，土師器製羽釜と考える。鉄製品の模倣と考えられる。端部を面取りして方形に成形し，断面にわずかに輪積みの痕跡がみられる。土師器製羽釜は10～11世紀代の長野県や新潟県魚沼地域でも確認されている[注1]。遺物の時期は概ね10世紀代と考える。

1023号溝（SD1023，第19・24図，図版6・16・18）

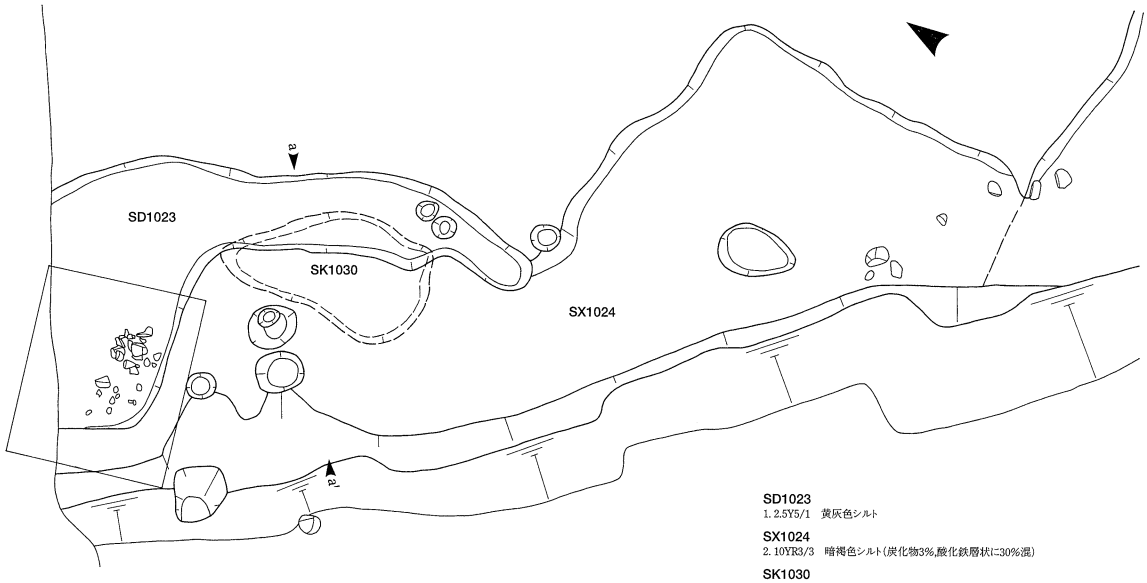
B1地区中央北側に位置する南北溝で，調査区北側にかかる。最大幅2.76m，深さ0.11mを測り，南側にむけて細く，浅くなり終結する。埋土は黄灰色シルトの単層である。SX1024・SK1030・SK1065・SK1066を切る。須恵器甕がつぶれたような状態で出土しているが，瓶・杯などの他器種が含まれ，甕だけでも口縁形態からみて少なくても3個体あり，完形には復元できない。出土遺物には土師器椀（56），須恵器杯（55）・甕（53・54）・瓶（57），製塩土器がある。53は口縁部に櫛描波状文の巡る大甕である。54は口縁部が直立気味に伸び，端部を外方につまみ出す。55は底部回転糸切りの杯底部で，10世紀前



第17図　竹ノ内Ⅱ遺跡　遺構全体図　（1：300）
B1 地区　古代上層面

第18図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図

1. SD1001・SD1002　2. SD1021　3. SD1022　4. SD1081

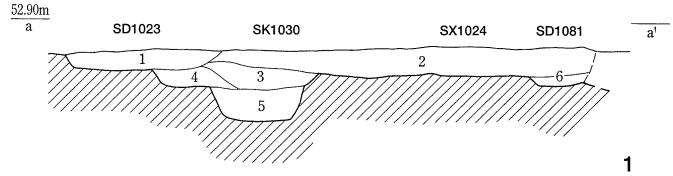


SD1023
1. 2.5Y5/1　黄灰色シルト

SX1024
2. 10YR3/3　暗褐色シルト(炭化物3%,酸化鉄層状に30%混)

SK1030
3. 10YR3/2　黒褐色シルト(炭化物1%混)
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色シルト(炭化物3%混)
5. 10YR4/2　灰黄褐色シルト(炭化物1%混)

SD1081
6. 10YR3/1　黒褐色シルト(炭化物3%混)



1

53

2

1:8 (53)　40cm
1:20(遺物出土状況)　1m
1:40　2m
1:80　4m
0

第19図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図
1. SD1023・SX1024・SK1030・SD1081　2. SD1023 遺物出土状況

半のものか。56は底部が大きく，椀としているが皿の可能性もある。遺物の下限となる時期は10世紀前半代と考えられ，SD1023の下限を示すと考える。

1081号溝（SD1081，第18・24図，図版15・16）

B1地区中央部に位置する南北溝。調査区を東西に二分する旧河川があり，ほ場整備時に埋められたと考えられ，一部ビニール等の産廃を含み，地山層に達している。この旧河川の東肩にⅣa層から切り込む溝（SD1081）が北壁断面でみられた。このため，SD1081は旧河川の底部で窪地状の痕跡として，溝の最下層部分を確認したのみである。断面観察から，幅2.22m，深さ0.96mを測る。出土遺物は黒色土器椀（58），土師器甕，須恵器甕・瓶（59），がある。58は黒色土器の椀。この他に復元できる資料はないが，赤彩を施すもの，内面黒色処理したものを一定量含む。遺物の時期は9世紀末前後か。

B　土坑

1003号土坑（SK1003，第20・25図，図版14）

B1地区南西角に位置し，調査区外にかかる。長さ3.60m，幅1.70m以上，深さ0.54mを測る不整形土坑で，SX1008を切る。埋土は4層に分かれ，2層（オリーブ黒色粘質土）・3層（灰色粘質土）に遺物が含まれる。出土遺物には土師器椀（67･68）･甕，須恵器杯蓋がある。67は底部回転糸切りの土師器椀で，体部が内湾して立ち上がり，口縁端部をつまむ。9世紀末～10世紀前半頃のものか。

1008号土坑（SX1008，第21・25図，図版19）

B1地区南西角付近に位置し，調査区外にかかる。長さ6.30m以上，幅2.44m以上，深さ0.28mの不整形土坑である。SD1001・SK1003に切られ，SK1004・SK1005を切る。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルトを基調とし，底面はほぼ平坦である。出土遺物は土師器椀・甕（69），須恵器甕がある。69は小型甕の底部で，底部外面は手持ちヘラケズリである。

1010号土坑（SK1010，第20図）

B1地区中央部，SD1001とSD1002の間の中洲状の部分に位置する。長さ1.40m，幅0.75m，深さ0.26mの円形土坑で，SD1002に北半を切られる。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，灰黄褐色シルトで，底面付近から遺物が出土する。出土遺物には土師器椀・甕，須恵器甕がある。

1020号土坑（SK1020，第21・25図，図版14・19）

B1地区中央部，SD1001とSD1002の間の中洲状の部分に位置する。両端をそれぞれSD1001・SD1002に切られるため，全形を検出できていないが，検出した範囲は長さ2.16m，幅1.90m，深さ0.30mを測る。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，灰黄褐色シルト，黒褐色シルト粒混じりの暗灰黄色粘質シルトの3層に分かれ，底面は平坦である。底面付近から遺物が出土する。出土遺物には土師器椀（71）・甕（72），須恵器杯・杯蓋がある。71は直線的な体部に屈曲して外反する口縁がつく。9世紀末前後のものか。72は小型甕で，9世紀代のものか。

1024号土坑（SX1024，第19・24図，図版14・16）

B1地区東半に位置する。調査区を二分する旧河川の東肩に幅約3.00mにわたり酸化鉄が面状に広がる範囲で，酸化鉄の下に炭化物混じりの暗褐色シルトが厚さ0.15mほど堆積していた。地形の低い箇所にⅣa層が溜まったものの可能性があるが，周辺の遺構と切り合いがあるため，ここでは土坑として記述する。酸化鉄面の上面で，SD1023を検出しているが，SK1025・SK1028～SK1030・SK1080はSX1024の底面で検出している。出土遺物は底面付近から出土しており，土師器椀（61～64）・甕，須恵器杯（60）・蓋・瓶（65）・甕（66），製塩土器がある。66はSK1030出土遺物と接合した須恵器甕である。60は深身で底面から内湾気味に立ち上がる土師器椀の形態をとり，底部回転糸切りがみられる。9

世紀後半～10世紀前半頃のものである。

1026号土坑（SK1026，第21・25図，図版6・14）

B1地区東半，旧河川の東肩に位置する。直径0.55m，深さ0.91mを測る円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト単層で，漏斗状に中央が深くなっており，柱痕跡と考える。SK1026から東にSK1028・SK1070・SK1073と柱痕跡の認められる土坑が直線上に並び，柵列または掘立柱建物の可能性がある。出土遺物は土師器椀・甕，須恵器甕・瓶がある。70は内湾気味の器形に，回転糸切り底部の土師器椀で，9世紀後半～10世紀前半頃のものか。

1028号土坑（SK1028，第21・25図，図版16）

B1地区東半，SK1026の1m東側に位置する。長径0.53m，短径0.43m，深さ0.45mを測る楕円形土坑で，SX1024の底面で検出された。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，灰黄褐色シルトで，柱痕跡が認められる。SK1026他の柱列に並び，柵列または掘立柱建物の可能性がある。出土遺物は土師器椀，須恵器甕（80）・瓶がある。80は櫛描波状文の巡る甕の口縁部である。

1029号土坑（SK1029，第22図）

B1地区東半，SK1028の東隣に接する。長さ0.51m，幅0.46m，深さ0.40mを測る円形土坑で，SX1024の底面で検出された。埋土は炭化物・黄褐色シルト粒混じりの黒褐色シルトの単層で，北側が一段深くなり，柱痕跡と考える。SK1026他の柱並びには合わず，別棟の柵列または掘立柱建物の可能性がある。出土遺物はない。

1030号土坑（SK1030，第19・25図，図版19）

B1地区東半に位置し，SD1023・SX1024に切られる。長さ2.24m，幅1.10m，深さ0.30mを測る不整形土坑である。埋土は黒褐色シルト，にぶい黄褐色シルト，灰黄褐色シルトの3層に分かれ，いずれも炭化物が混じる。出土遺物は土師器椀・甕（79），須恵器甕・瓶がある。57の須恵器瓶はSD1023出土遺物とSK1030出土破片が接合したものである。79は口縁端部を内側に折り返し，丸く収めたもの。

1036号土坑（SK1036，第22・25図，図版14）

B1地区東半，SD1023の東側周辺に位置する。長径1.44m，短径1.00m，深さ0.16mを測る楕円形土坑で，SK1035・SK1037を切る。埋土は炭化物混じりの灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は黒色土器（73）がある。73は内面に不鮮明だがミガキが施され，黒色処理されている。

1054号土坑（SK1054，第22・25図，図版17）

B1地区東半，SD1022の西側周辺に位置する。長さ2.45m，幅1.60m，深さ0.13mを測る不整形土坑で，SK1053に切られる。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルトを基調とする。出土遺物は土師器椀・甕，須恵器甕・瓶，灰釉陶器（78）がある。78は，三日月高台のつく椀底部で，猿投窯の黒笹90号窯式に比定できると思われる。

1068号土坑（SK1068，第22図）

B1地区東半，SD1022の西側周辺に位置する。長さ0.35m，幅0.30m，深さ0.34mを測る円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト，灰黄褐色シルトで，柱痕跡が認められる。周囲にはSK1063・SK1073等の柱痕跡がみられる土坑があり，建物または柵が想定される。出土遺物はない。

1070号土坑（SK1070，第22図）

B1地区東半，SD1023の東側に位置する。直径0.18m，深さ0.24mを測る円形土坑。埋土は灰黄褐色シルト，炭化物混じりのにぶい黄褐色シルトで，柱痕跡とみられる。SK1026他の柱列上に並び，柵列または掘立柱建物の可能性がある。出土遺物は土師器椀の口縁部破片がある。

1073 号土坑（SK1073，第 22 図）

B1 地区東半，SK1070 の 3m 東側に位置する。長径 0.53m，短径 0.47m，深さ 0.28m の楕円形土坑である。埋土は炭化物混じりの灰黄褐色シルト，黒褐色シルトで，南側が一段深く，柱痕跡と考える。SK1026 他の柱列上に並び，柵列または掘立柱建物の可能性がある。出土遺物はない。

1077 号土坑（SK1077，第 22 図，図版 6）

B1 地区東半，SX1024 の東側に位置する。長さ 0.62m，幅 0.58m，深さ 0.19m を測る円形土坑である。埋土は炭化物混じりの灰黄褐色シルトで，中位に炭化物がレンズ状に堆積する。この炭化物層上面で，0.10m ほど南側にずれている。調査区内には，他にズレの認められる遺構はないことから，地震等によるズレの可能性は少ないと考えられ，性格は不明である。出土遺物は土師器椀があり，炭化物層からは微量の骨片が検出された。

1080 号土坑（SK1080，第 22・25 図，図版 14）

B1 地区東半，旧河川の東肩付近に位置する。長径 0.84m，短径 0.53m，深さ 0.14m を測る楕円形土坑で，SX1024 の底面で検出した。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルトを基調とする。出土遺物は土師器椀（74 ～ 76），須恵器杯（77）・甕がある。74 は回転糸切りの底部にやや腰の張る器形の椀で，10 世紀前半頃のものか。75・76 は内外面赤彩が施される。77 はやや深身の杯で土師器椀の形態を模したもの。

C　包含層出土遺物

土師器（第 25・26 図，図版 15・19）

椀（81 ～ 91・94 ～ 96）・皿（92・93）・鍋（100 ～ 103）・甕（104 ～ 110）がある。食膳具は平底・回転糸切り・直線的に開くまたは内湾気味の体部で，器壁の薄い椀が主体をなす。81・82 は口縁端部が屈曲し外反する。86・90・91 は黒色土器。86 はやや古手の椀。91 は底部回転糸切り後に，高台貼り付け。88 は内外面に煤が付着する。92・93 は底部回転糸切りの皿。95 はやや高めの高台がつく椀底部である。96 は断面三角形の高台が貼り付けられる椀底部で，11 世紀代のもの。この他に，全体を復元できる資料はないが，高台がやや高めの足高高台の有台椀，底部が厚くやや柱状気味のもの，黒色土器が少数だが一定量みられる。煮炊具は小型甕・中～大型甕・鍋があり，口縁形態は，屈曲・内傾する端部を引き上げ短く外傾する端部が付加されるもの（107），端部を内側に折り返し丸く収めるもの（104・108・109）が主体をなす。110 は小型甕の底部で，外面を手持ちヘラケズリする。包含層出土器の時期は土師器を主体とするが須恵器が若干残ることから，概ね 9 世紀末～ 10 世紀前半のもので，10 世紀前半代が主体となる。足高高台の椀や，柱状気味の高台のもの等の 10 世紀中頃に下限があると考える。

須恵器

須恵器は量的に少なく，図示できるものはない。杯・蓋は少なく，大半は甕の胴部破片である。杯は底部回転糸切りで，椀形態をとる深身の杯が主体をなし，9 世紀末～ 10 世紀前半代のものと考える。

灰釉陶器（第 26 図，図版 17）

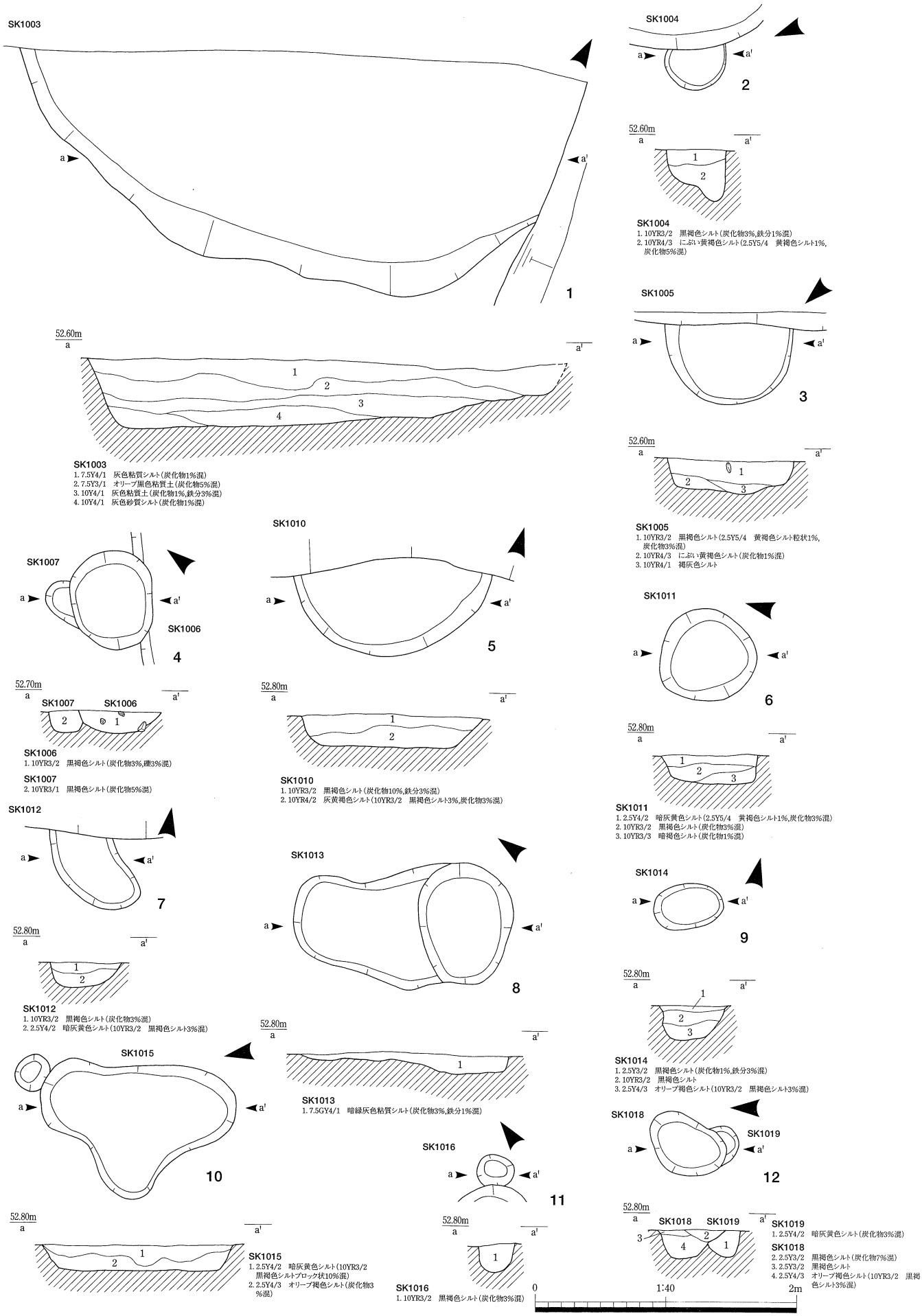
97 ～ 99 は，小片で全体を復元し得ないが，猿投窯の黒笹 14 号窯式～黒笹 90 号窯式に比定できると考える。98 は角高台，99 は三日月高台の底部で全体に被熱している。98 は内面に重ね焼き痕がみられ，被熱のため釉は黒色で光沢がなく一部剥離している。97 は口縁端部がやや外反し，灰緑色の釉が薄くかかる。

土製品（第 26 図，図版 17）

111 は樽型の土錘で，全体に成形時の指跡がみられる。重さは 120g を測る。　（金三津道子）

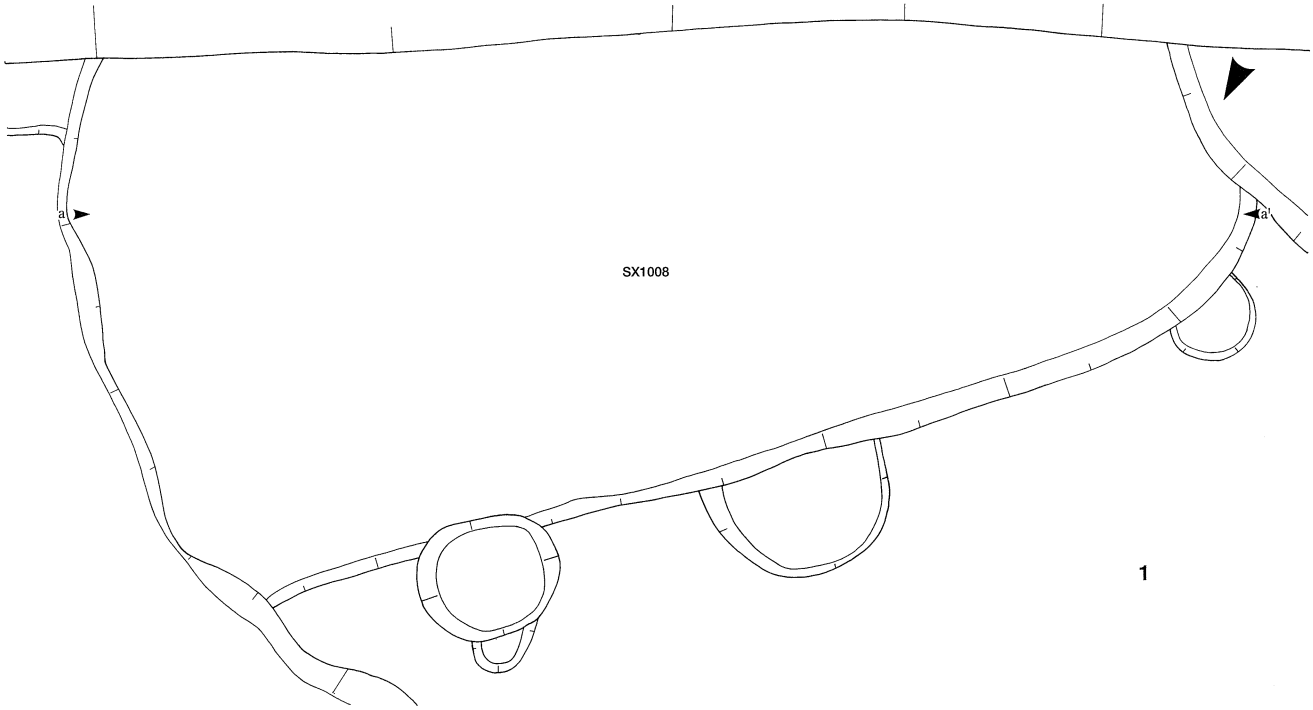
注

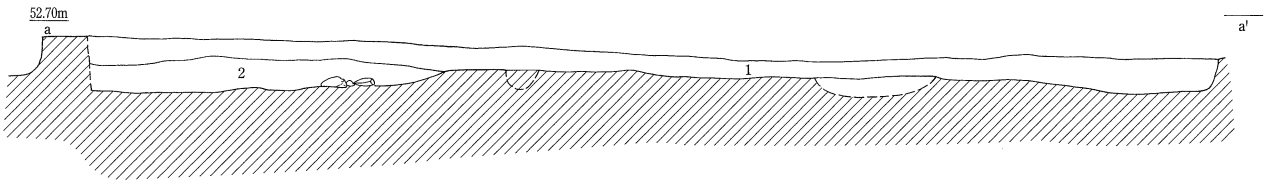
注 1　春日真実 1997「北陸北東部の様相」
原 明芳 1997「古代末期の信濃の土器様相 10 ～ 11 世紀を中心として」
『シンポジウム 北陸の 10・11 世紀代の土器様相』北陸古代土器研究会



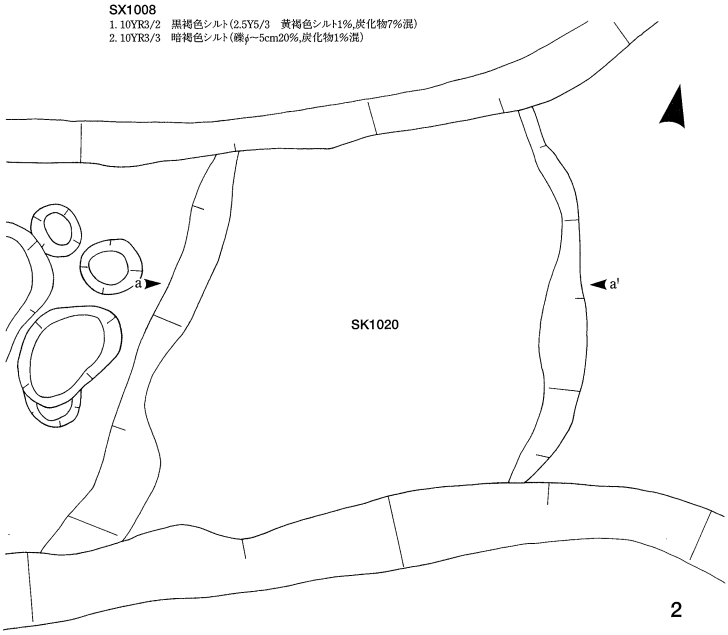
第20図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図

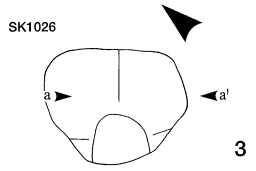
1. SK1003　2. SK1004　3. SK1005　4. SK1006・SK1007　5. SK1010　6. SK1011　7. SK1012　8. SK1013　9. SK1014　10. SK1015　11. SK1016　12. SK1018・SK1019

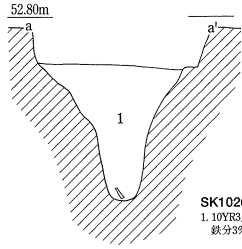




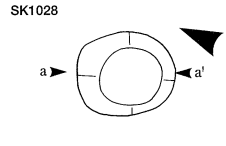
SX1008
1. 10YR3/2　黒褐色シルト(2.5Y5/3　黄褐色シルト1%,炭化物7%混)
2. 10YR3/3　暗褐色シルト(礫φ～5cm20%,炭化物1%混)

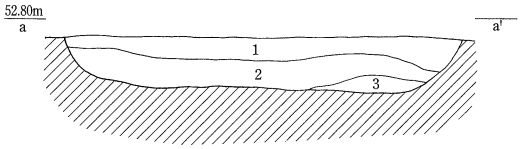




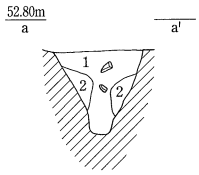


SK1026
1. 10YR3/2　黒褐色シルト(炭化物10%,鉄分3%混)

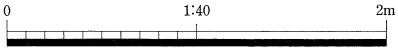




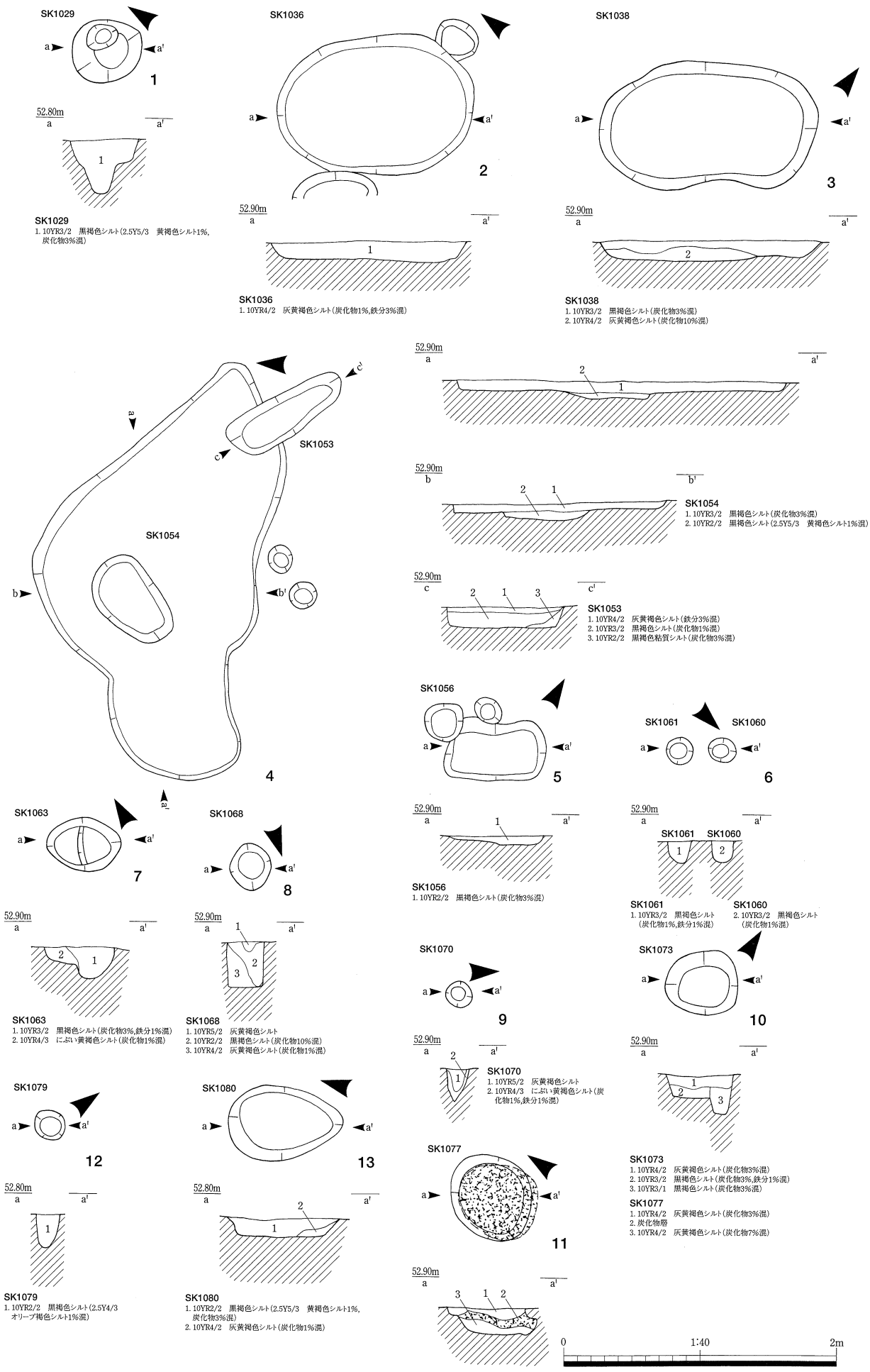
SK1020
1. 10YR3/2　黒褐色シルト(炭化物3%,鉄分3%混)
2. 10YR4/2　灰黄褐色シルト(炭化物7%混)
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘質シルト(10YR3/2　黒褐色シルト1%混)



SK1028
1. 10YR3/2　黒褐色シルト(2.5Y5/3　黄褐色シルト1%,炭化物3%混)
2. 10YR4/2　灰黄褐色シルト(炭化物1%混)

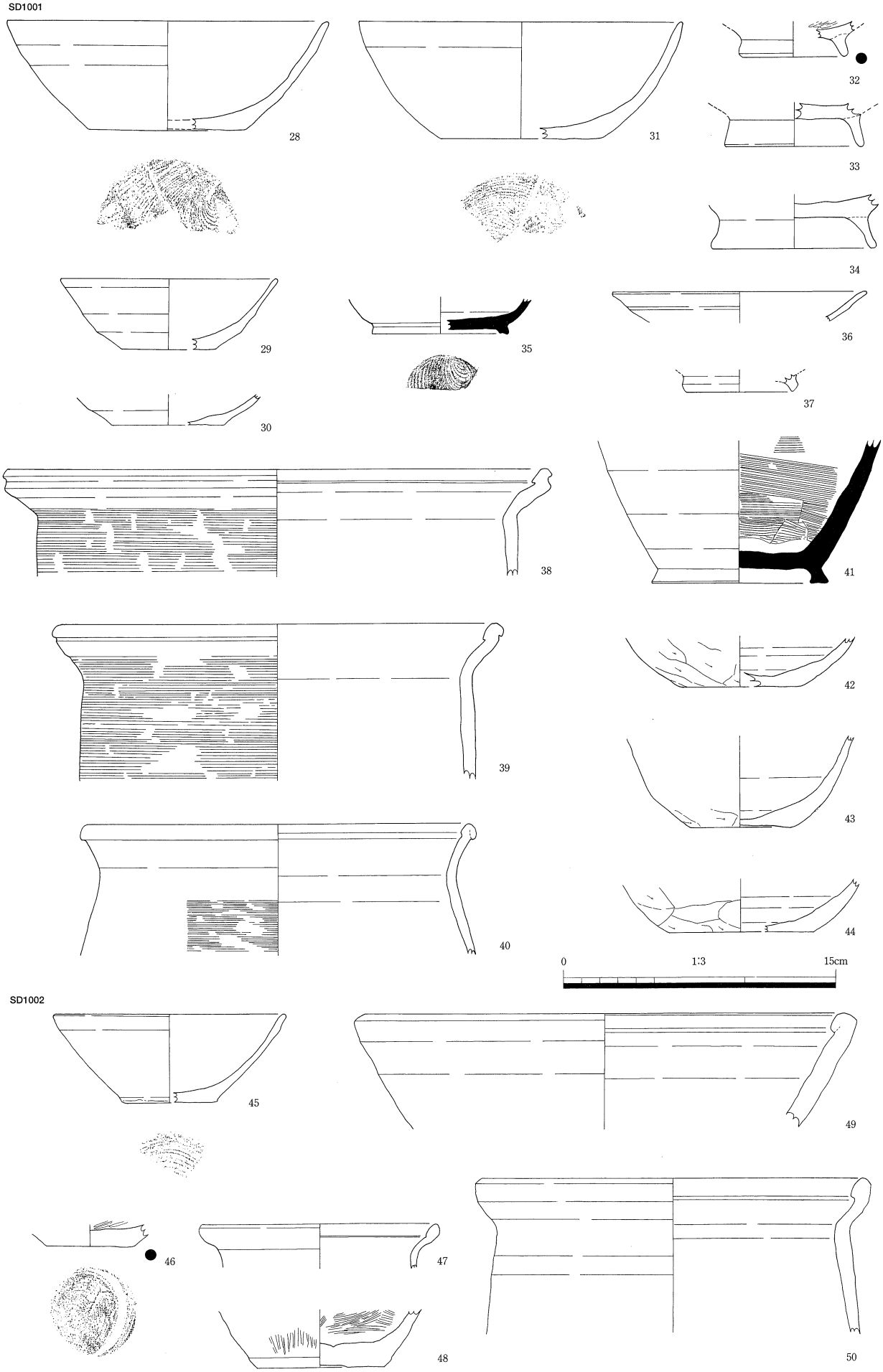


第21図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図
1. SX1008　2. SK1020　3. SK1026　4. SK1028

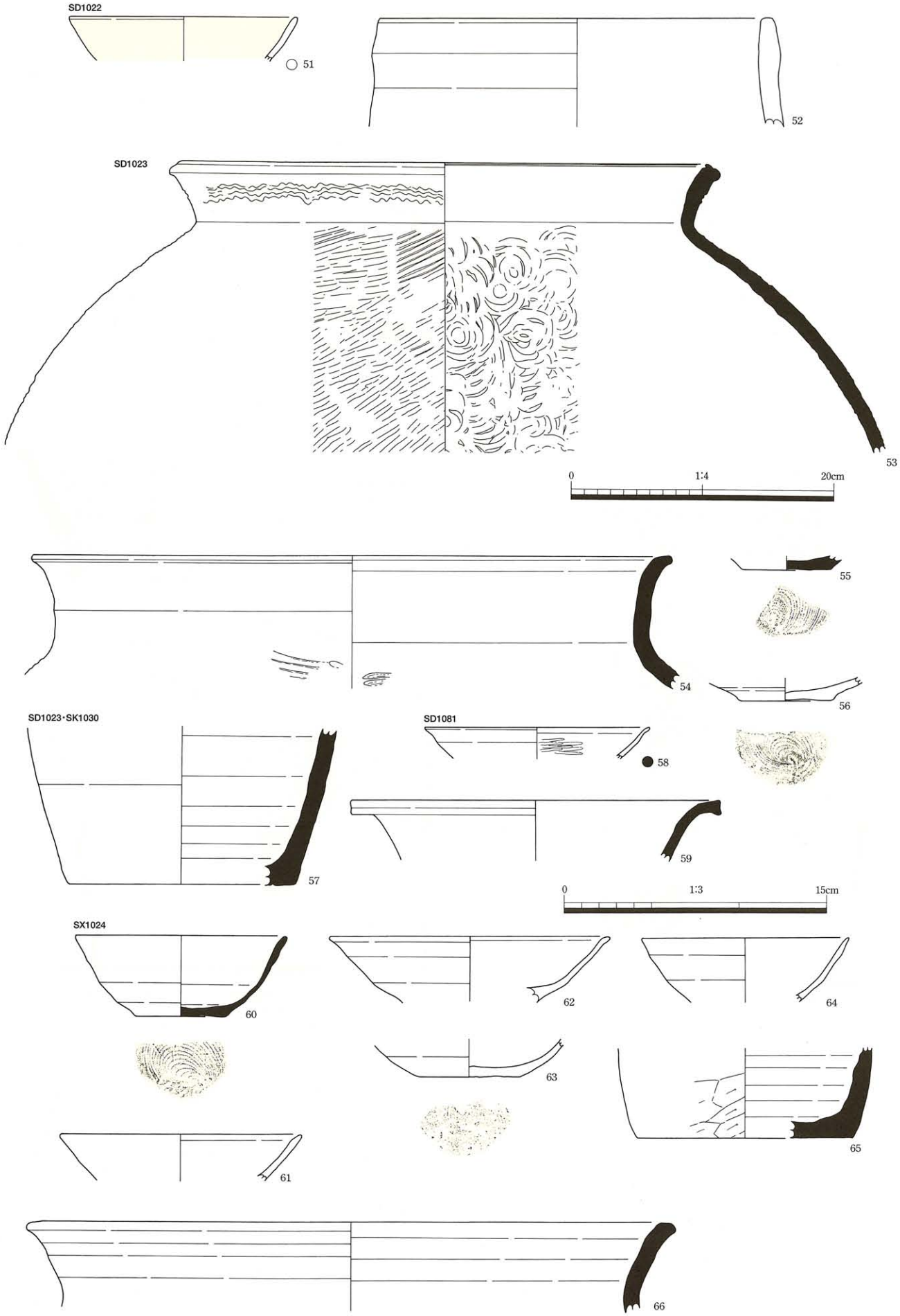


第22図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺構実測図

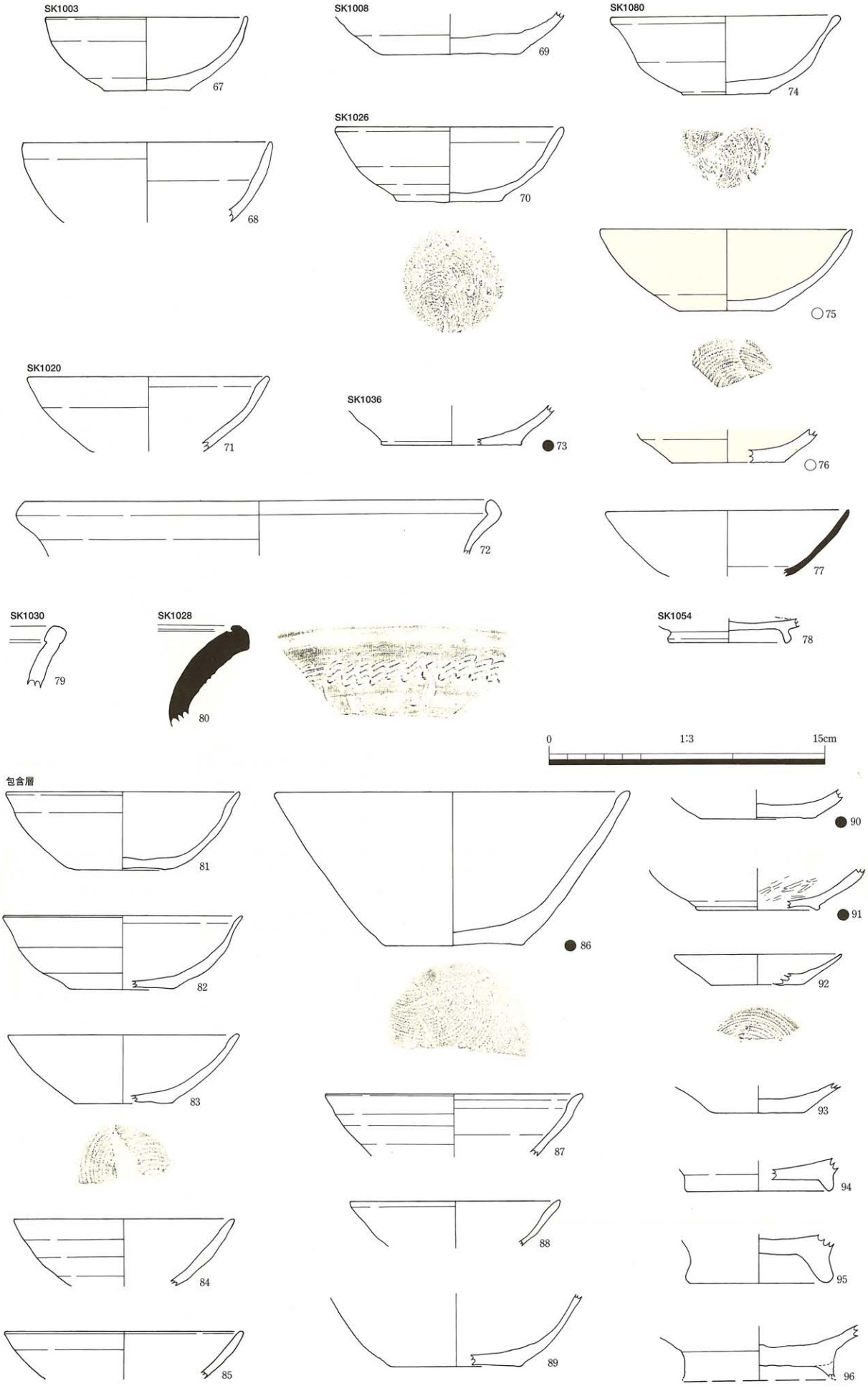
1. SK1029　2. SK1036　3. SK1038　4. SK1053・SK1054　5. SK1056　6. SK1060・SK1061　7. SK1063　8. SK1068　9. SK1070　10. SK1073　11. SK1077　12. SK1079　13. SK1080



第23図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺物実測図　(1/3)
SD1001(28～44)　SD1002(45～50)

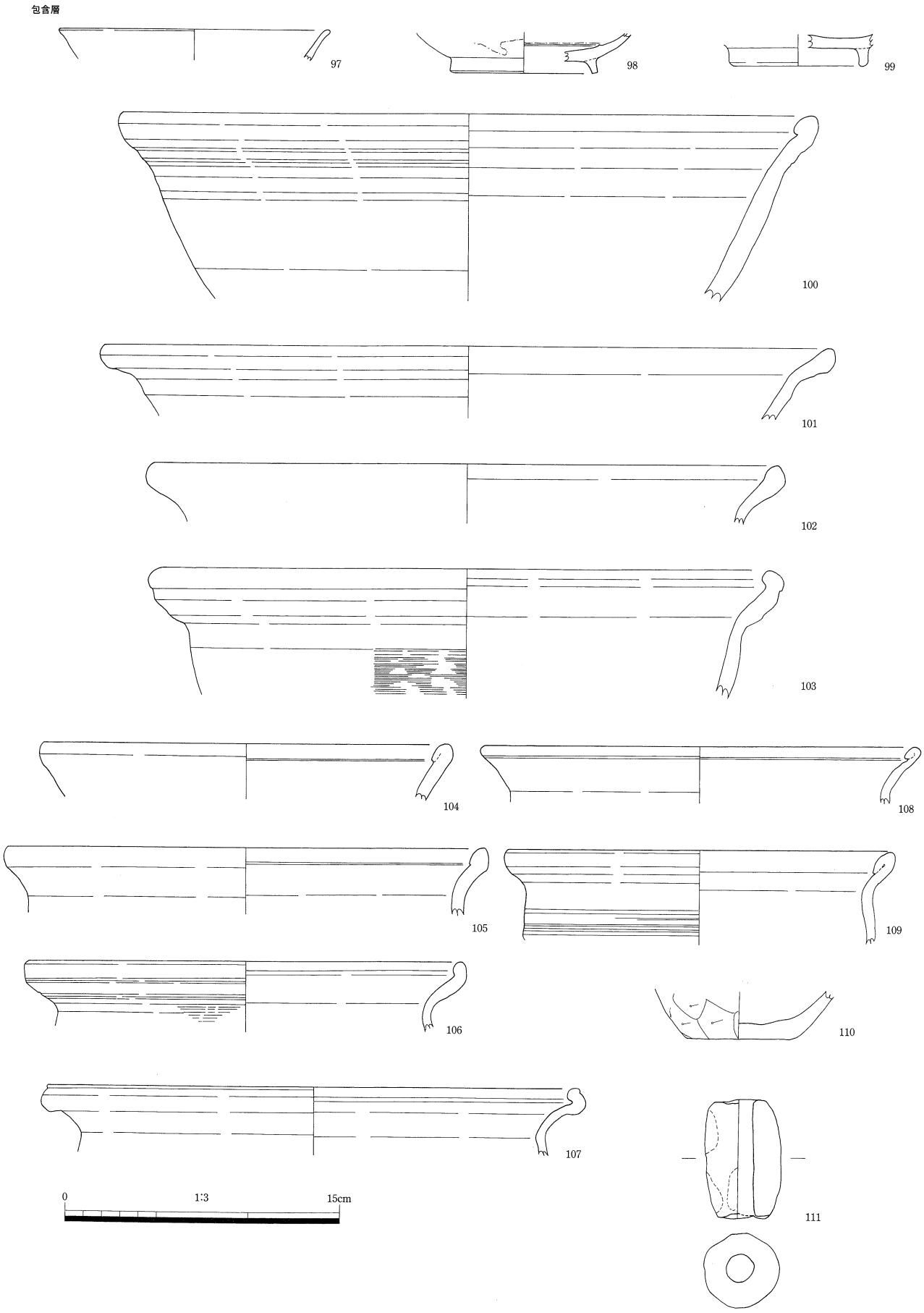


第24図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺物実測図　（51・52・54～66　1/3，53　1/4）
SD1022（51・52）　SD1023（53～56）　SD1023・SK1030（57）　SD1081（58・59）　SX1024（60～66）



第25図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺物実測図　(1/3)

SK1003(67・68)　SK1008(69)　SK1026(70)　SK1020(71・72)　SK1036(73)　SK1080(74 ～ 77)
SK1054(78)　SK1030(79)　SK1028(80)　包含層



第26図　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層遺物実測図　(1/3)
包含層

(3) 中世下層

C1 地区西半部で検出している。掘立柱建物 3 棟，溝，土坑がある。掘立柱建物の重複から 2 時期の変遷が考えられるが，時期差は殆どないと思われる。出土遺物から，12 世紀中頃～ 13 世紀代を中心とする時期であると考えられる。

A　掘立柱建物

5 号掘立柱建物（SB 5，第 27 図，図版 8）

C1 地区西部南西よりに位置する。3 間 × 3 間の南北棟総柱建物である。桁行 7.69m，梁行 6.79m であるが，梁・桁の角度は直角にならず歪みがある。面積は 52.22 ㎡である。主軸は N － 10°－ E である。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP2120 が楕円形である。規模は直径または長径 24 ～ 42 ㎝，深さ 0.03 ～ 0.49m である。SP2103 は一段掘り下げた後に北西よりの中央部を深く掘り下げる掘形をもつ。埋土は炭化物混じりの灰オリーブ色粘土質シルトの単層である。出土遺物は SP2102 の土師器椀小片がある。

6 号掘立柱建物（SB 6，第 28・29 図，図版 8）

C1 地区南西角に位置し，南側で SB 7 と重複する。4 間 × 4 間の南北棟総柱建物で，東・北・西の 3 面に廂が付く。桁行 11.02m，梁行 8.49m，面積 93.56 ㎡である。主軸は N － 8°－ E である。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP2115 は楕円形である。規模は直径または長径 0.23 ～ 0.44m，深さ 0.13 ～ 0.45m である。埋土は炭化物混じりのオリーブ黒色粘土質シルトの単層が多いが，にぶい黄褐色や暗褐色粘土質シルトも一部にみられる。SP2100・SP2105・SP2106 はオリーブ黒色粘土質シルトが柱痕である可能性が高い。出土遺物は SP2106 の土師器椀があるが，混入と思われる。

7 号掘立柱建物（SB 7，第 30 図，図版 8）

C1 地区南西角に位置し，SB 6 と重複する。1 間 × 3 間の東西棟建物である。桁行 7.14m，梁行 3.14m，面積 22.42 ㎡である。主軸は N － 82°－ W である。柱穴の平面形は全て円形である。規模は直径 0.28 ～ 0.50m，深さ 0.08 ～ 0.28m である。埋土は炭化物混じりのオリーブ黒色粘土質シルトの単層である。出土遺物は SP2075 の須恵器杯蓋（19）があるが，混入と思われる。

B　溝

2124 号溝（SD2124，第 31 図）

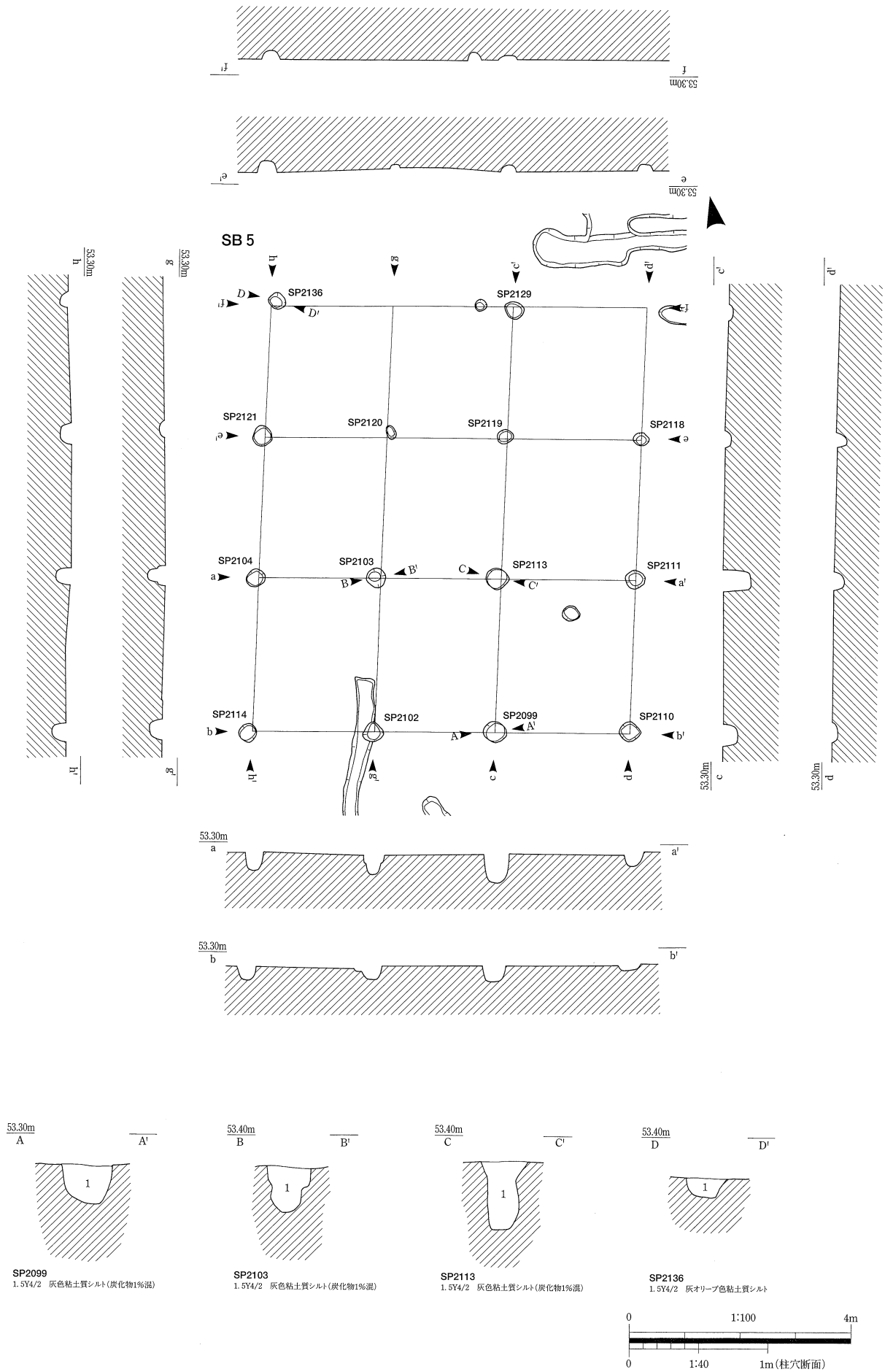
C1 地区西部南よりに位置する。北東から南西へ向かって延びており，他の溝とは方向が異なる。幅 0.41m，深さ 0.37m を測る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土質シルトである。遺物は須恵器杯蓋小片が出土している。

2144 号溝（SD2144，第 31 図）

C1 地区西部中央よりに位置する。最大幅 1.00m，最大深 0.15m を測る。埋土は黒褐色粘土質シルトにオリーブ褐色粘土質シルトが混ざり，土層内に酸化鉄の沈着が多くみられる。主に南から北へ向かって延びるが，周囲に規模と埋土の同じ溝が縦横に広がっている。畠など耕作に伴う鋤溝であると考えられる。遺物は土師器椀・甕，須恵器杯・甕が出土している。

2150 号溝（SD2150，第 31 図）

C1 地区西部西端に位置する。南から北西へ向かって緩く弧を描き延びる。幅 1.35m，深さ 0.20m を測る。南部分で SB 6 の柱穴 SP2068 と SB 7 の柱穴 SP2107 に切られる。埋土は暗褐色粘土質シルトで，混入のない均質な土である。遺物は出土していない。



第27図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図
SB 5

C　土坑

2043 号土坑（SK2043，第 50・53 図，図版 8・25）

C1 地区西部南端に位置する。平面形は北側が膨らむ楕円形で，長軸 0.98m，短軸 0.47m，深さ 0.22m を測る。埋土は炭化物の多く混ざる褐灰色粘質土の単層である。遺物は中世土師器皿小片，珠洲甕（158）が出土している。158 は珠洲甕の口縁部。内外面を強く撫で回して口縁端部を細く挽き出しており，外面には段状のナデ痕が残る。口縁部は外屈し，端部をわずかに垂下させる。Ⅰ期（12 世紀中葉前後～13 世紀初頭）。

2178 号土坑（SK2178，第 50 図，図版 8）

C1 地区中央部北よりに位置する。平面形はややいびつな方形で，直径 1.52m，深さ 0.92m を測る。一段掘り下げた中に楕円形の深い掘形をもつ。埋土は上層に黄褐色粘土質シルト，下層に暗灰黄色粘土質シルトが水平堆積し，直径 10 ～ 30 ㎝の礫が多数みられた。遺物は珠洲甕・擂鉢，白磁皿小片が出土している。

（4）中世上層

A1 地区・C1 地区東半・C2 地区で検出している。A1 地区では掘立柱建物 20 棟，柵列 6 列，井戸 1 基，溝，土坑を検出しており，付近に集落の中心があったと思われる。C1・C2 地区では，溝，土坑を検出している。時期は 13 ～ 14 世紀であると考えられる。

A　掘立柱建物

8 号掘立柱建物（SB 8，第 32 図，図版 9）

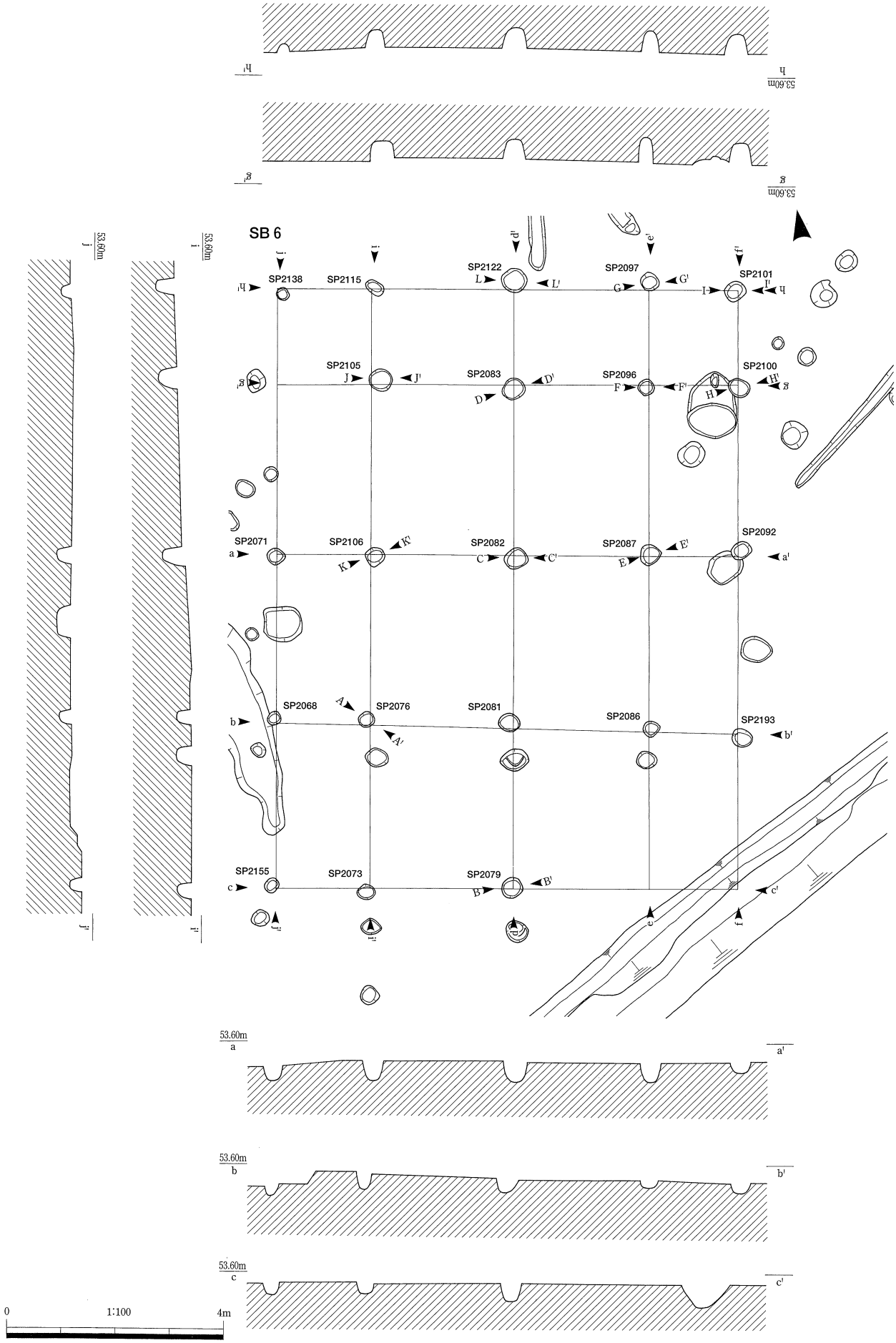
A1 地区西半部中央に位置する。SD400 底面の東部落ち際近くで検出した。SB 9・SB10・SB11・SA 1・SA 2・SA 3 と重複する。2 間× 3 間の東西棟総柱建物である。桁行 5.84m，梁行 4.43m であるが，梁・桁の角度は直角にならずにやや歪みがある。面積は 25.87 ㎡である。主軸は N － 84° － E である。東側の柱間距離は 2.24m を平均とするが，西側の桁間は 1.60m 前後と若干狭くなっている。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP702・SP739 は楕円形，SP657 は方形である。規模は直径または長径 0.19 ～ 0.74m，深さ 0.08 ～ 0.32m である。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土を基調とするが，炭化物の混ざる黒褐色粘土もみられる。出土遺物はない。

9 号掘立柱建物（SB 9，第 33 図，図版 9）

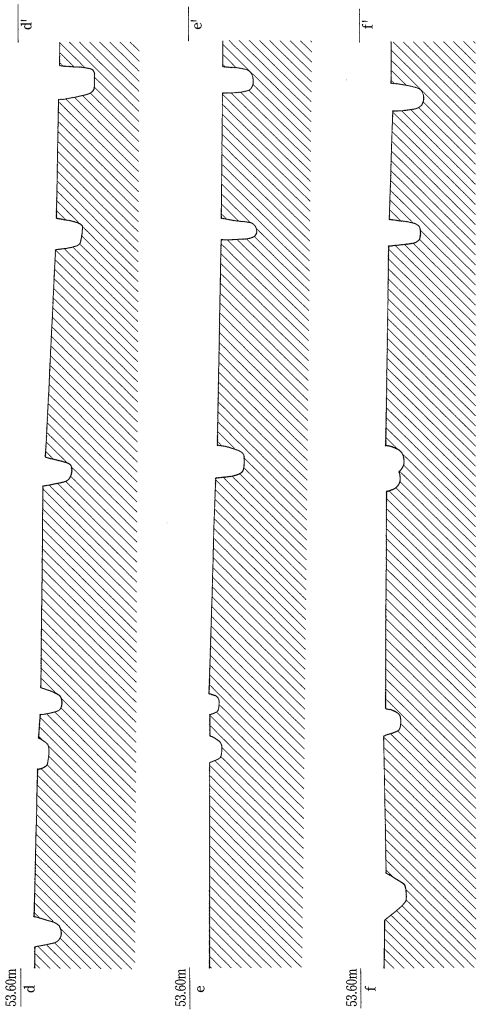
A1 地区西半部中央に位置する。SD400 底面の東部落ち際近くで検出した。SB 8・SB11・SA 3 と重複する。2 間× 1 間の南北棟建物である。桁行 3.97m，梁行 2.33m，面積 9.25 ㎡である。主軸は N － 24° － W である。SB10・SA 1・SA 2 と主軸がほぼ同じであるため，同時期の建物である可能性が高い。柱穴の平面形は全て円形である。規模は直径 0.20 ～ 0.30m，深さ 0.09 ～ 0.46m である。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土を基調とするが，一部に炭化物の混ざる黒色粘土もみられる。出土遺物は SP669 の珠洲甕小片がある。

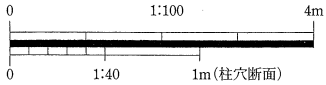
10 号掘立柱建物（SB10，第 33 図，図版 9）

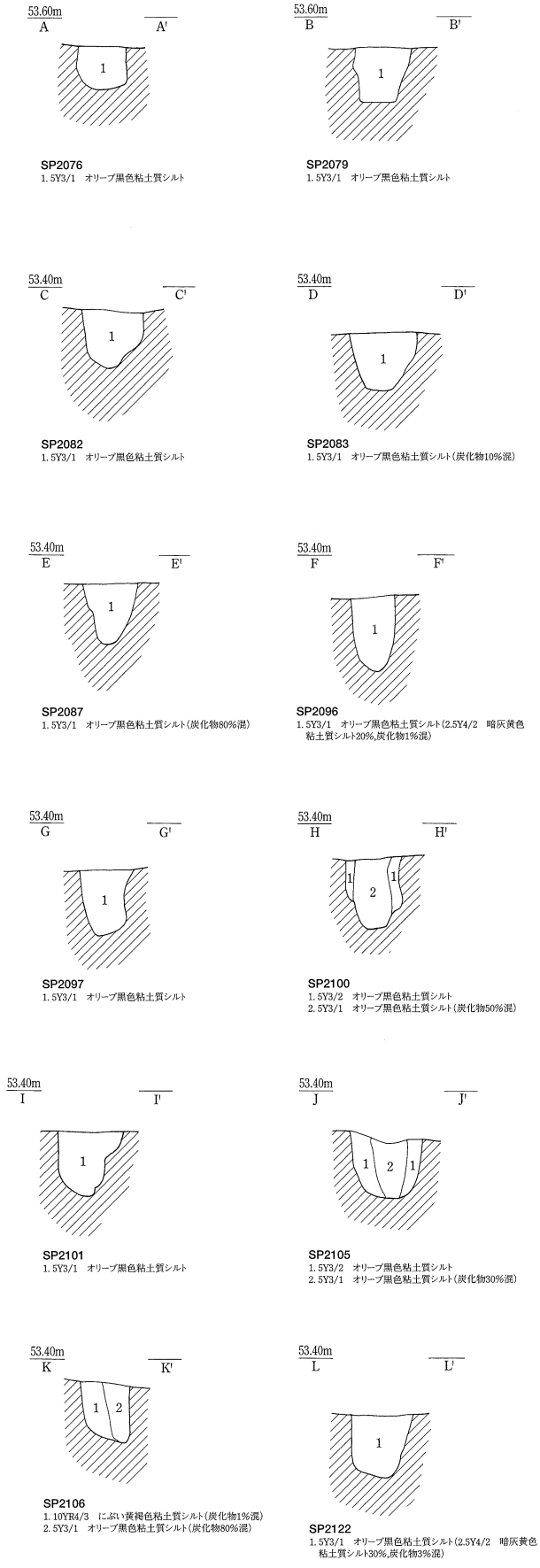
A1 地区西半部中央に位置する。SD400 底面の東部落ち際近くで検出した。SB 8 と重複する。2 間× 2 間の東西棟総柱建物であるが，柱列にはやや歪みがある。桁行 3.76m，梁行 3.58m，面積は 13.46 ㎡である。主軸は N － 68° － E である。SB 9・SA 1・SA 2 と建物方位がほぼ同じであるため，同時期の建物である可能性が高い。柱穴の平面形は全て円形である。規模は直径 0.22 ～ 0.41m，深さ 0.07 ～ 0.44m である。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土を基調とするが，一部に炭化物の混ざる黄灰色・



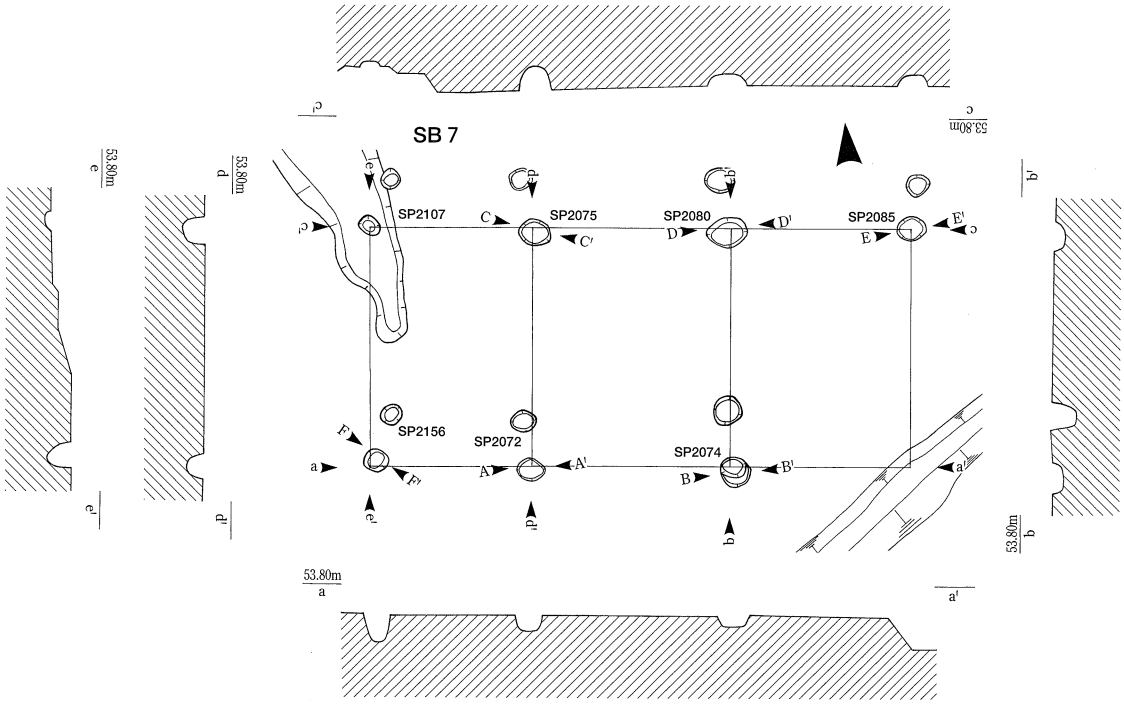
第 28 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図
SB 6

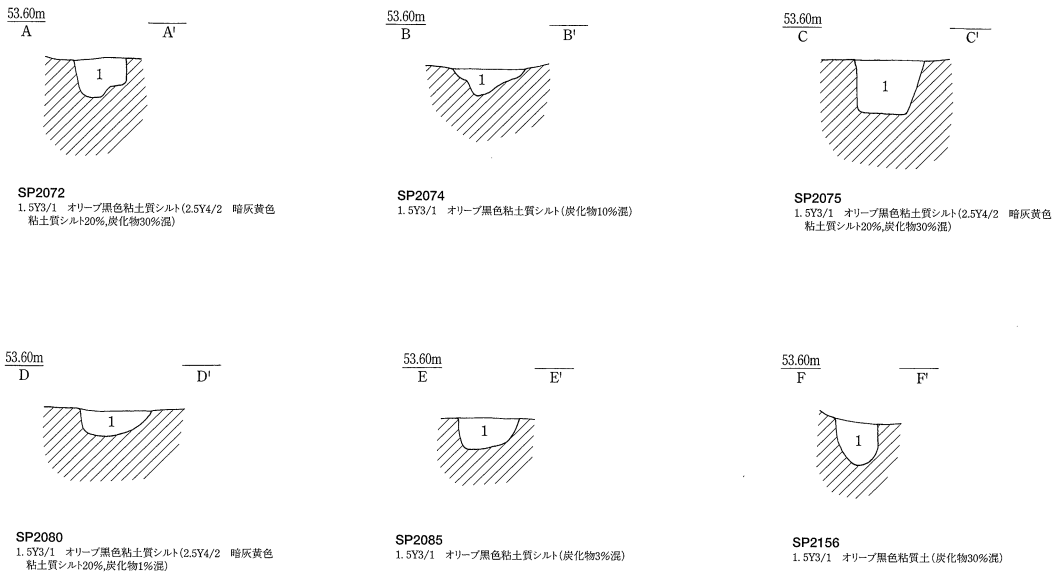


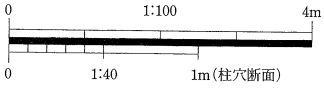




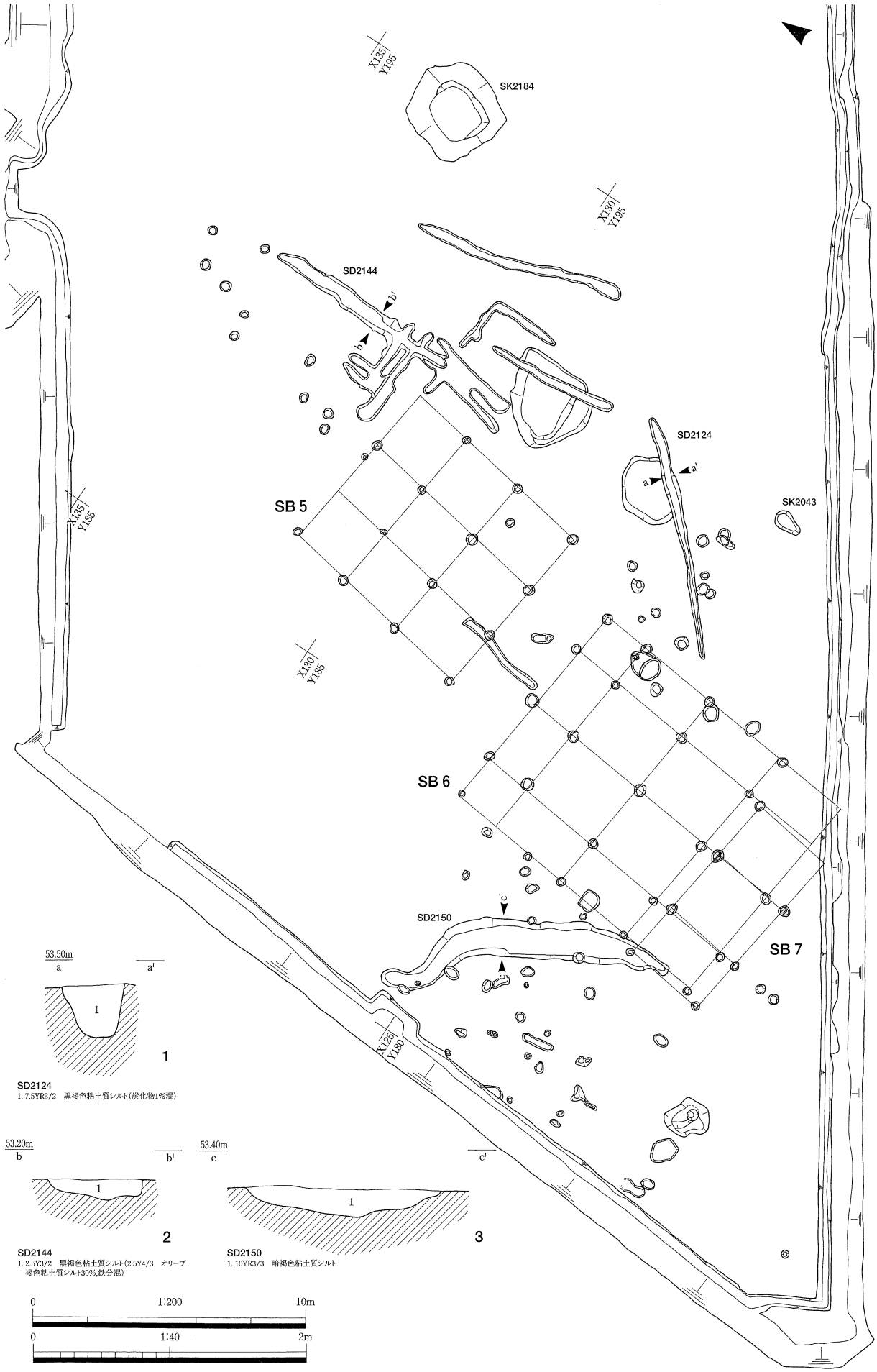
第29図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図
SB 6







第30図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図
SB 7



第31図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層遺構実測図

1. SD2124　2. SD2144　3. SD2150

黒色粘土もみられる。出土遺物はSP757の珠洲甕小片がある。

11号掘立柱建物（SB11，第32図，図版9）

A1地区西半部中央に位置する。SD400底面の東部落ち際近くで検出した。SB 8・SB 9と重複する。SA 3が北側に位置しており，同時期に存続していた可能性がある。2間×1間の南北棟建物である。桁行3.32m，梁行1.99mであるが，梁・桁の角度は直角にならずにやや歪みがある。面積は6.61㎡である。主軸はN－18°－Wである。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP660が楕円形である。規模は直径または長径0.18～0.40m，深さ0.10～0.24mである。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土を基調とするが，東側の柱穴列では炭化物の混ざる黄灰色粘土もみられる。出土遺物はSP660・SP694の中世土師器皿小片，SP671の金属小塊がある。

12号掘立柱建物（SB12，第34図，図版10）

A1地区中央部南よりに位置する。4間×2間の南北棟側柱建物である。用水路が中央を斜めに横切り分断されている。SB13と重複する。桁行7.98m，梁行4.31m，面積は34.39㎡である。主軸はN－10°－Wである。東側にSA 4，北側にSA 5が沿ってあり，同時期のものである可能性がある。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP129・SP775が楕円形である。規模は直径または長径0.26～0.40m，深さ0.07～0.42mである。埋土は，用水路を挟んで北東側は黄灰色砂質シルト，南西側は黒褐色粘土質シルトを基調としており，いずれも炭化物の混入がみられる。出土遺物はSP 9の中世土師器皿小片がある。

13号掘立柱建物（SB13，第34図，図版10）

A1地区中央部南よりに位置する。用水路が南西角を切っているが，3間×1間の南北棟建物であると思われる。SB12と重複する。桁行5.38m，梁行1.81m，面積は9.74㎡である。主軸はN－7°－Wである。東側にSA 4，北側にSA 5が沿っているが，SB13の柱間は約1.8mとSB12の約2.1mより短いことと，柱穴規模の違いから，別時期のものと考えた。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP10・SP22が若干楕円形になる。規模は直径または長径0.13～0.34m，深さ0.13～0.25mである。埋土は炭化物混じりの黄灰色・暗灰黄色砂質シルトを基調とするが，北西側の柱穴SP22・SP52は，同色の粘土質シルトあるいは粘土となる。出土遺物はない。

14号掘立柱建物（SB14，第35・59図，図版30）

A1地区中央部に位置する。2間×2間の南北棟側柱建物である。中央に位置するSK50を含めて総柱建物となる可能性もあるが，深さが0.06mと浅く，埋土断面も柱穴としての形状がみられないため，SB14を構成する柱穴には含めずに側柱建物とした。SB15と重複する。桁行4.15m，梁行3.63mであるが，梁・桁の角度は直角にならずにやや歪みがある。面積は15.06㎡である。主軸はN－23°－Eである。柱穴の平面形は殆どが円形である。SP82・SP91は不整形であるが底面に丸い柱痕が残る。SP76・SP85については，当調査区の検出面が脆い地盤であることを考慮して，柱穴が崩れて自然堆積したものと捉えてここでは柱穴として扱っているが，柱痕がみられないことから土坑である可能性もある。SP76・SP82・SP85・SP91を除く柱穴の規模は直径0.20～0.44m，深さ0.07～0.43mである。埋土は炭化物混じりの黄灰色シルトを基調とするが，西側は砂質，東側は粘土質となる傾向がある。出土遺物は，SP26・SP76・SP82の中世土師器皿小片，SP37の中世土師器皿小片・金属板（280），SP85の珠洲甕小片がある。

15号掘立柱建物（SB15，第35・51・59図，図版22・30）

A1地区中央部北よりに位置する。北西側が調査区外にかかるが，2間×2間の総柱建物であると考えられる。SB14と重複する。桁行・梁行共に4.39m，面積は19.27㎡である。主軸はN－8°－Wで

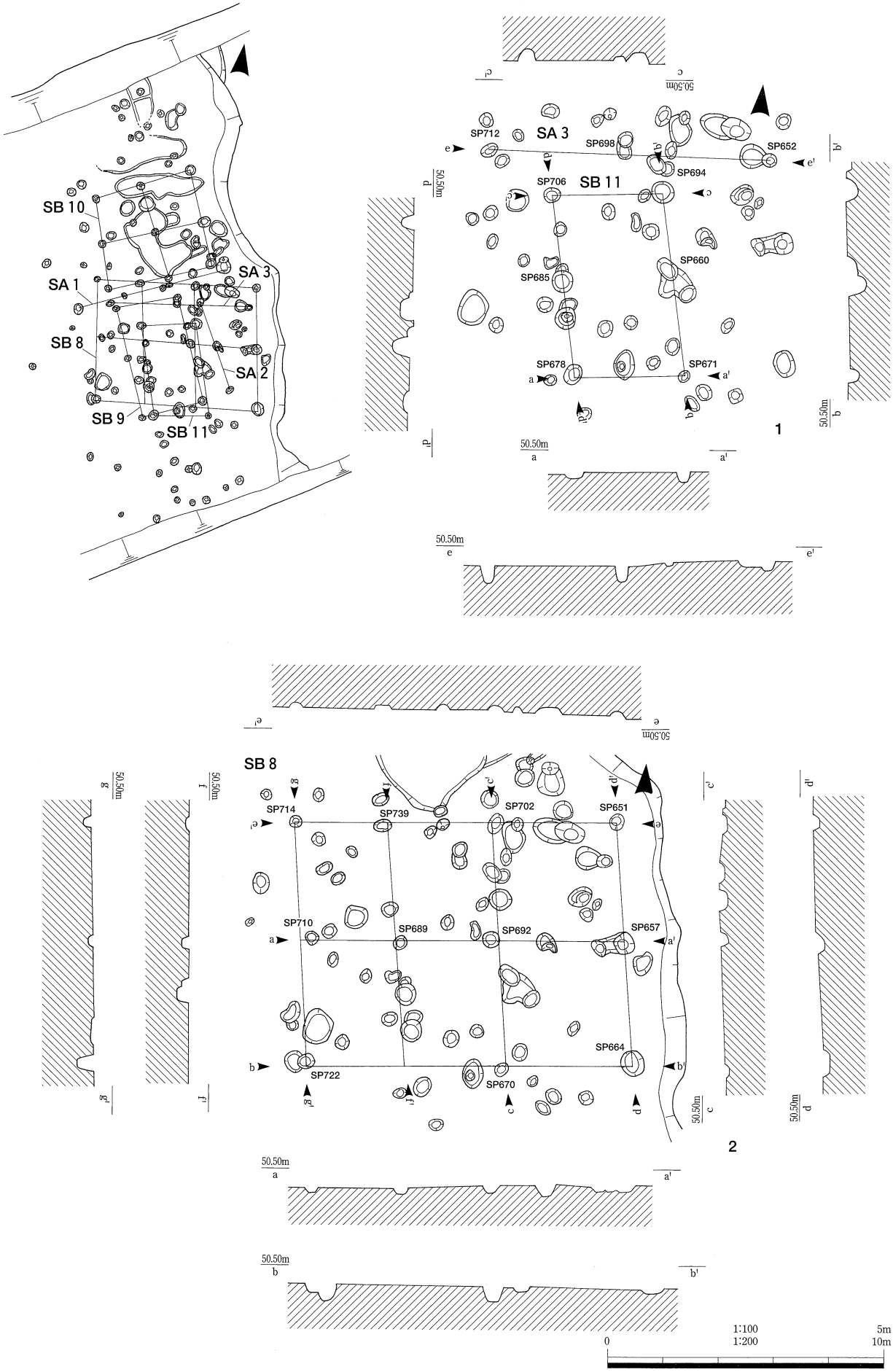
ある。柱穴の平面形はSP32・SP69・SP70が方形，SP36・SP335が楕円形，SP103が円形である。SP88の平面形は楕円形であるが，上層部分は地盤が崩れて自然堆積したものと考えられるため，本来の形状は円形であったと考えられる。SP36・SP69・SP70は一段掘り下げた後に中央部を深く掘り下げる掘形をもつ。SP88上層部分を除く柱穴の規模は，直径または長径0.40～0.80m，深さ0.09～0.52mである。埋土は炭化物混じりの黄灰色～暗灰黄色砂質シルトを基調とする。SP70は南部の一段深く掘り下げたところに炭化材を含む黒褐色粘土質シルトの層がみられ，柱痕であると思われる。炭化材は樹種同定を実施し，ブナ・クリ・クヌギとの結果を得ており，SB15の建築材として用いられていた可能性が高い。出土遺物は，SP70の中世土師器皿小片・珠洲擂鉢小片，SP88の中世土師器皿（112），SP335の中世土師器皿小片・青磁・鉄滓（282）がある。112は口縁部を一段ナデして端部外面を面取りする中世土師器皿。13世紀初頭～前半のものである。

16号掘立柱建物（SB16，第36・51・59図，図版10・11・17・30）

A1地区中央南東よりに位置する。南東側が調査区外にかかり，正確な規模は不明であるが，桁行5間，梁行1間以上の東西棟総柱建物である。SB17と重複する。柱穴に切り合いはないが，SB18に伴う溝SD197を切っているため，SB18より新しい時期のものと考えられる。桁行8.61m，梁行1.76m，面積は15.15㎡である。主軸はN－79°－Eである。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP157・SP164・SP221が若干楕円形気味になる。SP210は楕円形であるが，西側に柱が据えてあったと思われる円形の掘り込みがある。柱穴の規模は直径または長径0.29～0.84m，深さ0.17～0.54mである。SP164は一段掘り下げた後に中央部を深く掘り下げる掘形をもつ。SP141も形が多少崩れているが同様の掘形をもっていた可能性がある。埋土上層は炭化物混じりの黄灰色～黒褐色粘土質シルトを基調とし，下層は黒褐色～黒色粘土がみられる。SP141の中央部には炭化材を含む黒褐色粘土の層がみられ，柱痕であると思われる。炭化材は樹種同定を実施し，ブナ属であるとの結果を得ており，SB16の建築材として用いられていた可能性が高い。SP164の北部分は一段深く掘り下げてあり，炭化物混じりの黒褐色粘土・粘土質シルトが水平堆積している。柱の抜き取り痕と思われる。SP164・SP210・SP518の埋土中には多くの炭化材が含まれていた。樹種同定を実施し，クリ・ブナ属であるとの結果を得ている。出土遺物はSP141の中世土師器皿小片・鉄滓（281），SP164の中世土師器皿小片・鞴羽口（118），SP210の中世土師器皿小片・鉄滓，SP221の中世土師器皿小片・鉄釘（279），SP509の中世土師器がある。

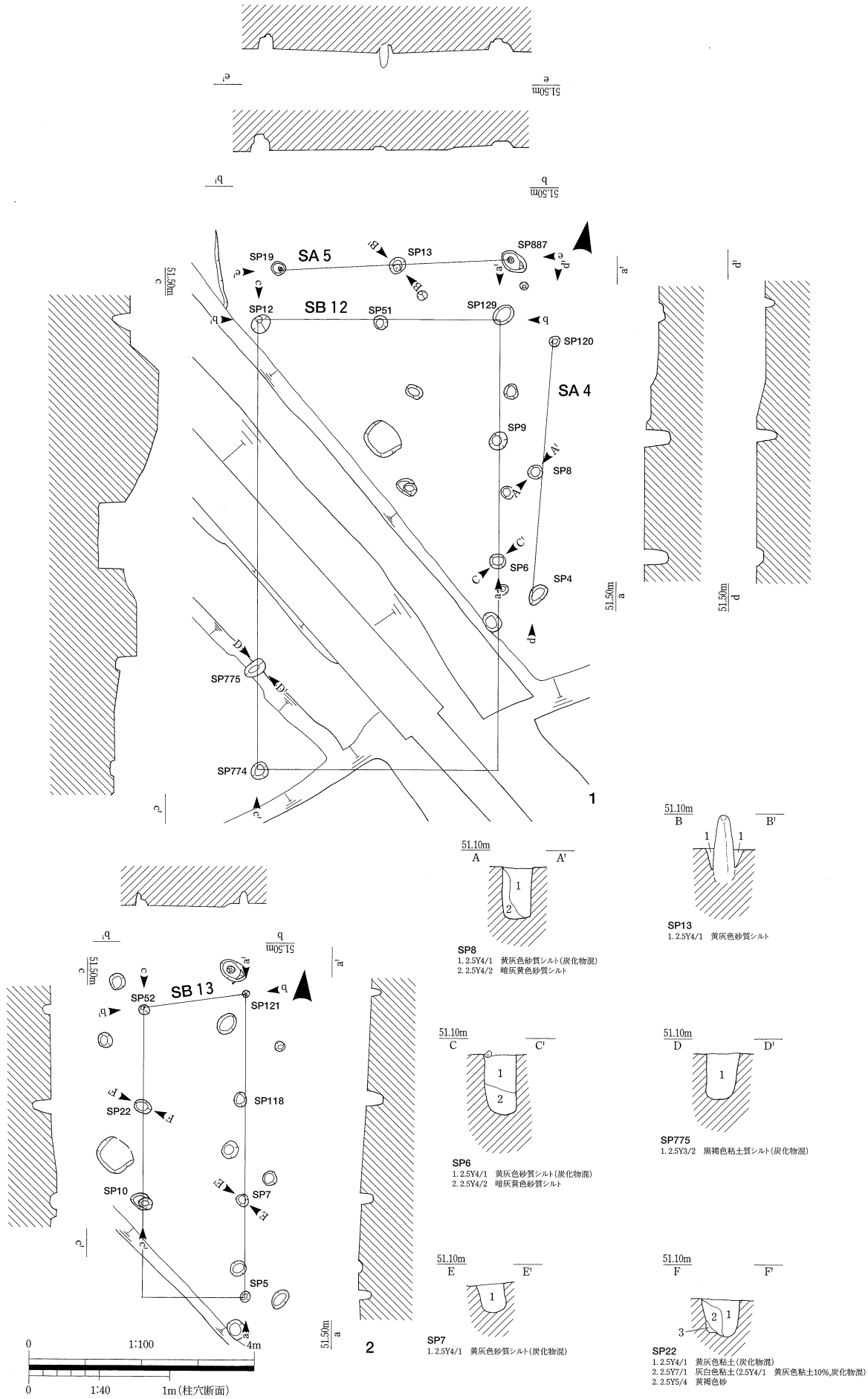
17号掘立柱建物（SB17，第37図，図版10）

A1地区中央南東よりに位置する。南東側が調査区外にかかるが，3間×5間の東西棟総柱建物で，東・南・西の3面に廂がつくと考えられる。SB16・SB18・SB19と重複するが，SB18・SB19に伴うSK591及びSD197を切り込んでいることから，SB18・SB19より新しい段階の建物であると考えられる。桁行7.97m，梁行4.68m，面積は37.30㎡である。主軸はN－81°－Eである。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP205・SP515・SP555が楕円形，SP853が不整形である。柱穴の規模は直径または長径0.21～0.80m，深さ0.08～0.53mである。埋土上層は炭化物混じりの黄灰色～黒褐色粘土質シルトを基調とし，下層には炭化物の混ざる黒褐色～黒色粘土質シルト・粘土が堆積する。SP484・SP583の中央部に炭化物の多く混ざる黒色粘土層がみられ，柱痕であると考えられる。SP511の中央南よりの埋土には炭化物を多く含む黒褐色～黒色粘土質シルト・粘土層がみられ，炭化物の中には炭化材と炭化米が含まれていた。炭化材については樹種同定を実施し，ブナ属であるとの結果を得ている。炭化米についてはDNA分析を実施した。出土遺物はSP179・SP205の中世土師器皿小片，SP185の古代土師器椀（96），SP511の鉄滓がある。96は混入と思われる。

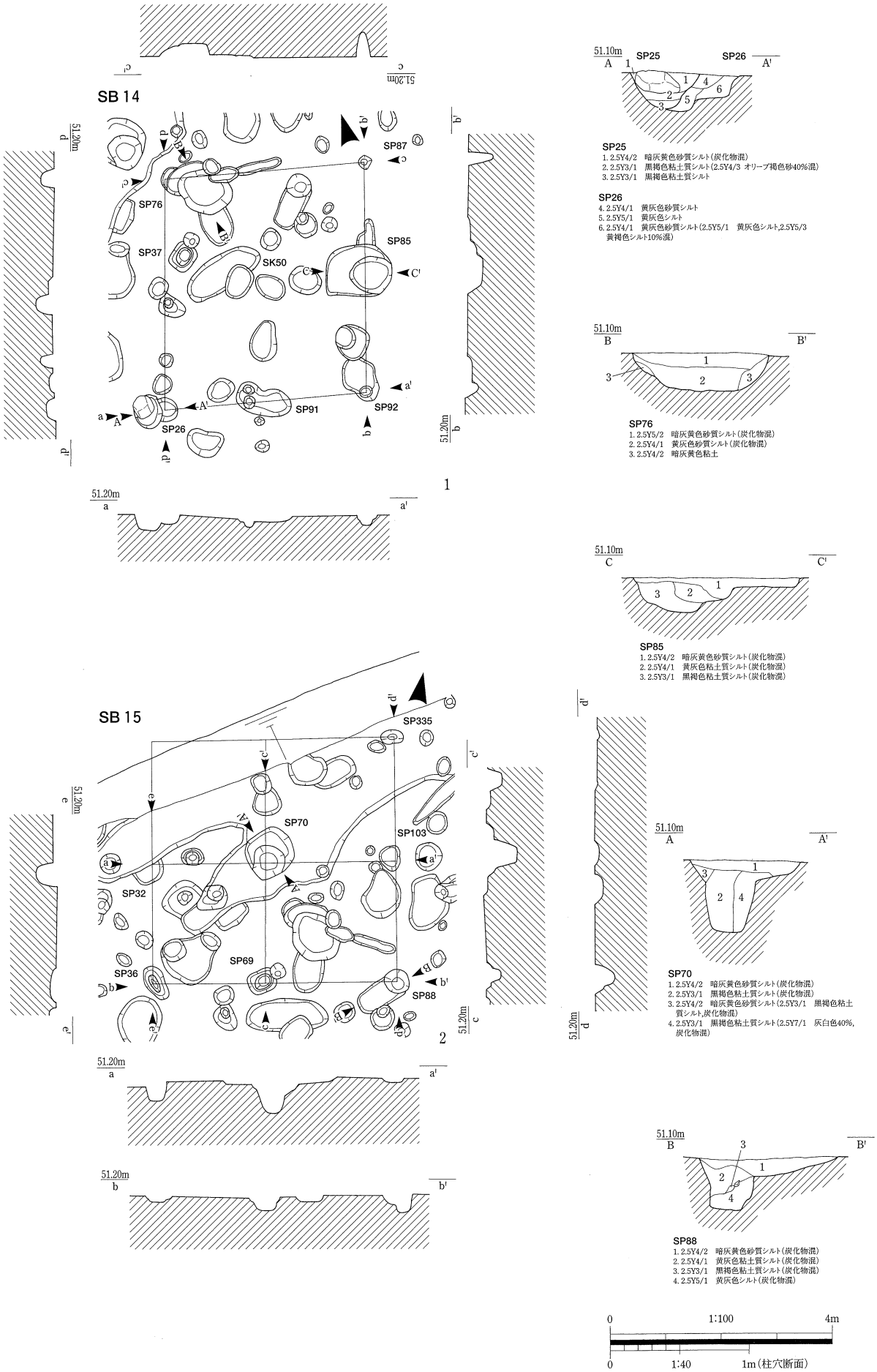


第32図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
1. SA 3・SB11　2. SB 8

第33図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB 9・SB10・SA 1・SA 2



第34図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
1. SB12・SA 4・SA 5　2. SB13



SP25
1. 2.5Y4/2　暗灰黄色砂質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(2.5Y4/3 オリーブ褐色砂40%混)
3. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト

SP26
4. 2.5Y4/1　黄灰色砂質シルト
5. 2.5Y5/1　黄灰色シルト
6. 2.5Y4/1　黄灰色砂質シルト(2.5Y5/1　黄灰色シルト,2.5Y5/3 黄褐色シルト10%混)

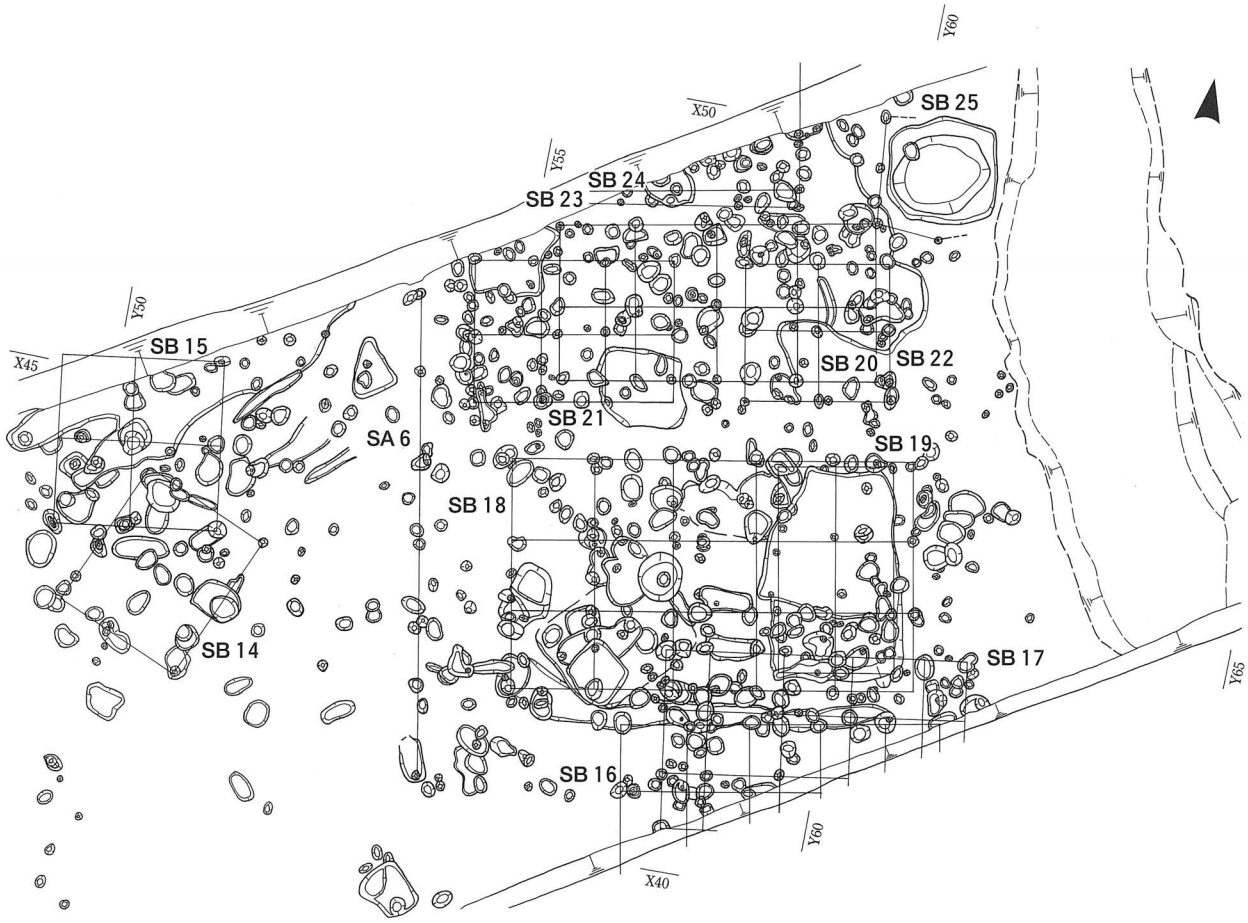
SP76
1. 2.5Y5/2　暗灰黄色砂質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y4/1　黄灰色砂質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土

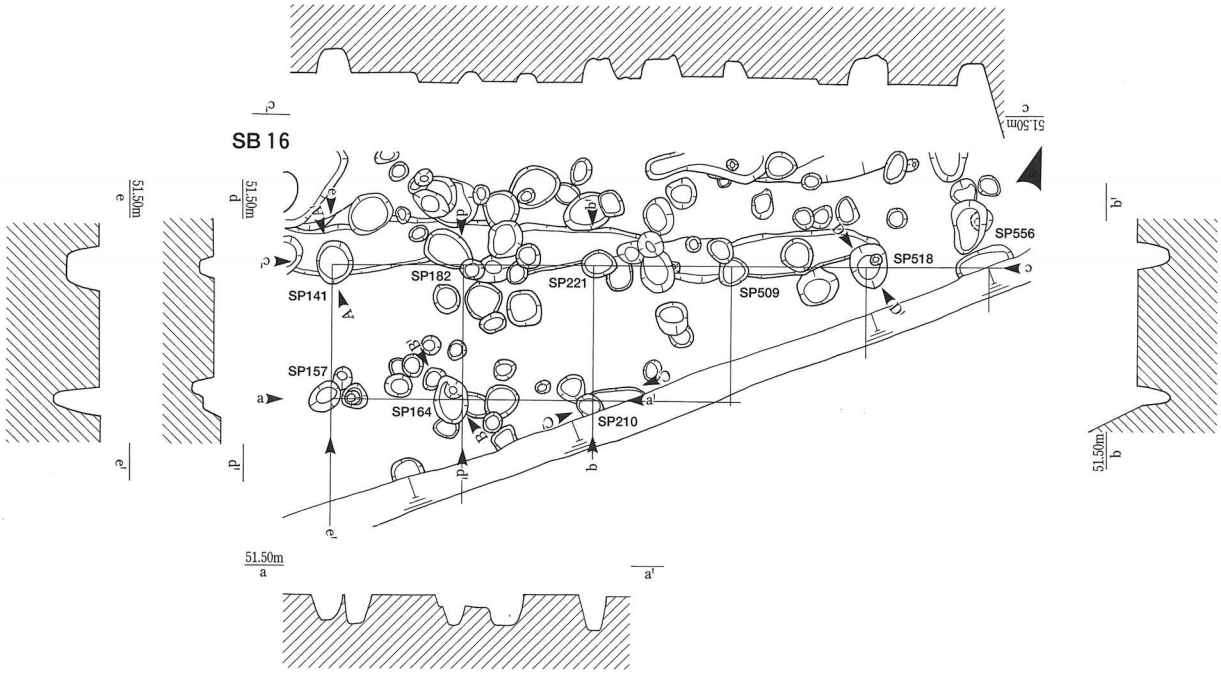
SP85
1. 2.5Y4/2　暗灰黄色砂質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)

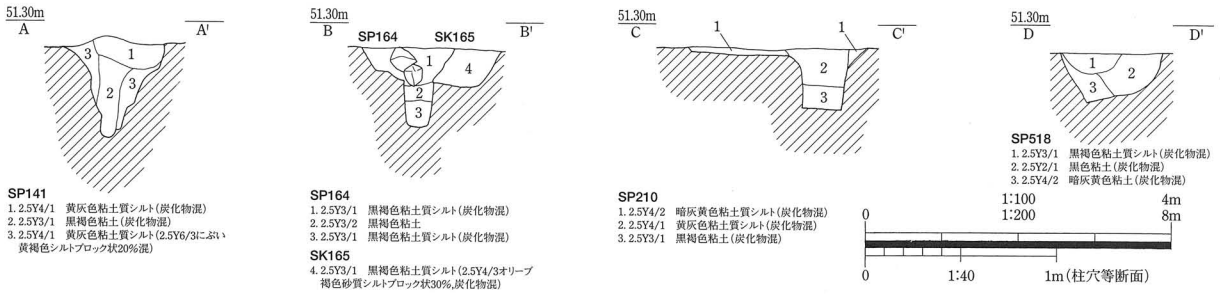
SP70
1. 2.5Y4/2　暗灰黄色砂質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色砂質シルト(2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト,炭化物混)
4. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(2.5Y7/1　灰白色40%,炭化物混)

SP88
1. 2.5Y4/2　暗灰黄色砂質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)
4. 2.5Y5/1　黄灰色シルト(炭化物混)

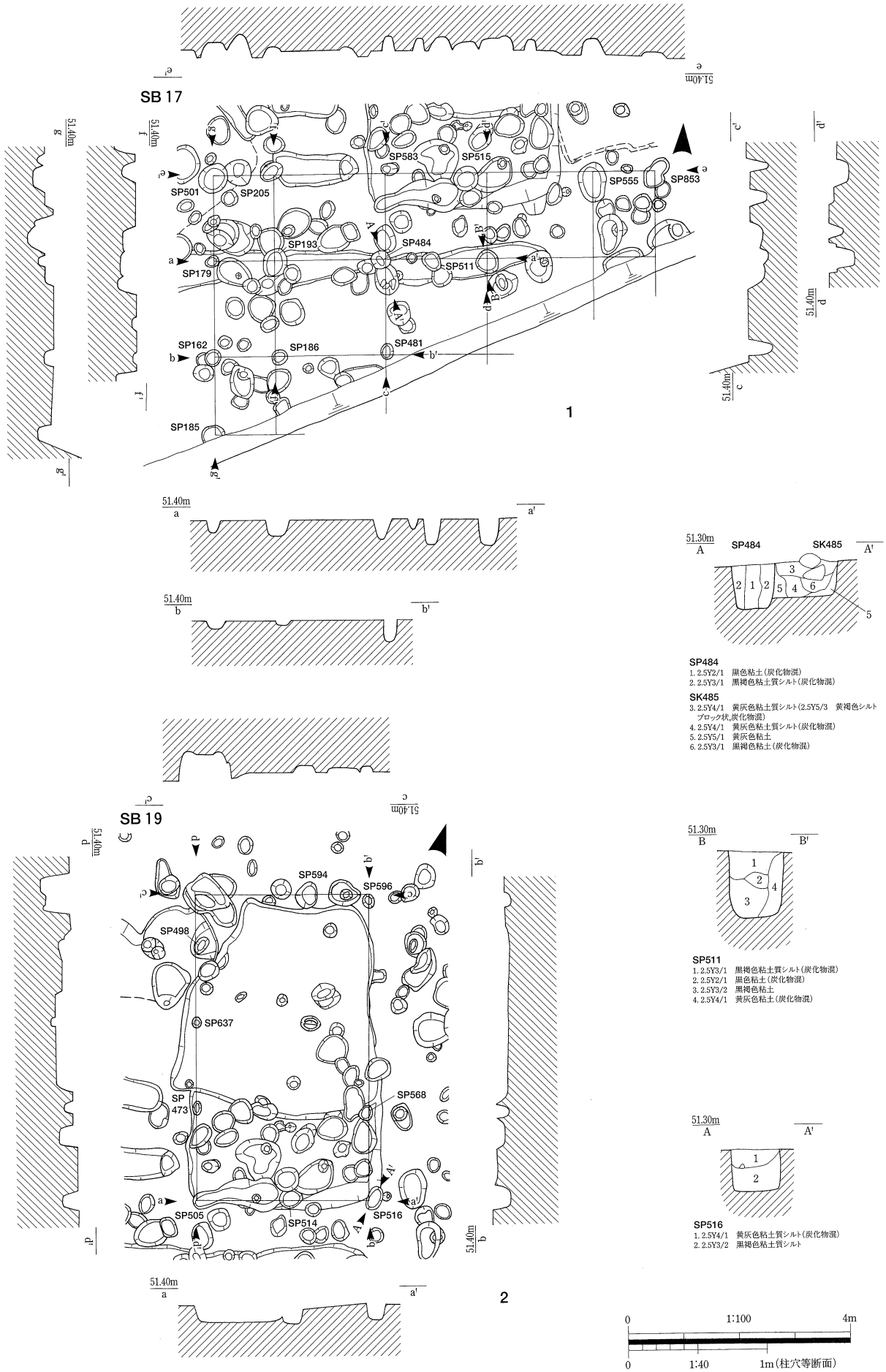
第35図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
1. SB14　2. SB15



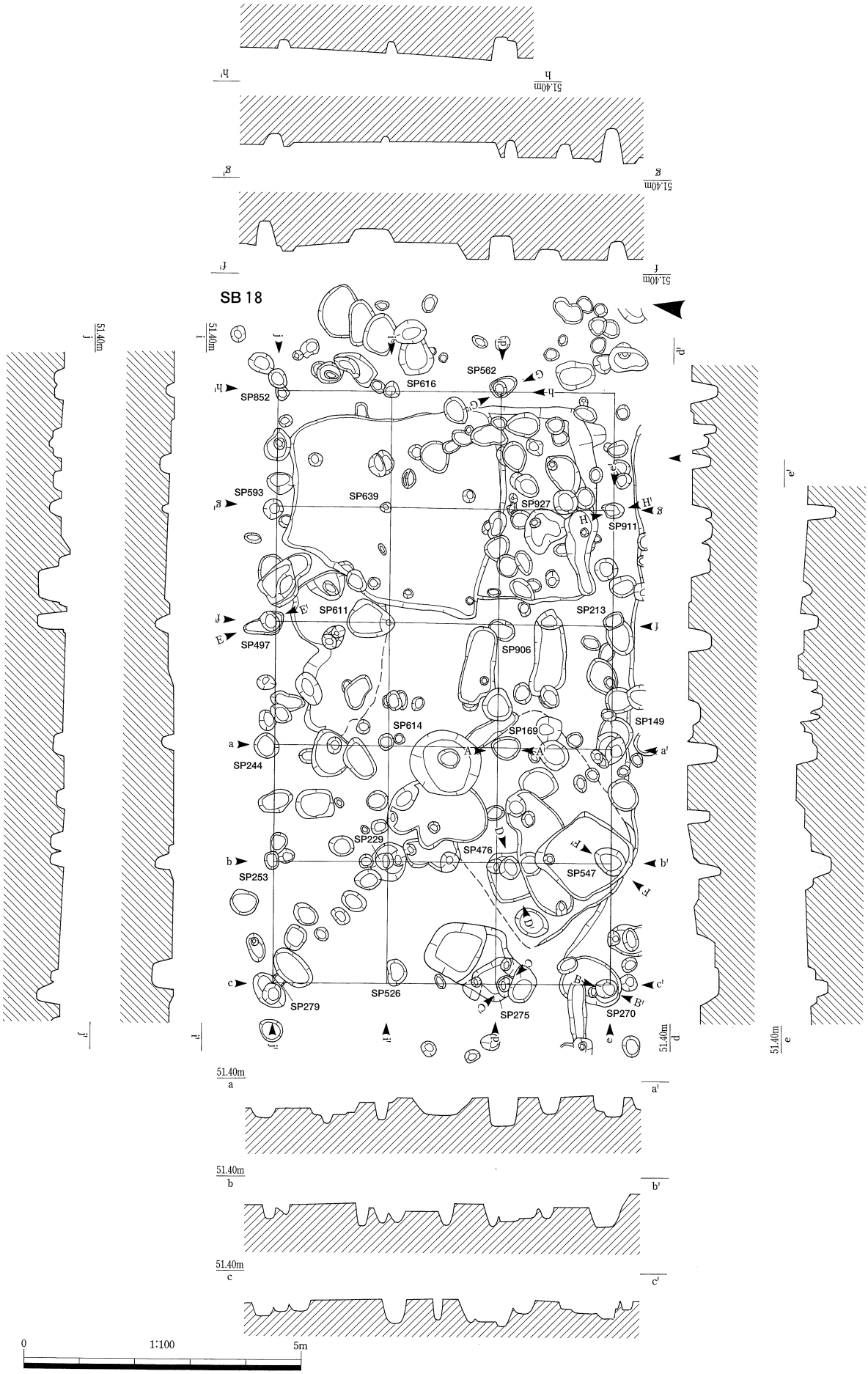




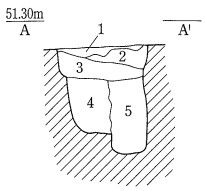
第36図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB16



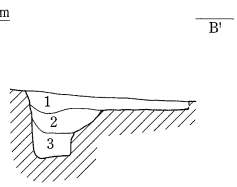
第37図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
1. SB17　2. SB19



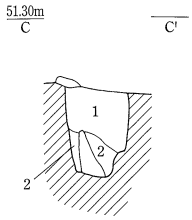
第 38 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB18



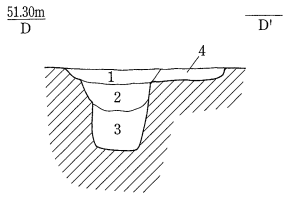
SP169
1. N2/0　黒色粘土(炭化物混)
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y5/3　黄褐色粘土質シルト(炭化物混)
4. 2.5Y4/1　黄灰色砂質シルト
5. 2.5Y3/1　黒褐色粘土



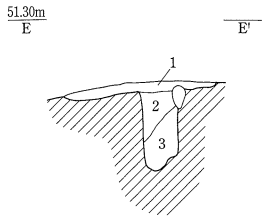
SP270
1. 2.5Y5/1　黄灰色砂質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)



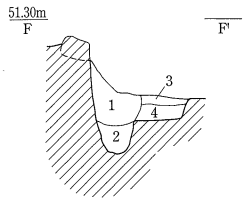
SP275
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)



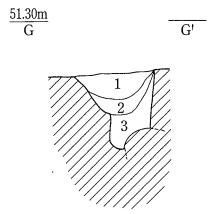
SP476
1. 2.5Y3/1　黒褐色粘土(炭化物混)
2. 2.5Y2/1　黒色粘土(炭化物混)
3. 2.5Y3/2　黒褐色粘土(炭化物混)
4. 2.5Y5/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)



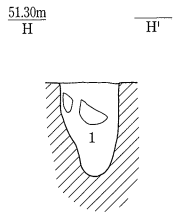
SP497
1. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土(炭化物混)
3. 2.5Y3/2　黒褐色粘土(炭化物混)



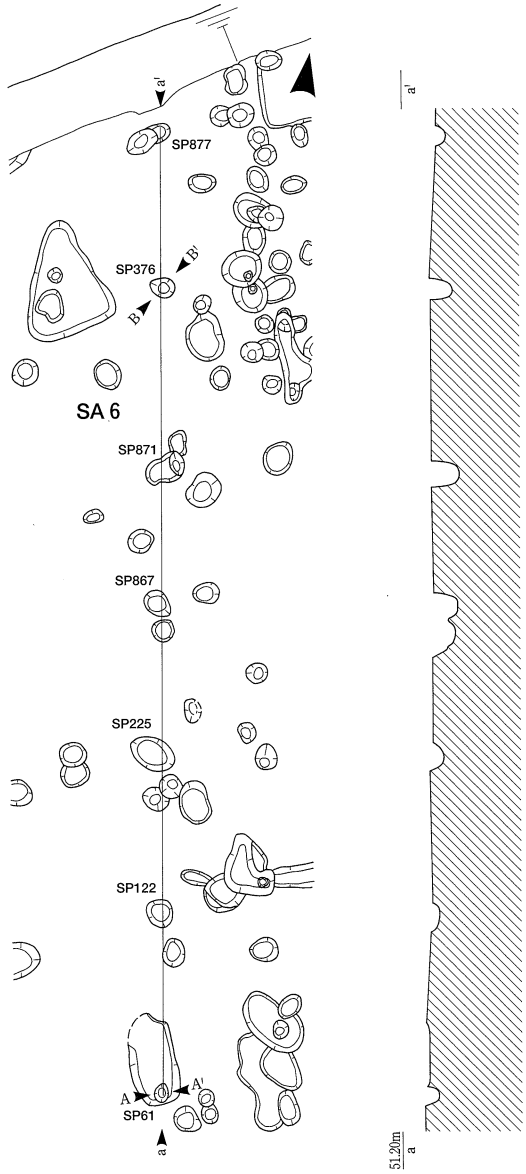
SP547
1. 2,5Y3/1　黒褐色粘土(炭化物混)
2. 2.5Y3/2　黒褐色粘土
3. 2.5Y3/2　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)
4. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土質シルト(炭化物混)

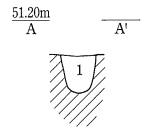


SP562
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土(炭化物混)
3. 2.5Y5/1　黄灰色粘土

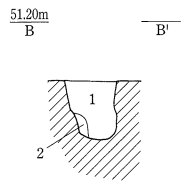


SP911
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土(炭化物混)

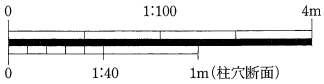




SP61
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)



SP376
1. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(2.5Y6/2 灰黄色シルト40%,炭化物混)



第39図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB18・SA 6

18 号掘立柱建物（SB18，第 38・39・51 図，図版 10・11・22・24）

A1 地区中央南東よりに位置する。3 間×5 間の東西棟総柱建物で，南側に溝 SD197 を，西側に柵列 SA 6 を伴う。また東半には土間と想定される長方形の竪穴状土坑 SK591 を包含している。SB17・SB19 と重複するが，SD197・SK591 との切り合いから，SB17・SB19 に先行する建物と考えられる。桁行 10.65m，梁行 6.08m，面積は 64.75 ㎡である。主軸は N－79°－E である。柱穴の平面形は円形・楕円形・不整形と様々であるが，基本的には円形である。楕円形や不整形の掘形をもつものでも，下層には円形の掘形がみられるものが多い。柱穴の規模は直径または長径 0.20 ～ 1.17m，深さは 0.07 ～ 0.57m とばらつきが見られるが，これは表土直下からの攪乱を受けていること，検出面の地盤が弱く掘形が崩れているものが多いこと，SP639・SP927 は SK591 の底面で検出していること等の理由による。下層の規模から判断すると本来直径 0.30 ～ 0.40m，深さ 0.40 ～ 0.50m 程度の柱穴規模であったと思われる。埋土は炭化物混じりの黄灰色～黒褐色粘土・粘土質シルトを基調とし，一部に炭化物の混ざる黒色粘土もみられる。SP169 は南部下層に黒褐色粘土の層がみられ，柱痕であると思われる。また埋土上層に多くの炭化材が含まれており，樹種同定ではクリであるとの結果を得ている。SP270・SP275・SP476・SP497・SP547・SP562 の埋土断面には，柱の抜き取り痕と思われる一段深い部分があり，ここに多くレンズ状の水平堆積がみられる。出土遺物は SP169・SP253・SP270・SP279・SP911 の中世土師器皿小片，SP244 の中世土師器皿・青磁椀（114），SP476 の中世土師器皿（113），SP547 の珠洲甕小片がある。113 は口縁部をつまむように一段ナデする皿。内外面に薄く赤彩痕がみられる。13 ～ 14 世紀のものである。114 は龍泉窯系青磁椀。外面に蓮弁文を有する椀Ⅱ－b 類である。E 期（13 世紀初頭前後～前半）。

19 号掘立柱建物（SB19，第 37 図，図版 10）

A1 地区中央南東よりに位置し，SB17・SB18 と重複する。4 間×2 間の南北棟側柱建物で，SK591 の掘形に沿って並ぶ。SK591 は SB18 に付属する土間と考えられる長方形の竪穴状土坑で，SB19 の柱穴は SK591 の南半を切り込んでいることから，SB18 より新しい時期のものと考えられる。但し SK591 の方形プランを意識して建てられていることは明らかであることから，SB19 は SB18 の土間部分を独立させて再建築したものと推測する。また SK591 の埋土及び切り合いから，SB19 の段階には SK591 の南半部は埋没し，北半部のみ開口していた可能性が高いこと，SB19 の廃絶には火災が契機になっていることが考えられる。桁行 5.53m，梁行 3.10m，面積は 17.14 ㎡である。主軸は N－12°－W である。柱穴の平面形は円形と楕円形がある。柱穴の規模は直径または長径 0.15 ～ 1.55m，深さ 0.11 ～ 0.32m である。埋土上層は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトを基調とし，炭化物の混ざる黒褐色粘土質シルトも一部にみられる。下層には炭化物の混ざる黒褐色粘土・粘土質シルトが堆積する。出土遺物は SP505 の中世土師器皿小片・珠洲甕小片，SP516 の中世土師器皿小片がある。

20 号掘立柱建物（SB20，第 40・51 図，図版 25）

A1 地区中央北東よりに位置する。2 間×4 間の東西棟総柱建物である。SB21・SB22・SB25 と重複する。このうち SB22 については，SB20 の柱穴 SP626 が SB22 の柱穴 SP625 に切られていることから，SB20 → SB22 の先後関係が考えられる。桁行 8.40m，梁行 4.03m，面積は 33.85 ㎡である。主軸は N－79°－E である。柱穴の平面形は円形と楕円形がある。柱穴の規模は直径または長径 0.20 ～ 0.61m，深さ 0.07 ～ 0.52m である。SP529・SP539・SP610 の底面中央には柱を据えた跡と思われる窪みがみられる。東側の 2 間×2 間の柱穴が深く西側の柱穴が浅い傾向にあることから，東側主体の建物であり，西側は廂か柵列である可能性がある。埋土上層は炭化物混じりの黄灰色～黒褐色粘土質シルトを基調とし，下層には炭化物の混ざる黒褐色～黒色粘土質シルト・粘土が堆積する。出土遺物は SP258・SP392・

SP450・SP529の中世土師器皿小片，SP297の中世土師器皿・珠洲擂鉢(115)，SP610の中世土師器皿小片・珠洲甕小片がある。115は珠洲擂鉢の底部。内面素文で外底面に静止糸切り痕を残す。遺物包含層出土破片と接合する。Ⅰ期～Ⅱ期（12世紀中葉前後～13世紀前半）のものと考えられる。

21号掘立柱建物（SB21，第41・51図，図版22）

A1地区中央北東よりに位置する。2間×3間の東西棟総柱建物である。SB20と重複する。東に隣接するSB22とは柱間・梁行・軸方位が共通し，一連の掘立柱建物とも思われるが，柱穴の深さが異なっているため別の建物とした。桁行5.30m，梁行3.67m，面積は19.45㎡である。主軸はN－79°－Eである。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP287・SP307・SP337・SP942が楕円形である。柱穴の規模は直径または長径0.16～0.64m，深さ0.05～0.35mである。SB22の柱穴よりも平均して浅い。埋土は炭化物混じりの黄灰色～黒褐色粘土質シルトを基調とし，一部に炭化物の混ざる暗灰黄色粘土質シルトやにぶい黄色シルトがみられる。SP287の埋土には特に上層に多く炭化材が含まれる。樹種同定を実施し，ブナ属であるとの結果を得ている。出土遺物はSP307・SP312・SP331・SP337の中世土師器皿小片，SP363の中世土師器皿(116)・青磁椀がある。116は口縁部を一段ナデする中世土師器皿。13～14世紀のものである。SK280出土破片と接合する。

22号掘立柱建物（SB22，第41図）

A1地区中央北東よりに位置する。2間×2間の東西棟総柱建物である。SB20と重複し，柱穴の切り合いからSB20→SB22の先後関係が考えられる。西に隣接するSB21とは柱間・梁行・軸方位が共通し，一連の掘立柱建物とも思われるが，柱穴の深さが異なるため別の建物とした。桁行3.79m，梁行3.67m，面積は13.91㎡である。主軸はN－79°－Eである。柱穴の平面形は殆どが円形で，SP395・SP534・SP857がやや楕円形気味となる。SP625は掘形は楕円形であるが，一段掘り下げた後に中央部を丸く掘り下げる掘形をもつ。柱穴の規模は直径または長径0.19～0.55m，深さ0.15～0.46mである。SP544を除く柱穴の深さは平均して0.34mであり，SB21の0.19mよりも深い傾向にある。埋土は，SP544を除く全ての柱穴に柱の抜き取り痕がみられ，SP426・SP625・SP857の柱があったと思われる部分には炭化物の混ざる黄灰色粘土質シルトの層がみられた。残りの柱穴の抜き取り痕にはレンズ状に近い自然堆積が観察でき，下層には炭化物混じりの黒褐色～暗灰黄色の粘土・粘土質シルト，上層には黄灰色粘土質シルトがみられた。SP544の埋土は炭化物の混ざる黒褐色粘土質シルトの単層である。出土遺物はSP395・SP426・SP447の中世土師器皿小片，SP534の中世土師器皿小片・珠洲擂鉢小片がある。

23号掘立柱建物（SB23，第42・51図，図版25）

A1地区中央北東よりに位置する。北西側が調査区外にかかるが，桁行2間，梁行1間を確認している。SB24とほぼ同規模で重複しており，建て直しの可能性がある。北東端に位置するSK467がSB23の柱穴SP464に切られ，SB24の柱穴SP943を切っていることから，SB24→SB23の先後関係が考えられる。東西の軸方向はN－79°－Eである。柱穴の平面形は殆どが円形である。SP421はSK417に切られているが楕円形気味になる。柱穴の規模は直径または長径0.19～0.37m，深さ0.08～0.29mである。埋土は炭化物混じりの黄灰色・暗灰色～黒褐色粘土質シルトである。出土遺物はSP421の珠洲擂鉢(117)がある。117は珠洲擂鉢の口縁部。薄いつくりで体部は直線的にのび，内面を素文とする。胎土は軟質で器表面に爆ぜたような丸い小さな穴が目立ち，二次被熱している可能性が高い。Ⅰ期（12世紀中葉前後～13世紀初頭）と考えられる。

24号掘立柱建物（SB24，第42図）

A1地区中央北東よりに位置する。北西側が調査区外にかかるが，桁行3間，梁行1間を確認している。

SB23とほぼ同規模で重複しており，建て直しの可能性がある。北東端に位置するSK467と柱穴の切り合いから，SB24→SB23の先後関係が考えられる。東西の軸方向はN－78°－Eである。柱穴の平面形は全て円形である。柱穴の規模は直径0.21～0.30m，深さ0.07～0.43mである。埋土上層は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトを基調とし，一部に暗灰黄色砂が混ざる。SP412の下層中央部には締まりの悪い黒褐色粘土層がみられ，柱痕であると思われる。SP422の下層にみられる炭化物の混ざる暗灰黄色粘土層についても柱痕である可能性がある。出土遺物はない。

25号掘立柱建物（SB25，第42図）

A1地区中央北東よりに位置する。SE600の西側から南側にかけて4基の柱穴がL字状に並び，井戸にかかる上屋の一部と推測する。北東側の柱穴が検出できなかったが，井戸の規模から，2間×2間であったと思われる。南北の方位はN－6°－Wである。柱穴の平面形は円形である。柱穴の規模は直径0.19～0.30m，深さ0.10～0.21mである。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトを基調とする。出土遺物はない。

26号掘立柱建物（SB26，第43図，図版9・10）

A1地区東部南よりに位置する。南東側が調査区外にかかるが，桁行3間，梁行2間を確認している。東西棟総柱建物であると考えられる。桁行6.91m，梁行4.37m，面積30.20㎡である。主軸はN－87°－Wである。柱穴の平面形は殆どが円形であるが，SP809・SP836・SP842はやや角があり方形に近い平面形態をみせる。SP809・SP810の北西側には柱を揺らして抜き取ったと思われる痕がみられる。柱穴の規模は直径または長径0.24～0.53m，深さ0.25～0.44mである。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土質シルトの単層が多く，下層に炭化物の混ざる黒色粘土の堆積がみられるものもある。出土遺物はSP842の中世土師器皿小片がある。

27号掘立柱建物（SB27，第43図，図版9）

A1地区東部北よりの，周囲を近世の旧河道SD100に削り取られた島状部上に位置する。2間×2間を確認しているが，これ以上の規模となる可能性もある。東西棟総柱建物で，桁行4.56m，梁行4.19m，面積19.11㎡である。主軸はN－79°－Eである。柱穴の平面形は殆どが楕円形で，SP777が円形である。柱穴の規模は直径または長径0.30～0.55m，深さ0.15～0.46mである。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトの単層を基調とし，SP791の下層には黒褐色粘土がみられる。出土遺物はない。

B　柵列

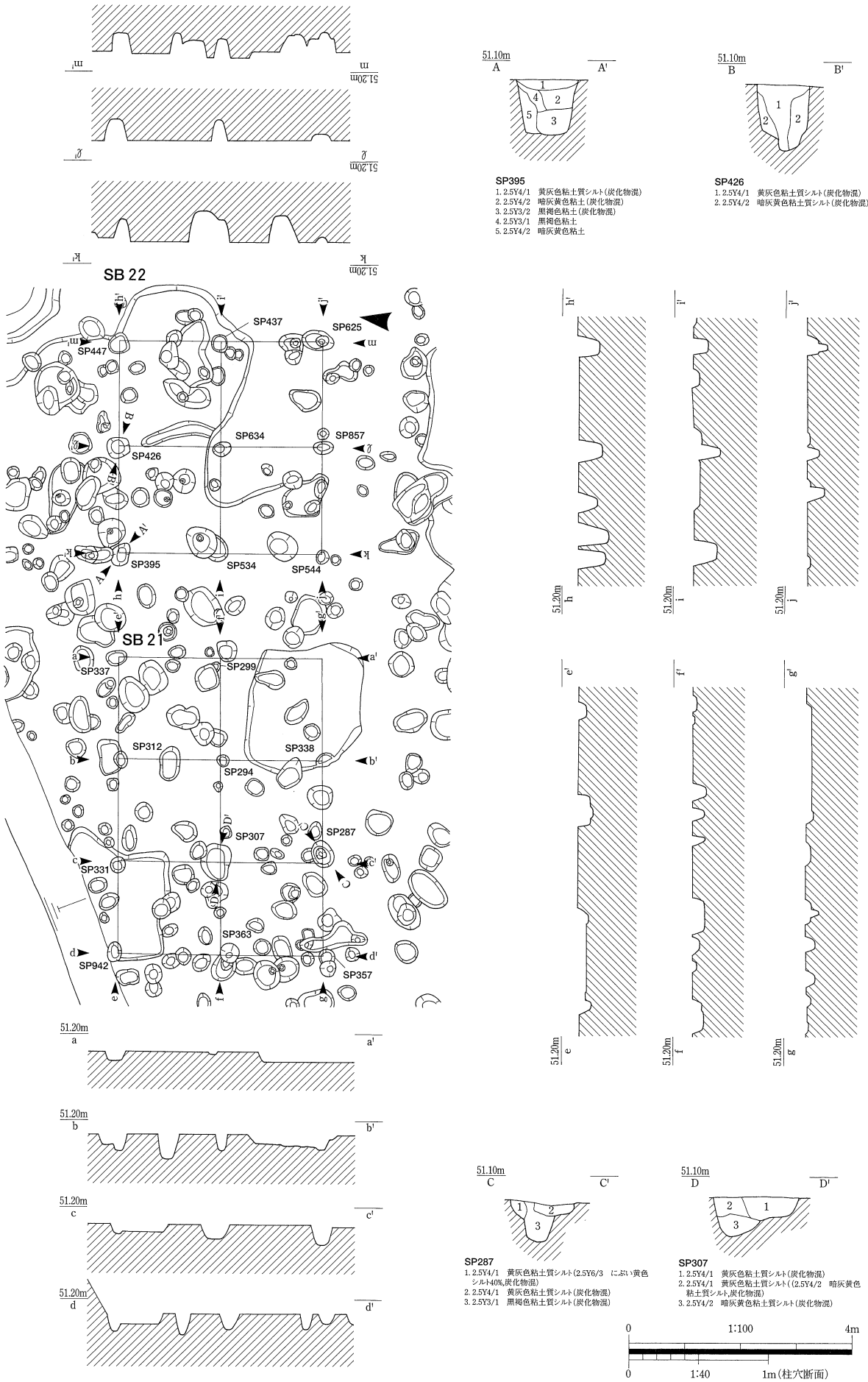
1号柵列（SA 1，第33図，図版9）

A1地区西半部中央に位置する。SD400底面の東部落ち際近くで検出した。SB 8と重複する。4基の柱穴が東西方向に並ぶ。SB 9とSB10に南北を近距離で挟まれており，これらの塀または垣と推測する。柱穴の平面形は全て円形である。規模は直径0.17～0.46m，深さ0.05～0.24mで，浅く不安定なものが多い。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土を基調とし，一部に炭化物の混ざる黄灰色・黒色粘土もみられる。出土遺物はない。

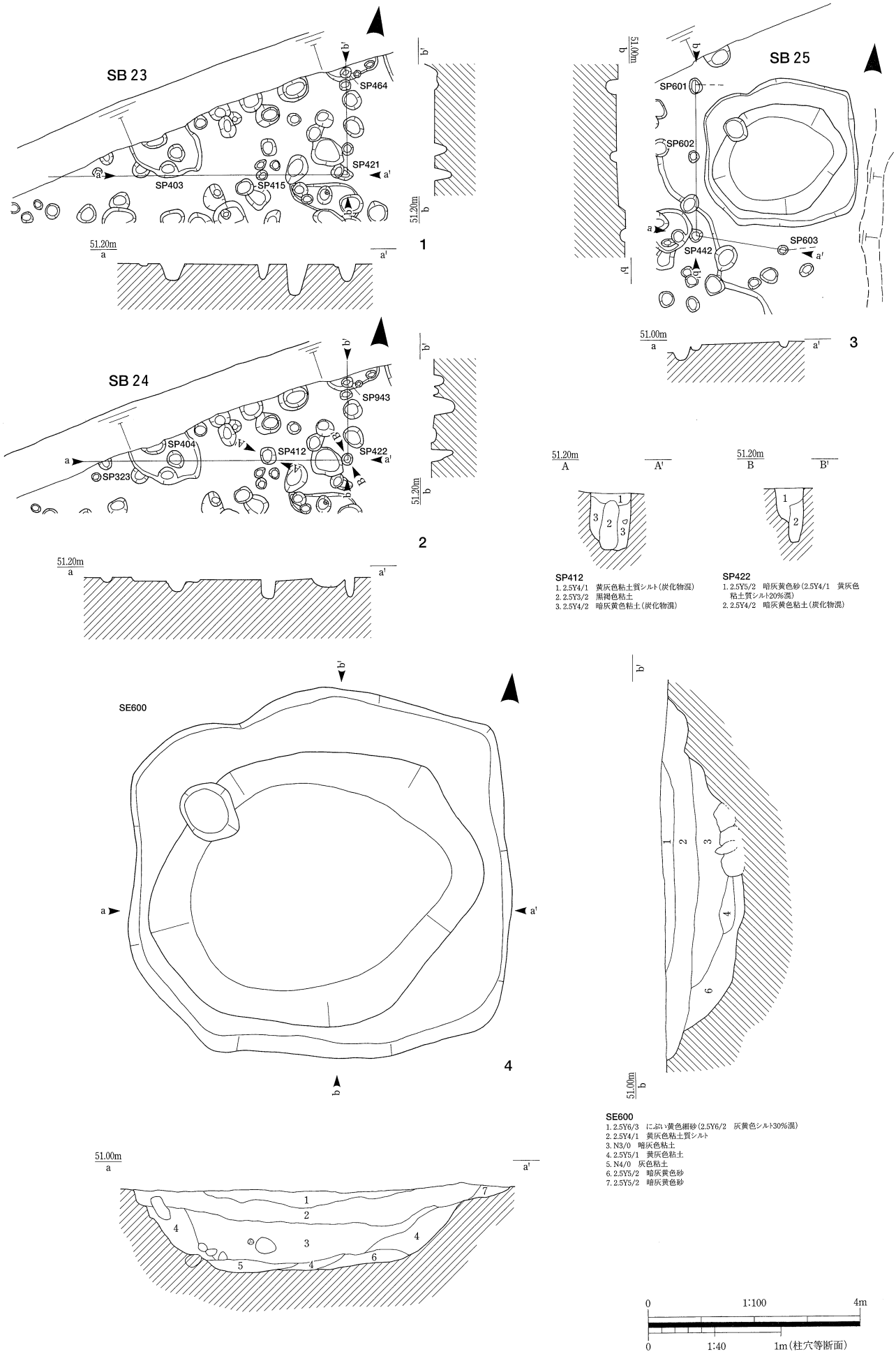
2号柵列（SA 2，第33図，図版9）

A1地区西半部中央に位置する。SD400底面の東部落ち際近くで検出した。SB 8・SA 3と重複する。3基の柱穴がSB 9の東側に沿って南北方向に並ぶ。SB 9の塀または垣と推測する。柱穴の平面形はSP659が不整形，SP663・SP697が楕円形である。規模は長径0.30～0.43m，深さ0.06～0.22mで，浅いものが多い。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土の単層である。出土遺物はない。

第40図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB20

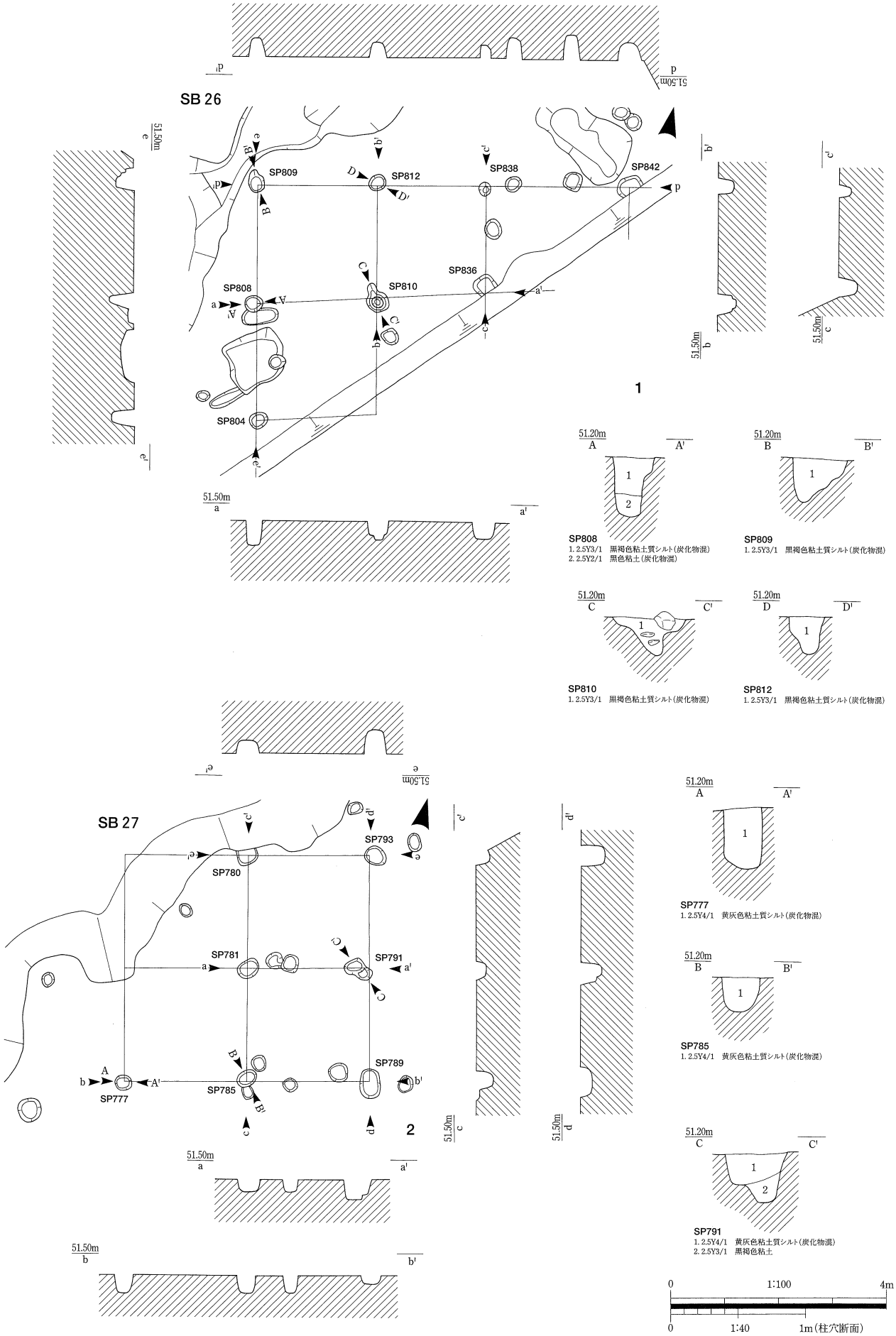


第41図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SB21・SB22



第42図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図

1. SB23　2. SB24　3. SB25　4. SE600



第43図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
1. SB26　2. SB27

3号柵列（SA 3，第32図，図版9）

A1地区西半部中央に位置する。SD400底面の東部落ち際近くで検出した。SB 8・SB 9・SA 2と重複する。3基の柱穴がSB11の南側に沿って東西方向に並ぶ。SB11の塀または垣と推測する。SP698はSB 9の柱穴SP699と重複し切られていることから，SB11・SA 3→SB 9・SB10・SA 1・SA 2の変遷が考えられる。柱穴の平面形はSP652が円形，SP698・SP712が楕円形である。規模は直径または長径0.25～0.31m，深さ0.19～0.36mである。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土の単層である。出土遺物はない。

4号柵列（SA 4，第34図，図版10）

A1地区中央部に位置する。3基の柱穴がSB12・SB13の東側に沿って南北方向に並ぶ。柱穴規模や柱間，埋土から，SB12の塀または垣と推測する。柱穴の平面形はSP 4が楕円形で，SP 8・SP120が円形である。規模は直径または長径0.18～0.38m，深さ0.13～0.37mである。埋土は炭化物混じりの黄灰色砂質シルトを基調とするが，北側のSP120は粘性と暗色が増して炭化物混じりの黒褐色粘土質シルトとなる。出土遺物はSP 8の中世土師器皿小片がある。

5号柵列（SA 5，第34図，図版10）

A1地区中央部南よりに位置する。3基の柱穴がSB12・SB13の北側に沿って東西方向に並ぶ。柱穴規模や柱間，埋土から，SB12の塀または垣と推測する。柱穴の平面形はSP13・SP19が円形で，SP887が楕円形である。規模は直径または長径0.21～0.50m，深さ0.15～0.20mである。SP19・SP887は一段掘り下げた後に中央部を深く掘り下げる掘形をもつ。SP13には縦長の礫が入り込んでいる。埋土は炭化物混じりの黄灰色砂質シルトを基調とするが，西側のSP19は粘性を増して同色の炭化物の混ざる粘土となる。出土遺物はない。

6号柵列（SA 6，第39図）

A1地区中央部東よりに位置する。7基の柱穴がSB18・SB21の西側に沿って南北方向に並ぶ。A1地区の多くの建物群と方向軸が近似する。柱穴の平面形は円形が殆どで，SP225が楕円形である。規模は直径または長径0.19～0.61m，深さ0.07～0.31mで比較的浅いものが多い。埋土は炭化物混じりの黄灰色～黒褐色粘土を基調とするが，南側の柱穴は同色の粘土質シルトとなる。出土遺物はSP61・SP376・SP871の中世土師器皿小片がある。

C　井戸

600号井戸（SE600，第42・51図，図版11・20・25・29）

A1地区中央部北東よりに位置する。西側から南側にかけて井戸の上屋と推測されるSB25の柱穴がL字状に並ぶ。平面形は隅丸方形で，一段掘り下げた中に円形の掘形をもつ。直径2.75～2.83m，深さ0.62mである。井戸底の標高は50.14mを測る。掘形はにぶい黄褐色砂層まで掘り込まれており，現在も底面付近から湧水がみられた。断面形態は浅い擂鉢状に開く。埋土は上層からにぶい黄色細砂，黄灰色粘土質シルトがレンズ状に堆積しており，井戸廃絶後窪地状になっていた部分に自然堆積したものと思われる。中層から下層に水平堆積する暗灰色粘土と灰色粘土は，井戸廃絶後に人為的に埋め戻された土である可能性が高い。中層から下層にかけて東西の壁面には地山に似た黄灰色粘土がみられ，井戸壁面の崩落土と思われる。最下層の暗灰黄色砂は，地山との境に酸化鉄の沈着がみられることから，井戸使用時に堆積した土と思われる。井戸枠などは出土しておらず，井戸廃棄時に取り去ったと考えられる。また，断面から壁面の崩落がかなり進んでいることが伺え，井戸廃絶後すぐに埋め戻しがなされなかったことが推測される。本来の規模は，直径1～1.5m程の規模であったと考えられる。

遺物は，埋土上層から中世土師器皿，珠洲擂鉢（119），珠洲甕，鞴羽口が出土している。下層の粘土層からは，珠洲小型壺（121）・擂鉢（120），漆器（122・123）が出土している。119は珠洲擂鉢の口縁部。本来つまむような口縁部だったと思われるが端部が摩滅し丸みを帯びる。内面に卸目と思われる櫛状痕が僅かにみられる。直線的に外傾する器形である。Ⅰ～Ⅱ期（12世紀中葉前後～13世紀前半）。120も珠洲擂鉢。内面素文で外底面に静止糸切り痕を残す底部片。軟質焼成で，胴部下半に丸い膨らみを持つ器形である。Ⅰ期（12世紀中葉前後～13世紀初頭）。121は珠洲小型壺。内外面とも回転ナデ，外面下半を回転ヘラ削りする。外底面には静止糸切り痕と粗い指撫でを残す。体部は1/2程残存し，口縁部は欠く。Ⅰ期（12世紀中葉前後～13世紀初頭）。122は漆器椀の体部片。樹種はケヤキ。出土当初は口径12～13㎝，器高5～6㎝の形態を保っていたが，木胎部の残存状態が極めて悪く，現在は体部下半の木胎部の一部と漆塗膜のみが残存する。塗膜片には黒色系漆地の上に朱漆で描かれた魚文がみられる。魚文の大きさと漆塗膜の残存幅から，1点の漆椀に3匹の魚が左横向きで描かれていたと考えられる。123は122よりやや下層から出土しており，出土状況から別個体と考えられる。黒色系漆地の上に朱漆で122と同様の魚文が描かれるが，水草が中心の意匠となっている。残存状態が悪く漆塗膜しか残存していないが，漆絵の全体的な配置から皿内面と考えられる。122・123ともに分析結果は漆下地・漆多層塗りの上質なもので，草魚文漆絵の意匠は下馬周辺遺跡（鎌倉市）等に類例がみられるが，魚の細部を描いている等の点で，珍品といえるとのことである[注1]。

D　溝

20号溝（SD20，第44図）

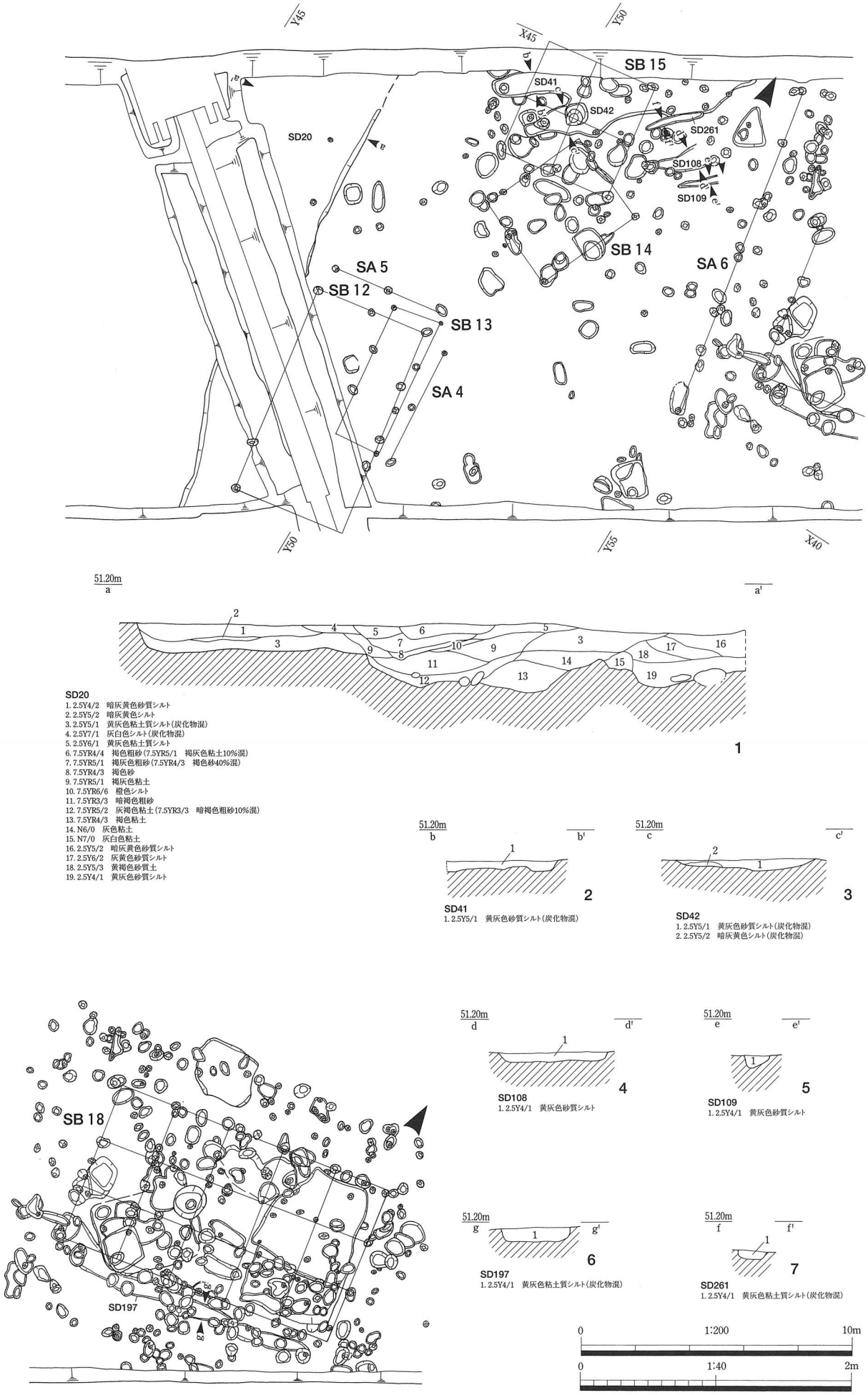
A1地区中央部を南から北へ向かって流れる。現在の農業用水路と重複しており，水路を挟んで西側で西肩，東側で東肩を検出している。SB12が東側に沿って位置するが，南西側の柱穴SP774・SP775が溝埋土を切り込んでいるため，SD20はSB12が建つ以前からあったものと思われる。幅3.1～5.2m，深さ0.50mである。埋土は，東の落ち際には暗灰黄色～黄灰色の砂質シルト～粘土質シルト，西の落ち際には灰黄色・暗灰黄色等の砂質シルトの堆積がみられる。中央の一段深くなった範囲では，西側に黄灰色粘土質シルト・灰色～褐色粘土が水平堆積し，これを切り込む形で上層に褐色～褐灰色粗砂・砂利層，中層に橙色シルトと褐灰色粘土，下層に暗褐色粗砂と灰褐色粘土の堆積がみられる。埋土断面から3・4回の流路の変遷があったことが伺える。遺物は，土師器甕胴部小片，中世土師器皿小片多数，珠洲擂鉢が出土している。

41号溝（SD41，第44図）

A1地区中央部北北端に位置する。南西から北東方向に延び，SD42に繋がる。幅0.80m，深さ0.08mを測る。埋土は炭化物混じりの黄灰色砂質シルトの単層で，水流による堆積層がみられないことから，畠など耕作に伴う鋤溝であると考える。SB15の柱穴SP32･SP335を切っており，集落廃絶後に畠となっていたことが推測される。遺物は中世土師器皿小片多数，磁器蓋，鞴羽口が出土している。

42号溝（SD42，第44・52図，図版25）

A1地区中央部北よりに位置する。SD41の南側を南西から北東方向に向かって併走し，SD41に繋がる。幅1.10m，深さ0.08mを測る。埋土は炭化物混じりの黄灰色砂質シルトを基調とし，一部下層に炭化物の混ざる暗灰黄色シルトが堆積する。SD41と同様に畠など耕作に伴う鋤溝であると考えられる。SB15の柱穴SP70・SP335を切っており，集落廃絶後に畠となっていたことが推測される。また南東側でSD261に切られていることから，SD261と同時期の鋤溝SD108・SD109よりも古い段階の耕作跡であると考えられる。遺物は中世土師器皿小片多数，珠洲擂鉢（124），鞴羽口が出土している。124は珠



第44図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図

1. SD20　2. SD41　3. SD42　4. SD108　5. SD109　6. SD197　7. SD261

洲擂鉢の口縁部。口縁部は僅かに外傾する方頭である。Ⅱ期（13 世紀前半）と考えられる。

108 号溝（SD108，第 44 図）

A1 地区中央部北よりに位置する。SD261 の南側を南西から北東方向に向かって併走する。北東部分は表土直下からの攪乱により消滅する。最大幅 0.87m，深さ 0.07m を測る。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトの単層で，水流による堆積層がみられないことから，畠など耕作に伴う鋤溝であると考えられる。SD109・SD261 と同方向・同一埋土であるため，SD41・SD42 より一段階新しい鋤溝であると考えられる。遺物は出土していない。

109 号溝（SD109，第 44 図）

A1 地区中央部北よりに位置する。SD108 の南側を南西から北東方向に向かって併走する。北東部分は表土直下からの攪乱により消滅する。幅 0.26m，深さ 0.09m を測る。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトの単層で，水流による堆積層がみられないことから，畠など耕作に伴う鋤溝であると考えられる。SD108・SD261 と同方向・同一埋土であるため，SD41・SD42 より一段階新しい鋤溝であると考えられる。遺物は出土していない。

197 号溝（SD197，第 44 図）

A1 地区中央部南東よりに位置する。SB18 の南側に沿って東西方向に延びており，掘立柱建物に付随する雨落ち溝であったと考えられる。幅 0.55m，深さ 0.11m を測る。SB16・SB17 の柱穴に切り込まれていることから，SB18 → SB16・SB17 の建物変遷が考えられる。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトの単層である。遺物は中世土師器皿小片が出土している。

261 号溝（SD261，第 44 図）

A1 地区中央部北よりに位置する。SD41 の南側を南西から北東方向に向かって併走し，北東部分で SD41 を切る。幅 0.25m，深さ 0.07m を測る。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトの単層で，水流による堆積層がみられないことから，畠など耕作に伴う鋤溝であると考えられる。SD108・SD109 と同方向・同一埋土であるため，SD41・SD42 より一段階新しい鋤溝であると考えられる。遺物は出土していない。

2005 号溝（SD2005，第 45 図，図版 8）

C1 地区東部北よりに位置し，南北方向に延びる。幅 0.27m，深さ 0.04m を測る。埋土は小礫の混ざるオリーブ褐色砂の単層である。西に併走する SD2019 とほぼ同じ埋土であり，同時期のものと思われる。遺物は出土していない。

2019 号溝（SD2019，第 45 図，図版 8）

C1 地区東部北よりに位置し，南北方向に延びる。最大幅 1.42m，深さ 0.18m を測る。埋土はオリーブ褐色砂に黒褐色粘質土の混ざる単層で，小礫が多く混入する。東に併走する SD2005 とほぼ同じ埋土であり，同時期のものと思われる。遺物は須恵器双耳瓶・甕が出土している。

2038 号溝（SD2038，第 45 図，図版 8）

C1 地区東部中央に位置し，南北方向に延びる。南側はトレンチに切られて消滅する。幅 0.73m，深さ 0.05m を測る。埋土は暗灰黄色粘質土の単層である。SD2038 の延長上に埋土を同じくする溝 SD2039・SD2041・SD2042 があり，一連の溝である可能性が高い。また東に併走する SD2040 とほぼ同じ埋土であり，同時期のものと思われる。遺物は出土していない。

2039 号溝（SD2039，第 45 図，図版 8）

C1 地区東部南よりに位置し，南北方向に延びる。幅 0.30m，深さ 0.08m を測る。埋土は暗灰黄色粘

質土の単層である。SD2039の延長上に埋土を同じくする溝SD2038・SD2041・SD2042があり，一連の溝である可能性が高い。また東に併走するSD2040とほぼ同じ埋土であり，同時期のものと思われる。遺物は出土していない。

2040号溝（SD2040，第45図，図版8）

C1地区東部東よりに位置し，南北方向に延びる。幅1.02～3.20m，深さ0.08mを測る。埋土は暗灰黄色粘質土に黒褐色粘質土の混ざる単層である。西に併走するSD2038・SD2039・SD2041・SD2042とほぼ同じ埋土であり，同時期のものと思われる。遺物は出土していない。

2041号溝（SD2041，第41図，図版8）

C1地区東部北端に位置し，南北方向に延びる。幅0.41m，深さ0.07mを測る。埋土は暗灰黄色粘質土の単層である。SD2041の延長上に埋土を同じくする溝SD2038・SD2039・SD2042があり，一連の溝である可能性が高い。また東に併走するSD2040とほぼ同じ埋土であり，同時期のものと思われる。遺物は出土していない。

2042号溝（SD2042，第45図，図版8）

C1地区東部北よりに位置し，南北方向に延びる。幅0.63m，深さ0.08mを測る。埋土は暗灰黄色粘質土の単層である。SD2042の延長上に埋土を同じくする溝SD2038・SD2039・SD2041があり，一連の溝である可能性が高い。また東に併走するSD2040とほぼ同じ埋土であり，同時期のものと思われる。遺物は出土していない。

2201号溝（SD2201，第46図）

C2地区中央南よりを南北に流れる。幅0.33m，深さ0.11mを測る。埋土は褐灰色粘土質シルトを基調とし，にぶい黄褐色砂が薄く互層をなす水成堆積を示す。北の延長上には埋土を同じくする溝SD2202があり，一連の溝である可能性が高い。遺物は出土していない。

2202号溝（SD2202，第46・52図，図版25）

C2地区中央北よりを南北に流れる。最大幅0.88m，深さ0.16mを測る。埋土は褐灰色粘土質シルトを基調とし，にぶい黄褐色砂が薄く互層をなす水成堆積を示す。南の延長上には埋土を同じくする溝SD2201があり，一連の溝である可能性が高い。遺物は珠洲擂鉢（130），唐津鉢が出土している。130は珠洲擂鉢の底部。内面の卸目は，8目1単位の比較的細密な櫛歯原体を用いて，直線文を＋→＊の順に底面で交差させる入り組み技法をとる。外底面に静止糸切り痕を残す。Ⅱ期～Ⅲ期（13世紀前半～1270年代）のものと考えられる。

2203号溝（SD2203，第46図）

C2地区中央南よりに位置し，東西方向に延びる。幅0.35m，深さ0.06mを測る。埋土は暗褐色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

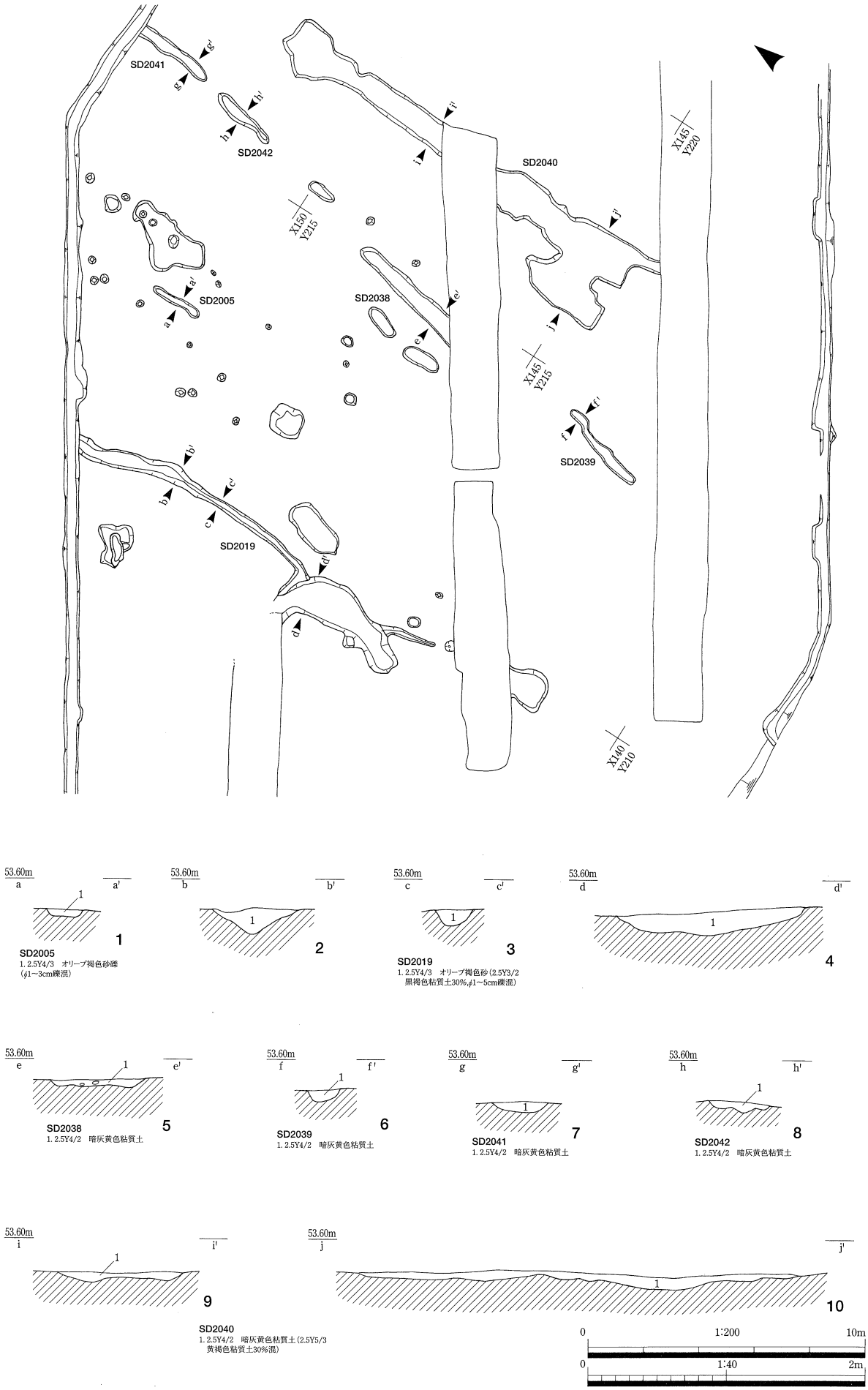
E　土坑

55号土坑（SK55，第47図）

A1地区中央南よりに位置する。平面形は隅丸方形で，長径1.38m，短径1.05m，深さ0.29mを測る。埋土は上層に炭化物の混ざる黄灰色～暗灰黄色砂質シルト，下層に黒褐色砂質シルトが堆積する。南側の柱穴状に丸く落ち込む部分には黒褐色粘土質シルトの堆積がみられる。遺物は中世土師器皿小片が出土している。

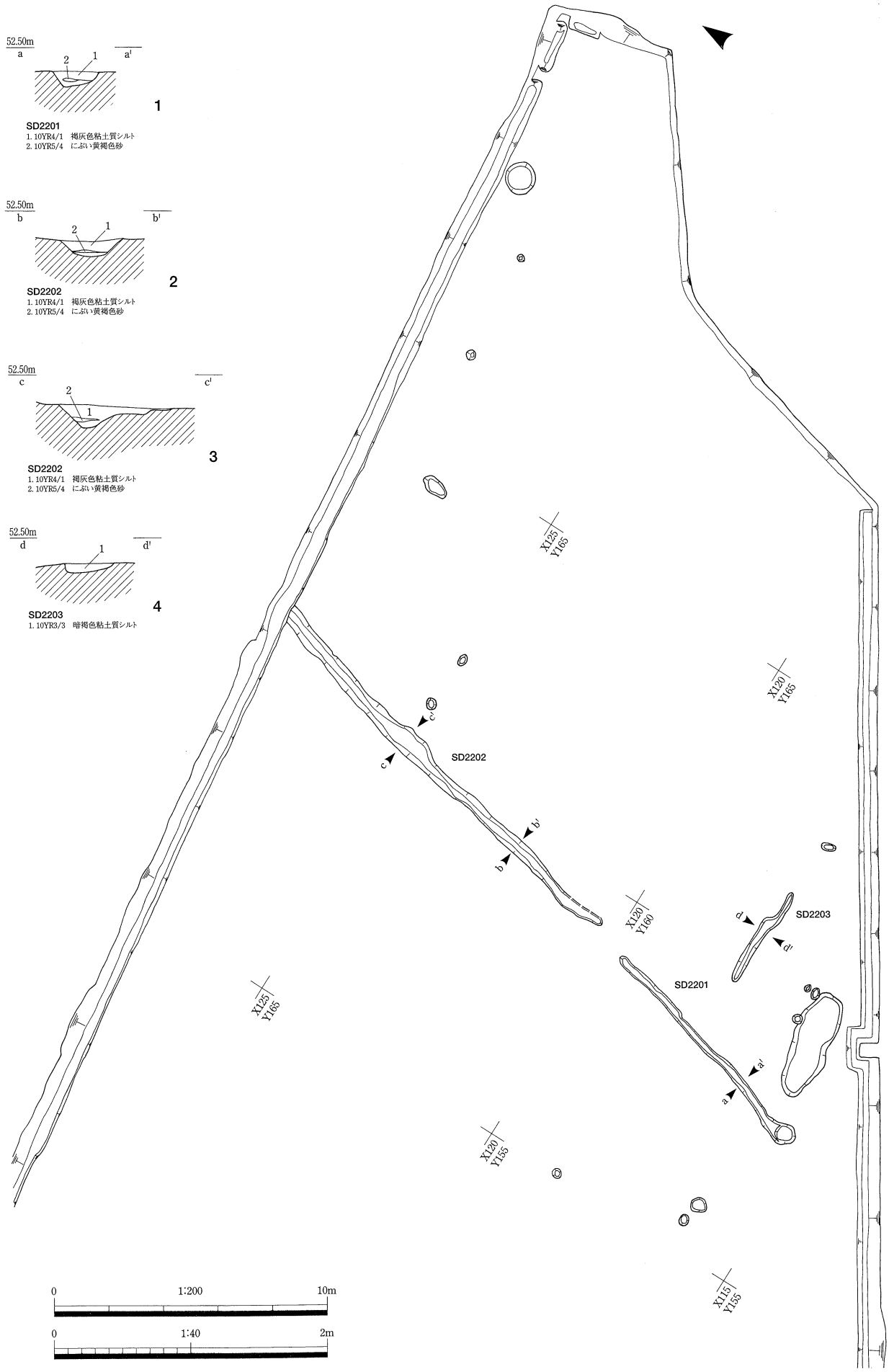
57号土坑（SK57，第47図）

A1地区中央南端のSK55南に位置する。南半が調査区外にかかるが，平面形は楕円形と思われる。



第45図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図

1. SD2005　2～4. SD2019　5. SD2038　6. SD2039　7. SD2041　8. SD2042　9・10. SD2040



第46図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
1. SD2001　2・3. SD2202　4. SD2203

長径 1.19m，深さ 0.28m を測る。埋土は上層に炭化物混じりの黄灰色～暗灰黄色砂質シルト，下層に黒褐色粘土質シルトが堆積する。遺物は出土していない。

133 号土坑（SK133，第 52 図，図版 22）

A1 地区中央南端に位置する。平面形は楕円形で，長径 0.49m，深さ 0.14m を測る。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトの単層である。遺物は中世土師器皿（131）が出土している。131 は口縁部をつまむように一段ナデする中世土師器皿。13 ～ 14 世紀のものである。

146 号土坑（SK146，第 47 図）

A1 地区中央南東よりに位置し，SB16・SB17・SB18 に近接する。平面形は円形で，直径 0.58m，深さ 0.12m を測る。埋土上層は黄灰色粘土質シルト，下層は炭化物を多く含む黒褐色粘土質シルトが堆積する。下層から炭化材に混ざって炭化米が出土しており，DNA 分析を実施した。その他遺物は中世土師器皿小片が出土している。

177 号土坑（SK177，第 47 図，図版 11）

A1 地区中央南東よりの SB16・SB17 範囲内に位置する。平面形は円形で直径 0.40 ～ 0.50m，深さ 0.50m を測る。埋土上層には黄灰色砂質シルト，暗灰黄色粘土質シルト等がレンズ状に堆積し，下層は黒褐色粘土質シルトとなる。下層の中心部には黄灰色粘土の柱痕がみられ，断面形態からは柱穴であると考えられるが，建物を構成し得なかったためここでは土坑として扱った。SB16 か SB17 の建て直しに伴う柱穴である可能性もある。埋土は全て炭化物混じりで，炭化材，炭化米，オオムギ，焼骨片などが含まれていた。炭化米については DNA 分析を実施した。その他に遺物は鉄滓が出土している。

200 号土坑（SK200，第 47・52 図，図版 24）

A1 地区中央南東よりの SB18 範囲内に位置する。SD201・SK214・SK480 を切る。平面形は円形で，直径 1.29m，深さ 0.34m を測る。断面形は一段掘って更に中央部を深く掘る二段掘りである。埋土はレンズ状に堆積しており，上層から順に，炭化物混じりの黄灰色粘土質シルト，暗灰黄色粘土，炭化物の混ざる黒褐色粘土質シルト，暗灰黄色砂，炭化物の混ざる黒褐色粘土質シルトが堆積する。遺構廃棄後に意図的な埋め戻しがなされず，自然堆積したことが伺える。SB18 の主軸上に位置することから，SB18 に関連する遺構であったことも推測できる。遺物は中世土師器皿小片多数，珠洲甕胴部片，白磁，青磁（132）が出土している。遺物の年代から，13 世紀中葉～ 14 世紀初頭の時期が考えられる。132 は龍泉窯系青磁坏Ⅲ－ 4 類。厚く釉がかかり，体部外面に鎬蓮弁文を有する。F 期（13 世紀中頃～ 14 世紀初頭前後）。

206 号土坑（SK206，第 47・52 図，図版 24）

A1 地区中央南東よりの SB17・SB18 範囲内に位置する。平面形は楕円形で，長径 1.50m，短径 0.57m，深さは東の最も深い部分で 0.25m を測る。西側は SB17 の柱穴 SP205 に切られる。埋土は黄灰色粘土質シルトを基調とし，上層には炭化物が混ざる。東の深い部分には炭化物の多く混ざる黒褐色粘土が堆積する。遺物は中世土師器皿小片，青磁（133）が出土している。133 は龍泉窯系青磁の大坏か小盤Ⅲ類である。外面に蓮弁文がみられる。

214 号土坑（SK214，第 47 図）

A1 地区中央南東よりの SB18 範囲内に位置する。SK200 に切られ，SK480 を切る。平面形は不整形で，直径 1.75m，深さ 0.20m を測る。埋土は上層から順に黄灰色粘土質シルト，オリーブ褐色砂質土，黄灰色粘土質シルトが堆積し，全てに炭化物が混ざる。遺物は中世土師器皿小片がある。

249 号土坑（SK249，第 48・52 図，図版 24）

A1 地区中央東よりに位置し，SK250 を切る。しかし明確な掘り込みはみられず，SK250 上に生じた窪みに自然堆積したもののように思われる。平面形は不整形で，長径 0.56m，短径 0.44m，深さ 0.08m を測る。埋土は炭化物の混ざる暗灰黄色粘土質シルトの単層である。遺物は青磁（134）が出土している。134 は龍泉窯系青磁椀Ⅰ類。高台内部を浅く篦削りし，肉厚の底部とする。高台畳付と内部は露胎である。D 期（12 世紀中頃～後半）。

250 号土坑（SK250，第 48 図，図版 11）

A1 地区中央東よりに位置する。SB18 の柱穴 SP611 と SB19 の柱穴 SP498 を切る。中央部から南側にかけて表土直下からの攪乱を受けており，平面形が不明瞭となっているが，埋土の範囲からおおよその形態を決めた。長さ 2.90m，幅 1.17m の不整形で，深さ 0.32m を測る。埋土は水平堆積であるが，上層の黄灰色粘土質シルト，にぶい黄色シルト，黒褐色粘土質シルトの堆積には乱れがある。下層には黒色の強い粘性のある土を基調とする灰・炭化物層がほぼ全面にみられ，東部分の一段深くなっている部分のみ炭化物の混ざる黒褐色粘土が堆積する。SP611・SP498 は SK250 の底面で検出していることから，SB18・SB19 の廃絶後に遺構が形成され，その後埋め戻しがなされなかったため自然堆積したことが考えられる。また，下層に厚い所では 0.10m の灰・炭化物層が堆積していることから，遺構形成直後にこの辺りが燃えていることが推測される。なお SK250 底面には焼土や被熱による硬化など直接の被熱痕は認められなかったことから，焼成土坑である可能性は考えがたい。遺物は中世土師器皿小片が多数出土している。

260 号土坑（SK260，第 48 図）

A1 地区中央北東よりに位置する。SB20 の柱穴 SP258 と SB21 の柱穴 SP338 を切る。平面形は隅丸方形であるがやや歪む。長さ 2.48m，幅 1.80m，深さ 0.16m を測る。埋土は上層から黄灰色粘土質シルト，暗灰黄色粘土，黒色の灰・炭化物層がレンズ状に堆積する。SP258 と SP338 は SK260 の底面で検出していることから，SB20・SB21 の廃絶後に遺構が形成されたことが伺える。また SK250 と同様に，遺構形成後しばらく埋め戻しがなされなかったため自然堆積したことと，最下層の灰・炭化物層から遺構形成直後にこの辺りが燃えていることが推測される。遺物は中世土師器皿小片が出土している。

274 号土坑（SK274，第 48・52 図，図版 22）

A1 地区中央東よりに位置する。SB18 の柱穴 SP275 を切る。平面形は不整形で，長さ 1.63m，幅 1.20m，深さ 0.35m を測る。下層には大きく 2 回の切り合いが認められ，東部分には黒褐色粘土とオリーブ褐色粘土質シルト，西部分には暗灰黄色粘土質シルトと黄灰色粘土がみられる。埋土には全て炭化物が混ざる。埋土上層には黄灰色粘土質シルトと黒色の粘土を基調とする灰・炭化物層が堆積しており，遺構埋没後浅い窪地状になった所に SK250・SK260 と同様の土が二次堆積したことが推測できる。遺物は中世土師器皿（135）が出土しており，その他に小片多数がある。135 は口縁部に幅の狭い横ナデをする中世土師器皿。15 世紀以降のものか。

277 号土坑（SK277，第 52 図，図版 22）

A1 地区中央南東よりの SB18 範囲内に位置する。平面形は円形で直径 0.25m，深さ 0.23m を測る。埋土上層は黄灰色粘土質シルト，下層は黒褐色粘土質シルトが水平堆積し，いずれにも炭化物の混入がみられる。遺物は中世土師器皿（136）が出土している。136 は口縁部を一段ナデして端部外面を面取りする中世土師器皿。端部はやや丸みを帯びる。13 世紀初頭～前半のものである。

280 号土坑（SK280，第 48・51・52 図，図版 20・22・25）

A1 地区中央東よりに位置する。SB18 の柱穴 SP279 と重複し，これを切る。平面形は楕円形で，長径 0.72m，短径 0.45m を測る。一段掘り下げた中に円形の掘形をもち，深さは 0.39m を測る。埋土は上層から炭化物の混ざる黄灰色粘土質シルト，黒褐色粘土質シルト，暗灰黄色粘土が堆積する。断面には柱痕などはみられないが，SB18 の建て直しに伴う柱穴である可能性も考えられる。遺物は中世土師器皿（116・137・138），珠洲甕（139）が出土している。116 は SB21 の柱穴 SP363 出土破片と接合する。116 は口縁部を一段ナデして端部外面を面取りする。端部はやや丸みを帯びる。13 世紀前半のものである。138 は完形品。口縁部を一段ナデし，油煙が付着する。13 ～ 14 世紀のものである。139 は珠洲甕の底部。外面は横ナデした上に叩きを施し，底部は砂底である。器壁の厚さは均一で丁寧に仕上げている。

351 号土坑（SK351，第 52 図，図版 22）

A1 地区中央北東よりに位置する。SB21 の柱穴 SP357 と重複し，切られる。平面形は不整形で，長さ 1.22m，深さ 0.18m を測る。埋土は炭化物の多く混ざる黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は中世土師器皿（140）が出土している。140 は口縁部を一段ナデして端部外面を面取りする。端部は丸みを帯びる。13 ～ 14 世紀のものである。

374 号土坑（SK374，第 48 図）

A1 地区中央北よりに位置する。平面形は楕円形で，長径 0.61m，短径 0.47m，深さ 0.18m を測る。埋土上層に黄灰色粘土質シルト，下層に黒褐色粘土質シルトが堆積し，下層に多くの炭化物が含まれていた。炭化物のうち炭化米については DNA 分析を実施した。遺物は中世土師器皿小片多数，焼骨片が出土している。

377 号土坑（SK377，第 52 図，図版 22）

A1 地区中央東よりに位置する。平面形は円形で，直径 0.21m，深さ 0.25m を測る。埋土は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトの単層である。遺物は中世土師器皿（141），炭化材が出土している。141 は口縁部を一段ナデする大型の中世土師器皿。13 世紀代のものである。

381 号土坑（SK381，第 52 図，図版 22）

A1 地区中央北端に位置する。SK373 底面で検出した。平面形は円形で，直径 0.29m，深さ 0.17m を測る。埋土上層には黒褐色粘土質シルト，下層には黄灰色粘土質シルトが堆積し，上層に特に多く炭化物が混入する。遺物は中世土師器皿（142）が出土している。142 は口縁部を一段ナデする。13 ～ 14 世紀のものである。

388 号土坑（SK388，第 48・58 図，図版 31）

A1 地区中央北東よりに位置する。平面形は円形で，直径 0.55m，深さ 0.59m を測る。埋土上層は黄灰色粘土質シルト，下層は暗オリーブ褐色・黒褐色・黒色粘土が堆積し，一部に暗灰黄色シルトがみられる。掘形や断面形態は柱穴であるが，柱痕はみられず，建物も構成しない。遺物は中世土師器皿小片，砥石（274）が出土している。274 は中砥。砥面は 3 面である。砥面にねじれと反りがみられ，鎌を含めた何種類かの刃物を研いでいたと思われる。石材は流紋岩である。

420 号土坑（SK420，第 52 図，図版 21）

A1 地区中央北東よりに位置する。平面形は円形で，直径 0.57m，深さ 0.15m を測る。埋土は黄灰色粘土質シルト，炭化物の混ざる暗灰黄色粘土質シルトが堆積する。遺物は中世土師器皿小片，珠洲鉢（129）が出土している。129 は珠洲鉢。SD400 範囲内に堆積した中世包含層及び東側の遺物包含層出土破片と接合する。体部が丸みを帯びる器形で，器壁は均一につくられる。口縁部は端部をつまむように

整形し，口端面には摩耗しているが櫛目波状文がみられる。Ⅰ期（12 世紀中葉前後～ 13 世紀初頭）。

439 号土坑（SK439，第 53 図，図版 25）

A1 地区中央北東よりに位置する。平面形は円形で，直径 0.69m，深さ 0.22m を測る。埋土上層は炭化物混じりのオリーブ褐色砂質土，下層は炭化物混じりの黄褐色シルトが堆積し，南東側の肩には暗灰黄色粘土や炭化物の混ざる黒褐色粘土質シルトもみられる。遺物は中世土師器皿小片，珠洲擂鉢（152）が出土している。152 は珠洲擂鉢の底部。SK591 出土破片と接合する。特徴については SK591 で記述する。Ⅲ～Ⅳ期（13 世紀中葉頃～ 1370 年代）のものである。

480 号土坑（SK480，第 47・52 図，図版 22）

A1 地区中央南東よりの SB18 範囲内に位置する。SK200・SD201・SK214 に北部分を切られる。また SB17 の柱穴 SP501 と SB18 の柱穴 SP169・SP476・SP547 を切る。表土直下からの攪乱の影響を受けていることと，遺構の切り合いが著しいことから，遺構形態は不明瞭であるが，埋土の広がりから隅丸方形に近い形になるのではないかと考えた。長さ 3.38m，幅 2.85m，深さ 0.26m を測る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土質シルトで，中央部と南部の一段深い部分に黄灰色粘土がみられる。遺物は中世土師器皿（143），珠洲擂鉢・甕が出土している。143 は口縁部を一段ナデする中世土師器皿。13 ～ 14 世紀のものである。

528 号土坑（SK528，第 49 図）

A1 地区中央南東よりに位置する。SB18・SB19 の範囲内にあり，SK591 を切る。平面形は楕円形で，長径 0.50m，短径 0.29m，深さ 0.36m を測る。埋土は炭化物の混ざる黒褐色粘土質シルト・粘土で，一部に炭化物混じりの黄灰色粘土質シルトがみられる。炭化物には稲，オオムギ，ムギ類等が含まれている。その他の遺物は出土していない。

557 号土坑（SK557，第 48・52 図，図版 24）

A1 地区中央南端に位置する。南部分は調査区外にかかるが平面形は楕円形と思われ，長径 0.71m，深さ 0.37m を測る。埋土はレンズ状の堆積がみられ，上層から炭化物混じりの黄灰色・暗灰黄色粘土質シルト，黒褐色粘土が堆積し，北東の一段深くなった部分にはオリーブ褐色粘土が堆積する。遺物は青磁椀（144）が出土している。144 は龍泉窯系青磁椀。薄く釉がかかり，内面にヘラ片彫りを施す椀Ⅰ－ 4 類である。D 期（12 世紀中頃～後半）。

575 号土坑（SK575，第 50 図）

A1 地区中央南東よりに位置する。北側で SK578 を切る。平面形は楕円形で，長径 0.73m，短径 0.56m，深さ 0.27m を測る。埋土は上層から黄灰色粘土質シルトと暗灰黄色粘土が水平堆積し，中央やや西よりに黒褐色粘土層が柱痕状にみられる。埋土には全て炭化物が混ざる。出土遺物はない。

578 号土坑（SK578，第 50 図）

A1 地区中央南東よりに位置する。北側で SK585 を切り，南側を SK575 に切られる。平面形は楕円形で，長径 0.82m，深さ 0.44m を測る。埋土上層は炭化物混じりの黄灰色粘土質シルト，下層は黒褐色粘土を基調とし，上層と下層の境に黄褐色シルト，暗灰黄色粘土質シルトなどが堆積する。上層と中層には植物による浸食がみられる。遺物は出土していない。

581 号土坑（SK581，第 52 図，図版 25）

A1 地区中央南東よりに位置し，SK591 を切る。平面形は円形で，直径 0.40m，深さ 0.35m を測る。埋土は，上層に黄灰色粘土質シルト，中層に黒褐色粘土質シルト，下層に黒褐色粘土が水平堆積し，全てに炭化物の混入がみられる。遺物は中世土師器，珠洲（145）が出土している。145 は珠洲擂鉢の底部。

内面が摩耗しているが，12 目 1 単位の直線的な卸目が薄く残る。

584 号土坑（SK584，第 50 図）

A1 地区中央東よりに位置し，SB19 北西角の柱穴を切る。平面形は不整形で，長さ 1.10m，深さ 0.53m を測る。埋土は上層に黄灰色～黒褐色粘土質シルト，下層に黒色～黒褐色粘土が堆積する。埋土には全て炭化物が混ざる。遺物は中世土師器皿小片が多数出土している。

585 号土坑（SK585，第 50 図）

A1 地区中央南東よりに位置する。南側を SK578 に切られる。平面形は楕円形で，長径 0.97m，深さ 0.33m を測る。埋土は上層から黒褐色・暗灰黄色粘土，黄褐色シルト，黒褐色粘土がレンズ状に堆積し，上層の東側一部黒褐色粘土がみられる。埋土には全て炭化物が混ざる。遺物は出土していない。

591 号土坑（SK591，第 49・53・58 図，図版 10・17・20・22・24・25）

A1 地区中央南東よりに位置する。SB18 に伴う，土間などの作業場が想定される竪穴状土坑である。平面形は隅丸の長方形で長さ 5.44m，幅 3.30m，検出面からの深さは南側の深い所で 0.36m を測る。北部分の上半約 0.25m は表土直下からの攪乱により削平されている。埋土には南北に切り合いがみられ，南半分は炭化物の混ざる黄灰色粘土，北半分は黒色粘土を基調とする灰・炭化物層である。SB18 の柱穴 SP639・SP927，SB19 の柱穴 SP473・SP514・SP516・SP568・SP637，SB17 の柱穴 SP515・SP583 と重複する。SB18 の柱穴は SK591 に切られており，全て底面で検出していることから，SB18 とほぼ同時期の遺構であると考えられる。SB19 は SK591 の方形プランに沿って柱穴が並ぶ側柱建物で，SK591 の形態を意識して建てられていることがわかる。しかし柱穴は全て SK591 を切っていることから，SB19 は SK591 を一度埋め戻した後に再利用する形で建てられたと考えた。加えて SK591 の南北の切り合いから，SB18 併行期には長方形の形態で，SB19 併行期には北部分を掘り直して方形の形態で使用されていた可能性が高い。また，北半分の埋土には 0.10 ～ 0.35m の厚さで灰・炭化物が極めて多量に含まれていることから，SB19 が直接火災の被害に遭い SK591 北半部に残骸が堆積したか，或いは周囲が著しく燃えて灰などが SK591 北半部に流れ込んだのではないかと推測される。また SB17 の柱穴も SK591 を切り込んでいることから，更に新しい段階の建物であると考えられる。従って，建物変遷は SB18 → SB19 → SB17 と考えられる。遺物は中世土師器皿（146・147 ほか小片多数），珠洲擂鉢（151 ～ 153），珠洲甕，白磁（148），青磁（149･150），鞴羽口（154），砥石（271），金属製品（277･278）が出土している。146 はロクロ成形の中世土師器皿。厚い底部から口縁部を薄く挽き出し，外底面に回転糸切り痕を残す。12 世紀後半のものである。147 は口縁部を一段ナデする薄手の皿。色調は灰白色で，口唇部内外面に油煙が付着する。14 世紀。148 は白磁椀Ⅸ類。口縁部を外反させ，端部の釉を掻き取り口禿げとする。F 期（13 世紀中頃～ 14 世紀初頭前後）である。149・150 は龍泉窯系青磁。149 は外部外面に鎬蓮弁文を有する椀Ⅱ－ b 類である。E 期（13 世紀初頭前後～前半）。150 は坏Ⅲ－ 1 類。厚く釉がかかる。F 期（13 世紀中頃～ 14 世紀初頭前後）。151 は珠洲擂鉢の口縁部。外傾口縁で端部は方形に仕上げる。内面はやや摩耗するが直線的な卸目を引く。Ⅳ期（1280 年～ 1370 年代）。152 は珠洲擂鉢の底部。SK439 出土破片と接合する。約 1/2 残存しており，8 目 1 単位の直線的な卸目を 7 本入り組ませていることが判る。内面は摩耗する。軟質で外面に爆ぜたような小穴が目立ち，二次被熱した可能性がある。Ⅲ期～Ⅳ期（13 世紀中葉頃～ 1370 年代）。153 も珠洲擂鉢。口縁部をやや薄く挽き出し端部をつまむようにし，外傾させる。内面は使用による摩耗がみられるが，鋭利な櫛目原体による直線的な卸目を引く。卸目の引き方は＊状の規則的なものではないようで，約 1/2 の残存範囲をみると 7 本の卸目が見える。外底面には静止糸切り痕がみえる。Ⅱ期（13 世紀前半）。271 はやわらかめの中砥。礫材を整形し，砥石として少し

使用したものと考えられる。産地は不明である。277 は鉄鍋の口縁部。278 は鉄釘か。

759 号土坑（SK759，第 53 図，図版 25）

A1 地区西半部北よりに位置する。SD400 底面の東部落ち際近くで検出した。平面形は楕円形で，長径3.10m，深さ 0.11m を測る。埋土は黒褐色粘土の単層で炭化物が多量に混入する。遺物は珠洲擂鉢（155）が出土している。155 は珠洲擂鉢の口縁部。口縁端部をややつまむように整形し，外傾する端面はやや窪む。内面には曲線的な卸目を引く。Ⅱ期（13 世紀前半）。

765 号土坑（SK765，第 53 図，図版 22）

A1 地区西半部北よりに位置する。SD400 底面の東部落ち際近くで検出した。平面形は楕円形で，長径 0.75m，深さ 0.35m を測る。埋土上層は黒褐色粘土，下層は黄灰色粘土が水平堆積し，いずれにも炭化物の混入がみられる。遺物は中世土師器皿（156）が出土している。156 は口縁部をつまむように一段ナデする深身の皿。14 ～ 15 世紀のものである。

883 号土坑（SK883，第 53 図，図版 24）

A1 地区中央東よりに位置する。平面形は円形で，直径 0.40m，深さ 0.15m を測る。埋土は黒色粘土の単層で炭化物が多量に混入する。遺物は白磁（157）が出土している。157 は白磁皿Ⅸ類。口縁部は口禿げとし，体部外面下半は無釉である。F 期（13 世紀中頃～ 14 世紀初頭前後）。

2213 号土坑（SK2213，第 50 図，図版 8）

C2 地区北東角に位置する。平面形は円形で，直径 1.06m，深さ 0.74m を測る。埋土はにぶい黄褐色粘土質シルトに褐灰色粘土質シルトが混ざる単層である。遺物は珠洲擂鉢が出土している。

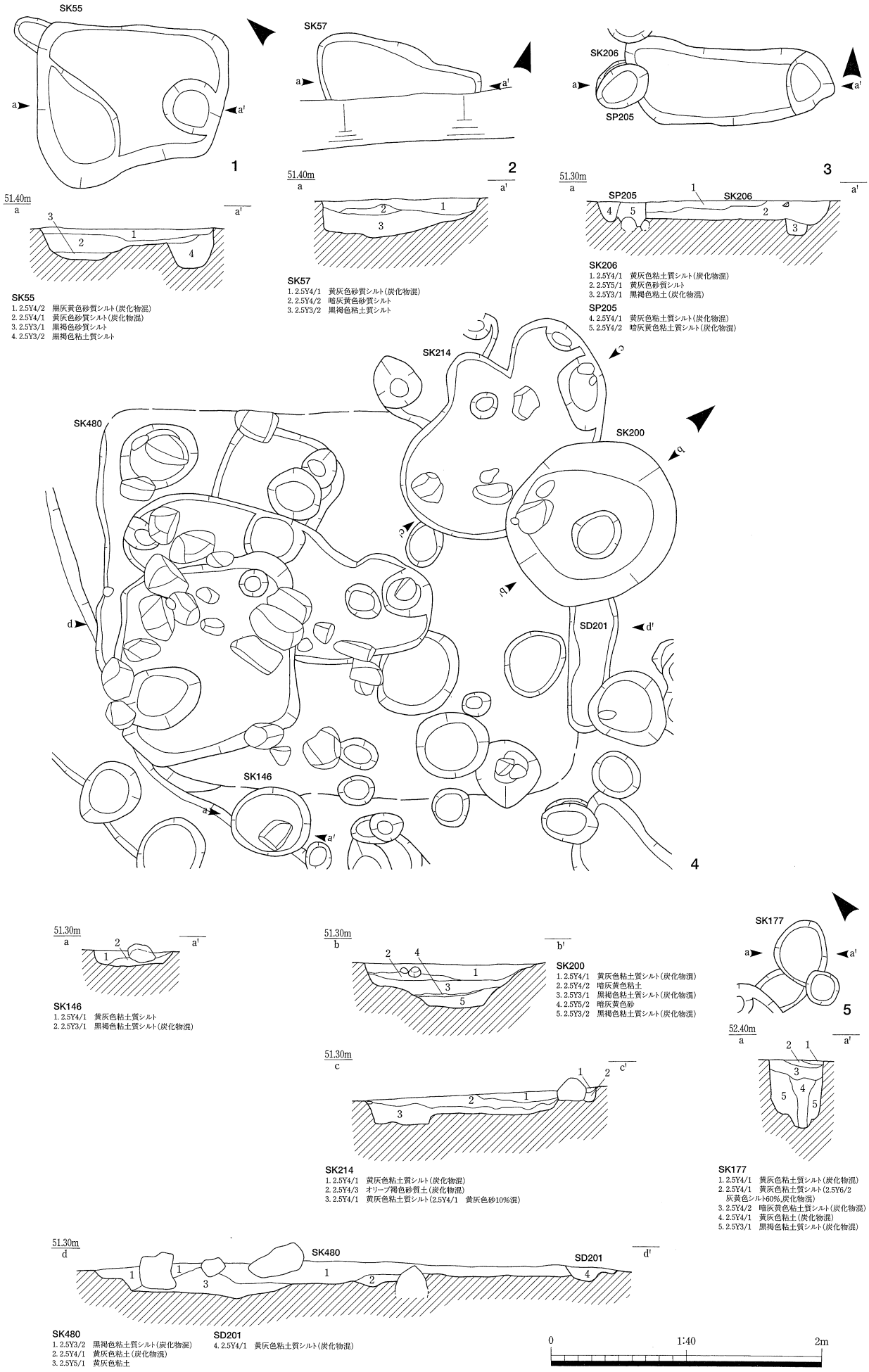
2216 号土坑（SK2216，第 50・53 図，図版 22）

C2 地区北東部中央よりに位置する。平面形は楕円形で，長径 0.35m，深さ 0.09m を測る。埋土は炭化物の多く混ざる灰オリーブ色粘土質シルトの単層である。遺物は中世土師器皿（159）が出土している。159 は口縁部に幅広の横ナデをする皿。内面には刷毛状ナデの痕跡がみられるが，摩滅しており不明瞭である。13 ～ 14 世紀のものである。

F　包含層出土遺物

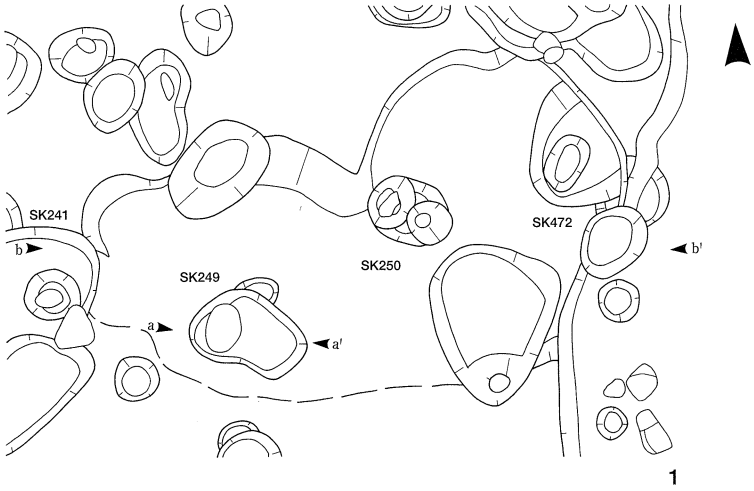
中世土師器（第 54 図，図版 21・23）

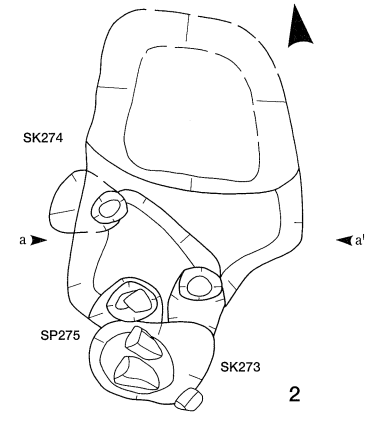
161 ～ 164 は口縁部に一段ナデを施し，端部外面を面取りする小型の皿。161 の端部は特に強く面取りされ，内面は刷毛状ナデを撫で消している。165 は口縁部を面取りするが，面取りがやや弱く端部が丸みを帯びる皿。166 ～ 168 は口縁部を一段ナデし，端部外面を面取りする。13 世紀初頭～前半に多くみられるものである。169・170 は口縁部を一段ナデする皿。器壁が厚く，丸底である。接合はしないが同一個体の可能性がある。13 世紀前半。171 ～ 177 は口縁部を一段ナデする小型の皿。丸底風のもの（171 ～ 175），平底風のもの（176 ～ 178）がある。178 は完形で，底部中心を押し上げへそ皿状にする。13 ～ 14 世紀のものである。179 は平底の皿。体部が直線的に立ち上がる。13 世紀後半～ 14 世紀。180 は口縁部に強い一段ナデを施す。体部の稜がきつく，型押し成形の可能性があるが，摩耗しており不明である。14 ～ 15 世紀。181 ～ 185 は口縁部を一段ナデする皿。端部外面を面取り風にするが丸みを帯びるもの（181 ～ 183）がある。13 ～ 14 世紀。186 ～ 188 はロクロ成形の皿。186 は厚みのある体下部から口縁部を薄く挽き出す。13 世紀初頭。187 の体部は直線的に延び，内面にロクロ目，外底面には回転糸切り痕を残す。12 世紀後半。188 は柱状高台の皿。内面は中心に向かって深くなりロクロ目を残す。外底面には摩耗して不鮮明であるが，回転糸切り痕を残す。12 世紀前半。

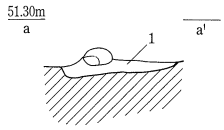


第47図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図

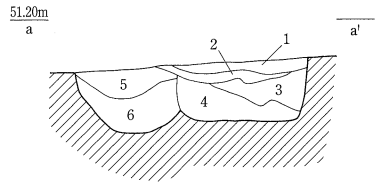
1. SK55　2. SK57　3. SK206　4. SK146・SK200・SK214・SK480　5. SP177



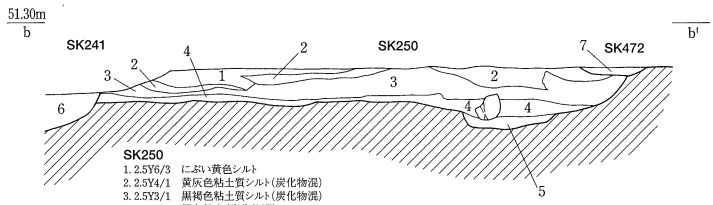




SK249
1. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土質シルト(炭化物混)



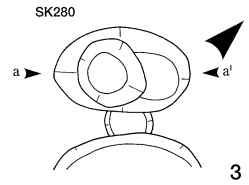
SK274
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y2/1　黒色粘土(炭化物混)
3. 2.5Y3/2　黒褐色粘土(炭化物混)
4. 2.5Y4/3　オリーブ褐色粘土質シルト(炭化物混)
5. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土質シルト(炭化物混)
6. 2.5Y5/1　黄灰色粘土(炭化物混)

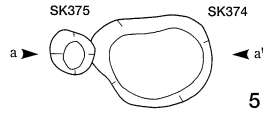


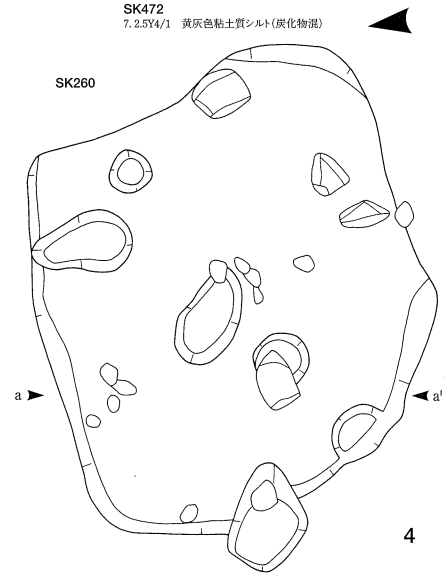
SK250
1. 2.5Y6/3　にぶい黄色シルト
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)
4. 2.5Y2/1　黒色粘土(炭化物混)
5. 2.5Y3/1　黒褐色粘土(炭化物混)

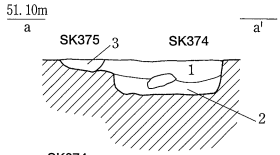
SK241
6. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)

SK472
7. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)



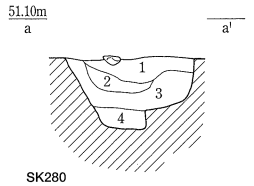




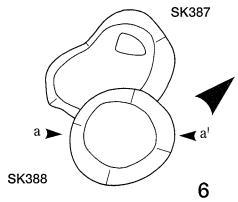


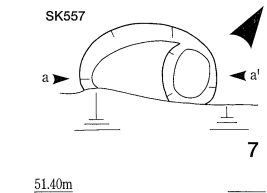
SK374
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)

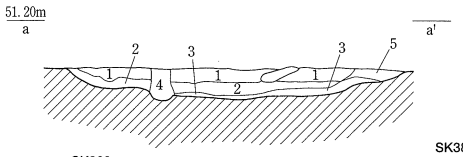
SK375
3. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)



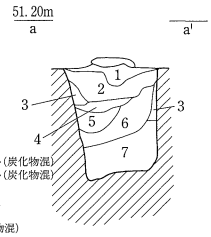
SK280
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y5/1　黄灰色粘土質シルト
3. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)
4. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土(炭化物混)



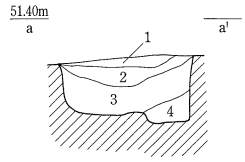




SK260
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土
3. 2.5Y2/1　黒色炭化物層(2.5Y4/2　暗灰黄色粘土混)
4. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト(炭化物混)
5. 2.5Y5/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)



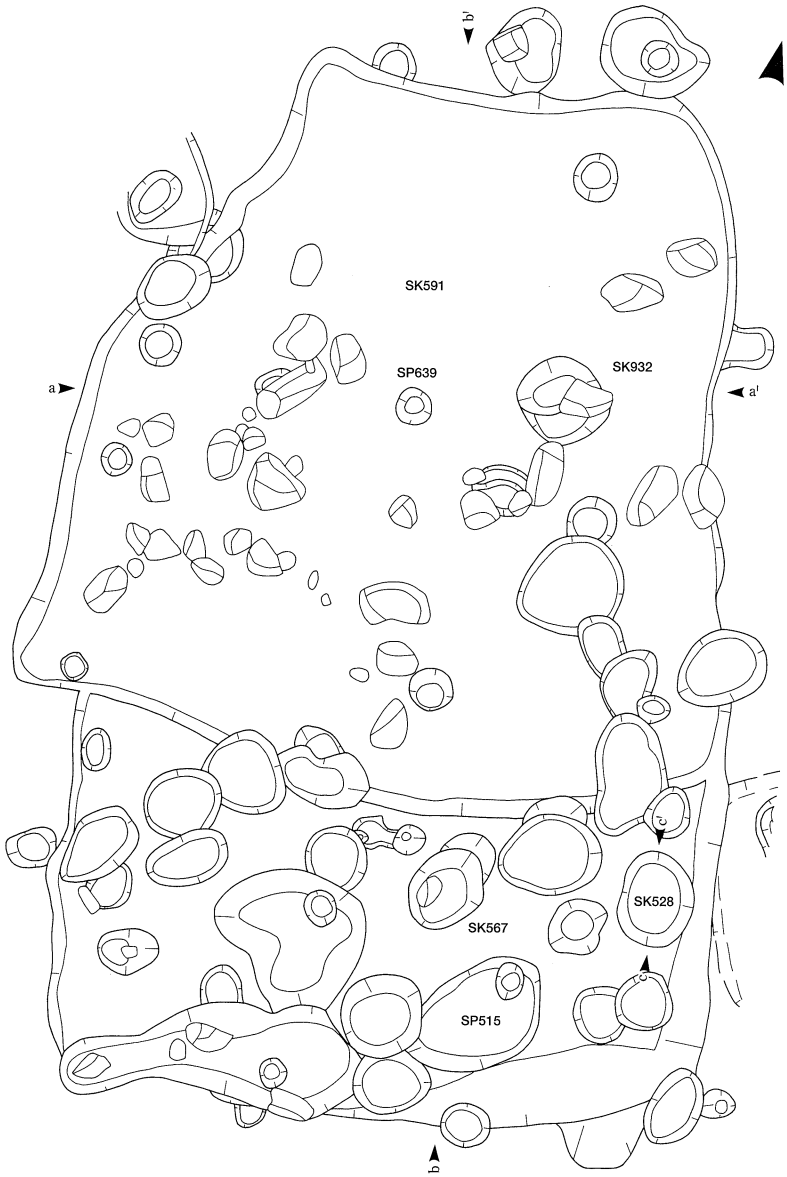
SK388
1. 2.5Y5/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色シルト
4. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粘土
5. 2.5Y3/2　黒褐色粘土
6. 2.5Y3/1　黒褐色粘土(炭化物混)
7. 2.5Y2/1　黒色粘土

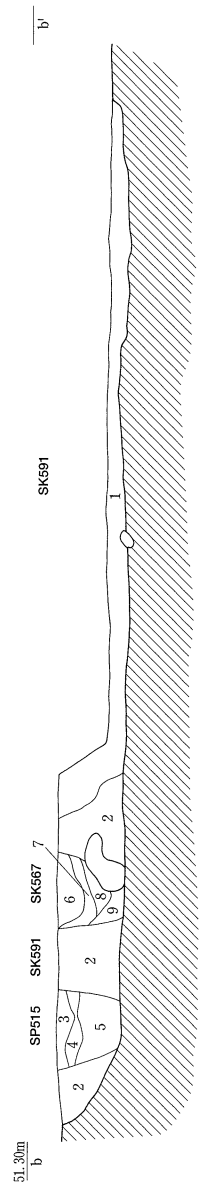


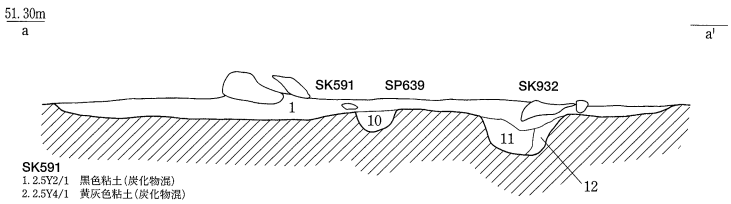
SK557
1. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト(炭化物混)
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土質シルト(炭化物混)
3. 2.5Y3/1　黒褐色粘土(炭化物混)
4. 2.5Y4/3　オリーブ褐色粘土

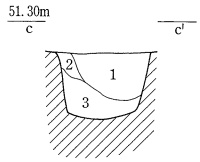
第48図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図

1. SK249・SK250　2. SK274　3. SK280　4. SK260　5. SK374　6. SK388　7. SK557









SK591
1. 2.5Y2/1　黒色粘土（炭化物混）
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土（炭化物混）

SP515
3. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト（炭化物混）
4. 2.5Y5/1　黄灰色粘土質シルト（2.5Y5/3　黄褐色シルト10%混）
5. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト（炭化物混）

SK567
6. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト（炭化物混）
7. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土質シルト（炭化物混）
8. 2.5Y3/2　黒褐色粘土（炭化物混）
9. 2.5Y3/1　黒褐色粘土質シルト（炭化物混）

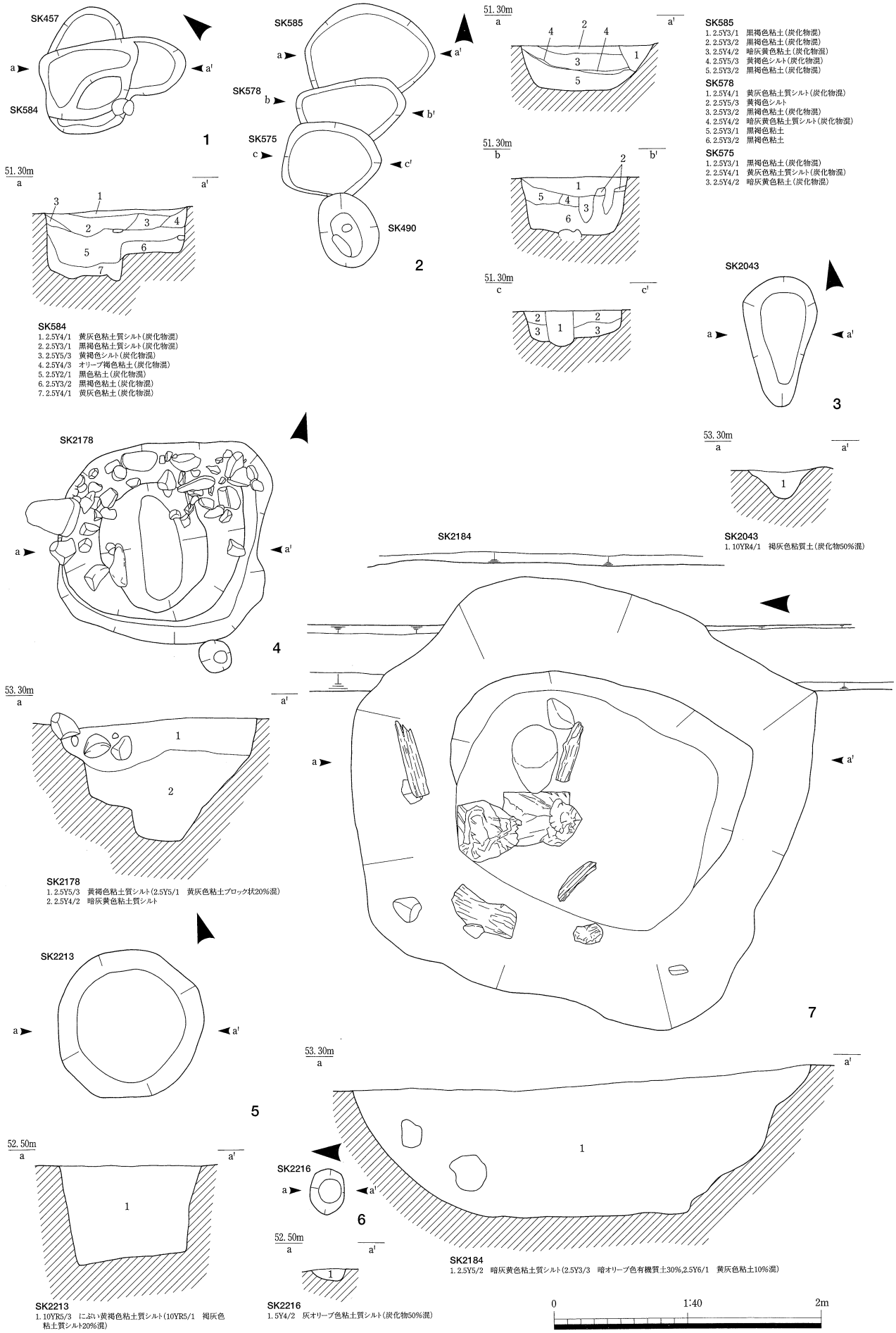
SP639
10. 2.5Y3/1　黒褐色粘土（炭化物混）

SK932
11. 2.5Y3/1　黒褐色粘土（炭化物混）
12. 2.5Y4/1　黄灰色粘土（炭化物混）

SK528
1. 2.5Y3/2　黒褐色粘土質シルト（炭化物混）
2. 2.5Y4/1　黄灰色粘土質シルト（炭化物混）
3. 2.5Y3/2　黒褐色粘土

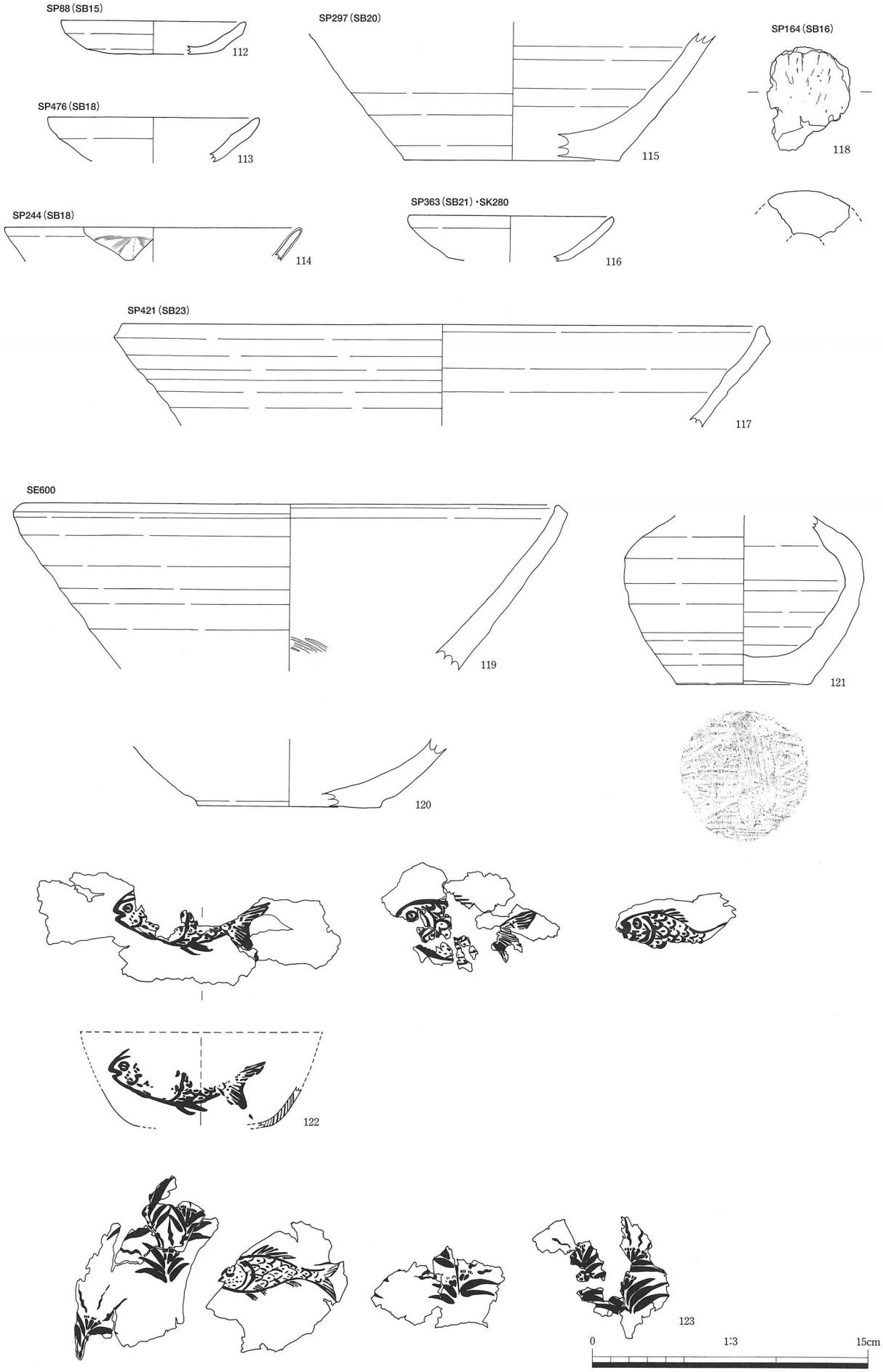
0　1:40　2m

第49図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図
SK591・SK528



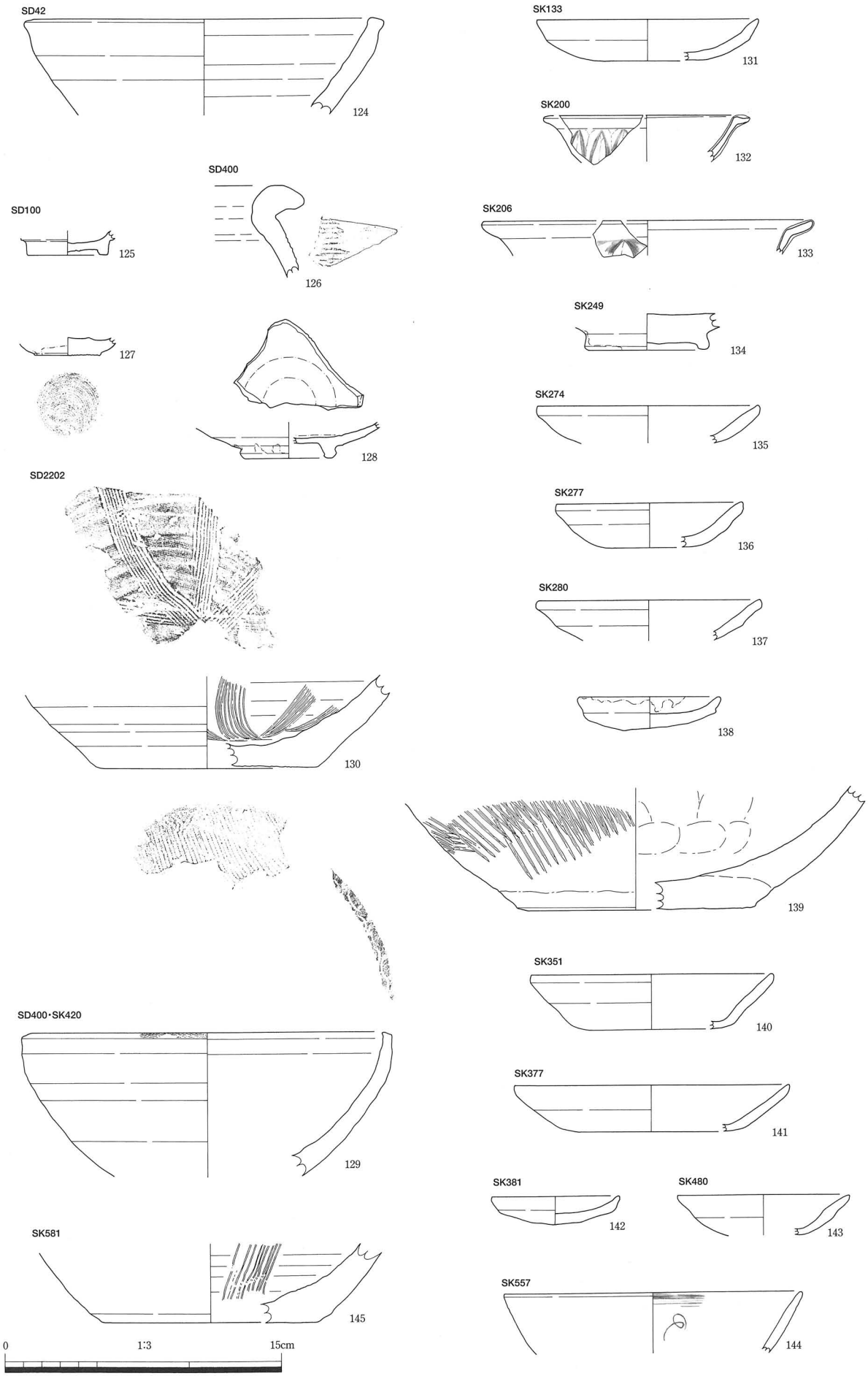
第50図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺構実測図

1. SK584　2. SK575・SK578・SK585　3. SK2043　4. SK2178　5. SK2213　6. SK2216　7. SK2184



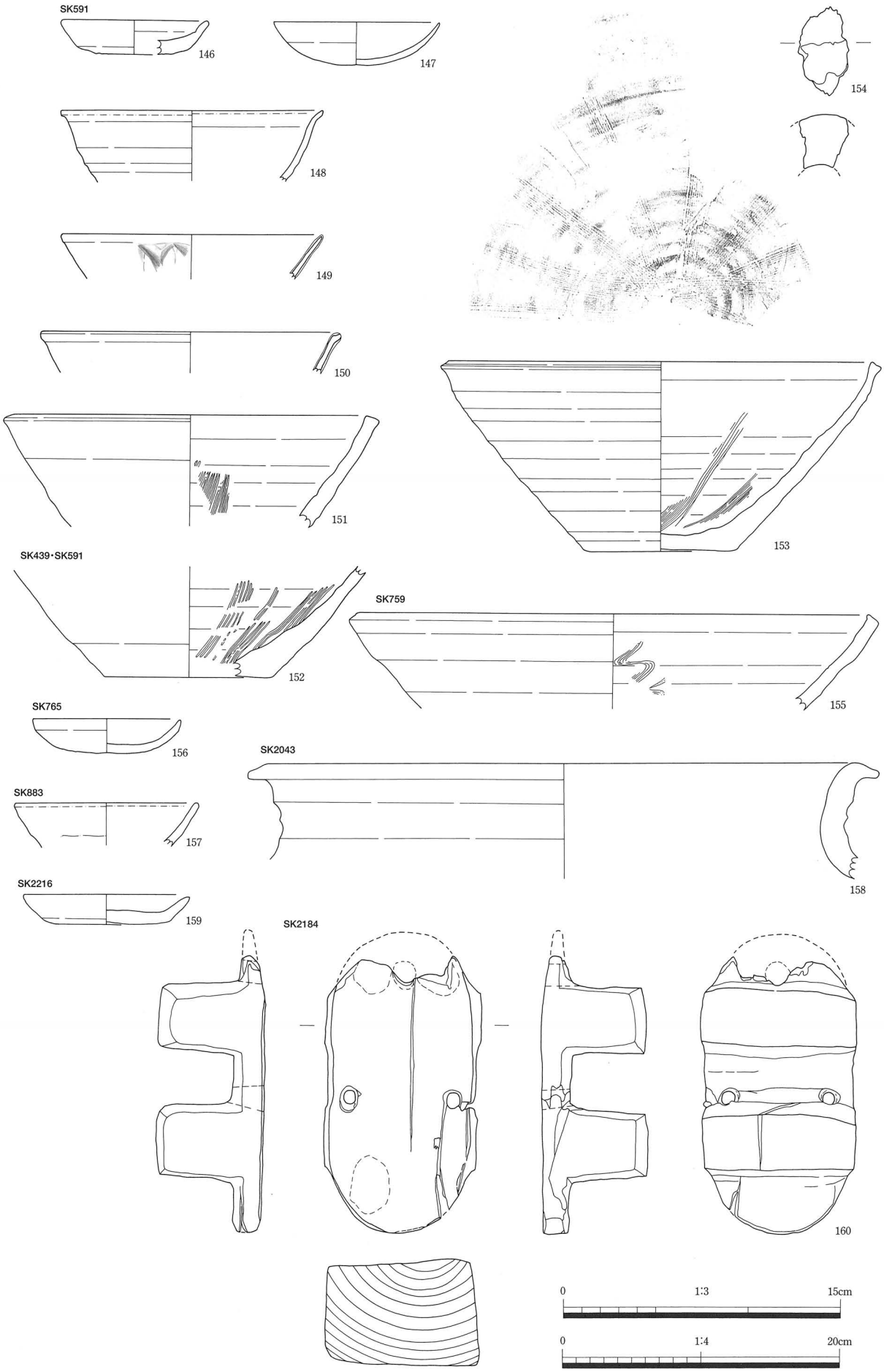
第51図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図　(1/3)

SP88 (112)　SP476 (113)　SP244 (114)　SP297 (115)　SP363・SK280 (116)　SP421 (117)　SP164 (118)
SE600 (119 ～ 123)



第52図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図　(1/3)

SD42(124)　SD100(125)　SD400(126 ～ 128)　SD400・SK420(129)　SD2202(130)　SK133(131)　SK200(132)　SK206(133)　SK249(134)　SK274(135)　SK277(136)　SK280(137 ～ 139)　SK351(140)　SK377(141)　SK381(142)　SK480(143)　SK557(144)　SK581(145)



第53図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世下層・上層遺物実測図　（146～150・154・156・157・159　1/3，151～153・155・158・160　1/4）

SK591（146～151）　SK439・SK591（152）　SK591（153・154）　SK759（155）　SK765（156）　SK883（157）　SK2043（158）　SK2216（159）　SK2184（160）

古瀬戸（第54図，図版20）

189は小杯。外底面に回転糸切り痕を残す。無釉で，見込みは摩耗して滑らかである。13世紀代。190は卸皿底部。外底面に回転糸切り痕を残し，全面に薄い灰釉がまだらにかかる。191は天目茶椀。鉄釉がかかり，体下部に錆釉がみられる。口唇部はくびれをもって立ち上がり，端部は尖り気味に仕上げる。中期様式（Ⅲ期）と考えられ，14世紀中葉頃のものと思われる。

瓦質土器（第54図，図版20）

192は奈良火鉢。平面が円形の浅鉢形のもので，体部から口縁部にかけて内湾し，口縁端部を丸く収める。体部上方外面に花文のスタンプを押す。全体に摩耗が著しく，器面は荒れ，酸化して外面は赤色を呈する。14世紀中頃のものである。

中国製磁器（第55図，図版21・24）

193・194は白磁。193は外反する口縁部を持つ皿Ⅱ－1類かⅡ－3類。C～D期（11世紀後半～12世紀後半）。194は薄い器壁が直線的に延びる皿Ⅸ類。端部は釉を掻き取り口禿げとする。

195～209は龍泉窯系青磁椀。195は内面に蓮花文と思われる片彫文がある椀Ⅰ－2類。D期（12世紀中頃～後半）。196・197の内面にも片彫りの文様がみられる。196は椀Ⅰ－2類かⅠ－4類，197は椀Ⅰ－4類か。D期。198は肉厚の底部。外底面の施釉は一部高台内に及ぶ。D期。199～203は外面に鎬蓮弁文を持つ椀Ⅱ－b類。E期（13世紀初頭前後～前半）。204は外面に鎬蓮弁文，見込みに幾何学花文の印刻があるⅡ－c類。E期。205・206は椀Ⅲ－2c類。口縁部が直口するもの。外面に鎬蓮弁文を有し，釉は厚く均一にかかる。206は全面施釉後高台畳付の釉を掻き取る。F期（13世紀中頃～14世紀初頭前後）。207は小椀Ⅲ－3類か。胎土は良質であるが，やや器肉が厚く釉が暗色味を帯びており加工が落ちるため，Ⅲ’類かⅣ類となる可能性がある。F期。208は口縁部が短く屈折する坏Ⅲ－3類。F期。209は外面に鎬蓮弁文を有する坏Ⅲ－4類。F期。210は同安窯系青磁。内面に櫛点描文を有する皿Ⅰ－2b類である。全面施釉後外底面の釉を掻き取る。D期。211は体部外面にヘラ先による線描蓮弁文をもつ椀。上田分類のB－Ⅳ類である。15世紀後半～16世紀前半。

珠洲（第55～57図，図版26・27）

212～221は壺。212は肩が張る器形で外面に櫛目波状文を有する。Ⅱ期（13世紀前半）。213は肩に横位の環状把手をもつ四耳壺。口縁部内面から外面にかけて自然釉がかかり，濃緑色の光沢をもつ。Ⅰ～Ⅱ期（12世紀中葉前後～13世紀前半）。214は口縁部と内面に鋭利な櫛歯原体による波状文をもつ壺口縁部。Ⅰ～Ⅱ期。215は壺T種。外傾するくの字状口縁を有し，肩が強く張る器形をもつ。器壁は薄く仕上げているが焼き膨れもみられる。Ⅰ期（12世紀中葉前後～13世紀初頭）。216～221は壺底部。内面に回転ナデ痕，外底面に静止糸切り痕を残す。

222～240は擂鉢。222～226は体部が丸みを帯びる器形で，内面は素文とする。Ⅰ期（12世紀中葉前後～13世紀初頭）。222の注口は内側に指1本を当て，外面に指2本を添えて深く作出する。223の口縁部は内端をつまむように整形し外傾させる。224の口縁部は端部をやや細く挽き出し端面を水平にする。225・226は端部を外傾させる。227・228は口縁内端をつまむように挽き出し外傾させるⅡ期（13世紀前半）のものである。227の内面には鋭利な櫛歯原体による直線的な卸目が見られる。228は軟質で特に内面の摩耗が著しい。229は細密な16目1単位の卸目を＊字状に入り組ませて引く底部である。内底面には使用による摩耗がみられる。Ⅱ2期（13世紀第2四半期）。230は8目1単位の直線的な卸目を引く底部。体部下半に丸みをもった器形である。Ⅲ期（13世紀中葉頃～1270年代）。231は直線的に外傾する器形で口縁端部は僅かに拡張し外傾する。内面には15目1単位の中太の櫛歯原体による

直線的な卸目を引く。Ⅲ期。232 ～ 239 はⅣ期（1280 年代～ 1370 年代）。232 は口縁端面がやや盛り上がり気味の外傾口縁。233 は僅かに体部が膨らむ器形をもつ。内面下半には 10 目 1 単位の太く幅広の櫛歯原体による卸目を引く。口縁形態は方頭が崩れた外傾口縁である。234 は端部が拡張する外傾口縁をもつ。卸目は 6 目 1 単位の太く幅広い櫛歯原体による。235 は器壁を薄く仕上げる。内面には 13 目 1 単位の中太の櫛歯原体による卸目を引く。236 ～ 238 は端部が拡張する水平口縁をもつ。237 内面には幅広の櫛歯による卸目の一部がみられる。239 は 7 ～ 10 目 1 単位の直線的な卸目を入り組み技法をもって引き，間隙も卸目で充填する。外底面には静止糸切り痕を残す。240 は内傾口縁で 8 目 1 単位の幅広の櫛歯による卸目を引く。内面は煤により黒く変色する。Ⅴ期（1380 年～ 1440 年代）。

241 ～ 249 は甕。241 はコの字状の口縁部。外面には口縁部を折り返す際ついた道具痕が残る。Ⅰ期（12 世紀中葉前後～ 13 世紀初頭）。242 は口縁を水平に挽き出し内端に段を持つ。Ⅱ期（13 世紀前半）。243 の口縁部は方頭で端面には窪みがみられる。外面は頸基部から一段下がったところから叩打を行う。軟質で内面には爆ぜたような丸い穴が目立ち，二次被熱の可能性がある。Ⅱ期。244 はくの字状口縁で頸部外面に折り返す際の道具痕が残る。Ⅲ期（13 世紀中葉頃～ 1270 年代）。245 ～ 247 は口縁部を短く折り返し，頸基部から叩打を行うⅣ期（1280 年代～ 1370 年代）の甕口縁部。245 の肩部にはヘラ記号の一部がみられる。246・247 は肩の張りが弱くなり，246 には焼き膨れもみられる。248・249 は甕底部。いずれも砂底で，249 は焼成時の歪みが大きい。

砥石（第 58 図，図版 31）

266・267・270 は仕上砥。石材はいずれも粘板岩で，鳴滝の中山砥である。266・267 は表裏 2 面を砥面とする置砥で，砥面の断面形に共通する特徴をもつ。即ち，砥面中央が平たく両端が軽く湾曲し，断面が特異なレンズ状の形態をとっており，266 の片面は特に顕著な湾曲をみせる。砥面の形状は研がれる刃物の特徴を反映することから，長く，刃部に軽い湾曲を持つ鋭利な刃物が考えられる。一例としては，木工具の一種である銑が考えられる[注2]。寸法は 266 が 1 寸 5 分で、幅広の扁平形をなす。267 は小口を残す。砥石の色調は，266 が 2.5Y7/4 浅黄色，267 が 5Y6/2 灰オリーブ色を呈する。13 世紀後半～ 14 世紀ものである。270 は手持砥面は 1 面。砥面の中央部がすり減って緩やかに湾曲をみせる。色調は 10Y8/1 灰白色を呈する。小口を残す。

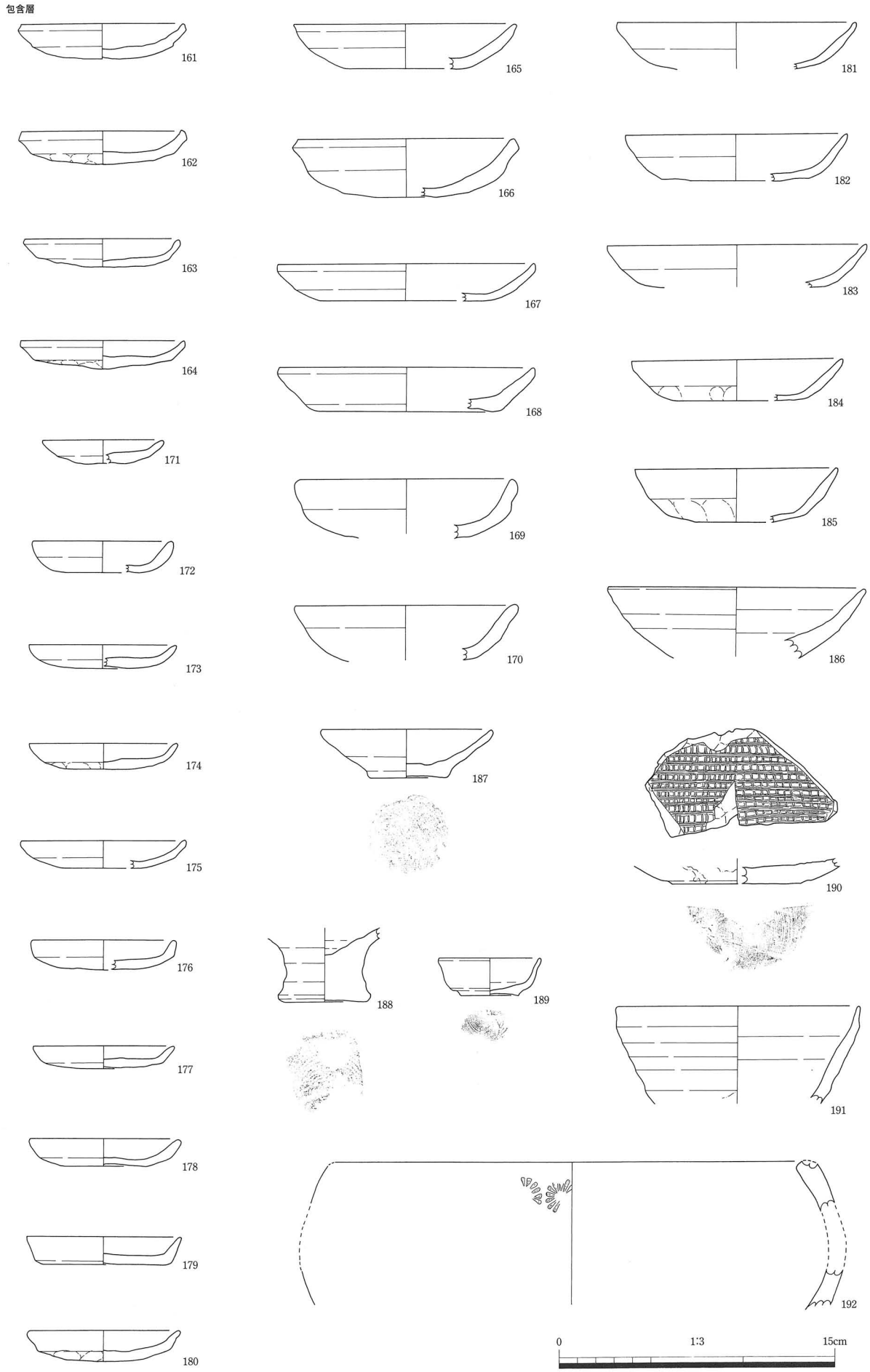
268 は硯石の断片である可能性が高い。二次被熱により赤く変色している。269 は棒状に細長い形状をなす中砥で，主な砥面は三面である。273 は笹口の荒砥である。砥面は 1 面。275 は中砥。大きな流紋岩礫の両側面を砥面として使用する。産地は天草か伊予と思われるが，伊予である可能性が高い。砥面中央が扁平で両端が湾曲する特殊な断面形態をしており，266・267 と同じ刃物を研いでいたと考えられる。15 世紀以前のものである。

（5）近世～近代

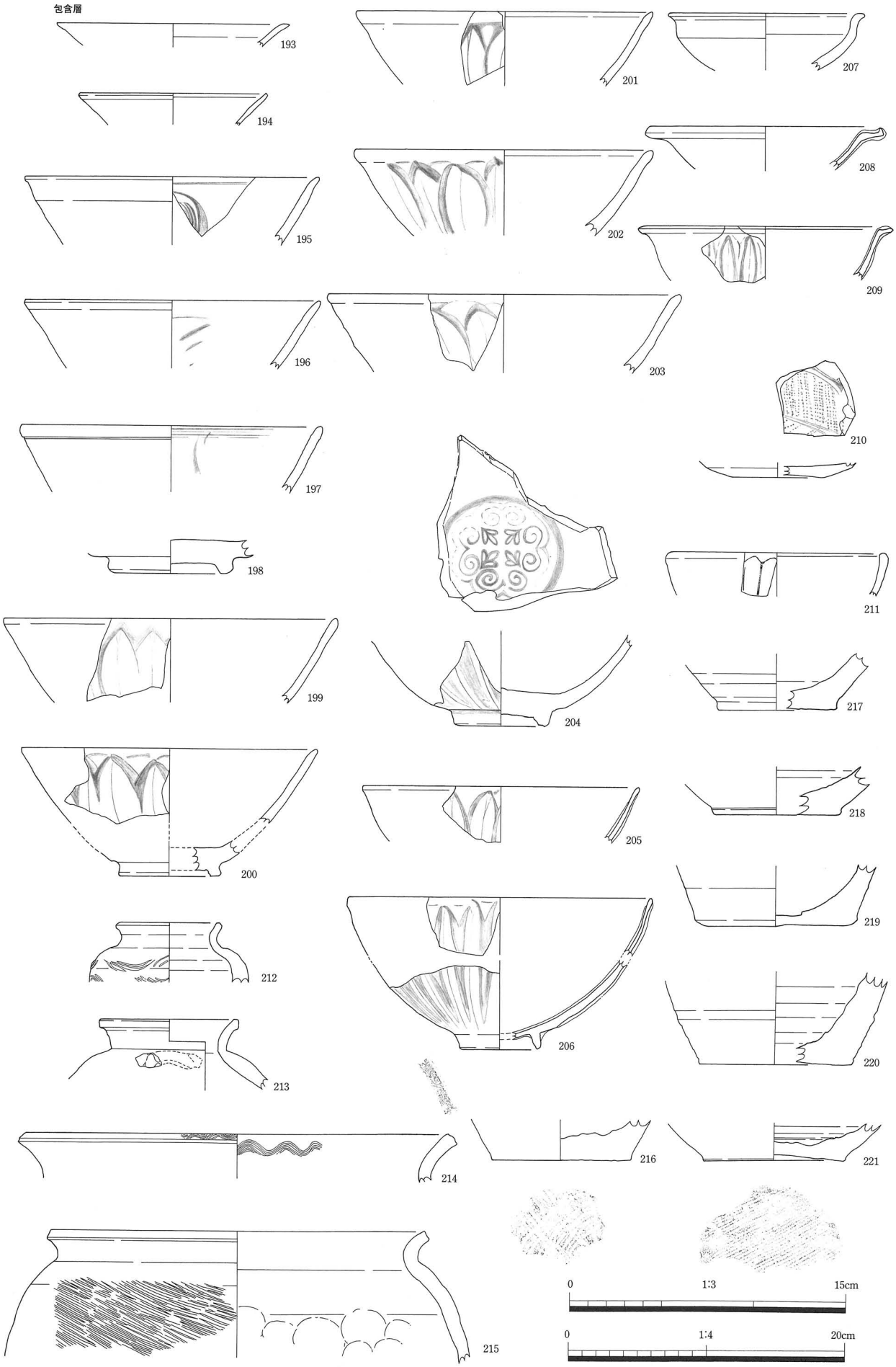
A　自然流路

100 号自然流路（SD100，第 52・60 図，図版 9・20）

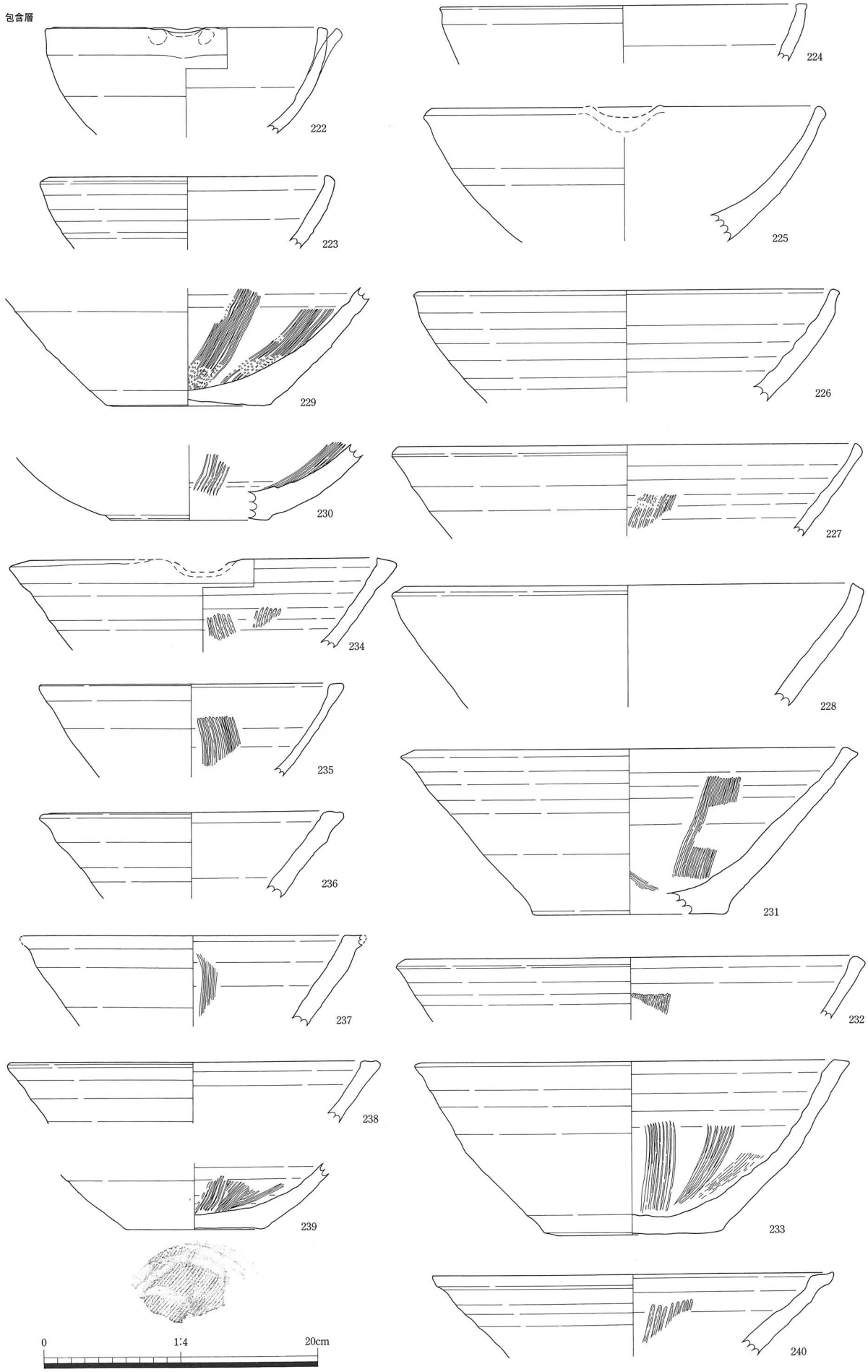
A1 地区北部を流れ，A1 地区の調査面積の約 1/4 を占める。流路は蛇行し，池状に深く落ち込む部分もみられるが，基本的には南北方向の流れであると思われる。深さは最深部で 1.64m を測る。表土（Ⅰ層）直下から切り込んでいることから，近代の遺構である。ほ場整備により現在東へ移動した木流川の旧河道と考えられる。埋土はほぼ水平に堆積しており，上層は灰黄褐色・褐灰色を基調とする粘土質シルトとシルトの互層，下層は黄褐色・黄灰色の粘土質シルトと砂質シルトの互層で，水成堆積を示す。



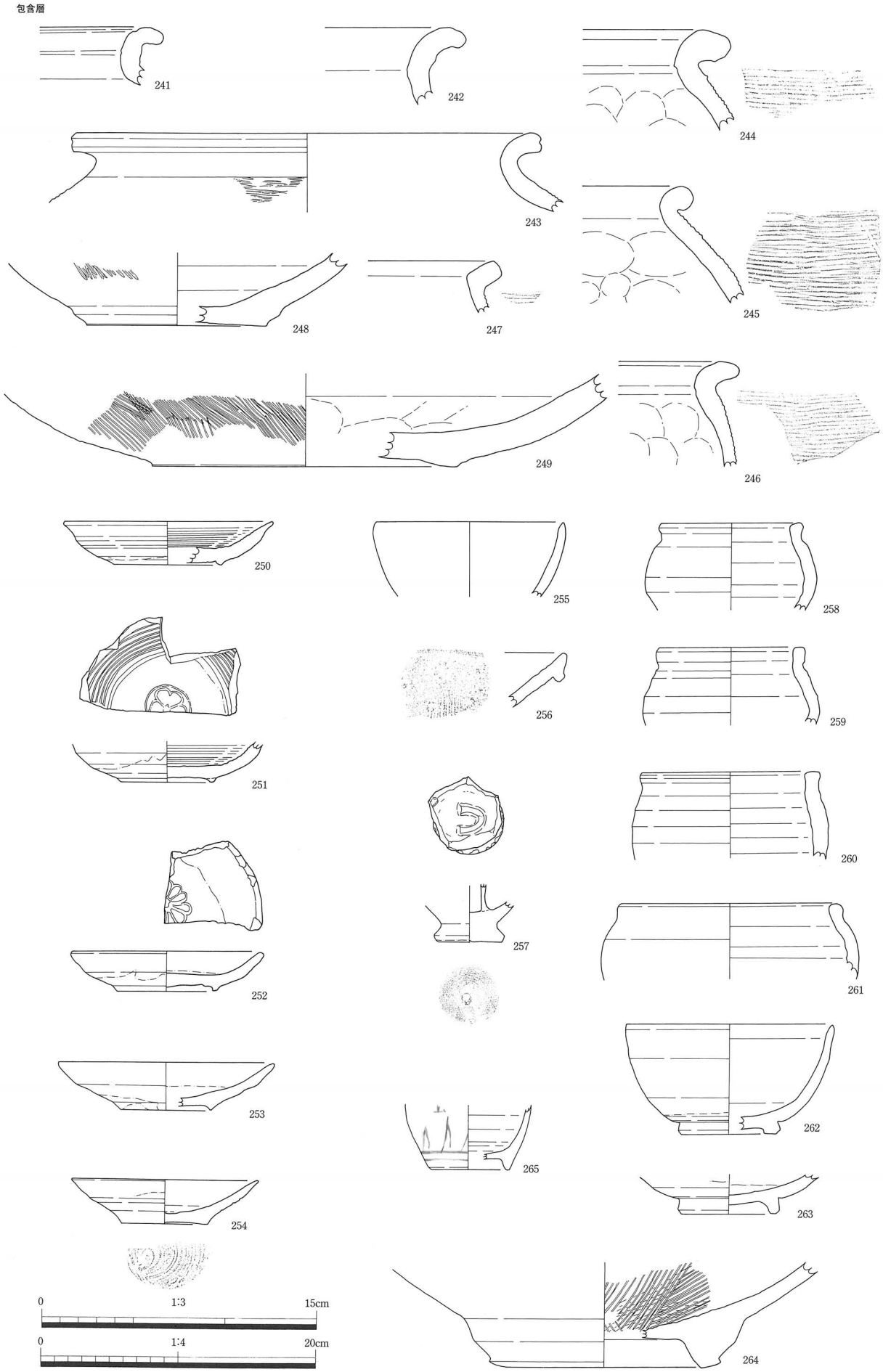
第 54 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図　(1/3)
包含層



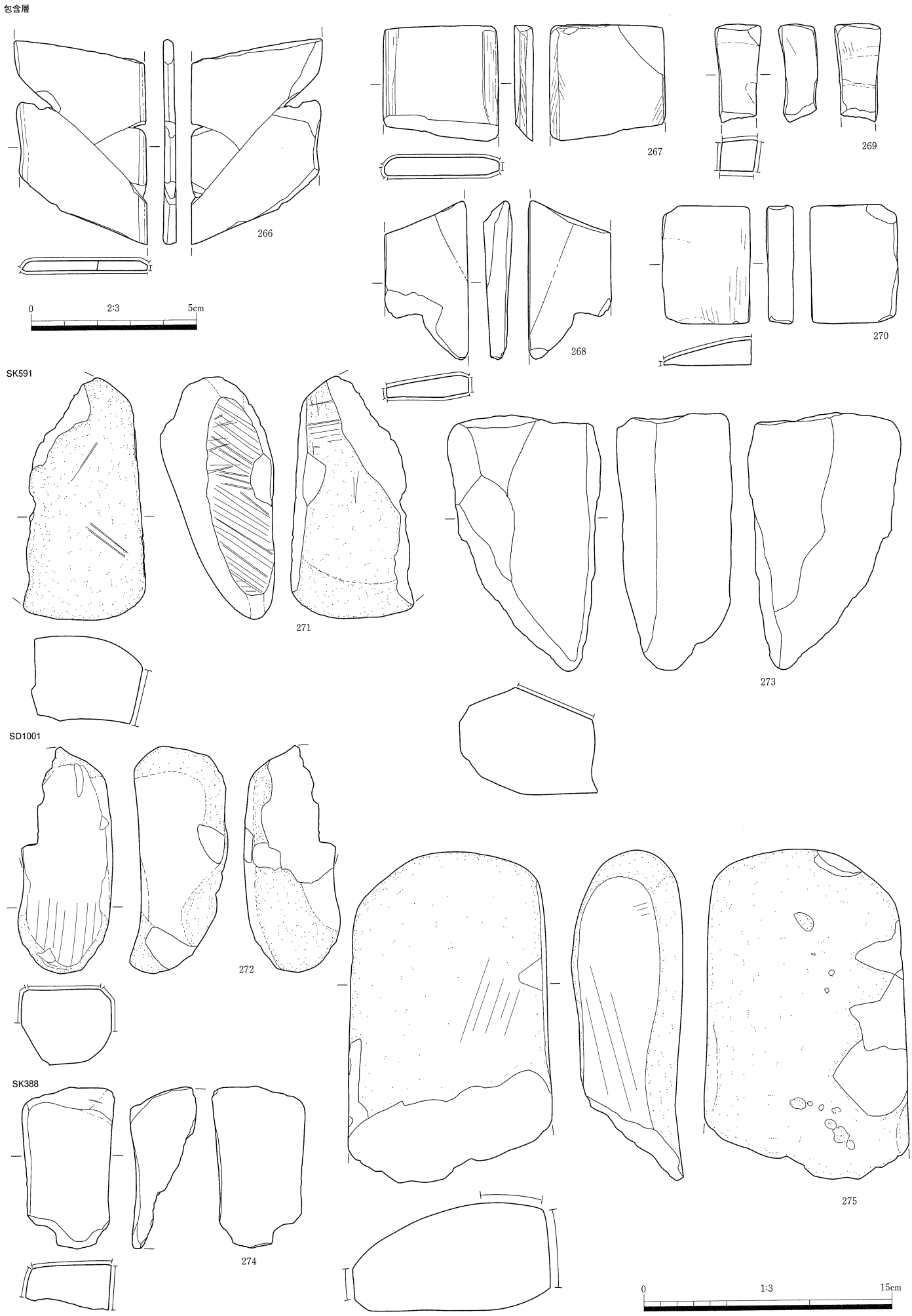
第55図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図　（193～211　1/3，212～221　1/4）
包含層



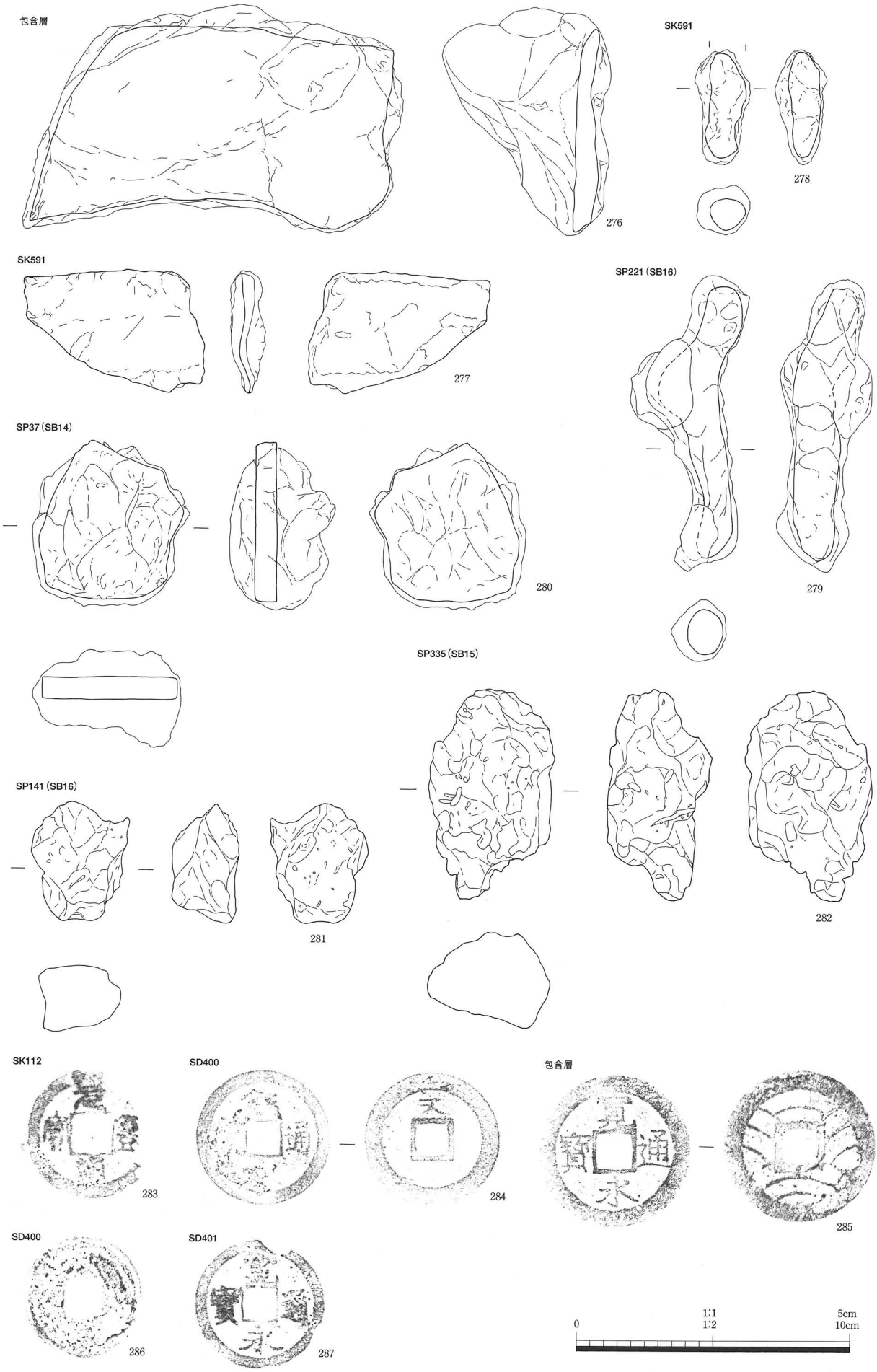
第56図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図　(1/4)
包含層



第57図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層・近世遺物実測図　（250～265　1/3，241～249　1/4）
包含層



第58図　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世上層遺物実測図（石製品）（266～270　2/3，271～275　1/3）
SK591（271）　SD1001（272）　SK388（274）　包含層



第 59 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　遺物実測図　中世上層・近世遺物実測図（金属製品）（283～287　1/1, 276～282　1/2）
SK591（277・278）　SP221（279）　SP37（280）　SP141（281）　SP335（282）　SK112（283）
SD400（284・286）　SD401（287）　包含層

底面にはにぶい黄褐色粗砂が堆積しており，一部に酸化鉄の沈着もみられる。中世の遺構面を急角度で削り取っていることからも，かなりの水勢があったことが推測される。遺物は中世土師器皿小片多数，珠洲擂鉢・壺・甕，瀬戸美濃（125），信楽，伊万里椀が出土している。125は瀬戸美濃小天目茶椀の底部。削り出し高台で高台部には錆釉を施す。内面には鉄釉がかかる。

400号自然流路（SD400，第52・59・61図，図版9・21・25・28・30）

A1地区西部を南北に流れる。ほ場整備の盛土・耕盤（Ⅱ層）直下から切り込んでおり，近世～近代の遺構であると考えられる。流路は東肩の落ち際に堆積していた中世包含層（Ⅲ層）の上面を薄く僅かに削っている。中央部から西肩にかけての底面は地山の砂及び礫層となり，一部に酸化鉄の厚い沈着がみられる。幅37.8～47.7m，深さ1.04mを測り，幅広の浅い緩やかな流れであったと思われるが，東側から西側へと流路の変遷が断面にみられ，実際の流路幅は半分ほどであったと思われる。東側の埋土は上層から黄灰色粘土，暗灰黄色～黄褐色粘土質シルト・粘土，灰色粘土が水平堆積し，西側の埋土は上層から灰黄色砂質シルト，灰黄褐色・褐灰色粘土質シルト，灰色粘土が水平堆積する。中央の切り合い部分にも酸化鉄の沈着がみられる。なおSD400の両肩には礫が上がってきており，SD400内は中世の段階においても窪地状の土地であったと思われるが，東肩部分の底面で掘立柱建物と数条の溝を検出している。遺物は中世土師器皿小片，珠洲擂鉢・鉢（129）・壺・甕（126），青磁椀，越中瀬戸皿（127），肥前皿（128），唐津椀・鉢，志野椀，伊万里椀・皿・壺，信楽，銭2点（284・286）が出土している。126は珠洲甕の口縁部。端部を嘴状に挽き出す。Ⅳ期（1280年代～1370年代）。またSK420と接合する珠洲鉢（129）も出土している。127は越中瀬戸皿の底部。外底面に回転糸切り痕を残す平底で，内面に鉄釉がかかる。128は唐津の皿。内底面を蛇の目釉剥ぎし，銅緑釉をかける内野山窯の製品。17世紀末～18世紀前半のものである。284は寛永通寶。

401号自然流路（SD401，第59・61図，図版30）

A1地区西端を南北に流れる。西側は調査区外にかかるため，東肩のみを検出した。最深部は東肩から10m付近にあり，0.80mを測る。ほ場整備の盛土（Ⅱ層）直下から切り込んでおり，SD400と同様に近世～近代の遺構であると考えられる。底面と地山の礫層との境には酸化鉄の沈着がみられる。埋土は上層から黒褐色砂質シルト，灰黄褐色砂質土，黄灰色粘土質シルトが水平堆積し，東肩の下層には小礫の混ざる褐色粘土質シルトがみられる。遺物は越中瀬戸，伊万里，寛永通寶（287）がある。

B　土坑

2184号土坑（SK2184，第50・53図，図版30）

C1地区中央西よりに位置する。平面形は崩れた方形で，長さ3.46m，幅3.19m，深さ1.00mを測る。埋土は暗灰黄色粘土質シルトを基調とする単層で，埋土中に木の株，腐植土，籾殻等が含まれる。人為的に埋め戻されていることと自然木等が多数出土していること等から廃棄土坑と考えられる。遺物は下駄（160）が出土している。樹種同定の結果はスギ材であった。160は連歯下駄で、前壺前方が欠失する。残存長20㎝，復元長21.6㎝，最大幅11.2㎝，最大厚7.7㎝を測る。台の形状は小判形で，前壺はほぼ中央に，後壺は後歯の前方に，それぞれ垂直に穿たれる。台表には，前壺両側に指圧痕，後壺後方左側に踵痕が残る。指圧痕は左側の方がより深く窪んでおり，こちらを母指と考えると右足用である可能性が高い。

（朝田亜紀子）

C　包含層出土遺物

越中瀬戸（第57図，図版28）

250～254は皿。250は体部内面に櫛状具を同心円状に巡らせ口縁部に灰釉を施す。底部は削り出し高台である。251も体部内面に櫛状具を同心円状に巡らせ灰釉を施す皿であるが，高台は底部篦削りの後短い高台を貼り付ける付高台で，見込みに丸にカタバミ様の押印がある。16世紀末～17世紀初め頃のものである。252は口縁部に鉄釉を施し，見込みに12弁菊の印花文を押す。253は口縁部に灰釉を施す。内禿げで見込みに重ね焼き痕がみられる。252・253とも内底面に釉止めの段はみられず，17世紀後半～18世紀のものと思われる。254は底部回転糸切りで，内全面と口縁部外面に鉄釉を施す。見込みには輪状の重ね焼き痕が残る。255は丸椀。鉄釉を施す。18世紀代。256は擂鉢口縁部。全面に錆釉を施し，内面に卸目が見られる。257は秉燭。外底面を残して鉄釉をかける。外底面は回転糸切りで，中央に小さな孔を空ける。258～261は壺。肩が丸みをもってやや張るものが中心であるが，撫肩のもの（260）もある。17～18世紀。

唐津（第57図，図版28）

262は丸形椀。内全面と体部外面に鉄釉を施し，高台を削り出す。16世紀末～17世紀前半。263は見込みを蛇の目釉剥ぎする皿。内野山窯の製品と思われる。17世紀末～18世紀。264は擂鉢。底部は削り出し高台で，接地面を除く全面に鉄釉を施す。高台周辺と内底面には砂が付着する。

伊万里（第57図，図版28）

265は徳利底部。外全面に施釉し，高台接地面は釉を拭き取り無釉とする。幕末頃のものか。

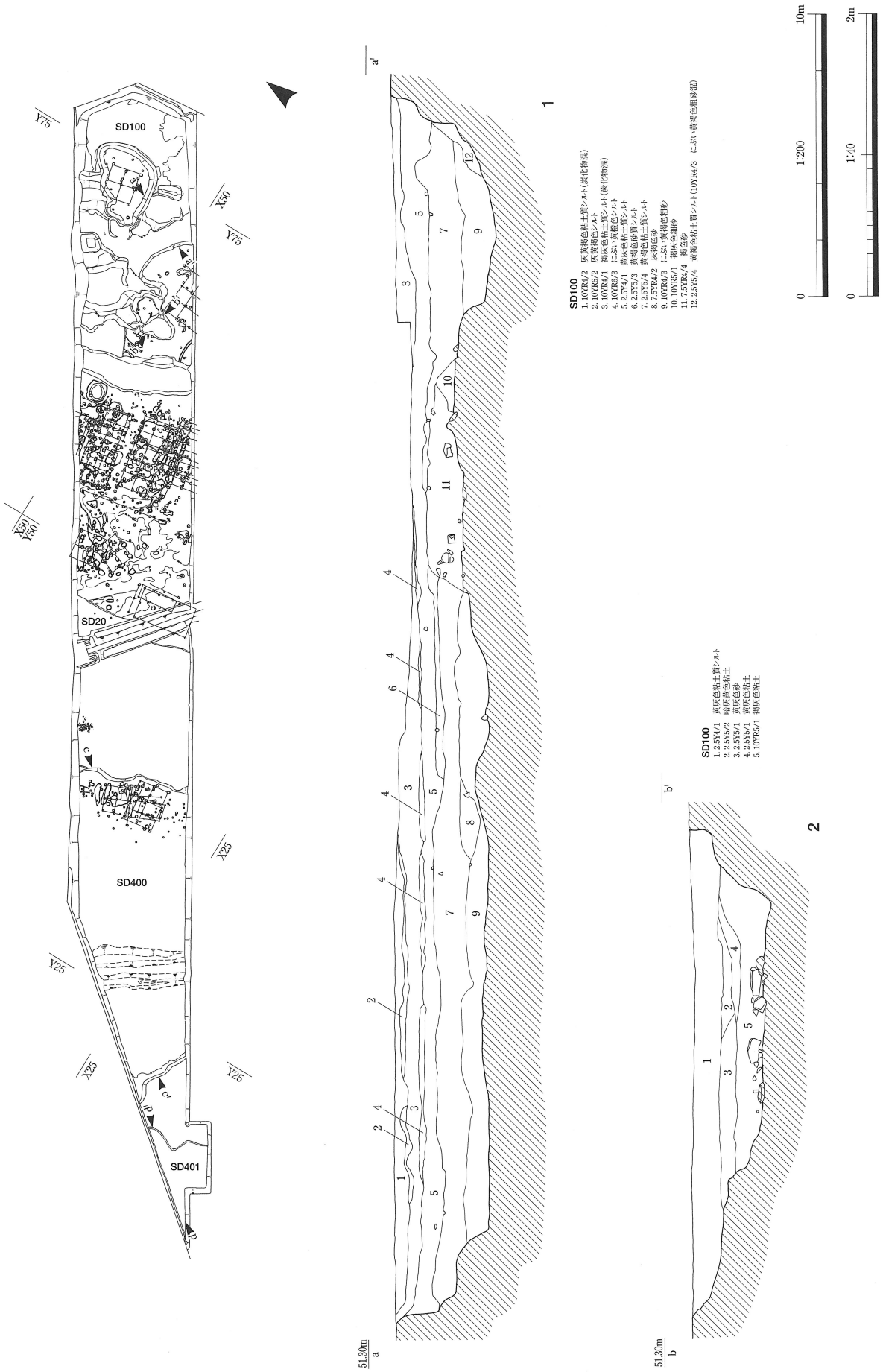
金属製品（第59図，図版30）

285は寛永通寶。背面に「波」が描かれるもので，明和6(1769)年5月以降に鋳造された四文銭である。

注

注1　第Ⅶ章 自然科学分析「2竹ノ内Ⅱ遺跡出土漆器の科学分析」に詳しい。
　　器種並びに類例等については，四柳嘉章氏の御教示による。

注2　垣谷光次郎氏の御教示による。
　　日本民具学会　1997『日本民具辞典』



第 60 図　竹ノ内Ⅱ遺跡　近世～近代遺構実測図

1・2. SD 100

第61図　竹ノ内Ⅱ遺跡　近世～近代遺構実測図
1. SD400　2. SD401

3　まとめ

(1) 古代

古代の遺構はB1地区のみで検出された。B1地区は産廃置場となっていたために，削平と盛土が繰り返し行われている。隣接するC1・C2地区では包含層は確認されたが，部分的で，ほ場整備等による削平を受けている。遺跡一帯は小川によって形成された扇状地で，東から西へゆるく傾斜しており，B1地区の標高は52.5～52.7mを測る。また，現在の小川を挟み東西に放射状に旧河道帯が広がっており，小川の河道は氾濫を繰り返しながら東から西へ移動して現在のようになったとされている。この移動した旧河道の間はわずかに高い自然堤防帯となっており，ここに集落が営まれたと考えられ，B1地区はこうした状況をよく現していると思われる。

B1地区では上下2面の遺構面が検出され，それぞれ出土遺物から9世紀（下層），9世紀末～10世紀代（上層）の集落跡と考えられる。下層では建物4棟があり，畠と考えられる溝群との切り合いや，建物の主軸方向からSB 2と畠→SB 3・SB 4→SB 1という3時期の変遷が想定できるが，柱穴の埋土がほぼ同一であることから，極めて短期間の変遷であろう。また，SB 2の西側には柱痕の残る穴が複数あり，建物域はさらに北西側に広がる可能性がある。下層と上層との間に大きな時期差はなく，恐らくは河川の氾濫等により一気に埋まったものと推測できる。上層の遺構は下層の集落とほぼ同位置に営まれるが，再び河川の氾濫等により廃絶したものとみられる。その後，集落は北東側のC1・C2地区へ移動し中世集落へ移行したものと考えられる。（金三津道子）

(2) 中世

中世の遺構を検出した地区は，A1・C1・C2の3地区である。遺構の切り合いや出土遺物から，中世は大きく5段階に分けられる。建物を検出したA1・C1を中心に，変遷過程を追うこととする。

Ⅰ期（12世紀中頃～13世紀初頭）　C1地区のSB 5・SB 6・SB 7がある。建物が立地する標高は53.6～53.7mである。柱穴からは混入と思われる古代の遺物しか出土していないが，同一面のSK2043から珠洲甕（158，吉岡編年Ⅰ期，12世紀中葉前後～13世紀初頭），C2地区包含層から白磁皿Ⅱ－1か3類（193，C～D期，11世紀後半～12世紀後半）が出土している。SB 6とSB 7は重複していることから，更に2時期の変遷が想定される。先後関係は不明であるが，柱穴の埋土がほぼ同一であることから極めて短い期間の変遷であると考えられる。

Ⅱ期（13世紀前半）　C1・C2地区は，Ⅱ期以降畠作地となり，集落の中心はA1地区に移る。建物はA1地区の東から西まで分散する。建物が立地する標高は，東部で51.2～51.3m，西部で50.8mを測り，Ⅰ期の建物に比べて2.4～2.9m低地へ移動している。建物はSB 8・SB13・SB15・SB20・SB24・SB26・SB27がある。総柱建物を基本とし，柱間の平均距離が2.1～2.3mを測る建物が多い。建物の南北軸は，SA 6を境にして，西の低地に位置するSB 8・SB13・SB15がN－6～8°－W，東に位置するSB20・SB24・SB27がN－11～12°－Wと大きく2つに分類できる。但し東に位置するSB26のみN－3°－Wを測り，これらと建物方位がずれている。遺物はSB20から珠洲擂鉢（115），SB15から中世土師器皿（112）が出土している。いずれも13世紀初頭～前半のものである。

Ⅲ期（13世紀中葉頃～14世紀初頭）　建物が多く建ち並び，集落の最も栄えた時期である。建物はA1地区のSB11・SB12・SB18・SB21・SB22・SB23・SB25があり，総柱建物が多くみられる。Ⅱ期と重複する位置に建て直す建物が多くみられる。立地と建物の軸方位から，大きく3分類できる。建物の南北軸は，西の低地に位置するSB11はN－18°－W，中央に位置するSB12はN－10°－Wを測り，

東に位置するSB18・SB21・SB22・SB23はN－11°－Wに統一される。建物群それぞれに柵列を伴い，区画する意図がみられる。

集落の中心は東の建物群にある。母屋と考えられるSB18は5間×3間の総柱建物で，東に土間と考えられる長方形の竪穴状土坑SK591を伴っていることから，作業場として機能していたことが想定できる。出土遺物は概ね普遍的な中世集落の様相を示しているが，砥石に特色がみられる。砥面に特徴のある荒砥（笹口）・中砥（伊予）・仕上砥（鳴滝中山）が揃って出土していることから，木工・鍛冶関係の技能集団が存在した可能性がある。母屋の北側には近接して3間×2間の建物や倉庫，井戸がある。掘立柱建物の柱間の平均距離は1.7～2.1mを測るものが多く，Ⅱ期よりも若干狭くなっている。遺物は柱穴や土坑，井戸，溝から13世紀代のものが多く出土している。

Ⅳ期（14世紀前半）　中央の建物が廃絶し，建物群は西と東に分かれる。西の低地にはSB 9・SB10があり，東にはSB16・SB19がある。建物の南北軸はSB 9・SB10はN－22～24°－W，SB16・SB19はN－11～12°－Wである。建物は基本的にⅢ期と重複する位置に建て直しているが，東の建物群は北側の緩い地盤を避けて南へ移動する傾向が見られる。SB16はSB18の建て直しと考えられ，同様に東西5間の間取りをとるが，柱間の平均距離はSB18が2.1mを測ったのに比べ1.7mと狭くなっており，小規模化していることが伺える。またSB19は，SB18の作業場を独立させて建て直ししたものと思われる。SB19に伴うSK591北半部の埋土から，SB19或いは周囲が火災に遭っている可能性を考えたことについては，前述したとおりである。またSB16についても，SB19に近接して併存すること，柱穴埋土を他の建物の柱穴と比較すると炭化材の含まれている割合が大きいこと等から，火災の可能性を付け加えたい。またSB16の柱穴から鞴羽口，金属，鉄滓等が出土しており，付近で鍛冶をしていた可能性がある。遺物はSK591から出土したもののうち新しい時期のもの（147・151・152）をあてたい。いずれも13世紀後半～14世紀に収まる時期のものである。

Ⅴ期（14世紀後半～15世紀）　西の低地の建物が廃絶し，建物は東部のみにみられる。SB17はSB16と重複し，SB16の建て直した建物と思われるが，身舎の桁行3間×梁行2間の三面廂建物となっている。身舎の柱間平均距離は，桁間1.9m，梁間1.6mを測る。建物の南北軸はN－9°－WでSB16に近い値である。SB17の北側は焼け地で再利用されず，地面の窪みに灰や炭化物が堆積する様子がみられる。北西側は畠が広がり，近接して2間×2間の側柱建物SB14が建つ。SB14の建物軸はN－23°－Eで，他のどの建物とも方位が異なっている。遺物は，SK274から中世土師器（135）が出土しており，15世紀以降の時期が考えられる。

この段階以降，調査地区内に中世の建物はみられない。近世に至り，西の低地はSD400により埋没し，A1地区東端はSD100により大きく削り取られているが，氾濫原という立地故か，それ以降も田畑としての利用に留まる。

以上，竹ノ内Ⅱ遺跡の中世を概観した。竹ノ内Ⅱ遺跡の周辺には北西に城館の南保城跡と脇の城跡，東に社寺の清水遺跡，南東に城館の高畠城跡等が位置し，密接な関係を持っていたと推測される。また城山には北陸の要塞として知られる宮崎城があり，大きな影響力を与えていたことも伺える。今後の調査の進展に伴い，今回の調査で得られた成果が更に検証されることを望みたい。

（朝田亜紀子）

第62図　竹ノ内Ⅱ遺跡　掘立柱建物変遷図1（中世Ⅰ・Ⅱ期）（1：400・1：2,000）

第63図　竹ノ内Ⅱ遺跡　掘立柱建物変遷図2（中世Ⅲ～Ⅴ期）（1：400）

第５表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層　建物一覧

建物	種別	桁行(m)		梁行(m)		面積(㎡)	棟方位	柱穴規模・径(m)	柱穴規模・深さ(m)	柱間距離桁(m)	柱間距離梁(m)	出土遺物	挿図	写真図版
SB1	東西棟・側柱	2間	3.5	1間	2.7	9.45	N−88°−W	0.16〜0.25	0.12〜0.17	1.6〜1.8	2.2〜2.7	土師器(SP1209)	9	4
SB2	東西棟・側柱	2間	2.4	1間	2.3	5.52	N−73°−W	0.20〜0.47	0.15〜0.27	1.0〜1.4	2.3〜2.4	土師器(SP1284)	9	4
SB3	南北棟・側柱	1間	2.9	2間	2.5	7.25	N− 5°−E	0.20〜0.45	0.11〜0.35	2.8〜2.9	1.0〜1.3	土師器(SP1229)	10	4
SB4	東西棟・総柱	2間	4.1	2間	3.5	14.35	N−85°−W	0.22〜0.45	0.17〜0.48	1.9〜2.2	1.6〜1.8	土師器(SP1145)	10	

第６表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層　柱穴一覧

建物	遺構	旧遺構番号	平面形	法量(m)			出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ				
SB1	SP1207	B1-SP207	円	0.25	0.18	0.13			9	
	SP1208	B1-SP208	円	0.16	0.16	0.17			9	
	SP1209	B1-SP209	円	0.18	0.18	0.17	土師器		9	
	SP1210	B1-SP210	円	0.23	0.23	0.15			9	
	SP1211	B1-SP211	円	0.19	0.19	0.16		>SK1216	9	
	SP1212	B1-SP212	円	0.23	0.23	0.12			9	
SB2	SP1280	B1-SP280	楕円	0.47	0.32	0.15			9	
	SP1281	B1-SP281	円	0.35	0.30	0.27			9	
	SP1282	B1-SP282	円	0.34	0.34	0.23			9	
	SP1283	B1-SP283	円	0.20	0.20	0.15			9	
	SP1284	B1-SP284	円	0.36	0.36	0.21	土師器		9	
	SP1285	B1-SP285	円	0.32	0.32	0.22			9	
SB3	SP1218	B1-SP218	円	0.28	0.28	0.14			10	
	SP1219	B1-SP219	円	0.31	0.31	0.11			10	
	SP1229	B1-SP229	楕円	0.45	0.22	0.17	土師器	<SK1228	10	
	SP1238	B1-SP238	楕円	0.30	0.20	0.31			10	
	SP1239	B1-SP239	円	0.32	0.32	0.35			10	
SB4	SP1135	B1-SP135	円	0.32	0.28	0.37		>SD1136	10	
	SP1144	B1-SP144	円	0.27	0.27	0.48			10	
	SP1145	B1-SP145	円	0.25	0.25	0.27	土師器	柱痕跡,>SK1149	10	
	SP1163	B1-SP163	円	0.29	0.29	0.32		>SD1166・SD1170,<SK1147	10	
	SP1176	B1-SP176	楕円	0.36	0.22	0.17			10	
	SP1381	B1-SP381	(円)	0.45	0.45	0.24		<SK1149		

第７表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層　溝一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
		幅	深さ				
SD1136	B1-SD136	0.23	0.08		<SP1135	11,12	
SD1143	B1-SD143	0.30	0.10		SD1191と同一か,鋤溝	11,12	4
SD1159	B1-SD159	0.25	0.07		<SK1146・SK1157・SK1158・SK1161,SD1215と同一か,鋤溝	11,12	
SD1160	B1-SD160	0.38	0.14	土師器	>SK1149,<SK1161,鋤溝	11,12	
SD1169	B1-SD169	0.30	0.13		>SD1182,<SD1166・SD1167・SK1216・SK1241,SD1222と同一か,鋤溝	11,12	
SD1170	B1-SD170	0.25	0.12	土師器	<SK1162・SP1163・SK1216・SD1184,SD1220と同一か,鋤溝	11,12	
SD1182	B1-SD182	0.15	0.06	土師器	<SD1169	11,12	
SD1183	B1-SD183	0.14	0.06	土師器		11,12	
SD1190	B1-SD190	0.31	0.10		>SK1205,<SK1120・SK1138,鋤溝	11,12	
SD1191	B1-SD191	0.25	0.08	土師器	<SK1193,SD1143と同一か,鋤溝	11,12	
SD1192	B1-SD192	0.22	0.07		>SK1206,<SK1196　鋤溝	11,12	
SD1215	B1-SD215	0.36	0.09		SD1159と同一か,鋤溝	11,12	
SD1220	B1-SD220	0.20	0.06		SD1170と同一か,鋤溝	11,12	
SD1222	B1-SD222	0.29	0.10		>SK1272,<SK1221・SK1223,SD1169と同一か,鋤溝	11,12	
SD1263	B1-SD263	0.20	0.14	土師器	>SK1301,<SK1262,鋤溝	11,12,15	
SD1265	B1-SD265	0.25	0.06		<SK1264,鋤溝	11,12	
SD1266	B1-SD266	0.22	0.10		鋤溝	11,12	
SD1270	B1-SD270	0.24	0.09		<SK1267・SK1269,鋤溝	11,12	
SD1292	B1-SD292	0.36	0.11	土師器	>SX1291・SK1299,<SK1286・SK1302	11,12	
SD1319	B1-SD319	0.60	0.09	土師器	>SK1337	11,12	
SD1323	B1-SD323	0.24	0.11		SD1329と同一か	11,12	
SD1329	B1-SD329	0.28	0.18	土師器	<SK1328,SD1323と同一か	11,12	
SD1330	B1-SD330	0.25	0.13		<SD1325・SK1328	11,12	
SD1348	B1-SD348	0.25	0.13		>SK1377,鋤溝	11,12	
SD1351	B1-SD351	0.35	0.20	土師器	>SD1352・SK1378,鋤溝	11,12	
SD1352	B1-SD352	0.24	0.21	土師器	>SK1353,<SD1351・SD1362	11,12	
SD1359	B1-SD359	0.20	0.14		>SD1360,<SD1362	11,12	
SD1360	B1-SD360	0.20	0.20		<SD1359・SK1361	11,12	
SD1362	B1-SD362	0.30	0.08	土師器	>SD1352・SD1359・SD1363,<SK1361,鋤溝	11,12	
SD1364	B1-SD364	0.27	0.10		<SD1365,鋤溝	11,12	
SD1365	B1-SD365	0.23	0.13		>SD1364・SK1366	11,12	
SD1367	B1-SD367	0.22	0.08		>SK1368	11,12	
SD1371	B1-SD371	0.22	0.11		>SK1372,鋤溝	11,12	
SD1373	B1-SD373	0.40	0.08		鋤溝	11,12	

第８表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代下層　土坑一覧

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SK1102	B1-SK102	円	0.25	0.25	0.27		柱穴の可能性あり	13	
SK1113	B1-SK113	円	0.37	0.37	0.41		柱痕跡	13	
SK1114	B1-SK114	円	0.24	0.24	0.32		柱穴の可能性あり	13	
SK1115	B1-SK115	円	0.37	0.37	0.35		柱穴の可能性あり	13	
SK1116	B1-SK116	円	0.56	0.56	0.35	須恵器		13	
SK1117	B1-SK117	不整	0.68	0.68	0.39			13	
SK1119	B1-SK119	不整	0.71	0.50	0.30	須恵器		13	4
SK1120	B1-SK120	不整	2.59	2.03	0.12	土師器	＞SK1200～SK1204･SD1190, ＜SK1156	13	4
SK1132	B1-SK132	円	0.22	0.22	0.32		柱穴の可能性あり	13	
SK1146	B1-SK146	楕円	0.50	0.41	0.41	土師器	＞SK1149･SD1159	14	
SK1147	B1-SK147	円	0.95	0.92	0.16	土師器	＞SK1149･SP1163･SD1160	14	
SK1149	B1-SK149	不整	2.51	1.53	0.10	土師器	＜SP1145･SP1381･SK1146～SK1148･SD1160	14	
SK1152	B1-SK152	円	0.30	0.30	0.18			13	
SK1153	B1-SK153	円	0.27	0.27	0.30		柱穴の可能性あり	13	
SK1156	B1-SK156	円	0.33	0.33	0.19	土師器	＞SK1120		
SK1161	B1-SK161	不整	1.26	1.17	0.19	土師器	＞SK1158･SD1159･SD1160	13	
SK1162	B1-SK162	円	0.31	0.31	0.38		＞SD1170･SD1184,柱穴の可能性?	10	
SK1165	B1-SK165	(円)	(0.30)	0.27	0.36		＜SD1166,柱穴の可能性あり	13	
SK1178	B1-SK178	楕円	0.31	0.26	0.36		柱痕跡	13	
SK1185	B1-SK185	円	0.23	0.23	0.38		柱穴の可能性あり	13	
SK1197	B1-SK197	楕円	0.34	0.25	0.19	土師器		14	
SK1199	B1-SK199	楕円	0.45	0.30	0.34		柱痕跡?	14	
SK1200	B1-SK200	円	0.37	0.31	0.42		＜SK1120,柱穴の可能性あり	13	
SK1201	B1-SK201	円	0.27	0.23	0.33		＜SK1120,柱穴の可能性あり	13	
SK1202	B1-SK202	円	0.20	0.17	0.17		＜SK1120	13	
SK1203	B1-SK203	円	0.50	0.46	0.13	土師器	＜SK1120	13	
SK1204	B1-SK204	楕円	0.75	0.47	0.37	土師器	＜SK1120	13	
SK1213	B1-SK213	楕円	0.30	0.23	0.32			14	
SK1214	B1-SK214	円	0.19	0.19	0.21			14	
SK1216	B1-SK216	方	1.94	1.70	0.19		＞SD1169･SD1170･SK1236･SK1250･SK1251, ＜SP1211･SK1249	14	
SK1234	B1-SK234	楕円	0.60	0.36	0.32		柱穴の可能性あり	14	
SK1246	B1-SK246	不整	(2.25)	0.87	0.12	土師器		14	
SK1260	B1-SK260	不整	0.49	0.45	0.19	土師器		14	
SK1262	B1-SK262	楕円	0.33	0.22	0.15	土師器	＞SK1301,＜SK1261	14	
SK1267	B1-SK267	楕円	0.60	0.52	0.25		＞SD1270,柱穴の可能性あり	14	
SK1274	B1-SK274	円	0.30	0.30	0.12	土師器		14	
SK1275	B1-SK275	円	0.48	0.48	0.30		柱穴の可能性あり	14	
SK1276	B1-SK276	楕円	0.44	0.37	0.23		SB2の柱穴の可能性あり	9	
SK1296	B1-SK296	円	0.30	(0.19)	0.21		＜SK1297	15	
SK1297	B1-SK297	円	0.25	0.25	0.32		＞SK1296,柱穴の可能性あり	15	
SK1300	B1-SK300	楕円	0.65	0.30	0.30			15	
SK1301	B1-SK301	楕円	(1.05)	(0.50)	0.20	土師器	＜SD1263･SK1262	15	
SK1302	B1-SK302	(方)	1.04	0.64	0.22	土師器	＞SD1292･SK1303	15	
SK1304	B1-SK304	不整	0.50	(0.12)	0.25		＜SK1305	15	
SK1305	B1-SK305	円	0.70	0.65	0.60		＞SK1304,柱穴の可能性あり	15	
SK1306	B1-SK306	楕円	0.71	0.22	0.17			15	
SK1307	B1-SK307	楕円	0.25	0.18	0.45		柱穴の可能性あり	15	
SK1308	B1-SK308	楕円	0.41	0.30	0.13	土師器		15	
SK1310	B1-SK310	不整	0.47	0.38	0.23		＞SK1311	15	
SK1311	B1-SK311	円	(0.31)	0.31	0.50		＜SK1310,柱穴の可能性あり	15	
SK1313	B1-SK313	円	0.20	0.20	0.28		＞SK1314,柱穴の可能性あり	15	
SK1314	B1-SK314	円	0.23	(0.17)	0.14		＜SK1313	15	
SK1315	B1-SK315	円	0.25	0.25	0.08			15	
SK1316	B1-SK316	円	0.33	0.25	0.10	土師器		15	
SK1317	B1-SK317	楕円	0.40	0.33	0.25			15	
SK1318	B1-SK318	円	0.23	0.23	0.31			15	
SX1324	B1-SX324	不整	5.40	(2.28)	0.17	土師器	＞SD1326	11,12	
SK1333	B1-SK333	円	0.40	0.40	0.53		＞SK1334,柱穴の可能性あり	15	
SK1339	B1-SK339	不整	0.34	0.26	0.33		柱穴の可能性あり	15	
SK1342	B1-SK342	(方)	3.38	(1.09)	0.41	土師器	＞SD1341	15	
SK1347	B1-SK347	楕円	0.37	0.31	0.20	土師器(赤彩)		15	
SK1354	B1-SK354	不整	0.39	0.25	0.15	土師器		15	

※規模の(　)付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第9表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層　溝一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
		幅	深さ				
SD1001	B1-SD01	3.30	0.42	土師器,須恵器,灰釉陶器,緑釉陶器,黒色土器,砥石,製塩土器?,種子	>SX1008·SK1020	18	6
SD1002	B1-SD02	6.10	0.5	土師器,須恵器,土錘,黒色土器,製塩土器	>SK1010·SK1012·SK1020·SX1024	18	6
SD1021	B1-SD21	6.80	0.32	土師器,須恵器,製塩土器?	>SK1055	18	
SD1022	B1-SD22	6.60	0.50	土師器,製塩土器?		18	
SD1023	B1-SD23	2.76	0.11	土師器,須恵器,製塩土器?	>SX1024·SK1030·SK1065·SK1066	19	6
SD1081	B1-SD81	(2.22)	0.96	土師器,須恵器,黒色土器,磨石?		18	

第10表　竹ノ内Ⅱ遺跡　古代上層　土坑一覧

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SK1003	B1-SK03	不整	3.60	(1.70)	0.54	土師器,須恵器	>SX1008	20	
SK1004	B1-SK04	(円)	0.47	(0.31)	0.43	土師器	<SX1008,柱穴の可能性あり	20	
SK1005	B1-SK05	(円)	0.97	(0.52)	0.39	土師器,須恵器	<SX1008	20	
SK1006	B1-SK06	楕円	0.75	0.63	0.17	土師器	>SK1007	20	
SK1007	B1-SK07	円	0.30	(0.19)	0.17		<SK1006	20	
SX1008	B1-SX08	不整	(6.30)	(2.44)	0.28	土師器,須恵器	<SD1001·SK1003,>SK1004·SK1005	21	
SK1010	B1-SK10	(円)	1.40	(0.75)	0.26	土師器,須恵器	<SD1002	20	
SK1011	B1-SK11	円	0.73	0.70	0.23	土師器		20	
SK1012	B1-SK12	不整	(0.55)	0.52	0.19	土師器,須恵器	<SD1002	20	
SK1013	B1-SK13	不整	1.68	0.95	0.15	土師器		20	
SK1014	B1-SK14	楕円	0.52	0.35	0.26	土師器		20	
SK1015	B1-SK15	不整	1.50	1.03	0.20	土師器,須恵器	>SK1016	20	
SK1016	B1-SK16	円	0.27	(0.23)	0.22	土師器	<SK1015	20	
SK1018	B1-SK18	楕円	0.56	0.44	0.22	土師器	>SK1019	20	
SK1019	B1-SK19	円	0.17	(0.09)	0.21		<SK1018	20	
SK1020	B1-SK20	不整	2.16	(1.90)	0.30	土師器,須恵器	<SD1001·SD1002	21	
SX1024	B1-SX24	不整	10.50	3.10	0.15	土師器,須恵器,製塩土器?	>SK1025·SK1028～SK1030·SK1080,<SD1023	19	
SK1026	B1-SK26	円	0.55	0.55	0.91	土師器,須恵器	>SD1081, 柱痕跡	21	6
SK1028	B1-SK28	楕円	0.53	0.43	0.45	土師器,須恵器	<SX1024, 柱痕跡	21	
SK1029	B1-SK29	円	0.51	0.46	0.40		<SD1024, 柱穴の可能性あり	22	
SK1030	B1-SK30	不整	(2.24)	(1.10)	0.30	土師器,須恵器,黒色土器	<SD1023·SX1024	19	
SK1036	B1-SK36	楕円	1.44	1.00	0.16	黒色土器	>SK1035·SK1037	22	
SK1038	B1-SK38	楕円	1.60	0.87	0.16	土師器,須恵器		22	
SK1053	B1-SK53	楕円	0.91	0.31	0.16	土師器	>SK1054	22	
SK1054	B1-SK54	不整	2.45	1.60	0.13	土師器,須恵器,灰釉陶器	<SK1053	22	
SK1056	B1-SK56	長方	0.72	0.42	0.07	土師器	>SK1057,<SK1067	22	
SK1060	B1-SK60	円	0.20	0.17	0.16			22	
SK1061	B1-SK61	円	0.19	0.19	0.16	土師器		22	
SK1063	B1-SK63	楕円	0.54	0.48	0.14		柱痕跡	22	
SK1068	B1-SK68	円	0.35	0.30	0.34		柱痕跡	22	
SK1070	B1-SK70	円	0.18	0.18	0.24	土師器	柱痕跡	22	
SK1073	B1-SK73	楕円	0.53	0.47	0.28		柱痕跡	22	
SK1077	B1-SK77	円	0.62	0.58	0.19	土師器	炭化材樹種同定	22	
SK1079	B1-SK79	円	0.22	0.22	0.24			22	
SK1080	B1-SK80	楕円	0.84	0.53	0.14	土師器,須恵器	<SK1024	22	

※規模の（　）付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第11表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　建物一覧

建物	種別	桁行(m)		梁行(m)		面積(㎡)	棟方位	柱穴規模径(m)	柱穴規模深さ(m)	柱間距離桁(m)	柱間距離梁(m)	出土遺物	挿図	写真図版
SB5	南北棟・総柱	3間	7.69	3間	6.79	52.22	N−10°−E	0.24〜0.42	0.03〜0.49	2.29〜2.84	2.08〜2.47	土師器(SP2102)	27	8
SB6	南北棟・総柱(三面廂)	4間	11.02	4間	8.49	93.56	N−8°−E	0.23〜0.44	0.13〜0.45	2.96〜3.48(廂 1.70〜2.00)	2.42〜2.68(廂 1.59〜1.86)	土師器(SP2106)	28,29	8
SB7	東西棟・側柱	3間	7.14	1間	3.14	22.42	N−82°−W	0.28〜0.50	0.08〜0.28	1.98〜2.69	3.14	須恵器(SP2075)	30	8
SB8	東西棟・総柱	3間	5.84	2間	4.43	25.87	N−84°−E	0.19〜0.74	0.08〜0.32	1.56〜2.42	2.08〜2.37		32	9
SB9	南北棟・側柱	2間	3.97	1間	2.33	9.25	N−24°−W	0.20〜0.30	0.09〜0.46	1.73〜2.23	2.33	珠洲(SP669)	33	9
SB10	東西棟・総柱	2間	3.76	2間	3.58	13.46	N−68°−E	0.22〜0.41	0.07〜0.44	1.54〜1.93	1.62〜2.23	珠洲(SP757)	33	9
SB11	南北棟・側柱	2間	3.32	1間	1.99	6.61	N−18°−W	0.18〜0.40	0.10〜0.24	1.37〜1.99	1.99	中世土師器(SP660・SP694),金属(SP671)	32	9
SB12	南北棟・側柱	4間	7.98	2間	4.31	34.39	N−10°−W	0.26〜0.40	0.07〜0.42	1.86〜2.22	2.13〜2.17	中世土師器(SP9)	34	10
SB13	南北棟・側柱	3間	5.38	1間	1.81	9.74	N−7°−W	0.13〜0.34	0.13〜0.25	1.68〜1.90	1.81		34	10
SB14	南北棟・側柱	2間	4.15	2間	3.63	15.06	N−23°−E	0.20〜1.20	0.06〜0.43	1.96〜2.20	1.52〜2.12	中世土師器(SP26・SP37・SP76・SP82),金属(SP37),珠洲(SP85)	35	
SB15	総柱	2間	4.39	2間	4.39	19.27	N−8°−W	0.40〜1.00	0.09〜0.52	2.15〜2.25	1.93〜2.48	中世土師器(SP70・SP88・SP335),珠洲(SP70),青磁(SP335),金属(SP335),炭化材(SP70)	35	
SB16	東西棟・総柱	5間	8.61	(1間)	1.76	15.15	N−79°−E	0.29〜0.84	0.17〜0.54	1.65〜1.79	1.76	中世土師器(SP141・SP164・SP210・SP221・SP509),金属(SP141・SP221),鞴羽口(SP164),鉄滓(SP210),炭化材(SP141・SP164・SP210・SP518)	36	10,11
SB17	東西棟・総柱(三面廂)	5間	7.97	3間	4.68	37.30	N−81°−E	0.21〜0.80	0.08〜0.53	1.80〜2.08(廂 1.05〜1.20)	1.47〜1.75(廂 1.40)	土師器(SP185),中世土師器(SP179・SP205),鉄滓(SP511),炭化材(SP511),炭化米(SP511)	37	10
SB18	東西棟・総柱	5間	10.65	3間	6.08	64.75	N−79°−E	0.20〜1.17	0.07〜0.57	1.97〜2.32	1.83〜2.26	中世土師器(SP169・SP244・SP253・SP270・SP279・SP476・SP911),青磁(SP244),珠洲(SP547),炭化材(SP169)	38,39	10,11
SB19	南北棟・側柱	4間	5.53	2間	3.10	17.14	N−12°−W	0.15〜1.55	0.11〜0.32	1.37〜1.69	1.10〜1.98	中世土師器(SP505・SP516),珠洲(SP505)	37	10
SB20	東西棟・総柱	4間	8.40	2間	4.03	33.85	N−79°−E	0.20〜0.61	0.07〜0.52	1.89〜2.40	1.86〜2.19	中世土師器(SP258・SP297・SP392・SP450・SP529・SP610),珠洲(SP297・SP610)	40	
SB21	東西棟・総柱	3間	5.30	2間	3.67	19.45	N−79°−E	0.16〜0.64	0.05〜0.35	1.56〜1.90	1.76〜2.06	中世土師器(SP307・SP312・SP331・SP337・SP363),青磁(SP363),炭化材(SP287)	41	
SB22	東西棟・総柱	2間	3.79	2間	3.67	13.91	N−79°−E	0.19〜0.55	0.15〜0.46	1.76〜1.99	1.76〜1.85	中世土師器(SP395・SP426・SP447・SP534),珠洲(SP534)	41	
SB23	東西棟・側柱?	(2間)	3.38	(1間)	1.70	5.75	N−79°−E	0.19〜0.37	0.08〜0.29	1.62〜1.76	1.70	珠洲(SP421)	42	
SB24	東西棟・側柱?	(3間)	4.59	(1間)	1.47	6.75	N−78°−E	0.21〜0.30	0.07〜0.43	1.32〜1.77	1.47		42	
SB25	側柱	2間	2.83	(1間)	1.65	4.67	N−6°−W	0.19〜0.30	0.10〜0.21	1.33〜1.50	1.65		42	
SB26	東西棟・総柱	(3間)	6.91	(2間)	4.37	30.20	N−87°−W	0.24〜0.53	0.25〜0.44	1.96〜2.67	1.78〜2.19	中世土師器(SP842)	43	9,10
SB27	東西棟・総柱	(2間)	4.56	(2間)	4.19	19.11	N−79°−E	0.30〜0.55	0.15〜0.46	1.94〜2.37	2.03〜2.16		43	9

第12表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　柱穴一覧(1)

建物	遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m) 長さ	幅	深さ	出土遺物	特記	挿図	写真図版
SB5	SP2099	C1-SP99	円	0.40	0.37	0.27			27	
	SP2102	C1-SP102	円	0.34	0.34	0.20	土師器	>SD2123		
	SP2103	C1-SP103	円	0.35	0.35	0.33			27	
	SP2104	C1-SP104	円	0.34	0.30	0.28				
	SP2110	C1-SP110	円	0.36	0.36	0.09				
	SP2111	C1-SP111	円	0.35	0.33	0.18				
	SP2113	C1-SP113	円	0.42	0.39	0.49			27	
	SP2114	C1-SP114	円	0.32	0.32	0.24				
	SP2118	C1-SP118	円	0.27	0.23	0.13				
	SP2119	C1-SP119	円	0.28	0.26	0.09				
	SP2120	C1-SP120	楕円	0.24	0.15	0.03				
	SP2121	C1-SP121	円	0.35	0.35	0.20				
	SP2129	C1-SP129	円	0.34	0.30	0.06				
	SP2136	C1-SP136	円	0.33	0.29	0.13			27	
SB6	SP2068	C1-SP68	円	0.26	0.26	0.18		>SD2150		
	SP2071	C1-SP71	円	0.35	0.30	0.26				
	SP2073	C1-SP73	円	0.33	0.29	0.23				
	SP2076	C1-SP76	円	0.28	0.28	0.25			29	
	SP2079	C1-SP79	円	0.37	0.35	0.32			29	
	SP2081	C1-SP81	円	0.36	0.33	0.26				
	SP2082	C1-SP82	円	0.41	0.38	0.34			29	
	SP2083	C1-SP83	円	0.41	0.39	0.34			29	
	SP2086	C1-SP86	円	0.29	0.26	0.13				
	SP2087	C1-SP87	円	0.36	0.36	0.35			29	
	SP2092	C1-SP92	円	0.35	0.32	0.21		>SK2093		
	SP2096	C1-SP96	円	0.28	0.28	0.45			29	
	SP2097	C1-SP97	円	0.34	0.32	0.38			29	
	SP2100	C1-SP100	円	0.37	0.35	0.41		>SK2095	29	
	SP2101	C1-SP101	円	0.40	0.35	0.37			29	
	SP2105	C1-SP105	円	0.42	0.42	0.32			29	
	SP2106	C1-SP106	円	0.33	0.33	0.34	土師器		29	
	SP2115	C1-SP115	楕円	0.35	0.23	0.34				
	SP2122	C1-SP122	円	0.44	0.44	0.37			29	
	SP2138	C1-SP138	円	0.23	0.23	0.15				
	SP2155	C1-SP155	円	0.27	0.25	0.20				
	SP2193	C1-SP193	円	0.34	0.32	0.19				

第12表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　柱穴一覧(2)

建物	遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ				
SB7	SP2072	C1-SP72	円	0.35	0.28	0.20			30	
	SP2074	C1-SP74	円	0.39	0.39	0.14			30	
	SP2075	C1-SP75	円	0.42	0.32	0.28	須恵器		30	
	SP2080	C1-SP80	円	0.50	0.39	0.12			30	
	SP2085	C1-SP85	円	0.38	0.32	0.16			30	
	SP2107	C1-SP107	円	0.28	0.26	0.08		>SD2150		
	SP2156	C1-SP156	円	0.29	0.29	0.22			30	
SB8	SP651	A1-SP651	円	0.27	0.27	0.12				
	SP657	A1-SP657	方	0.74	0.40	0.13				
	SP664	A1-SP664	円	0.49	0.40	0.08				
	SP670	A1-SP670	円	0.25	0.22	0.08				
	SP689	A1-SP689	円	0.23	0.23	0.13				
	SP692	A1-SP692	円	0.28	0.28	0.14		SB9と共有		
	SP702	A1-SP702	楕円	0.38	0.27	0.08				
	SP710	A1-SP710	円	0.23	0.23	0.11				
	SP714	A1-SP714	円	0.19	0.19	0.08				
	SP722	A1-SP722	円	0.27	0.27	0.32		>SK723		
	SP739	A1-SP739	楕円	0.30	0.24	0.08				
SB9	SP669	A1-SP669	円	0.30	0.30	0.15	珠洲		33	
	SP677	A1-SP677	円	0.23	0.18	0.30				
	SP688	A1-SP688	円	0.20	0.20	0.46				
	SP692	A1-SP692	円	0.28	0.28	0.14		SB8と共有		
	SP699	A1-SP699	円	0.26	0.26	0.09		>SP698(SA3)		
	SP711	A1-SP711	円	0.26	0.21	0.20				
SB10	SP640	A1-SP640	円	0.41	0.41	0.22				
	SP645	A1-SP645	円	0.31	0.31	0.08		>SK644		
	SP703	A1-SP703	円	0.25	0.19	0.19		>SK738		
	SP713	A1-SP713	円	0.22	0.22	0.07				
	SP742	A1-SP742	円	0.26	0.26	0.27				
	SP747	A1-SP747	円	0.25	0.25	0.18				
	SP754	A1-SP754	円	0.28	0.28	0.44		>SK755	33	
	SP757	A1-SP757	円	0.37	0.37	0.36	珠洲		33	
	SP773	A1-SP773	円	0.28	0.23	0.32		>SK738		
SB11	SP660	A1-SP660	楕円	0.40	0.29	0.17	中世土師器	>SK661		
	SP671	A1-SP671	円	0.18	0.18	0.18	金属			
	SP678	A1-SP678	円	0.34	0.34	0.10				
	SP685	A1-SP685	円	0.35	0.35	0.24		>SK686		
	SP694	A1-SP694	円	0.39	0.39	0.20	中世土師器			
	SP706	A1-SP706	円	0.26	0.26	0.23				
SB12	SP6	A1-SP06	円	0.27	0.27	0.42			34	
	SP9	A1-SP09	円	0.26	0.26	0.32	中世土師器			
	SP12	A1-SP12	円	0.30	0.30	0.30				
	SP51	A1-SP51	円	0.27	0.27	0.07				
	SP129	A1-SP129	楕円	0.37	0.29	0.09				
	SP774	A1-SP774	円	0.28	0.28	0.16		>SD20		
	SP775	A1-SP775	楕円	0.40	0.25	0.32		>SD20	34	
SB13	SP5	A1-SP05	円	0.18	0.18	0.17				
	SP7	A1-SP07	円	0.22	0.22	0.20			34	
	SP10	A1-SP10	楕円	0.34	0.27	0.13				
	SP22	A1-SP22	楕円	0.30	0.23	0.25			34	
	SP52	A1-SP52	円	0.18	0.18	0.23				
	SP118	A1-SP118	円	0.25	0.25	0.19				
	SP121	A1-SP121	円	0.13	0.13	0.20				
SB14	SP26	A1-SP26	円	0.44	(0.28)	0.16	中世土師器	<SK25	35	
	SP37	A1-SP37	円	0.37	0.37	0.07	中世土師器,金属			
	SP76	A1-SP76	不整	1.02	0.84	0.28	中世土師器	>SK66,<SK77·SK78	35	
	SP82	A1-SP82	不整	(0.77)	0.60	0.21	中世土師器	<SK83		
	SP85	A1-SP85	楕円	1.20	0.95	0.25	珠洲		35	
	SP87	A1-SP87	円	0.20	0.20	0.43				
	SP91	A1-SP91	不整	0.99	0.50	0.12				
SB15	SP32	A1-SP32	方	0.55	(0.30)	0.32		<SD41		
	SP36	A1-SP36	楕円	0.64	0.35	0.10				
	SP69	A1-SP69	方	(0.45)	0.42	0.23		<SK47		
	SP70	A1-SP70	方	0.80	0.80	0.52	中世土師器,珠洲,炭化材	<SD42,炭化材樹種同定,AMS	35	
	SP88	A1-SP88	楕円	1.00	0.46	0.37	中世土師器		35	
	SP103	A1-SP103	円	0.40	0.36	0.09				
	SP335	A1-SP335	楕円	0.40	0.24	0.15	中世土師器,青磁,銭	<SD41·SD42		
SB16	SP141	A1-SP141	円	0.55	0.47	0.54	中世土師器,鉄滓,炭化材	>SD197,炭化材樹種同定,AMS	36	11
	SP157	A1-SP157	楕円	0.40	0.38	0.36		>SK159		
	SP164	A1-SP164	楕円	0.54	0.48	0.41	中世土師器,鞴羽口,炭化材	>SK163·SK165·SK176,炭化材樹種同定	36	
	SP182	A1-SP182	円	0.29	0.29	0.18		>SK180·SD197·SK207		
	SP210	A1-SP210	楕円	0.84	(0.25)	0.31	中世土師器,鉄滓,炭化材	>SK211,炭化材樹種同定	36	
	SP221	A1-SP221	楕円	0.44	0.33	0.37	中世土師器,金属	>SD197		
	SP509	A1-SP509	円	0.35	0.35	0.17	中世土師器	>SD197,<SK508		
	SP518	A1-SP518	円	0.57	0.57	0.26	炭化材	>SD197,炭化材樹種同定,炭化米DNA	36	
	SP556	A1-SP556	円	0.75	(0.23)	0.30				
SB17	SP162	A1-SP162	円	0.29	0.29	0.12		>SK161		
	SP179	A1-SP179	円	0.23	0.23	0.15	中世土師器	>SD197		
	SP185	A1-SP185	円	0.37	0.24	0.22	土師器			
	SP186	A1-SP186	円	0.27	0.27	0.08				
	SP193	A1-SP193	円	0.42	0.42	0.24		<SK192,>SK194·SD197·SK207		
	SP205	A1-SP205	楕円	0.41	0.29	0.18	中世土師器	>SK206		
	SP481	A1-SP481	円	0.21	0.21	0.53				
	SP484	A1-SP484	円	0.33	0.33	0.34		>SD197·SK485·SK486	37	
	SP501	A1-SP501	円	0.50	0.50	0.13		<SK480,>SK502		
	SP511	A1-SP511	円	0.42	0.42	0.47	鉄滓,炭化材,炭化米	>SD197,炭化材樹種同定,炭化米DNA	37	
	SP515	A1-SP515	楕円	0.80	0.52	0.33		>SK591,<SK513		
	SP555	A1-SP555	楕円	0.64	0.52	0.39				
	SP583	A1-SP583	円	0.28	0.28	0.45		>SK591		

第12表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　柱穴一覧(3)

建物	遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ				
SB17	SP853	A1-SP853	不整	0.59	0.40	0.09		>SK919		
SB18	SP149	A1-SP149	楕円	(0.70)	0.60	0.35		<SK148·SK195		
	SP169	A1-SP169	円	0.49	0.49	0.57	中世土師器,炭化材	<SK480,炭化材樹種同定,AMS	39	11
	SP213	A1-SP213	円	0.36	0.28	0.30		>SK212		
	SP229	A1-SP229	円	0.28	0.28	0.28		>SK228		
	SP244	A1-SP244	円	0.43	0.43	0.15	中世土師器,青磁			
	SP253	A1-SP253	円	0.32	0.26	0.26	中世土師器	>SK252·SK254		
	SP270	A1-SP270	楕円	1.17	0.80	0.36	中世土師器	<SK271·SD272,<SK504	39	
	SP275	A1-SP275	楕円	0.33	(0.30)	0.50		<SK273·SK274	39	
	SP279	A1-SP279	円	0.24	(0.11)	0.17	中世土師器	<SK278·SK280		
	SP476	A1-SP476	円	0.85	(0.60)	0.43	中世土師器	<SK480·SK494	39	
	SP497	A1-SP497	楕円	0.74	0.46	0.47			39	
	SP526	A1-SP526	不整	0.40	0.40	0.09				
	SP547	A1-SP547	楕円	0.58	0.46	0.35	珠洲	<SK480	39	
	SP562	A1-SP562	楕円	0.44	0.32	0.40			39	
	SP593	A1-SP593	円	0.32	0.32	0.23				
	SP611	A1-SP611	楕円	0.85	0.68	0.25		<SK250		
	SP614	A1-SP614	円	0.27	0.27	0.15				
	SP616	A1-SP616	円	0.27	0.27	0.13		>SK924		
	SP639	A1-SP639	円	0.20	0.20	0.07		<SK591		
	SP852	A1-SP852	円	0.24	0.24	0.16		<SK617		
	SP906	A1-SP906	楕円	0.48	0.35	0.19		<SK203		
	SP911	A1-SP911	円	0.31	0.31	0.49	中世土師器		39	
	SP927	A1-SP927	不整	(0.22)	(0.17)	0.10		<SK522·SK591·SK939		
SB19	SP473	A1-SP473	楕円	0.23	0.17	0.24		>SK591		
	SP498	A1-SP498	楕円	0.65	0.51	0.22		<SK250		
	SP505	A1-SP505	楕円	(1.55)	0.50	0.29	中世土師器,珠洲	<SK513, >SK520·SK521·SK591·SK926		
	SP514	A1-SP514	円	0.40	(0.30)	0.27		<SK513,>SK591		
	SP516	A1-SP516	楕円	0.41	0.27	0.21	中世土師器	>SK591	37	
	SP568	A1-SP568	円	0.27	0.27	0.32		>SK528·SK571·SK591		
	SP594	A1-SP594	楕円	0.47	0.35	0.13				
	SP596	A1-SP596	円	0.23	0.23	0.11				
	SP637	A1-SP637	円	0.15	0.15	0.12		<SK591		
SB20	SP258	A1-SP258	楕円	0.55	0.30	0.18	中世土師器	<SK260		
	SP290	A1-SP290	楕円	0.40	0.30	0.09				
	SP297	A1-SP297	楕円	0.59	0.45	0.17	中世土師器,珠洲	>SK296	40	
	SP309	A1-SP309	楕円	0.47	0.32	0.07				
	SP320	A1-SP320	円	0.38	0.38	0.09		<SK319		
	SP326	A1-SP326	円	0.20	0.20	0.08				
	SP392	A1-SP392	楕円	0.61	0.49	0.29	中世土師器	>SK391		
	SP399	A1-SP399	円	0.34	0.34	0.25		>SK860	40	
	SP442	A1-SP442	円	0.20	0.20	0.13		SB25と共有,<SK458		
	SP450	A1-SP450	楕円	0.47	0.36	0.38	中世土師器	>SK449·SK451		
	SP529	A1-SP529	円	0.40	0.40	0.52	中世土師器	<SK429	40	
	SP531	A1-SP531	円	0.25	0.25	0.12		>SK532		
	SP539	A1-SP539	円	0.21	0.21	0.17				
	SP610	A1-SP610	円	0.43	0.43	0.46	中世土師器,珠洲	>SK455	40	
	SP626	A1-SP626	円	0.55	0.42	0.28		<SP625(SB22)		
SB21	SP287	A1-SP287	楕円	0.46	0.37	0.29	炭化材	>SK288,炭化材樹種同定,炭化米DNA	41	
	SP294	A1-SP294	円	0.21	0.21	0.17				
	SP299	A1-SP299	円	0.16	0.16	0.05		<SK298		
	SP307	A1-SP307	楕円	0.64	0.52	0.29	中世土師器	<SK308	41	
	SP312	A1-SP312	円	0.28	0.28	0.35	中世土師器	>SK313		
	SP331	A1-SP331	円	0.28	0.28	0.20	中世土師器	>SK373		
	SP337	A1-SP337	楕円	0.37	0.26	0.15	中世土師器			
	SP338	A1-SP338	円	0.33	0.33	0.11		<SK260		
	SP357	A1-SP357	円	0.29	0.29	0.09		<SK356,>SK351		
	SP363	A1-SP363	円	0.32	0.32	0.12	中世土師器(SK280と接合),青磁	>SK364		
	SP942	A1-SP942	楕円	0.36	0.26	0.26		>SK373		
SB22	SP395	A1-SP395	楕円	0.43	0.32	0.40	中世土師器	<SK394	41	
	SP426	A1-SP426	円	0.39	0.39	0.46	中世土師器		41	
	SP437	A1-SP437	円	0.31	0.31	0.28		>SK436		
	SP447	A1-SP447	円	0.37	0.37	0.33	中世土師器			
	SP534	A1-SP534	楕円	(0.40)	0.40	0.31	中世土師器,珠洲	<SK533		
	SP544	A1-SP544	円	0.19	0.19	0.15				
	SP625	A1-SP625	楕円	0.55	0.35	0.32		>SP626(SB20)		
	SP634	A1-SP634	円	0.40	0.40	0.29				
	SP857	A1-SP857	楕円	0.35	0.23	0.31				
SB23	SP403	A1-SP403	円	0.37	0.32	0.19		<SK402		
	SP415	A1-SP415	円	0.19	0.19	0.21				
	SP421	A1-SP421	楕円	(0.27)	0.22	0.29	珠洲	<SK417		
	SP464	A1-SP464	円	0.20	0.20	0.08		>SK467		
SB24	SP323	A1-SP323	円	0.25	(0.17)	0.07				
	SP404	A1-SP404	円	0.30	0.30	0.18		<SK402		
	SP412	A1-SP412	円	0.30	0.30	0.43			42	
	SP422	A1-SP422	円	0.21	0.21	0.41			42	
	SP943	A1-SP943	円	0.23	0.19	0.18		<SK467		
SB25	SP442	A1-SP442	円	0.20	0.20	0.13		SB20と共有,<SK458		
	SP601	A1-SP601	円	0.30	0.24	0.21				
	SP602	A1-SP602	円	0.20	0.20	0.10				
	SP603	A1-SP603	円	0.19	0.19	0.11				
SB26	SP804	A1-SP804	円	0.34	0.28	0.39				
	SP808	A1-SP808	円	0.32	0.32	0.44		>SK807	43	
	SP809	A1-SP809	方	0.41	0.29	0.32			43	
	SP810	A1-SP810	円	0.53	0.39	0.27			43	
	SP812	A1-SP812	円	0.28	0.28	0.28			43	
	SP836	A1-SP836	方	0.38	(0.32)	0.25				
	SP838	A1-SP838	円	0.24	0.24	0.25				

第12表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　柱穴一覧(4)

建物	遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ				
SB26	SP842	A1-SP842	方	0.49	(0.30)	0.30	中世土師器			
SB27	SP777	A1-SP777	円	0.30	0.30	0.46			43	
	SP780	A1-SP780	楕円	0.48	(0.29)	0.18		<SD100		
	SP781	A1-SP781	楕円	0.42	0.32	0.15				
	SP785	A1-SP785	楕円	0.38	0.28	0.26		>SK786	43	
	SP789	A1-SP789	楕円	0.55	0.39	0.23				
	SP791	A1-SP791	楕円	0.46	0.38	0.36			43	
	SP793	A1-SP793	楕円	0.40	0.34	0.38				
SA1	SP646	A1-SP646	円	0.46	(0.38)	0.12		<SK647		
	SP704	A1-SP704	円	0.24	0.20	0.24				
	SP715	A1-SP715	円	0.40	0.30	0.22				
	SP772	A1-SP772	円	0.17	0.17	0.05				
SA2	SP659	A1-SP659	不整	0.43	0.30	0.22				
	SP663	A1-SP663	楕円	0.30	0.18	0.08				
	SP697	A1-SP697	楕円	0.33	0.21	0.06				
SA3	SP652	A1-SP652	円	0.25	0.25	0.19		>SK653		
	SP698	A1-SP698	楕円	0.27	(0.21)	0.28		<SP699(SB9)		
	SP712	A1-SP712	楕円	0.31	0.20	0.36				
SA4	SP4	A1-SP04	楕円	0.38	0.23	0.13				
	SP8	A1-SP08	円	0.25	0.25	0.37	中世土師器		34	
	SP120	A1-SP120	円	0.18	0.18	0.16				
SA5	SP13	A1-SP13	円	0.27	0.27	0.15			34	
	SP19	A1-SP19	円	0.21	0.21	0.20				
	SP887	A1-SP887	楕円	0.50	0.31	0.19				
SA6	SP61	A1-SP61	円	0.19	0.19	0.20	中世土師器	<SK68	39	
	SP122	A1-SP122	円	0.35	0.35	0.07				
	SP225	A1-SP225	楕円	0.61	0.41	0.17				
	SP376	A1-SP376	円	0.28	0.28	0.31	中世土師器		39	
	SP867	A1-SP867	円	0.32	0.32	0.12				
	SP871	A1-SP871	円	0.52	0.31	0.20	中世土師器	>SK873		
	SP877	A1-SP877	円	0.24	(0.19)	0.19		<SK876		

※規模の(　)付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第13表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　井戸一覧

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SE600	A1-SE600	隅丸方	2.88	2.79	0.63	中世土師器,珠洲,漆器,鞴羽口	<SK470, 漆器塗膜分析	42	11

第14表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　溝一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	特記	挿図	写真図版
		幅	深さ				
SD20	A1-SD20	3.10～5.20	0.50	土師器,中世土師器,珠洲	<SP774(SB12)・SP775(SB12)他	44	
SD41	A1-SD41	0.80	0.08	中世土師器,磁器,鞴羽口	SD42とつながる,>SP32(SB15)・SP335(SB15)他,<SD261	44	
SD42	A1-SD42	1.10	0.08	中世土師器,珠洲,鞴羽口	SD41とつながる,>SP70(SB15)・SP335(SB15)他,<SD261	44	
SD108	A1-SD108	0.77～0.87	0.07			44	
SD109	A1-SD109	0.26	0.09			44	
SD197	A1-SD197	0.55～1.08	0.11	中世土師器	SB18併行,<SP141(SB16)・SK146・SP179(SB17)・SK180・SP182(SB16)・SK192・SP193(SB17)・SK207・SP221(SB16)・SP484(SB17)・SP509(SB16)・SP511(SB17)・SP518(SB16),<SK485・SK508	44	
SD201	A1-SD201	0.36	0.10		<SK200他,>SK480	47	
SD261	A1-SD261	0.25	0.07		>SD41・SD42	44	
SD272	A1-SD272	0.29	0.07	中世土師器	>SP270(SB18)		
SD2005	C1-SD05	0.27	0.04			45	8
SD2019	C1-SD19	0.25～1.42	0.18	須恵器		45	8
SD2038	C1-SD38	0.73	0.05		SD2039・SD2041・SD2042とつながる	45	8
SD2039	C1-SD39	0.30	0.08		SD2038・SD2041・SD2042とつながる	45	8
SD2040	C1-SD40	1.25～3.20	0.08			45	8
SD2041	C1-SD41	0.41	0.07		SD2038・SD2039・SD2042とつながる	45	8
SD2042	C1-SD42	0.63	0.08		SD2038・SD2039・SD2041とつながる	45	8
SD2123	C1-SD123	0.27	0.03	土師器	<SP2102(SB5)		
SD2124	C1-SD124	0.41	0.37	須恵器	>SK2183	31	
SD2144	C1-SD144	0.23～1.00	0.15	土師器,須恵器		31	
SD2150	C1-SD150	1.35	0.20		<SP2068(SB6)・SP2107(SB7)他	31	
SD2201	C2-SD01	0.33	0.11		SD2202とつながる	46	
SD2202	C2-SD02	0.52～0.88	0.16	珠洲,唐津	SD2201とつながる	46	
SD2203	C2-SD03	0.35	0.06			46	

第15表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　土坑一覧(1)

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SK25	A1-SK25	円	0.59	0.50	0.27	中世土師器	>SP26(SB14)		
SK47	A1-SK47	円	0.28	0.28	0.43	中世土師器	>SP69(SB15)		
SK50	A1-SK50	円	0.58	0.41	0.06			35	
SK55	A1-SK55	隅丸方	1.38	1.05	0.29	中世土師器		47	
SK57	A1-SK57	楕円	1.19	(0.41)	0.28			47	
SK66	A1-SK66	楕円	(0.58)	0.56	0.10	中世土師器	<SP76(SB14)		
SK68	A1-SK68	楕円	1.22	0.62	0.11	中世土師器	>SP61(SA6)		
SK77	A1-SK77	円	0.32	0.32	0.04		>SP76(SB14)·SK78		
SK78	A1-SK78	楕円	0.52	0.27	0.05		>SP76(SB14),<SK77		
SK83	A1-SK83	円	0.65	0.60	0.13		>SP82(SB14)		
SK112	A1-SK112	円	0.43	0.35	0.21	中世土師器,銭			
SK133	A1-SK133	楕円	0.49	0.47	0.14	中世土師器			
SK146	A1-SK146	円	0.58	0.58	0.12	中世土師器,炭化米	>SD197·SK480,炭化米DNA	47	
SK148	A1-SK148	楕円	0.40	0.21	0.12		>SP149(SB18)		
SK159	A1-SK159	円	0.25	0.25	0.16		<SP157(SB16)他		
SK161	A1-SK161	円	0.22	(0.15)	0.18		<SP162(SB17)他		
SK163	A1-SK163	円	0.32	0.21	0.16	中世土師器	<SP164(SB16)		
SK165	A1-SK165	円	0.34	(0.23)	0.20		<SP164(SB16)		
SK175	A1-SK175	円	0.24	0.24	0.22		>SK177		
SK176	A1-SK176	円	(0.31)	0.30	0.09		<SP164(SB16)·SK177		
SK177	A1-SK177	円	0.50	0.40	0.50	炭化材,炭化米,焼骨片,鉄滓	>SK176,<SK175,炭化米DNA		
SK180	A1-SK180	楕円	(0.55)	0.39	0.26	中世土師器	>SD197,<SP182(SB16)	47	11
SK192	A1-SK192	円	0.34	0.34	0.09		>SP193(SB17)·SD197·SK207他		
SK194	A1-SK194	円	(0.45)	0.45	0.35		<SP193(SB17)·SK195		
SK195	A1-SK195	円	0.25	0.25	0.31		>SP149(SB18)·SK194		
SK200	A1-SK200	円	1.29	1.29	0.34	中世土師器,珠洲,白磁,青磁	>SD201·SK214·SK480	47	
SK203	A1-SK203	楕円	1.40	0.54	0.05		>SP906(SB18)		
SK206	A1-SK206	楕円	1.50	0.57	0.25	中世土師器,青磁	<SP205(SB17)	47	
SK207	A1-SK207	円	(0.38)	0.35	0.30	中世土師器	<SP182(SB16)·SK192·SP193(SB17)他,>SD197		
SK211	A1-SK211	円	0.36	(0.36)	0.17		<SP210(SB16)		
SK212	A1-SK212	円	(0.50)	0.49	0.08		<SP213(SB18)		
SK214	A1-SK214	楕円	1.75	(1.02)	0.20	中世土師器	<SK200,>SK480他	47	
SK228	A1-SK228	円	0.65	0.65	0.11		<SP229(SB18)他		
SK249	A1-SK249	不整	0.56	0.44	0.08	青磁	>SK250	48	
SK250	A1-SK250	不整	2.90	1.17	0.32	中世土師器,炭化材	<SK249,>SP498(SB19)·SP611(SB18)他	48	11
SK252	A1-SK252	円	0.30	0.24	0.15		<SP253(SB18)·SK254		
SK254	A1-SK254	円	(0.35)	0.33	0.23		<SP253(SB18),>SK252		
SK260	A1-SK260	隅丸方	2.48	1.80	0.16	中世土師器	>SP258(SB20)·SP338(SB21)	48	
SK271	A1-SK271	円	0.35	0.27	0.08	鞴羽口	>SP270(SB18)		
SK273	A1-SK273	円	0.59	0.44	0.26	中世土師器	>SK274·SP275(SB18)他		
SK274	A1-SK274	楕円	(1.63)	1.20	0.35	中世土師器,炭化材	<SK273,>SP275(SB18)	48	
SK277	A1-SK277	円	0.25	0.17	0.23	中世土師器			
SK278	A1-SK278	楕円	0.81	0.49	0.19	炭化材	>SP279(SB18)	48	
SK280	A1-SK280	楕円	0.72	0.45	0.39	中世土師器(SP363と接合), 珠洲	>SP279(SB18)		
SK288	A1-SK288	円	0.25	(0.25)	0.23		<SP287(SB21)		
SK296	A1-SK296	円	(0.38)	0.37	0.21	中世土師器	<SP297(SB20)		
SK298	A1-SK298	円	0.45	0.45	0.32	中世土師器	>SP299(SB21)		
SK308	A1-SK308	円	0.34	0.34	0.18		>SP307(SB21)		
SK313	A1-SK313	楕円	0.64	0.40	0.10		<SP312(SB21)		
SK319	A1-SK319	楕円	0.65	0.39	0.28	中世土師器	>SP320(SB20)他		
SK351	A1-SK351	不整	1.22	0.29	0.18	中世土師器	<SP357(SB21)他		
SK356	A1-SK356	円	0.28	0.28	0.15	中世土師器	>SP357(SB21)		
SK364	A1-SK364	円	0.43	(0.35)	0.14	中世土師器,青磁	<SP363(SB21)		
SK373	A1-SK373	不整形	1.93	(1.07)	0.12	中世土師器,珠洲	<SP331(SB21)·SP942(SB21)他,>SK381		
SK374	A1-SK374	楕円	(0.61)	0.47	0.18	中世土師器,炭化米,焼骨	炭化米DNA	48	
SK377	A1-SK377	円	0.21	0.21	0.25	中世土師器,炭化材			
SK381	A1-SK381	円	0.29	0.25	0.17	中世土師器	<SK373		
SK387	A1-SK387	円	0.69	(0.32)	0.25		<SK388		
SK388	A1-SK388	円	0.55	0.55	0.59	中世土師器,砥石	>SK387	48	
SK391	A1-SK391	円	0.42	0.42	0.29	中世土師器	<SP392(SB20)		
SK394	A1-SK394	楕円	0.69	0.30	0.27	中世土師器	>SP395(SB22)		
SK402	A1-SK402	楕円	1.25	0.79	0.08	中世土師器	>SP403(SB23)·SP404(SB24)他		
SK417	A1-SK417	円	0.27	0.21	0.30		>SP421(SB23)他		
SK419	A1-SK419	円	0.30	0.30	0.19	中世土師器	>SK420		
SK420	A1-SK420	円	0.57	0.50	0.15	中世土師器,珠洲	<SK419		
SK429	A1-SK429	円	0.31	0.31	0.44	中世土師器	>SP529(SB20)		
SK436	A1-SK436	円	0.21	0.21	0.10		<SP437(SB22)		
SK438	A1-SK438	円	0.41	0.37	0.30		>SK439		
SK439	A1-SK439	円	0.69	(0.38)	0.22	中世土師器,珠洲(SK591と接合)			
SK449	A1-SK449	円	0.28	(0.22)	0.48	中世土師器	<SP450(SB20)		
SK451	A1-SK451	円	0.30	(0.25)	0.18		<SP450(SB20)		
SK455	A1-SK455	楕円	1.18	(0.48)	0.45	中世土師器	<SP610(SB20)他		
SK458	A1-SK458	円	0.92	0.76	0.11	中世土師器	>SP442(SB20·SB25)他		
SK467	A1-SK467	楕円	1.00	(0.23)	0.09		<SP464(SB23),>SP943(SB24)		
SK470	A1-SK470	円	0.45	0.39	0.57	珠洲	>SE600		
SK480	A1-SK480	隅丸方	(3.38)	2.85	0.26	中世土師器,珠洲	<SK146·SK200·SD201·SK214,>SP169(SB18)·SP476(SB18)·SK494·SP501(SB17)·SP547(SB18)	47	
SK485	A1-SK485	円	(0.48)	0.40	0.27		>SD197,<SP484(SB17)	37	
SK486	A1-SK486	円	0.37	0.37	0.42		<SP484(SB17)		
SK494	A1-SK494	円	0.42	0.42	0.45		>SP476(SB18),<SK480		
SK502	A1-SK502	円	0.47	0.47	0.20		<SP501(SB17)		
SK504	A1-SK504	円		0.17	0.20		>SP270(SB18)		

第15表　竹ノ内Ⅱ遺跡　中世　土坑一覧(2)

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SK508	A1-SK508	円	0.35	0.28	0.25		>SD197·SP509(SB16)		
SK513	A1-SK513	円	0.43	0.43	0.32	中世土師器,珠洲	>SP505(SB19)·SP514(SB19)·SP515(SB17)·SK591		
SK520	A1-SK520	円	0.23	(0.20)	0.35		<SP505(SB19),>SK591		
SK521	A1-SK521	円	0.80	(0.73)	0.31	中世土師器	<SP505(SB19),>SK522·SK591他		
SK522	A1-SK522	円	0.34	0.34	0.35	中世土師器	<SK521,>SK591·SP927(SB18)		
SK528	A1-SK528	円	(0.55)	0.45	0.36	炭化米	<SP568(SB19),>SK591,炭化米DNA分析	49	
SK532	A1-SK532	楕円	0.77	0.58	0.25		<SP531(SB20)		
SK533	A1-SK533	円	0.61	0.50	0.57	中世土師器,珠洲	>SP534(SB22)		
SK557	A1-SK557	楕円	0.71	(0.42)	0.37	青磁		48	
SK571	A1-SK571	楕円	0.66	0.38	0.35	中世土師器	<SP568(SB19),>SK591他		
SK575	A1-SK575	楕円	0.73	0.56	0.27		>SK578	50	
SK578	A1-SK578	楕円	0.82	(0.36)	0.44		<SK575,>SK585	50	
SK580	A1-SK580	円	0.45	0.45	0.35	中世土師器	<SK582,>SK591		
SK581	A1-SK581	円	0.40	(0.32)	0.35	中世土師器,珠洲	<SK582,>SK591		
SK582	A1-SK582	円	0.44	0.28	0.36		>SK580·SK581·SK591		
SK584	A1-SK584	不整	1.10	0.68	0.53	中世土師器	>SK457		
SK585	A1-SK585	楕円	0.97	(0.55)	0.33		<SK578	50	
SK591	A1-SK591	隅丸方	5.44	3.30	0.36	中世土師器,珠洲(SK439と接合),白磁,青磁,鞴羽口	SB18併行,<SP473(SB19)·SP505(SB19)·SK513·SP514(SB19)·SP515(SB17)·SP516(SB19)·SK520·SK521·SK522·SK528·SP568(SB19)·SK571·SK581·SP583(SB17),>SP637(SB19)·SP639(SB18)·SP927(SB18)	49	10
SK617	A1-SK617	円	0.37	0.30	0.16		>SP852(SB18)他		
SK644	A1-SK644	円	0.26	0.26	0.07		<SP645(SB10)他		
SK647	A1-SK647	円	0.32	0.21	0.14		>SP646(SA1)		
SK653	A1-SK653	円	(0.46)	0.44	0.07	中世土師器	<SP652(SA3)		
SK661	A1-SK661	不整	0.60	(0.26)	0.32	中世土師器	<SP660(SB11)他		
SK686	A1-SK686	円	0.21	(0.12)	0.08		<SP685(SB11)		
SK723	A1-SK723	円	0.38	0.38	0.17		<SP722(SB8)		
SK738	A1-SK738	不整	2.40	0.82	0.09		<SP703(SB10)·SP773(SB10)		
SK755	A1-SK755	不整	3.23	0.75	0.10	珠洲	<SP754(SB10)		
SK758	A1-SK758	円	0.25	0.20	0.40		>SK759		
SK759	A1-SK759	楕円	3.10	0.83	0.11	珠洲	<SK758,>SK760		
SK760	A1-SK760	円	0.25	0.25	0.19		<SK759		
SK765	A1-SK765	楕円	0.75	0.40	0.35	中世土師器	<SK766		
SK766	A1-SK766	円	0.39	0.39	0.13		>SK765		
SK786	A1-SK786	円	(0.23)	0.20	0.20		<SP785(SB27)		
SK807	A1-SK807	楕円	0.65	0.29	0.10		<SP808(SB26)		
SK860	A1-SK860	不整	0.88	0.65	0.27	中世土師器	<SP399(SB20)		
SK873	A1-SK873	円	(0.29)	0.23	0.12		<SP871(SA6)		
SK876	A1-SK876	円	0.43	0.29	0.26		>SP877(SA6)		
SK883	A1-SK883	円	0.40	0.40	0.15	白磁			
SK919	A1-SK919	円	0.25	0.25	0.18		<SP853(SB17)		
SK924	A1-SK924	円	0.24	0.24	0.16		<SP616(SB18)		
SK926	A1-SK926	円	0.17	0.17	0.09		<SP505(SB19)		
SK939	A1-SK939	円	0.17	0.17	0.28		>SP927(SB18)		
SK2043	C1-SK43	楕円	0.98	0.47	0.22	中世土師器,珠洲		50	8
SK2093	C1-SK93	円	(0.64)	0.60	0.12		<SP2092(SB6)		
SK2095	C1-SK95	楕円	1.21	0.87	0.27		<SP2100(SB6)他		
SK2116	C1-SK116	円	0.34	(0.26)	0.39	土師器,中世土師器			
SK2178	C1-SK178	方	1.52	1.50	0.92	珠洲,白磁		50	8
SK2183	C1-SK183	不整形	2.50	1.12	0.28		<SD2124		
SK2186	C1-SK186	円	(0.41)	(0.23)	0.08	土師器			
SK2213	C2-SK13	円	1.06	1.06	0.74	珠洲		50	8
SK2216	C2-SK16	楕円	0.35	0.29	0.09	中世土師器		50	

※規模の(　)付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第16表　竹ノ内Ⅱ遺跡　近世～近代　溝・自然流路一覧

遺構	旧遺構番号	遺構種類	規模(m)		出土遺物	特記	挿図	写真図版
			幅	深さ				
SD1	A1-SD01	溝	0.34～0.55	0.82	中世土師器,珠洲,瀬戸美濃,青磁,越中瀬戸,信楽,伊万里	近代用水跡か		
SD100	A1-SD100	旧河道	0.49～(32.30)	1.64	中世土師器,珠洲,瀬戸美濃,信楽,伊万里	>SP780(SB27)他,木流川の旧河道か	60	9
SD400	A1-SD400	旧河道	37.80～47.70	1.04	中世土師器,珠洲,青磁,越中瀬戸,志野,唐津,肥前,信楽,伊万里,銭		61	9
SD401	A1-SD401	旧河道	(16.70)	0.80	越中瀬戸,伊万里,銭(寛永通寶)		61	

※規模の(　)付数値は現存長を示す。

第17表　竹ノ内Ⅱ遺跡　近世～近代　土坑一覧

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SK2184	C1-SK184	方	3.46	3.19	1.00	下駄,自然木		50	

第18表　竹ノ内Ⅱ遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（1）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	高台径	時期	胎土色調	胎土色	釉色調	釉色	備考
16	1	13	SD1292		土師器	椀	(12.3)	3.8	5.4		9C	7.5YR8/6	浅黄橙色			底部糸切り
	2	12	SK1302		土師器	椀	12.6				9C	2.5YR5/6	明赤褐色			口縁部スス付着
	3	12	SK1302		土師器	椀	14.2				9C	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	4	13	SK1119		須恵器	杯B	11.8	4.8		6.2	9C～	5Y6/1	灰色			
	5	12	SK1120		土師器	椀			6.0			10YR8/1	灰白色			
	6	12	SK1120		土師器	椀			4.8		9C	7.5YR7/6	橙色			底部糸切り
	7	12		X112Y169 Ⅳ	土師器	椀	12.0	4.0	6.0			7.5YR7/4	にぶい橙色			
	8	13		X110Y168 Ⅳ	土師器	椀	12.0	4.0	4.6		9C	2.5Y8/2	灰白色			底部糸切り,内外面赤彩か
	9	12		X105Y155～6 Ⅲb	土師器	椀	15.2					10YR7/6	明黄褐色			
	10	12		X110Y168 Ⅳ	土師器	椀	12.8				9C	10YR7/6～6/3	にぶい黄橙色			赤彩5YR5/6明赤褐色
	11	13		X105Y159	須恵器	杯	11.8	3.2			9C	5Y7/1	灰白色			
	12	13		X118Y179 V	須恵器	杯	12.2	3.4				5B5/1	青灰色			
	13	12		Y185ライン以西 V	須恵器	杯				7.6		7.5Y6/1	灰色			
	14	12		X114Y163 Ⅲb	須恵器	杯				8.4	9C	10BG5/1	青灰色			
	15	12		X125Y186 V	須恵器	杯				5.6		N7/0	灰白色			
	16	12		X126Y186 V	須恵器	杯				5.8		N7/0	灰色			
	17	12		X102Y157 Ⅲb	須恵器	杯蓋	12.0					N6/0	灰色			
	18	12		X113Y167 Ⅲb	須恵器	蓋	11.3					2.5Y8/1	灰白色			上末窯か
	19	12	SP2075		須恵器	杯蓋	14.3					N6/0	灰色			混入
	20	13		X112Y159 Ⅲb	須恵器	甕	21.0					N6/0	灰色			
	21	13		Y185ライン以西 V	須恵器	壺	25.2					N2/0	黒色			
	22	13		X?Y219 Ⅲ	須恵器	壺	10.0					2.5Y6/1	黄灰色			
	23	13		X123Y184 V	須恵器	壺			12.9			5PB5/1	青灰色			
	24	13		X126Y187	須恵器	壺			11.0			5B2/1	青黒色			
	25	13		X135Y205 V	須恵器	甕	25.4					10Y7/1	灰白色			
	26	13		X不明Y185	須恵器	甕	36.2					N7/0	灰白色			
	27	13		X130Y185 V	須恵器	甕						5PB7/1	明青灰色			
23	28	17	SD1001	X104Y158	土師器	椀	17.5	6.0	8.6		9C末～?	10YR6/3	にぶい黄橙色			底部糸切り
	29	14	SD1001	X104Y156～7	土師器	椀	11.8	3.8	5.2		(9C末～) 10C代?	5YR6/4	にぶい橙色			
	30	14	SD1001	X104Y158	土師器	椀			6.1			10YR6/4	にぶい黄橙色			
	31	14	SD1001	X104Y158	土師器	椀	17.8	6.4	8.6			7.5YR7/3	にぶい橙色			
	32	14	SD1001	X102Y153	黒色土器	椀				5.5	10C	10YR5/3～5/4	にぶい黄褐色			内黒
	33	14	SD1001	X99Y145	土師器	椀				7.4	10C～	7.5YR6/3～6/4	にぶい橙色			
	34	14	SD1001	X99Y147	土師器	椀				8.8	10C～	7.5YR7/6	橙色			
	35	16	SD1001	X100Y151	須恵器	杯				7.4	9C～10C	10Y6/1	灰色			底部糸切り,上末窯?
	36	17	SD1001	X99～100Y147	緑釉陶器	皿	13.9				9C後～10C前?	2.5Y8/3	淡黄色	10YR7/6	明黄褐色	
	37	17	SD1001	X100Y151	灰釉陶器	椀				5.8	9C後半	2.5Y8/1	灰白色			猿投窯か
	38	19	SD1001	X100～5Y150～5	土師器	甕	29.6				10C～	10YR7/3	にぶい黄橙色			SD1182と接合
	39	19	SD1001	X104Y154	土師器	甕	24.0				10C～	7.5YR7/2～7/3	にぶい黄橙色			
	40	19	SD1001	X104Y155	土師器	甕	20.8				9C末～10C	10YR8/4～7/4	浅黄橙色			
	41	17	SD1001	X105Y159	須恵器	瓶or壺				9.6	9C代?	N5/0	灰色			
	42	19	SD1001	X101Y152	土師器	小型甕			7.0			10YR7/2	にぶい黄橙色			
	43		SD1001	X104Y154	土師器	小型甕			5.4			10YR7/2	にぶい黄橙色			
	44		SD1001	X104Y155	土師器	小型甕			8.0			5YR7/4	にぶい橙色			
	45	14	SD1002	X105Y148	土師器	椀	12.6	4.9	5.3		10C	10YR6/4	にぶい黄橙色			底部糸切り
	46	15	SD1002	X105Y149	黒色土器	椀			4.8		10C?	10YR5/2	灰黄褐色			底部糸切未調整
	47	19	SD1002	X106Y154	土師器	小型甕	12.8					10YR7/3	にぶい黄橙色			
	48		SD1002	X197Y151	土師器	甕			7.0			5YR7/6	橙色			
	49	19	SD1002	X106Y150	土師器	鍋?	26.2				10C～?	10YR7/3～7/4	にぶい黄橙色			
	50	19	SD1002	X106Y157	土師器	甕	21.0					10YR7/3	にぶい黄橙色			
24	51	14	SD1022		土師器	椀	13.0					10YR8/3	浅黄橙色			赤彩5YR5/8明赤褐色
	52	19	SD1022		土師器	コシキ?	22.2				10C中頃～	5YR5/6	明赤褐色			土師器製羽釜?
	53	18	SD1023		須恵器	甕	40.0					N7/0	灰白色			溝底より一括出土
	54	16	SD1023		須恵器	甕	36.0				10C～?	N5/0	灰色			
	55	16	SD1023	X113Y158	須恵器	杯			5.1		9C末～10C?	10Y7/1	灰白色			底部糸切り
	56	16	SD1023	X113Y158	土師器	皿or椀			5.4		(9C後半～) 10C?	2.5Y8/1	灰白色			
	57	16	SD1023	X112～113Y155	須恵器	瓶			13.0			N6/0	灰色			SK1030と接合
	58	15	SD1081		黒色土器	椀	12.8				(9C末～) 10C	10YR7/4	にぶい黄橙色			
	59	16	SK1027		須恵器	壺or瓶	20.8				9C～10C?	2.5Y7/1～6/1	黄灰色			広口壺or(双耳)瓶
	60	16	SX1024		須恵器	杯	11.9	4.5	5.0		9C末～10C?	N5/0	灰色			底部糸切り
	61	14	SX1024		土師器	椀	13.6					5YR6/8	橙色			
	62	14	SX1024		土師器	椀	15.8					5YR6/6	橙色			
	63	14	SX1024		土師器	椀			5.8			5YR6/6	橙色			
	64	14	SX1024		土師器	椀	11.8				10C	10YR8/4～7/4	浅黄橙色			
	65	16	SX1024		須恵器	瓶			12.2			10BG5/1	青灰色			
	66	16	SK1030		須恵器	甕	35.2					N5/0	灰色			SX1024と接合
25	67	14	SK1003		土師器	椀	11.0	3.9	4.6		10C～	10YR7/3～7/4	にぶい黄橙色			底部糸切り
	68	14	SK1003		土師器	椀	13.4					7.5YR7/6	橙色			
	69	19	SX1008		土師器	甕			7.4			10YR5/3	にぶい黄褐色			
	70	14	SK1026		土師器	椀	12.2	4.0	5.8		10C～	7.5YR6/6～5/6	橙色			底部糸切り
	71	14	SK1020		土師器	椀	13.0					10YR8/3	浅黄橙色			
	72	19	SK1020		土師器	甕	25.2					10YR8/4	浅黄橙色			
	73	14	SK1036		黒色土器	椀			7.6			7.5YR7/4	にぶい橙色			
	74	14	SK1080		土師器	椀	12.2	4.25	4.8		10C～	7.5Y6/6	橙色			底部糸切り
	75		SK1080		土師器	椀	13.6	4.4	5.0			10YR7/4	にぶい黄橙色			赤彩5YR6/6橙色
	76	14	SK1080		土師器	椀			6.0			10YR8/3	浅黄橙色			赤彩2.5YR5/8明赤褐色
	77		SK1080		須恵器	杯	12.9				9C～10C?	N6/0	灰色			
	78	17	SK1054		灰釉	皿				6.4	9C末～	5Y7/1	灰白色			美濃産か,光ヶ丘?
	79	19	SK1030		土師器	甕						10YR8/4	浅黄橙色			
	80	16	SK1028		須恵器	甕					9C～?	10Y6/1	灰色			波状文
	81	15		X127Y194 V	土師器	椀	12.6	4.2	5.4			10YR8/2	灰白色			
	82			X119Y183 V	土師器	椀	12.8	4.0	5.5			10YR8/4	浅橙色			
	83	15		X133Y196	土師器	椀	12.4	3.7	5.2			7.5YR7/4	にぶい橙色			回転糸切り
	84	15		X110Y163 Ⅱb	土師器	椀	12.0				10C～	7.5Y7/6	橙色			
	85	15	SK2144		土師器	椀	12.8					7.5YR6/6	橙色			
	86	15		X120Y190	黒色土器	椀	19.0	8.3	7.4			2.5Y7/2	灰黄色			
	87	15	SD2186		土師器	椀	13.9					2.5Y8/1	灰白色			
	88	15	SP2116		土師器	椀	11.4					10YR7/3	にぶい黄橙色			内外面スス付着
	89	15		X152Y219	土師器	椀			7.2			7.5YR7/4	にぶい橙色			
	90	15		X100Y147 Ⅱb	黒色土器	椀			6.4		9C末～10C?	5YR7/6～6/6	橙色			
	91	15		X109Y165 Ⅱb	黒色土器	椀			6.7			7.5YR6/4	にぶい橙色			
	92	15	SK2116		土師器	椀	8.8	1.6	5.0			10YR7/3	にぶい黄橙色			回転糸切り,底部・内面スス付着
	93	15		X122Y145 I	土師器	椀			4.9			10YR8/4	浅黄橙色			回転糸切り
	94	15		X119Y183 V	土師器	椀				7.6		10YR7/3	にぶい黄橙色			内外面赤彩2.5YR4/8赤褐色
	95	15		X125Y149 I	土師器	椀				7.3		10YR7/4	にぶい黄橙色			
	96	15	SP185		土師器	椀				8.2	11C～	2.5Y5/2	暗灰黄色			古代混入
26	97	17		X98Y148 Ⅱb	灰釉	椀?	14.8				9C後半～	5Y8/1	灰白色			
	98	17		X105Y159 Ⅱb	灰釉?	皿				7.6	9C後半～	2.5Y6/2	灰黄色	5Y6/1	灰色	黒笹14号窯か
	99	17		X114Y168 Ⅱb	灰釉	皿				7.0	9C末～	2.5Y8/1～8/2	灰白色			猿投か,黒笹90号窯
	100	19		X128Y200	土師器	鍋	37.6					2.5Y7/3	浅黄色			外面・内面スス付着
	101	19		X125Y183 V	土師器	鍋	39.4					7.5YR6/6	橙色			
	102	19		X119Y183 V	土師器	鍋	33.8					7.5YR7/4	にぶい橙色			
	103	19		X99Y146 Ⅲb	土師器	鍋	33.0				10C～	7.5YR8/4～7/4	浅黄橙色			

第18表　竹ノ内Ⅱ遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(2)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	高台径	時期	胎土色調	胎土色	釉色調	釉色	備考
26	104	19			土師器	甕	22.0				10C～	10YR7/4	にぶい黄橙色			
	105	19		X104Y154 Ⅲb	土師器	甕	26.0				10C～	10YR8/3～8/4	浅黄橙色			
	106	19		X106Y154 Ⅲb	土師器	甕	23.4					5YR7/6	橙色			
	107	19		X104Y154 Ⅲb	土師器	甕	28.8				10C～	7.5YR7/4～7/6	にぶい橙色			
	108	19		X101Y146 Ⅲb	土師器	甕	23.2				10C～	7.5YR8/4～7/4	にぶい橙色			
	109	19		X156Y226 Ⅱ	土師器	甕	20.8					10YR8/2	灰白色			
	110	19		X124Y186 V	土師器	壺?			5.8			10YR8/3	浅黄橙色			
	111	17		X107Y157 Ⅲb	土製品	土錘	4.5	4.0	1.5	12.0		10YR7/4	にぶい黄橙色			孔径1.4cm
51	112	22	SP88		中世土師器	皿	10.0	1.8			13C前半	7.5YR6/4	にぶい橙色			SB15柱穴
	113	22	SP476		中世土師器	皿	11.4				13～14C	2.5Y8/2	灰白色			赤彩?7.5R4/8赤色　SB18柱穴
	114	24	SP244		青磁	椀	16.0				3C 初頭前後～前半	N7/0	灰白色	2.5GY6/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類　E期
	115	25	SP297	X48Y57	珠洲	擂鉢			11.5		Ⅰ～Ⅱ期	7.5Y6/1	灰色			SB20柱穴
	116	22	SP363		中世土師器	皿	11.0				13～14C	5YR6/6	橙色			SB21柱穴　SK280と接合
	117	25	SP421		珠洲	擂鉢	34.8				Ⅰ期	7.5Y8/1	灰白色			二次被熱
	118	17	SP164		羽口		(5.0)	(4.5)	2.3	38.80		5YR5/8	明赤褐色			
	119	25	SE600		珠洲	擂鉢	29.0					N4/0	灰色			
	120	25	SE600		珠洲	擂鉢			9.8		Ⅰ期	5Y8/1	灰白色			二次被熱?
	121	20	SE600		珠洲	小型壺			7.2		Ⅰ期	N4/0	灰色			
52	124	25	SD42		珠洲	擂鉢	18.0				Ⅱ期	N4/0	灰色			
	125	20	SD100	X53Y73	瀬戸美濃	天目茶椀			4.3			2.5Y8/2	灰白色	7.5YR2/2	黒褐色	
	126	25		X29Y40	珠洲	甕					Ⅳ期	N7/0	灰白色			
	127	28	SD400	X30Y35	越中瀬戸	皿			3.5			2.5Y6/1	黄灰色	2.5Y2/1	黒色	
	128	28	SD400	X25Y31	肥前	皿			4.7		17C 末～18C 前半	2.5Y6/2	灰黄色	10GY7/1	明緑灰色	
	129	21	SK420	X37Y34	珠洲	鉢	19.0				Ⅰ期	5PB5/1	青灰色			SD400と接合
	130	25	SD2202		珠洲	擂鉢			11.8		Ⅰ～Ⅲ期	5Y6/1	灰色			
	131	22	SK133		中世土師器	皿	11.8	2.2			13～14C	7.5YR6/6	橙色			
	132	24	SK200		青磁	坏	10.2				13C 中期～14C 初頭	N7/0	灰白色	2.5G6/2	緑みの灰色	龍泉窯系青磁坏Ⅲ4類　F期
	133	24	SK206		青磁	大坏か	17.8					10Y7/1	灰白色	10GY6/1	緑灰色	龍泉窯系青磁大坏か小盤Ⅲ類
	134	24	SK249		青磁	椀				6.3	12C 中頃～後半	N7/0	灰白色	7.5Y5/2	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀Ⅰ類　D期
	135	22	SK274		中世土師器	皿	11.8			6.3	15C?	10YR7/4	にぶい黄橙色			
	136	22	SK277		中世土師器	皿	10.0	2.4			13C前半	2.5Y8/2	灰白色			
	137	22	SK280		中世土師器	皿	11.8				13C前半	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	138	20	SK280		中世土師器	皿	7.5	1.8			13～14C	10YR8/3	浅黄橙色			
	139	25	SK280		珠洲	甕			13.0			10BG4/1	暗青灰色			
	140	22	SK351		中世土師器	皿	13.0	3.0			13～14C	7.5YR6/4	にぶい橙色			
	141	22	SK377		中世土師器	皿	14.8	2.5	10.0		13C	10YR6/3	にぶい黄橙色			
	142	22	SK381		中世土師器	皿	6.8	1.5			13～14C	2.5Y8/2	灰白色			
	143	22	SK480		中世土師器	皿	9.2				13～14C	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	144	24	SK557		青磁	椀	16.0				12C 中頃～後半	5Y6/1	灰色	5Y5/3	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀Ⅰ-4類　D期
	145	25	SP581		珠洲	擂鉢			11.4			N7/0	灰白色			
53	146	22	SK591		中世土師器	皿	7.8	1.8	4.1		12C後半	7.5YR6/6	橙色			SK550はSK591に変更(同一遺構)
	147	22	SK591		中世土師器	皿	8.8	2.3			13C 中頃～14C 初頭	10YR8/2	灰白色			口唇部内外面スス(油煙?)付着
	148	24	SK591	X53Y68	白磁	椀	14.2				13C 中頃～14C 初頭	5Y8/1	灰白色	7.5Y7/1	灰白色	白磁椀Ⅸ類　F期
	149	24	SK591		青磁	椀	14.0				13C 初頭前後～前半	7.5Y7/1	灰白色	10GY7/1	明緑灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類　E期
	150	24	SK591		青磁	坏	16.0				13C 中頃～14C 初頭	N8/0	灰白色	5G6/1	緑灰色	龍泉窯系青磁坏Ⅲ-1類　F期
	151	25	SK591		珠洲	擂鉢	25.0				Ⅳ期	7.5Y6/1	灰色			
	152	25	SK591		珠洲	擂鉢			12.0		Ⅲ～Ⅳ期	2.5Y8/1	灰白色			二次被熱?
	153	20	SK591	X45～50Y59	珠洲	擂鉢	30.4	13.6	11.0		Ⅱ期	N6/0	灰色			
	154	17	SK591		羽口		(4.7)	(2.5)	2.6	23.16		7.5YR6/4	にぶい橙色			孔径1.2cmか
	155	25	SK759		珠洲	擂鉢	36.6				Ⅱ期	N6/1	灰色			
	156	22	SK765		中世土師器	皿	7.8	1.9			14～15C	2.5Y6/2	灰黄色			
	157	24	SK883		白磁	皿	9.8				13C 中頃～14C 初頭	10Y8/1	灰白色	2.5GY7/1	明オリーブ灰色	白磁Ⅲ Ⅸ類　F期
	158	25	SK2043		珠洲	中甕	42.0				Ⅰ期	N5/0	灰色			
	159	22	SK2216		中世土師器	皿	8.8	1.6			13～14C	10YR7/4	にぶい黄橙色			内面刷毛状ナデか
54	161	23		X51Y73 Ⅲ	中世土師器	皿	8.8	1.9			13C前半	10YR8/3	浅黄橙色			刷毛状ナデを消す
	162	23		X47Y51 Ⅲ	中世土師器	皿	8.6	1.8			13C前半	7.5YR6/6	橙色			
	163	23		X44Y54 Ⅰ	中世土師器	皿	8.4	1.5			13C	7.5YR7/6	橙色			口縁部油煙付着
	164	23		X39Y53 Ⅰ	中世土師器	皿	8.8	1.5			13C前半	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	165	23		X44Y53 Ⅲ	中世土師器	皿	12.0	2.4			13C前半	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	166	23		X40～42Y49～50Ⅲ	中世土師器	皿	11.8	3.1			13C前半	10YR8/3	浅黄橙色			
	167	23		X51～52Y73 Ⅲ	中世土師器	皿	13.8	1.5			13C前半	7.5YR7/6	橙色			
	168	23		X50Y59 Ⅲ	中世土師器	皿	13.8	2.4			13C前半	10YR7/3	にぶい黄橙色			
	169	23		X51Y60 Ⅲ	中世土師器	皿	12.0				13C前半	2.5Y8/2	灰白色			
	170	23		X46Y59 Ⅲ	中世土師器	皿	12.0				13C前半	10YR7/3	にぶい黄橙色			
	171	23		X42Y57 Ⅰ	中世土師器	皿	6.4	1.3			13～14C	7.5YR6/6	橙色			口縁一部スス付着
	172	23		X43Y60 Ⅲ	中世土師器	皿	7.6	1.7			13～14C	10YR8/2	灰白色			
	173	23		X46Y60 Ⅲ	中世土師器	皿	8.0	1.3			13～14C	7.5YR6/6	橙色			
	174	23		X48Y65 Ⅲ	中世土師器	皿	8.1	1.4			13～14C	7.5YR7/6	橙色			
	175	23		X51Y60 Ⅲ	中世土師器	皿	9.0	1.5			13～14C	10YR6/4	にぶい黄橙色			被熱している?
	176	23		X46Y59 Ⅲ	中世土師器	皿	7.8	1.6			13～14C	10YR8/3	浅黄橙色			平底
	177	23		X42Y53 Ⅲ	中世土師器	皿	8.6	1.2			13～14C	5YR6/8	橙色			
	178	21		X151Y219	中世土師器	皿	8.0	1.5			13～14C	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	179	23		X48Y60 Ⅲ	中世土師器	皿	8.4	1.5			13C 後半～14C	7.5YR7/6	橙色			油煙痕
	180	23		X47Y53 Ⅰ	中世土師器	皿	8.0	1.7			14～15C	10YR7/3	にぶい黄橙色			型押し成形か
	181	23		X39Y51 Ⅲ	中世土師器	皿	12.8				13～14C	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	182	23		X89Y53 Ⅰ	中世土師器	皿	12.0	2.5			13～14C	10YR6/4	明黄褐色			
	183	23		X41Y55 Ⅲ	中世土師器	皿	14.0				13～14C	7.5YR6/4	にぶい橙色			
	184	23		X39Y51 Ⅲ	中世土師器	皿	11.4	2.2			13～14C	7.5YR6/4	にぶい橙色			
	185	23		X39Y58 Ⅰ	中世土師器	皿	11.0	2.9			13～14C	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	186	23		X41Y57 Ⅱ･Ⅲ	中世土師器	皿	14.0				13C初頭	10YR6/3	にぶい黄橙色			ロクロ成形
	187	21		X126Y186 V	中世土師器	皿	9.2	2.5	4.0		12C後半	7.5YR7/3	にぶい橙色			口縁スス付着,底部回転糸切り
	188	23		X44Y53 Ⅲ	中世土師器	皿			4.2		12C前半	7.5YR7/4	にぶい橙色			柱状高台,ロクロ成形
	189	20		X53Y70 Ⅲ	古瀬戸	小杯	5.6	2.0	3.2		13C	7.5Y8/1	灰白色			
	190	20		X42Y49 Ⅱ･Ⅲ	古瀬戸	卸皿			7.0			5Y8/2	灰白色	10Y6/2	オリーブ灰色	
	191	20		X44Y61 Ⅱ･Ⅲ	古瀬戸	天目茶椀	13.0				14C中葉	2.5Y8/2	灰白色	10YR3/3	暗褐色	古瀬戸中期様式(Ⅲ期)
	192	20		X36～41Y39～54 Ⅱ	瓦質土器	火鉢	38.2				14C中頃	2.5YR6/6	橙色			
55	193	24		X115Y150 Ⅰ	白磁	皿	12.6				11C 後半～12C 後半	7.5Y8/1	灰白色	5Y7/2	灰白色	白磁Ⅲ Ⅱ1類かⅢ類　C～D期
	194	24		X46Y59 Ⅲ	白磁	皿	10.0				13C 中頃～14C 初頭	N8/0	灰白色	10Y8/1	灰白色	白磁Ⅲ Ⅸ類　F期
	195	24		X43Y55 Ⅰ	青磁	椀	16.0				12C 中頃～後半	N7/0	灰白色	10GY6/1	緑灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅰ-2類　D期
	196	24		X43Y55 Ⅰ	青磁	椀	16.0				12C 中頃～後半	7.5Y7/1	灰白色	7.5Y5/2	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀Ⅰ-2か4類　D期
	197	24		X51Y65 Ⅲ	青磁	椀	16.2					7.5Y7/1	灰白色	7.5Y6/2	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀Ⅰ-4類か
	198	24		X51Y73 Ⅲ	青磁	椀				6.0	12C 中頃～後半	N7/0	灰白色	7.5Y5/1	灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅰ類　D期
	199	24		X44Y53 Ⅲ	青磁	椀	18.0				13C 初頭前後～前半	10Y7/1	灰白色	7.5GY7/1	明緑灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類　E期
	200	24		X47～51Y59～61 Ⅲ	青磁	椀	16.0	(6.9)		5.4	13C 初頭前後～前半	N6/0	灰色	5GY7/1	暗オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類　E期
	201	24		X47～51Y59～61 Ⅲ	青磁	椀	16.0				13C 初頭前後～前半	N7/0	灰白色	2.5GY6/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類　E期
	202	24		X47Y61 Ⅲ	青磁	椀	16.2				13C 初頭前後～前半	N8/0	灰白色	5GY6/2	緑みの灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類　E期
	203	24		X49Y61 Ⅲ	青磁	椀	19.0				13C 初頭前後～前半	N8/0	灰白色	2.5GY6/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類　E期
	204	24		X44Y53 Ⅲ	青磁	椀				4.6		N7/0	灰白色	2.5GY6/2	灰黄色	龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b類　E期
	205	24		X44Y53 Ⅲ	青磁	椀	15.0				13C 中頃～14C 初頭	N8/0	灰白色	5GY6/2	緑みの灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅲ-2c(直口)類　F期
	206	21		X46～50Y63～67 Ⅱ･Ⅲ	青磁	椀	16.2	(8.2)		4.2	13C 中頃～14C 初頭	N8/0	灰白色	10GY6/2	緑みの灰色	龍泉窯系青磁椀Ⅲ-2c(直口)類　F期
	207	24		X43Y60 Ⅲ	青磁	小椀	10.6				13C 中頃～14C 初頭	N6/0	灰色	2.5GY5/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁小椀Ⅲ-3類 (Ⅲかⅳ類か)　F期
	208	24		X41Y51 Ⅱ	青磁	坏	12.8				13C 中頃～14C 初頭	10Y7/1	灰白色	2.5G6/2	緑みの灰色	龍泉窯系青磁坏Ⅲ-3類　F期
	209	24		X41Y54 Ⅰ	青磁	坏	13.8				13C 中頃～14C 初頭	10Y8/1	灰白色	7.5G6/2	緑灰色	龍泉窯系青磁坏Ⅲ-4類
	210	24		X48Y57 Ⅲ	青磁	Ⅲ			5.0		12C 中頃～後半	N7/0	灰白色	2.5GY6/1	オリーブ灰色	同安窯系青磁Ⅲ Ⅰ-2b類
	211	24		X46Y55 Ⅲ	青磁	椀	11.4				15～16C	N7/0	灰白色	5GY6/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁　上田椀BⅣ類
	212	27		X53Y75 Ⅲ	珠洲	小型壺	7.0				Ⅱ期	N8/0	灰白色			
	213	27		X41～44Y53 Ⅱ･Ⅲ	珠洲	四耳壺	9.6				Ⅰ～Ⅱ期	7.5Y6/1	灰色			
	214	27		X125Y145 Ⅰ	珠洲	壺	30.0				Ⅱ～Ⅲ期	7.5Y6/1	灰色			加飾壺
	215	27		X155Y226 Ⅱ	珠洲	壺	27.0				Ⅰ期	N5/0	灰色			
	216	27			珠洲	壺			9.9			N2/0	黒色			
	217	27		X116Y146 Ⅰ	珠洲	壺			8.4			N6/0	灰色			
	218	27		X53Y75 Ⅲ	珠洲	壺			8.8			7.5Y7/1	灰白色			

第18表　竹ノ内Ⅱ遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧(3)

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	高台径	時期	胎土色調	胎土色	釉色調	釉色	備考
55	219	27		X127Y187 V	珠洲	壺			8.9			N6/0	灰色			
	220	27		X51Y61 Ⅲ	珠洲	壺			10.9			N6/0	灰色			
	221	27		X40Y57	珠洲	壺			10.0			10Y5/1	灰色			
56	222	26		X43Y60	珠洲	擂鉢	19.2				Ⅰ期	N6/0	灰色			
	223	26		X43～51Y53～60	珠洲	擂鉢	20.0				Ⅰ期	5B2/1	青黒色			
	224	26		T7	珠洲	擂鉢	26.4				Ⅰ期	5PB1.7/1	青黒色			
	225	26		X47Y51 Ⅲ	珠洲	擂鉢	21.2				Ⅰ期	5B3/1	暗青灰色			
	226	26		X125Y195 V	珠洲	擂鉢	30.0				Ⅰ期	N4/0	灰色			内外面スス付着
	227	26		X42Y53～62 Ⅲ	珠洲	擂鉢	33.0				Ⅱ期	5Y8/1	灰白色			
	228	26		X46Y55 Ⅲ	珠洲	擂鉢	32.4				Ⅱ期	2.5Y8/1	灰白色			
	229	26		X43Y60	珠洲	擂鉢			12.0		Ⅱ2期	5Y7/1	灰白色			
	230	26		X47～49Y60～61 Ⅲ	珠洲	擂鉢			11.2		Ⅲ期	N6/0	灰色			
	231	26		X46Y58 Ⅱ·Ⅲ	珠洲	擂鉢	31.0	12.1	13.6		Ⅲ期	7.5Y4/2	灰オリーブ色			
	232	26		X50Y60 Ⅲ	珠洲	擂鉢	32.5				Ⅳ期	5B3/1	暗青灰色			
	233	26		X42Y49 Ⅱ·Ⅲ	珠洲	擂鉢	29.0	12.6	12.8		Ⅳ期	10Y5/1	灰色			
	234	26		X50Y60 Ⅲ	珠洲	擂鉢	25.0				Ⅳ期	10BG4/1	暗青灰色			
	235	26		X53Y70 Ⅲ	珠洲	擂鉢	21.8				Ⅳ期	5BG3/1	暗青灰色			
	236	26		X43Y55	珠洲	擂鉢	20.0				Ⅳ期	5B6/1	青灰色			
	237	26		X37Y47 Ⅲ	珠洲	擂鉢	24.8				Ⅳ期	5B4/1	暗青灰色			
	238	26		X50Y60 Ⅲ	珠洲	擂鉢	26.3				Ⅳ期	10Y5/1	灰色			
	239	26		X31Y30 Ⅲ	珠洲	擂鉢			9.6		Ⅳ期	2.5GY5/1	オリーブ色			
	240	26		X51Y63 Ⅲ	珠洲	擂鉢	29.0				Ⅴ期	5Y6/1	灰色			
57	241	27		X48Y66 Ⅱ·Ⅲ	珠洲	甕					Ⅰ期	N3/0	暗灰色			
	242	27		X120Y150	珠洲	甕	41.0				Ⅱ期	5PB3/1	暗青灰色			
	243	27		T13	珠洲	甕	32.7				Ⅱ期	N7/0	灰白色			
	244	27		X46Y54 Ⅲ	珠洲	大甕					Ⅲ期	10BG4/1	暗青灰色			
	245	27		X46Y58 Ⅱ·Ⅲ	珠洲	甕					Ⅳ期	5B6/1	青灰色			
	246	27		X37Y34 Ⅲ	珠洲	甕					Ⅳ期	5PB6/1	青灰色			
	247	27			珠洲	甕	52.0				Ⅳ2期	N3/0	暗灰色			
	248	27		X32Y36 Ⅲ	珠洲	甕			13.0			N5/0	灰色			
	249	27		X48Y62 Ⅳ	珠洲	甕			22.0			N4/0	灰色			
	250	28		X154Y225 Ⅰ	越中瀬戸	丸皿	11.2			5.8	16C末～17C初頭	5YR5/2	灰褐色	2.5Y7/4	浅黄色	Ⅰ期
	251	28		X157Y225 Ⅱ	越中瀬戸	皿				4.8	16C末～17C初頭	10Y7/1	灰白色	7.5Y5/3	灰オリーブ色	山下窯,期後半か
	252	28		X120Y147 Ⅰ	越中瀬戸	丸皿	10.2	2.2		5.3	17C後半～18C	2.5YR6/6	橙色	5YR1.7/1	黒色	
	253	28		X125Y145 Ⅰ	越中瀬戸	丸皿	11.5	2.6		4.9	17C後半～18C	7.5YR7/4	にぶい橙色	2.5Y8/1	灰白色	
	254	28		X153Y224 Ⅰ	越中瀬戸	丸皿	10.0	2.9	4.7		16C末～17C初頭	10YR8/3	浅黄橙色	7.5YR2/1	黒色	Ⅰ期
	255	28		X122Y147 Ⅰ	越中瀬戸	丸椀	10.2				18C	2.5Y8/3	淡黄色	5Y2/1	黒色	
	256	28		X130Y190 Ⅰ	越中瀬戸	擂鉢					16C末～17C初頭	2.5Y8/3	淡黄色	7.5YR3/2	黒褐色	Ⅰ期
	257	28		X49Y63 Ⅱ·Ⅲ	越中瀬戸	乗燭			3.4			2.5Y8/3	淡黄色	10YR1.7/1	黒色	
	258	28			越中瀬戸	壺	7.6					2.5Y7/3	浅黄色	7.5YR3/2	黒褐色	
	259	28		X155Y224 Ⅰ	越中瀬戸	壺	7.8					7.5YR7/6	橙色	5YR3/2	暗赤褐色	
	260	28		X154Y223 Ⅰ	越中瀬戸	壺	9.6					5Y7/1	灰白色	10YR2/3	黒褐色	
	261	28			越中瀬戸	壺	12.0					7.5YR6/3	にぶい褐色	10YR3/3	暗褐色	
	262	28		X155Y226 Ⅰ	唐津	丸形椀	11.2	6.0	5.2		16C末～17C前半	10YR6/1	褐灰色	10YR3/3	暗褐色	Ⅰ～Ⅱ期
	263	28		X122Y147 Ⅰ	肥前	皿				5.2	17C末～18C	5Y7/2	灰白色	2.5GY7/2	灰色	蛇ノ目釉ハギ,内野山系
	264	28		X155Y224 Ⅰ	唐津	擂鉢			10.6			2.5YR6/6	橙色	5YR3/1	黒褐色	
	265	28		X154Y223 Ⅰ	伊万里	徳利				4.0	19C	N8/0	灰白色	5GY7/1	暗オリーブ灰色	

※法量の数値は残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。
土製品の法量は左から長さ，幅，厚さ，重さ(g)とした。

第19表　竹ノ内Ⅱ遺跡　木製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	種類	樹種	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	分析番号	備考
51	122	29	SE600	漆器	ケヤキ				№2	椀
	123	29	SE600	漆器					№1	皿か,塗膜のみ残存
53	160	30	SK2184	下駄	スギ	(20.0)	11.0	7.7		

第20表　竹ノ内Ⅱ遺跡　石製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	石材	法量(cm·g) 長さ	幅	厚さ	重さ	備考
58	266	31		X42Y53　Ⅲ層	砥石	粘板岩	6.16	3.98	0.41	12.6	鳴滝石
	267	31		X44Y53　Ⅲ層	砥石	粘板岩	3.5	3.49	0.62	12.4	鳴滝石
	268	31		X40Y56　Ⅱ～Ⅲ層	砥石	粘板岩	4.77	2.52	0.89	10.1	鳴滝石
	269	31		X111Y162　Ⅲb層	砥石	流紋岩	2.98	1.42	1.18	6.7	
	270	31		X53Y70　Ⅲ層	砥石	粘板岩	3.57	2.66	0.87	11.0	鳴滝石
	271	31	SK591	X46Y61	砥石	流紋岩	14.39	7.3	6.77	700.0	
	272	31	SD1001	X104Y155	砥石	流紋岩	13.49	5.72	5.59	426.0	
	273	31		X51Y65　Ⅲ層	砥石	砂岩	15.2	9.14	6.85	12200.0	笹口
	274	31	SK388		砥石	流紋岩	9.46	5.44	3.91	183.5	
	275	31		X49Y58　Ⅲ層	砥石	流紋岩	19.65	12.13	6.62	21400.0	天草か伊予

第21表　竹ノ内Ⅱ遺跡　金製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm·g) 長さ	幅	厚さ	重さ	備考
59	276	30			鍋	鉄	13.4	7.6	5.4	630.0	
	277	30	SK591		鍋	鉄	7.4	4.3	1.2	27.1	
	278	30	SK591		釘?	鉄	4.3	2.0	1.9	13.3	
	279	30	SP221		釘?	鉄	11.0	3.2	3.9	85.0	
	280	30	SP37		板状	鉄?	6.1	5.5	3.0	104.7	
	281	30	SP141		鉄滓		4.6	3.0	2.7	55.2	
	282	30	SP335		鉄滓		8.2	5.0	4.4	133.2	
	283	30	SK112	下層	銭	銅	2.5	2.2	0.2	1.9	元豊通寶
	284	30	SD400	X28Y31　上層	銭	銅	2.6	2.6	0.2	3.8	寛永通寶
	285	30		X112Y159　カクラン	銭	銅	2.9	2.9	0.2	4.0	寛永通寶
	286	30	SD400	X30Y35　上層	銭	銅	2.4	2.4	0.2	1.9	
	287	30	SD401		銭	銅	2.5	2.5	0.2	2.0	寛永通寶

第Ⅳ章　柳田遺跡

1　既往の調査

柳田遺跡は黒部川が形成する新旧扇状地の接点に位置し，標高約48mの微高地上に乗っている。遺跡の範囲は約3.9 haにわたり，古くから縄文・中世の遺跡として知られていた。このことは，堂用久信氏・中村奇雲氏らの永年にわたる調査活動によるところが大きい。

昭和49（1974）年には富山県教育委員会によって，ほ場整備事業に先立ち緊急発掘調査が行われた。約150，000㎡の地域に1m四方の試掘区を約190箇所設けた結果，山合川より西に220m，大久保用水より南に180mの範囲で遺物包含層が確認され，遺跡範囲が決められた。ついで遺跡を3つの地点に区切り，第Ⅱ地点・第Ⅲ地点には磁北を軸に座標を設定して，2m四方を単位とした調査が行われた。遺跡の中央部分にあたる第Ⅱ地点では，縄文時代前期の竪穴住居跡1棟・土坑3基が検出され，玦状耳飾と縄文時代前期後半（福浦上層式）の土器が出土している。遺跡の西側部分では縄文時代後期～晩期の包含層と中世の土坑・溝が検出された。また，遺跡の西方300mの柳田中世古墓も併せて調査され，方形に巡る周溝の一部が検出された。

平成12（2000）年には，富山県文化振興財団が北陸新幹線建設事業に先立つ包蔵地確認調査を実施した。小川から町道大家庄・藤塚線までの建設予定地内に計22本のトレンチを設定し，縄文時代及び中世の2時期の遺物包含層と遺構を確認した。この結果を受け，平成13・14（2001・2002）年度に発掘調査を実施した。

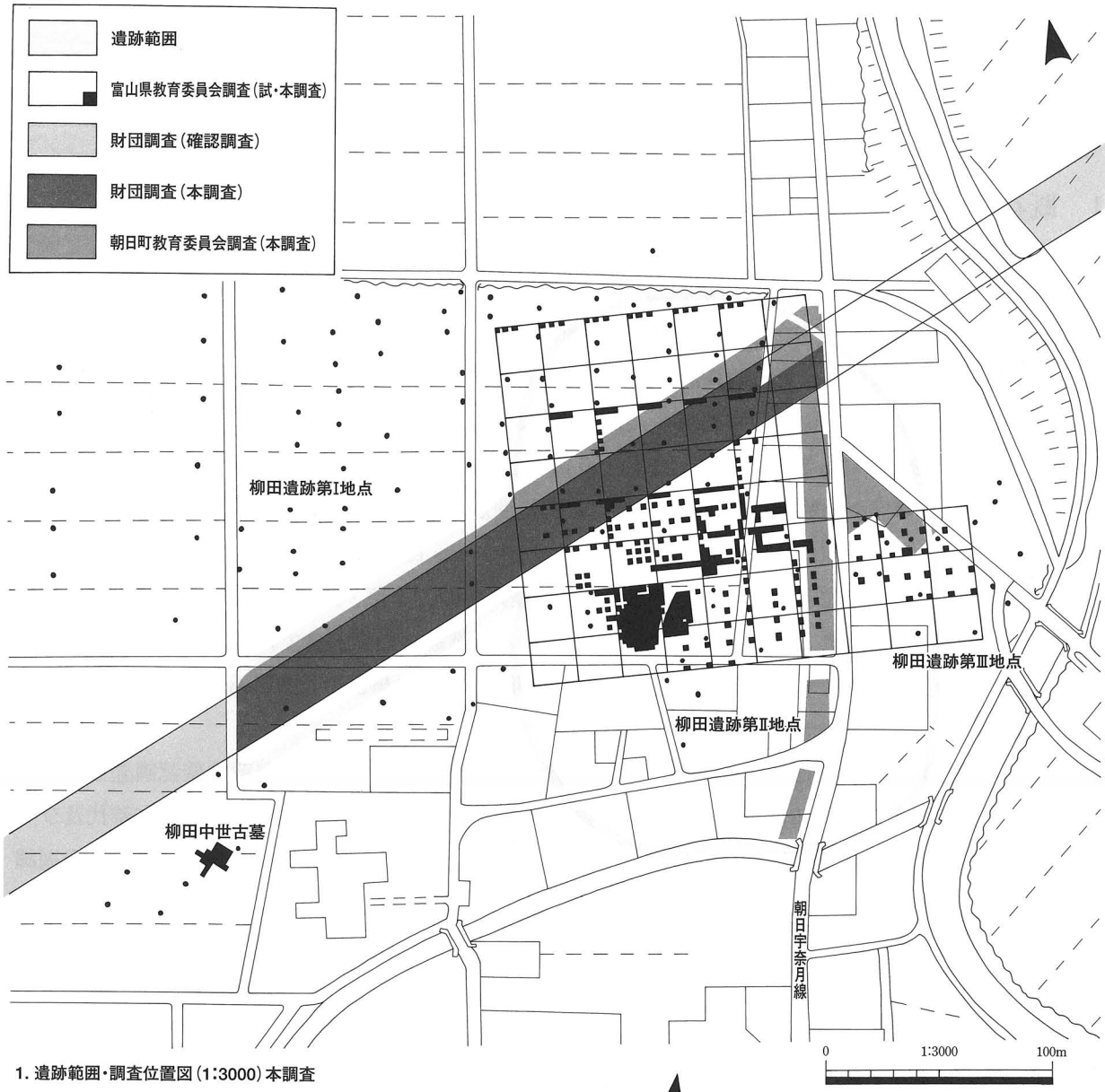
平成13年には朝日町教育委員会により，主要地方道朝日宇奈月線地方特定道路改良事業に先立ち試掘調査が行われ，翌平成14～17（2002～2005）年には発堀調査が行われた。縄文時代・中世の遺構が検出され，平成15年度調査地区では縄文時代前期の住居跡が1棟確認されている。全調査区から縄文時代前期後半を主体とする土器のほか，玦状耳飾・磨製石斧・翡翠や蛇紋岩の原石・砥石などの石製品が出土しており，平成14年度及び平成15年度調査地区周辺に居住域があり，遺跡内で石器類の製作が行われていたと予測されている。

平成16（2004）年には朝日町教育委員会によって，農免農道新川中部地区整備事業に先立つ発掘調査が行われた。調査地は，北陸新幹線建設予定地の北側に隣接している。縄文時代・中世の遺構・遺物が確認されたが，後世の削平や攪乱などの影響が大きく，遺物の大半は摩耗した状態であった。

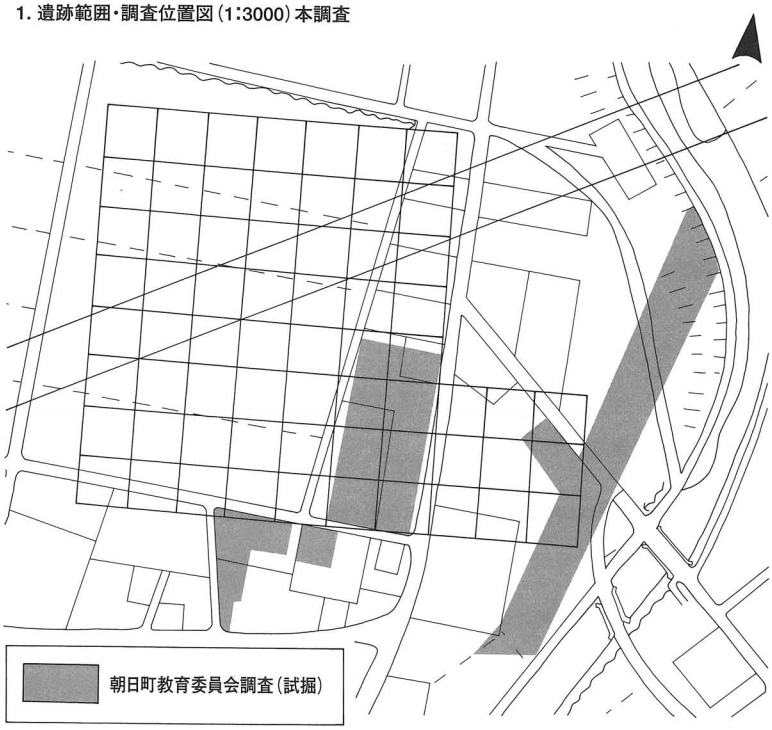
（金三津道子）

参考文献

富山県教育委員会 1975『富山県朝日町 柳田遺跡・柳田古墓緊急発掘調査概報』
朝日町 1984『朝日町誌 歴史編』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2001『北陸新幹線関係 埋蔵文化財包蔵地調査報告（2）』
朝日町教育委員会 2003『富山県朝日町 柳田遺跡発掘調査報告書』
朝日町教育委員会 2005『富山県朝日町 柳田遺跡発掘調査報告書 Ⅱ』
朝日町教育委員会 2006『富山県朝日町 柳田遺跡 下山新東遺跡 下山新遺跡発掘調査報告書』



1. 遺跡範囲・調査位置図（1:3000）本調査

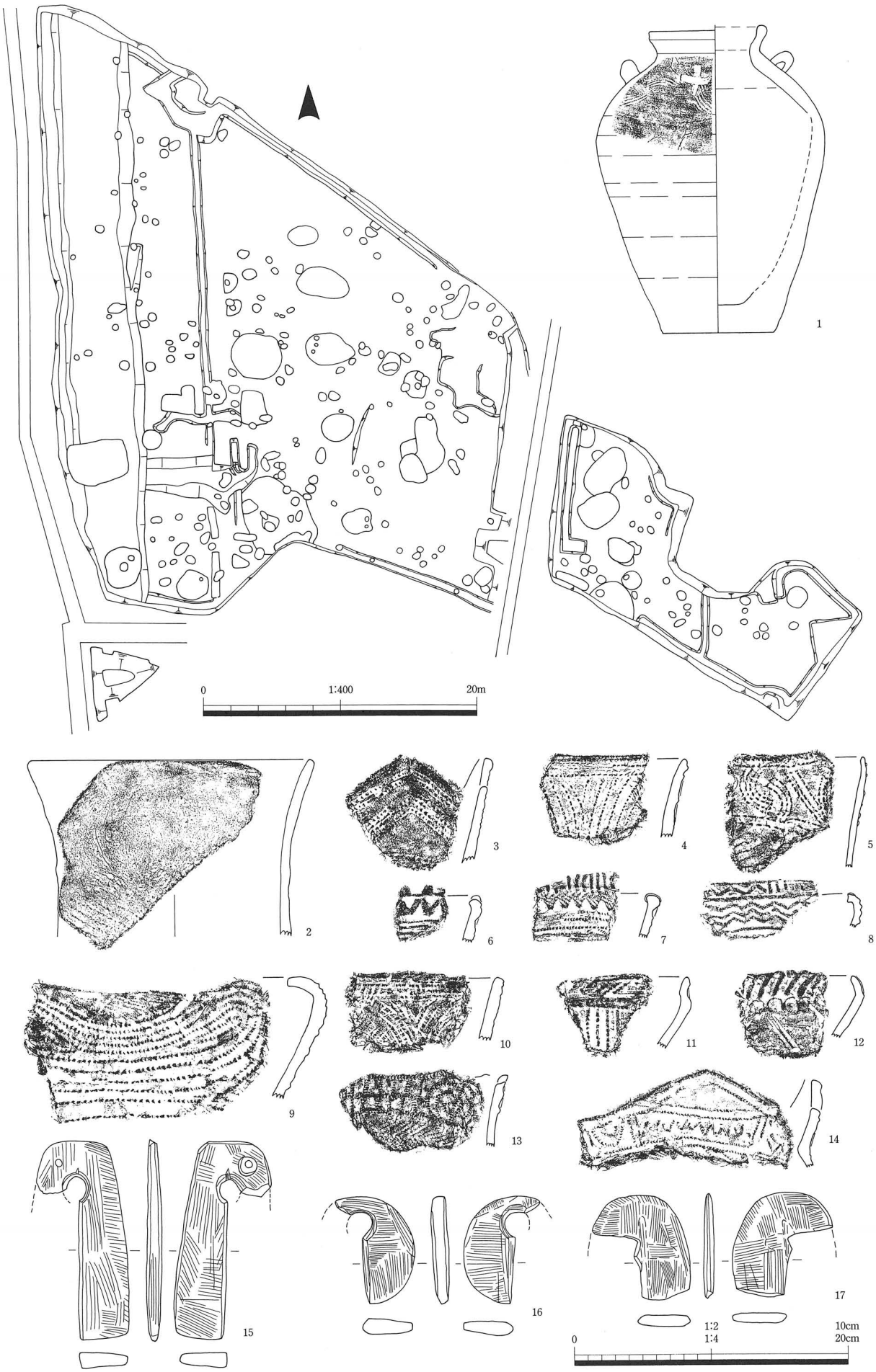


2. 調査位置図（1:3000）試掘

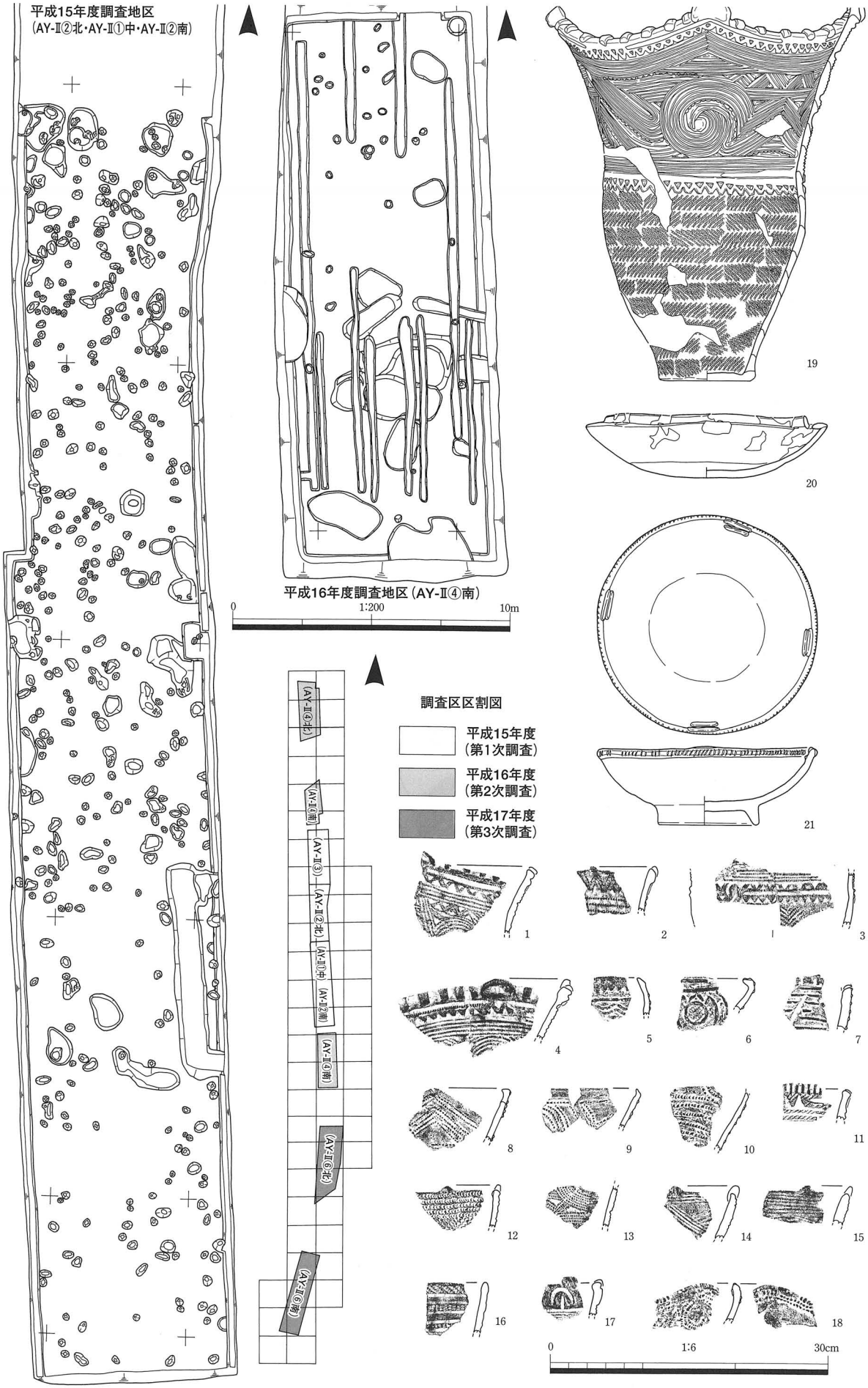
第22表　柳田遺跡　調査一覧

	年度	調査主体	調査の種類	面積	主な時代	遺構	遺物
	昭和24年		本		中世	古墓（石室）	人骨
1	昭和49年	県教委	試掘・本	2,200	縄文・中世	竪穴住居跡・土坑・焼土・溝	縄文土器・土偶・土製品・石器・青磁・白磁・珠洲・越中瀬戸・越前・伊万里
					中世	古墓（石室・周溝）	珠洲・土師質土器・鉄釘
2	平成 3年	朝日町教委	試掘	308	縄文・中世・近世	土坑・溝	縄文土器・石器・陶磁器・土製品
3	平成 6年	朝日町教委	試掘	103	縄文		縄文土器・珠洲
4	平成 8年	朝日町教委	試掘	200	縄文・中世・近世		縄文土器
5	平成11年	朝日町教委	試掘	20	縄文・中世・近世	土坑	縄文土器・石器・陶磁器
6	平成12年	財団	確認	754	縄文・中世	土坑・溝	縄文土器・石器・白磁・珠洲・越中瀬戸
7	平成13年	財団	本	2,235	縄文・中世	掘立柱建物・土坑・溝・自然流路	縄文土器・石器・中世土師器・青磁・白磁・珠洲・瓦質土器・越中瀬戸・伊万里・唐津
8	平成13年	朝日町教委	試掘		縄文・中世	土坑	縄文土器・石器・翡翠原石・玉製品・土師質土器・珠洲
9	平成14年	財団	本	3,731	縄文・中世	掘立柱建物・井戸・溝・土坑・風倒木痕	縄文土器・土製品・石器・中世土師器・青磁・白磁・瀬戸・珠洲・越中瀬戸
10	平成14年	朝日町教委	本	433	縄文・中世	土坑・溝	縄文土器・石器・翡翠原石・玉製品・土師質土器・珠洲
11	平成15年	朝日町教委	本	440	縄文・中世	住居跡・土坑・溝	縄文土器・石器・原石・未成品・玉製品・珠洲
12	平成16年	朝日町教委	本	434	縄文・中世	土坑・集石遺構・溝	縄文土器・石器・翡翠原石・未成品・珠洲
13	平成17年	朝日町教委	本	554	縄文・中世	土坑・旧河川	縄文土器・石器・珠洲・青磁・土師質土器
14	平成16年	朝日町教委	本	1,379	縄文・中世	土坑・溝	縄文土器・石器・玉製品・原石・未成品・珠洲・土師質土器・青磁

第 64 図　柳田遺跡　遺跡範囲・調査位置図



第65図　柳田遺跡　既住の調査1　（遺構図1/400，遺物1～14　1/4，15～17　1/2）
朝日町教委2003『富山県朝日町柳田遺跡発掘調査報告書』より転載，再トレースにあたり，一部改変した。



第66図　柳田遺跡　既住の調査2（遺構図1/200，遺物1/6）
朝日町教委2005『富山県朝日町柳田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』より転載，再トレースにあたり，一部改変した。

2　基本層序

基本層序は，土層中に包含する遺物の年代を基に設定している。Ⅰ層：表土・盛土，Ⅱａ層：中世遺物包含層，Ⅱｂ層：縄文時代遺物包含層，Ⅲ層：遺構検出面とした。Ⅱ層はここではａ・ｂの２層に分離しているが，調査時に区別することは困難であったため，一括して掘削した。遺構検出面は中世・縄文時代の遺構ともⅢ層上面で，面的な分離は困難であった。

調査地は現況では南西から北東へ緩やかに落ち込む地形となっており，標高はＡ地区南部で49.8m，Ｂ地区北部で48.2mを測る。土質は，標高の低い北東部へ向かうにつれて，土色が暗く粘土質の強いものになっている。Ａ地区南西部は西側へ向かい落ち込む微地形をほ場整備等により埋めており，1～2.5mの盛土（Ic層）がみられる。

遺物包含層であるⅡ層は，黒褐色～黒色の粘性のある土で，Ａ地区ではⅡａ層が黒褐色シルト，Ⅱｂ層が黒褐色（粘土質）シルト，Ｂ地区ではⅡａ層が黒褐色粘質土，Ⅱｂ層が黒色粘土を基調とする。Ａ地区北東部とＢ地区の中央部以東においては，安定した堆積がみられる。Ａ・Ｂ地区の境となる町道柳田・小川中学校線近くもⅡ層がなく，Ⅰ層直下が礫混じりのⅢ層となっている。

Ⅲａ層はＡ地区で黄褐色粘土質シルト，Ｂ地区では粘性が強くなり，褐色粘土となっている。Ａ地区南西部の谷周辺や，Ｂ地区西の町道付近では，下層のⅢｂ層が遺構検出面となっており，この周囲ではⅢａ層にも礫を多く含む傾向にある。いずれもしまりの良い土で，無遺物層である。

3　遺構・遺物

（1）縄文時代

Ａ　土坑

208号土坑（SK208，第68・69・87図，図版32・42・59）

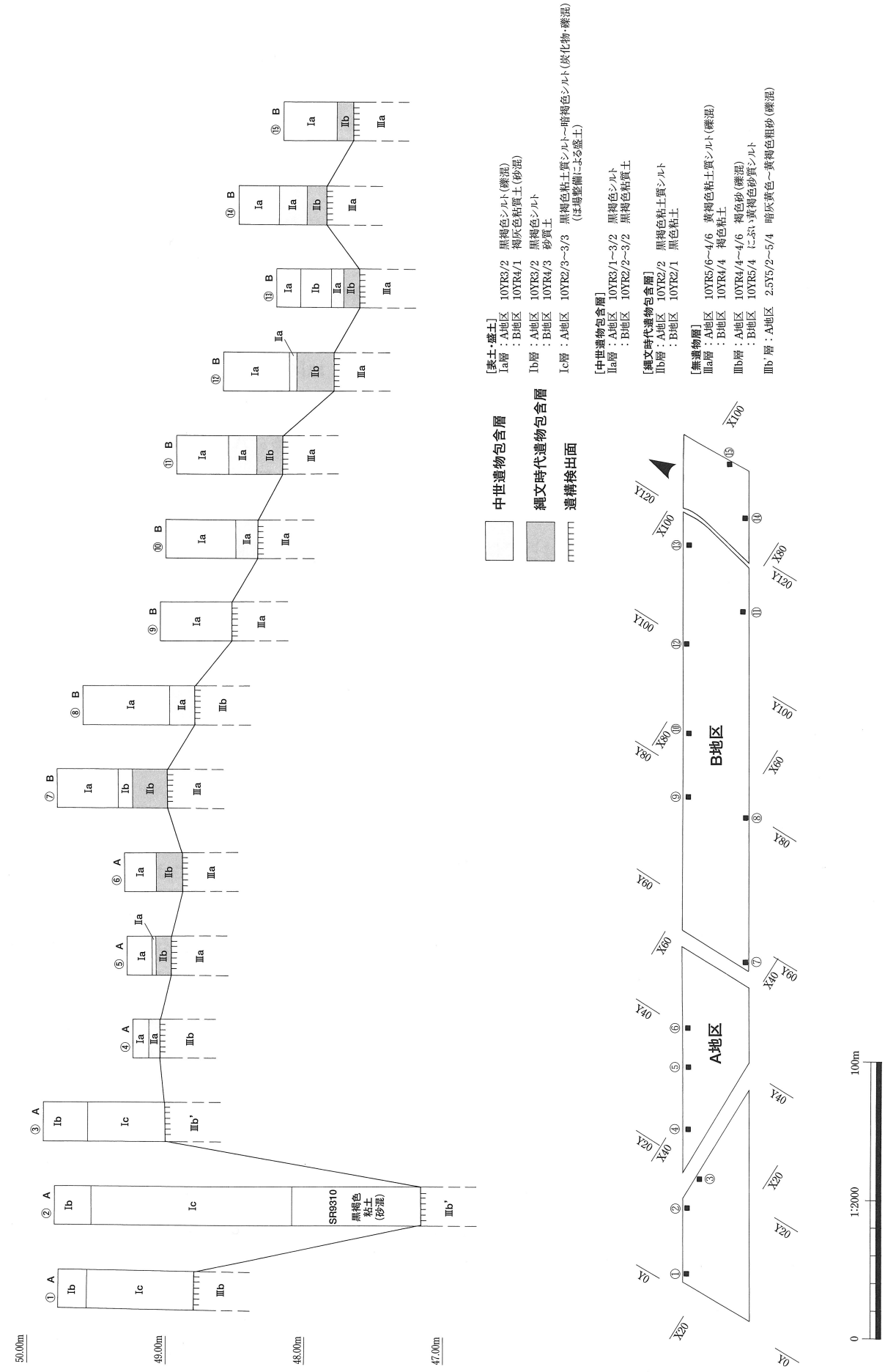
Ｂ地区西部中央に位置する。倒木痕SX239を切り，北側を中世の土坑SK209に切られる。平面形はややいびつな円形で，長径1.35m，深さ0.50mを測る。埋土は，西側の浅い部分には黒褐色シルト，中央から南側にかけての深い所では，上層に黒色粘土質シルト，下層ににぶい黄褐色砂質土が堆積する。下層には上層の土が薄い帯状に混ざっており，水流等の影響によるものと考えられる。また東側の下層には堅くしまった褐色粘土質シルトがみられ，焼土の可能性がある。遺物は縄文土器（1），石棒，磨製石斧，敲石（288），剥片が出土している。1は縄文土器の浅鉢口縁部。半円状の突起の左右に横方向の沈線を浅く3条引く。体部は磨いていると思われるが摩滅して不明瞭である。中期のものか。

544号土坑（SK544，第68・69図，図版32・42）

Ｂ地区西部中央北端に位置する。東側を僅かに中世の土坑SK543に切られる。平面形は円形で，直径0.30m，深さ0.10mを測る。土坑中央に縄文土器の深鉢胴部（2）が正位で埋められている。埋土は黒褐色粘土質シルトの単層である。遺物は他に縄文土器小片が出土している。2は縄文土器深鉢の胴部下半である。外面には不明瞭であるが縦方向の平行沈線が一部に薄く残る。前期のものか。

1246号土坑（SK1246，第68・69図，図版32・42）

Ｂ地区西部東より南端に位置する。上面の大半を中世の溝SD1150に切られる。平面形は円形で，直径0.91m，深さ0.35mを測る。掘形は壁面が弧状にオーバーハングし，底径は1.05mとやや口径を上回る。貯蔵穴としては袋状土坑[注1]に分類することが出来るが，堅果類など植物遺体は出土していない。底面



第 67 図　柳田遺跡　基本層序模式図

は平滑に整えられる。埋土は上層に黒褐色粘土，下層に黒色粘土が水平堆積し，SD1150との境に灰が薄く堆積する層がみられる。遺物は縄文土器（3）が出土している。3は縄文土器深鉢の底部である。内外面ともナデ調整で，外底面に網代圧痕を残す。中期～後期と考えられる。

2281号土坑（SK2281，第68図）

B地区西部東よりのSK1246の北に位置する。北側を中世の溝SD1381に，土坑内をSK2282・SK3650に切られる。平面形は円形で，直径1.08m，深さ0.31mを測る。掘形は壁面をやや斜めに掘り込み，底面は中央に小さな窪みがある他は平坦である。埋土は黒褐色粘土を基調とし，西の壁面近くにやや明るめの黒褐色粘土がみられる。遺物は出土していない。

7941号土坑（SK7941，第68図）

B地区東部中央に位置する。南側と西側の一部がSK7897・SK7942に切られる。平面形はややいびつな楕円形で，長径1.38m，深さ0.70mを測る。掘形は壁面が上部にくびれを持って大きくオーバーハングする。底面は平滑に整えられる。断面における計測値は，口径1.11m，くびれ部0.92m，底径1.25mを測る。貯蔵穴としてはフラスコ状土坑[注2]に分類することが出来るが，堅果類など植物遺体は出土していない。埋土は，上層から中層は黒色粘土，下層は黒褐色粘土を基調とし，中層と下層には地山のにぶい黄褐色砂質シルトが小さなブロック状に混入する。遺物は縄文土器小片，剥片が出土している。

（朝田亜紀子）

9016号土坑（SK9016，第68図，図版32）

A地区X45Y45付近に位置する不整形土坑。長さ1.73m，幅0.73m，深さ0.38mを測る。底面は凹凸があり，北側が一段深くなる。SK9017・SK9018に切られる。底面付近から縄文土器小片が出土 。

B　溝

9225号溝（SD9225，第68図，図版32）

A地区Y35付近に位置する。幅0.96m，深さ0.11mを測る溝で，半円状を呈し北側は調査区へかかる。出土遺物がなく時期の特定はできないが，SX9226・SX9279他の全ての遺構に切られていること，周辺の遺物包含層から縄文土器が比較的まとまって出土していること等から，縄文時代の遺構の可能性が高いと考える。

（金三津道子）

C　倒木痕

239号倒木痕（SX239，第77図，図版49）

B地区西部中央に位置する。縄文時代の土坑SK208，中世のSK209に切られる。平面形は不整形で，長径4.53m，深さ0.66mを測る。遺物は縄文土器小片多数，磨製石斧（118）が出土している。

4923号倒木痕（SX4923，第69図，図版43）

B地区東部西よりに位置する。平面形は不整形で，長径3.70mを測る。北東部の中世の溝SD5453と重複する部分から縄文土器小片が出土していたため掘り下げたところ，埋土中から縄文土器（7）の破片が多く出土した。その他には砥石が出土している。7は縄文土器深鉢である。小突起があり，おそらく4波頂の波状口縁になると思われる。胴上部には4条1単位の条線文を引き，胴下半にはRL斜縄文を縦位に施す。波頂部下の条線文は時計回りの弧を描き，貫通する孔を入れる。また波頂部内面には孔の下に貫通しない円形刺突を入れる。後期中葉のものと考えられる。

6656号倒木痕（SX6656，第91図，図版53）

B地区東部中央に位置する。平面形は不整形で，長径4.37mを測る。埋土上層から垂飾（373）が出土している。中世の遺構と重複していたため完掘はしていない。

D　包含層出土遺物

縄文土器（第69・70図，図版42・43）

4は外面にRLの斜縄文を縦位に施す。中期後葉～後期前葉のもの。5は短い口縁部と丸い肩をもつ鉢形の器形となる。外面に横位の平行沈線を引く。全面赤彩と思われるが内面は摩滅しており不明瞭である。晩期後葉（下野式）に比定される。6は4波頂の波状口縁をもつ深鉢。外面は斜縄文地に細い粘土紐を貼り付けて細かく刻み，結節状浮線文とする。前期後葉（福浦上層式）に比定される。8は無文地上に結節状浮線文を施す。口縁部にやや歪みがあり，波状口縁になる可能性が高い。9は外面に半隆起線状の凸線が巡る台付鉢底部。10は口縁部に横位の半隆起線を引き並べる深鉢。中期前葉（新保式）特有のキャリパー状の器形となると思われる。11はLR斜縄文を施す粗製土器深鉢。12は半截竹管文と格子目文がある深鉢の胴部片。中期中葉。13は隆帯上に櫛状具による刺突がみられる。中期後葉（古串田新式）。14は内外面ともナデ調整され，外底面には網代圧痕が明瞭に残る。15は三角形の押し引きと円形刺突がある深鉢口縁部。後期前葉（気屋式）。16は波頂部に沈線で対弧文を施す波状口縁の深鉢。後期後葉。17は羽状縄文地上に横沈線を引く深鉢口縁部。後期後葉。18は撚糸文上に沈線文をもつ深鉢。外面に赤彩の痕跡がみられる。後期末か。19は注口土器の注口部。全面ナデ調整される。20は小型壺胴部。外面は丁寧に磨き，棒状具で沈線を引く。内面は口縁部のみ磨いており，胴部はナデ調整である。晩期前葉。21・22は口縁部外面に撚糸文を施す浅鉢。21は内外面を丁寧に磨き，内面端部に僅かに段をもつ。外面に赤彩の痕跡がみられる。22は口縁部下に沈線を1条巡らせる。23は外面に横方向の条痕を施し，口唇部に指頭による連続押圧を入れる。21～23は晩期中葉（中屋式）。24も条痕を施す深鉢。口縁部に1条浅い沈線を巡らせている。

土製品（第70図，図版43）

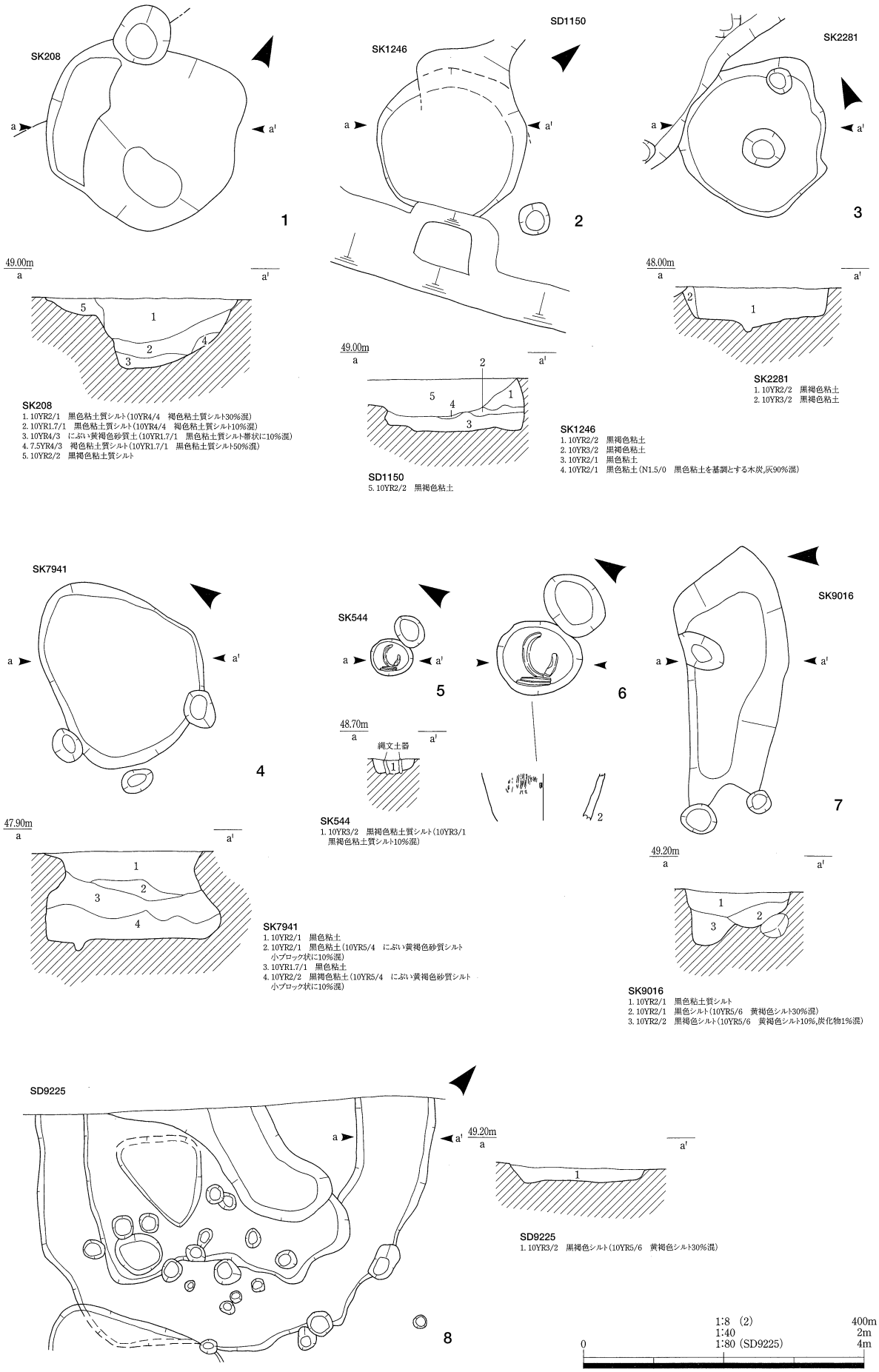
25は円盤状土製品。縄文土器片の周囲を打ち欠いて丸く成形する。外面にはRL斜縄文が薄く残る。26～29は有孔球状土製品。いずれも無文で，文様のあるものはない。破損品が多く出土しているが，ここでは図化可能な4点を示した。全体形は不明であるが，29は下ぶくれ形となるようである。孔径は26～28が推定6～8㎜，29が4㎜を測る。（朝田亜紀子）

石製品（第71～91図，図版44～61）

打製石斧（30～96），磨製石斧（97～192），石鏃（193～246），石槍（247・248），石匙（249～253），石錐（254～260），二次加工剥片（261），削器（262～267），剥片石器（268・269），石核（270・271），不明石器（272・273），礫器（274），敲石（275～288），凹石（289～295），石錘（296～310），砥石（311～320），石皿（321～323），石冠（324），石剣（325～327），石棒（328～342），石刀（343～350），三脚石器（351），玦状耳飾（352～363），玉類・垂飾（364～379），があり，バラエティーに富んだ石製品が多量に出土している。

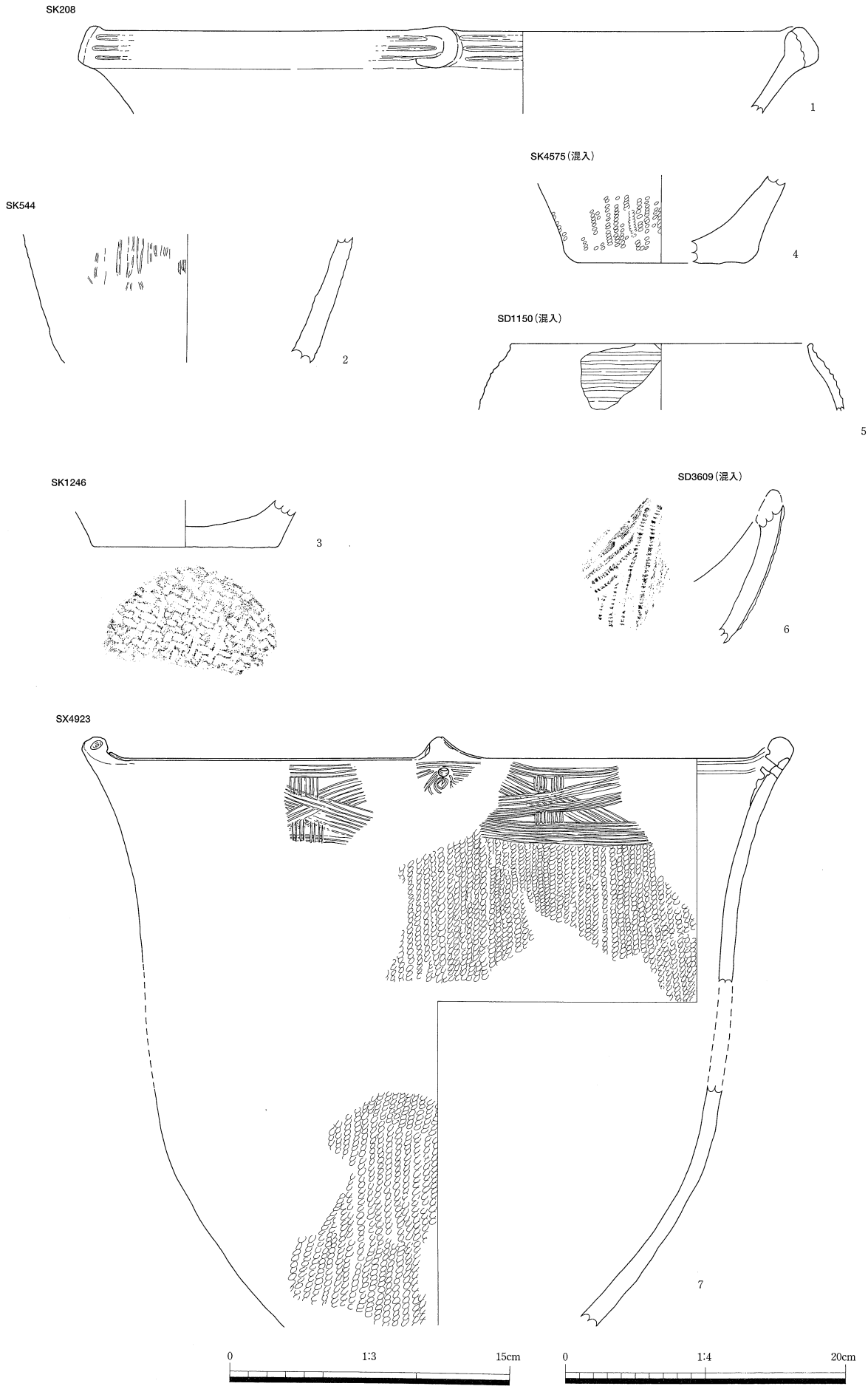
31・61等は側面におそらく着柄に関連すると思われるつぶれが顕著にみられる。38・82は刃先に土ずれと思われる摩耗痕が認められる。73・74は打製石斧を部分的に研磨したもの。55は打製石斧としたが，全体に節理に覆われており，自然礫の可能性も考えられる。

磨製石斧では，小型の117・120・127・129に不規則な小剥離が並んだ「刃こぼれ」状の使用痕がみられる[注3]。110・111では刃こぼれと，磨き直しと考えられる研磨痕が残る。126はくさびに転用されたと思われる小型磨製石斧。磨製石斧では141～192は未成品で，円礫を素材としたものを中心に大きく次の段階に分けることができる。1：素材の側面に剥離による整形を加えたもの。（146～157）2：側面に剥離を加えた後，刃先に研磨を施したもの。刃先を中心に研磨痕がみられるが，刃部は形成されていな

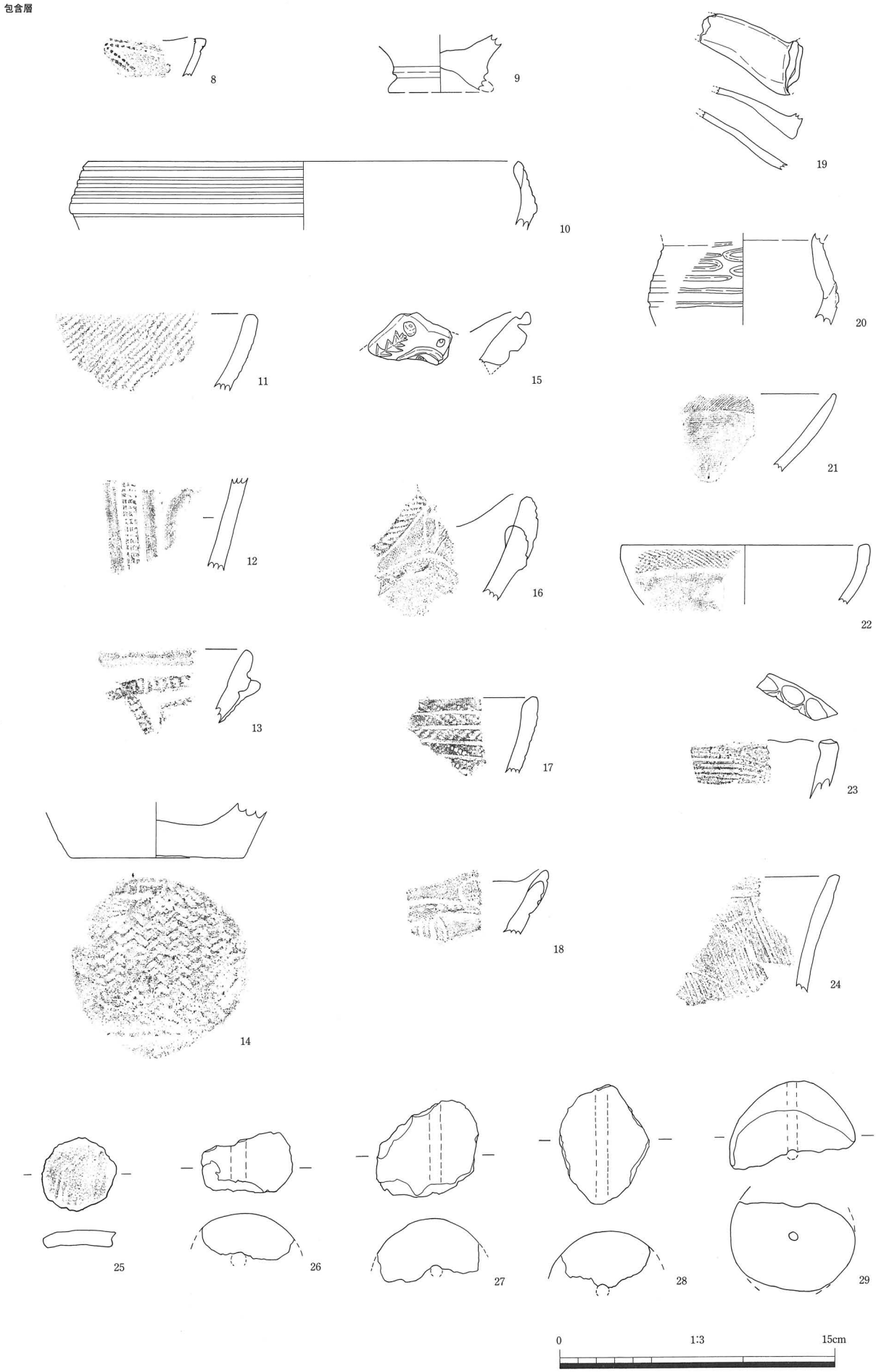


第 68 図　柳田遺跡　縄文時代遺構実測図

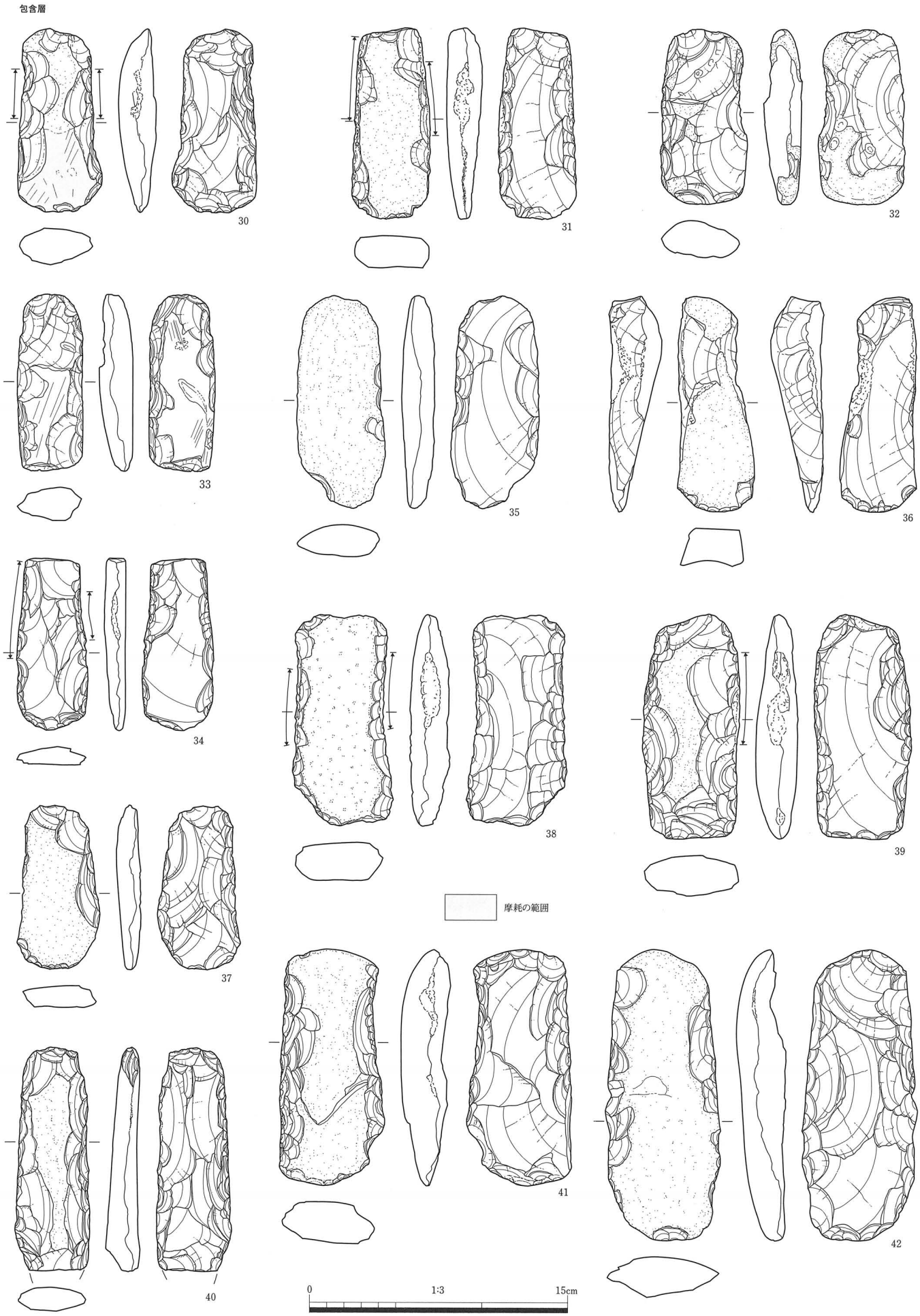
1. SK208　2. SK1246　3. SK2281　4. SK7941　5. SK544　6. SK544出土状況　7. SK9016　8. SD9225



第 69 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図　（1～6　1/3，7　1/4）
SK208 (1)　SK544 (2)　SR1246 (3)　SK4575 (4)　SD1150 (5)　SD3609 (6)　SX4923 (7)



第 70 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層



第 71 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層